

九州縦貫自動車道関係 埋蔵文化財調査報告

— VI —

加 治 屋 園 遺 跡
(鹿児島市川上町)

木 の 迫 遺 跡
(鹿児島市川上町)

1981.3

鹿児島県教育委員会

序 文

九州縦貫自動車道（薩摩吉田～鹿児島）建設に伴う鹿児島市川上町加治屋園遺跡の調査については、発掘調査を昭和50年11月26日から昭和51年7月31日の間に実施し、旧石器時代の遺跡として貴重な成果をおさめました。

その後、昭和55年度に整理調査を進め、ここに「九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告第6集」として発刊することができました。

県教育委員会としては、この報告書が文化財保護のため広く活用されることを願っています。

発刊に当たり、日本道路公団をはじめ、調査に参加された方々に対し深く感謝の意を表します。

昭和56年3月

鹿児島県教育委員会

教育長 井之口 恒 雄

調査の状況

九州縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財調査の経緯は、それぞれ「九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告―Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ―」で述べた。昭和46年、始良郡始良町小瀬戸遺跡で調査を開始して以来すでに10年間にも及んでいる。

この間、調査については、年度毎に日本道路公団福岡建設局との間に「発掘調査の委託契約」を行い、これに基づいて実施してきた。この間発掘調査の対象とした遺跡は38箇所であったが、昭和55年2月21日、木場A遺跡を最後にすべてを終了した。

一方、調査の整理・報告については、第Ⅰ～Ⅴ集で21遺跡を、第Ⅵ集で本遺跡等と計23遺跡を発表したことになる。残された遺跡についても、今後、ひきつづき報告してゆく計画である。

九州縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査遺跡一覧表

(昭和46年～昭和55年2月)

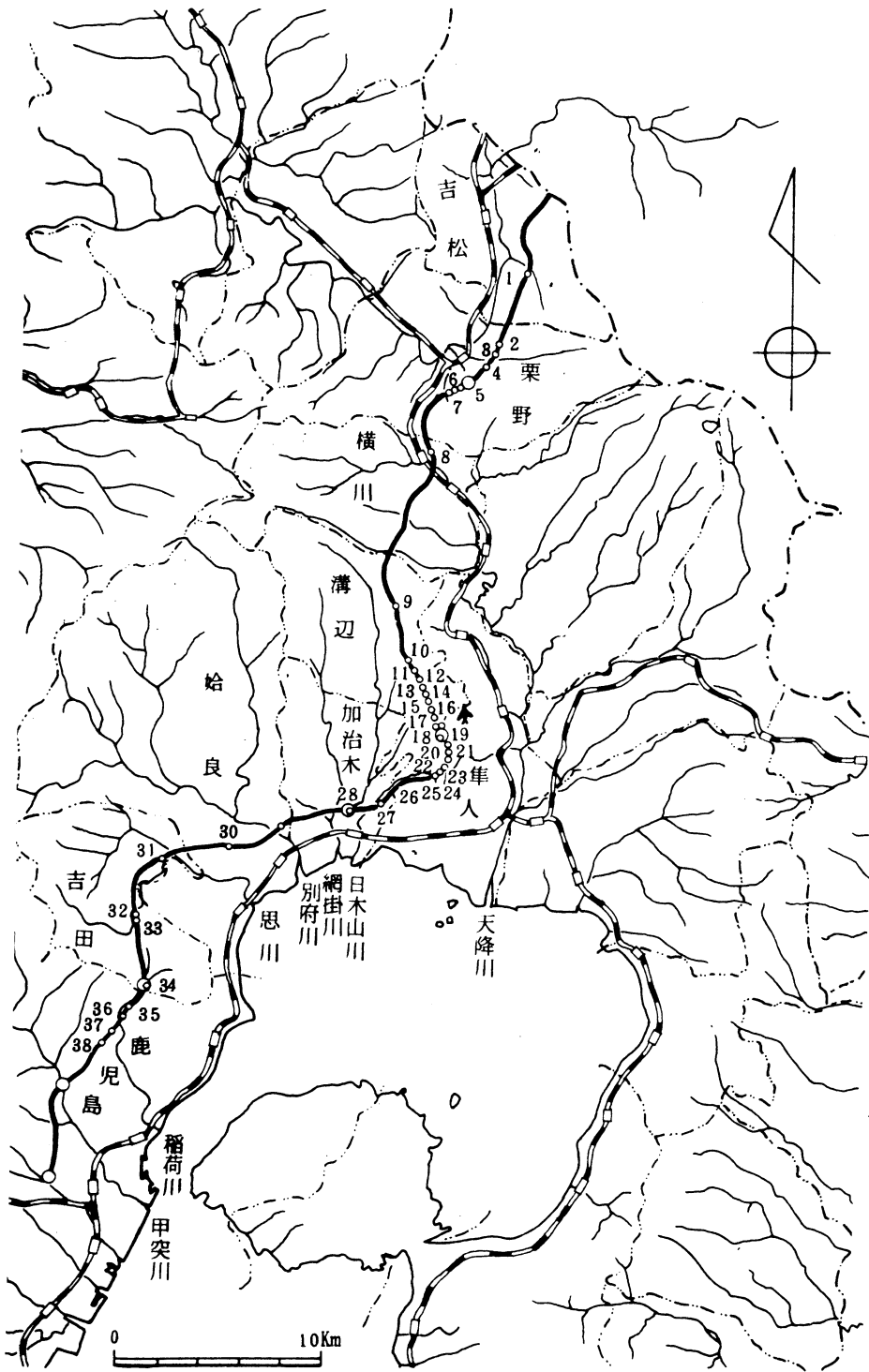
番号	遺跡名	所在地	調査期間	調査面積 (㎡)	調査員	概要
1	堀之内B	吉松町川添	54. 9. 10 } 54. 9. 27	500	立青 神崎	○土師式土器の散布
2	木場A	栗野町木場	一次 53. 12. 11 } 54. 3. 31 二次 54. 8. 28 } 55. 2. 21	14,000	牛ノ浜 新宮池長 東田畑野	○旧石器、ナイフ他剥片、集石遺構、細石核・細石刃 ○縄文早期土器片・集石遺構 ○土師式土器散布
3	木場B	〃	54. 8. 28 54. 11. 24	4,500	新出 東口 弥中 栄島	○土師式土器の散布 ○中世溝状遺構
4	木場C	〃	53. 11. 27 54. 1. 13	2,700	長出 野口	北部に湯ノ谷川、北に傾斜する台地中腹に土師器、弥生式土器の散布が見られる。
5	山崎A	栗野町山崎	52. 12. 13 53. 3. 26	6,000	{ 吉永 牛ノ浜	● ①弥生、土師、須恵器片の散布。 ②中世(建物)
6	山崎B	〃	53. 4. 10 54. 10. 12	21,800	牛ノ浜 西中出 田島口	○旧石器時代(細石核・細石刃) ○古墳時代・中世(青磁・陶磁器・建物跡) ○縄文時代早～後期・集石遺構 土壌

7	山崎 C	栗野町山崎	52. 12. 13 53. 3. 26	3,000	中西 村田	●土師器、須恵器、青磁片の散布
8	中尾田 (山城)	横川町中野	53. 5. 15 54. 10. 6	9,800	新東 中島 井ノ上	●縄文時代・早・前・中期土器 (前平・手向山・阿高) 石器 集石遺構 中世山城・建物遺構・青磁・ 陶磁器
9	木佐貫原	溝辺町木佐貫	51. 2. 6 52. 11. 31	17,000	吉永 牛ノ浜	●①縄文時代(前期・後期)土器 片、炉穴 ②土師器片
10	石 峰	溝 辺 町 麓	一次 (50.10.2 50.12.19 二次 51. 11. 24 53. 5. 15	20,000	河出 西戸 青池	●①縄文土器、住居跡1基、集 石遺構 ②土師器片
11	柳ヶ迫	〃	51. 3. 22 51. 5. 17	700	長野 西田	●①細石器剥片(黒曜石) ②縄文時代(後期)土器片
12	長ヶ原	〃	50. 10. 1 50. 11. 28	1,140	新東 中村	●①細石器剥片(黒曜石) ②縄文時代(前期)土器片 ③弥生時代(後期)土器片
13	松木原	〃	50. 9. 18 50. 9. 26	420	新東 池中 畑村	●弥生時代(後期)土器片、黒 曜石
14	葛根塚	〃	50. 9. 8 50. 9. 26	790	新東 池中 畑村	●①弥生時代(後期)土器片、 石鏃(黒曜石)
15	七ッ次	〃	50. 8. 5 50. 9. 18	2,700	弥栄 池中 畑村	●①縄文時代(後期)土器片 ②弥生時代(後期)土器片
16	松ヶ迫	〃	50. 7. 14 50. 8. 11	600	弥栄 中村	●①弥生時代(後期)土器片
17	木屋原	〃	50. 4. 7 51. 3. 31	4,500	弥栄 立神	●①縄文時代(前期)土器片 ②弥生時代(後期)土器片
18	山 神	〃	49. 6. 13 50. 4. 28	6,900	平田 牛ノ浜 吉永	●①縄文時代(前・後期)土器片 ②弥生時代(後期)土器片 ③平安時代・建物遺構、溝状 遺構、須恵器、墨書土器(奠、 広~坏2、破片15)

19	曲 迫	溝 辺 町 麓	50. 1. 27 50. 3. 31	4,300	諏 訪 弥 栄	●①縄文時代（後期）土器片 ②弥生時代（後期）土器片 ③土師器片
20	栢 場	〃	49. 6. 5 50. 3. 27	2,550	平田、牛 ノ 浜、吉永	●①縄文時代（前・後期）土器片
21	西 免	隼人町西光寺	49. 5. 25 50. 2. 8	1,500	平 出 吉 永	●①弥生時代（後期）土器片 ②玉髓、黒曜石 ③弥生時代（後期）土器片 ④土師器片
22	中 尾	〃	49. 9. 25 50. 2. 10	2,500	出 口 吉 永	●①縄文時代（後期）土器片 ②弥生時代（終末期）土器片、 磨製石鏃 ③土師器片
23	入 道	〃	49. 8. 5 50. 3. 31	1,720	〃	●弥生時代（終末期）土器片、 石鏃、土師器、溝状遺構
24	南十三塚	溝 辺 町 崎 森	49. 7. 16 49. 9. 20	600	出 口 中 村	●弥生時代（終末期）土器片
25	東 原	〃	49. 9. 17 50. 1. 24	8,700	諏 訪 弥 栄 中 村	●①縄文時代（早期）土器片、 ②弥生時代（後期）土器片、 住居跡1基 ③土師器片
26	桑ノ丸	〃	49. 8. 1 50. 4. 25	8,750	新 東 牛 ノ 浜 中 村	●①縄文時代（早・前・後期）土器 片、石斧、石鏃
27	三 代 寺	加 治 木 町 日 木 山	49. 3. 15 49. 7. 31	2,300	河 口 新 東 弥 栄 牛 ノ 浜	●①縄文時代（早・前期）土器 片、石斧、石鏃、集石遺構 ②弥生時代（終末期）土器片 ③土師器、土壇、ピット群
28	建馬場	加治木町反土	46. 12. 8 46. 12. 12	540	盛 園 立 神	①弥生時代（後期）土器片
29	松木田	始良町鍋倉	46. 12. 12 46. 12. 15	20	〃	①柱穴～22個
30	小瀬戸	始 良 町 西 餅 山	46. 8. 20 46. 11. 2	2,780	河 口 戸 崎 立 神 尾 ノ 上 中 間 有 元	①縄文時代（前期）土器片（塞 ノ 神） ②弥生時代（中期）土器片 ③墨書土師器（伴、大伴、原仲 家）、青磁、白磁、緑釉陶器、 須恵器、紡錘車、土錘、井戸 杵、木製器、柱穴（多数）

31	小山	吉田町東佐多浦	46. 11. 6 47. 2. 10	1,420	河戸立尾中有 口崎神上間元	①縄文時代(早・前期)土器片(吉田、塞ノ神) ②弥生時代土器片 ③墨書土師器、須恵器片、青磁白磁、緑釉陶器、滑石製石鍋
32	谷口	吉田町本城	46. 11. 10 46. 11. 18	124	盛立園神	①縄文時代(後期)土器片、黒曜石剝片 ②弥生時代土器片 ③土師器、白磁、滑石製石鍋
33	上城城址	〃	47. 1. 14 47. 1. 18	20,000 現地踏査	盛田野辺	①中世～山城、青磁、白磁、瓦器
34	宮後	吉田町宮ノ浦	46. 11. 10 46. 11. 18	44	〃	①縄文時代(晩期)土器片、石鏃(黒曜石) ②土師器
35	木の迫	鹿児島市川上町	50. 12. 9 50. 12. 11	300	立牛ノ吉 神ノ浜永	●①弥生時代(後期)土器片
36	加治屋園	〃	50. 11. 26 51. 7. 31	1,200	弥新長中 栄東野村	●①細石器～細石刃、細石核、同時期土器片(有文) ②縄文時代前期土器片(塞ノ神式)、集石遺構 ③弥生時代後期土器片
37	加栗山	〃	50. 2. 15 51. 10. 16	30,600	戸青立吉牛ノ 崎崎神永浜	●①細石器～細石刃、細石核、石鏃14、局部磨製石斧1、大形台井石器1 ②縄文時代(前期)土器片(吉田式、前平式)、住居跡17、土壇72、集石遺構14、石鏃、陰陽石(軽石製) ③中世～山城、柵列跡、空堀、柱穴、青磁、瓦器
38	神の木山	〃	50. 5. 12 50. 5. 15	20	戸青 崎崎	●①耕作土の下部はシラス層で遺物なし

(●は、調査報告書発行終了)



- 遺跡名
1. 堀之内B
 2. 木場 A
 3. 木場 B
 4. 木場 C
 5. 山崎 A
 6. 山崎 B
 7. 山崎 C
 8. 中尾田
 9. 木佐貫原
 10. 石 峰
 11. 柳ヶ迫
 12. 長ヶ原
 13. 松木原
 14. 葛根塚
 15. 七ツ次
 16. 松ヶ迫
 17. 木屋原
 18. 山 神
 19. 曲 迫
 20. 杉 場
 21. 西中 免尾
 22. 中 尾道
 23. 入 十三塚
 24. 南 十三塚
 25. 東 原丸
 26. 桑ノ丸
 27. 三代寺
 28. 建馬場
 29. 松木田
 30. 小瀬戸
 31. 小山口
 32. 谷ノ口
 33. 上城址
 34. 宮 後
 35. 木の迫
 36. 加治屋園
 37. 加栗山
 38. 神の木山

縦貫道全遺跡地図

例 言

- 1 この報告書は、九州縦貫自動車道（鹿児島線）建設によって消滅する遺跡について行なった事前調査のうち昭和50年～昭和51年に発掘した加治屋園遺跡の調査報告書である。
- 2 発掘調査は日本道路公団の受託事業として鹿児島県が実施した。
- 3 本書の執筆は、つぎのとおりである。

第Ⅰ章、第Ⅱ章、第Ⅲ章、第Ⅳ章	弥栄久志
第Ⅱ章—第3節1—(2)—1) 2) —③、3) 第Ⅲ章—第1節—1	長野真一
第Ⅱ章—第4節	新東晃一
第Ⅱ章—第3節1—(2)—2) —②、2—(2)—2) —②、2—(3)—1) —②、3	
第Ⅲ章—第2節—3、第3節	池畑耕一
- なお現地での実測図等は新東・長野・中村・弥栄が行なった。掲載図の製図は弥栄が行なった。土器・石器の実測・製図等は各執筆者が行なった。
- 4 出土品は、文化課収蔵庫に保管している。整理・復元作業は、収蔵庫の整理作業員が行なった。
- 5 放射性炭素年代測定については日本アイソトープ協会に依頼した。
- 6 土層の分析は静岡大学の加藤芳郎教授に依頼した。
- 7 水簸調査は国際基督教大学千浦みち子講師の指導をうけた。
- 8 本書で用いたレベル数値はすべて海拔高である。
- 9 本書の編集は弥栄が行なった。
- 10 本遺跡においては下記先生方の御指導を得た。
 - ※鹿児島県文化財審議会委員 河口貞徳
 - ※出水高校教諭 池水寛治（当時）
 - ※文化庁技官 小林達雄（現国学院大学助教授）
 - ※筑波大学教授 加藤晋平
 - ※文化庁技官 稲田孝司（現 岡山大学助教授）
 - ※岡山理大教授 鎌木義昌
 - ※別府大学教授 賀川光夫

目 次

序 文

調査の現況

例 言

第Ⅰ章 序 説	15
第1節 調査に至る経過	15
第2節 調査の経過	15
第Ⅱ章	
第1節 遺跡の位置および環境	19
第2節 層位	23
第3節 遺跡の概要	25
1 先土器時代	25
(1)概要	25
(2)遺物	35
1)黒曜石を用いた石器	36
2)凝灰岩質頁岩、砂岩を用いた石器	72
① 細石刃核	72
② 細石刃	80
③ その他	89
3)安山岩の石器	90
2 縄文時代	93
(1)概要	93
(2)早期・前期	93
1)遺構	93
2)遺物	93
① 土器	93
② 石器	105
(3)中期～晩期	108
1)遺物	108
① 土器	108
② 石器	113
3 古墳時代以降	115
第4節 科学データ	119

1	土層の分析	119
2	放射性炭素年代測定	124
3	水簸データ	124
第Ⅲ章	考察	132
第1節	先土器時代	132
1	黒曜石およびホルンフェルスの石器の組成	132
2	凝灰岩質頁岩・砂岩・頁岩の石器	135
(1)	接合	135
(2)	技法の設定	164
(3)	土器	166
第2節	縄文時代	171
1	集石	171
2	土器	171
3	石器	171
第3節	古墳時代以降	173
第Ⅳ章	まとめにかえて	174

挿 図 目 次

第1図	加治屋園遺跡の位置と周辺遺跡図	20
第2図	加治屋園遺跡の地形図	21
第3図	加治屋園遺跡のグリッド配置図	22
第4図	加治屋園遺跡の層位図	24
第5図	加治屋園遺跡の地層断面図	25
第6図	先土器時代の遺物出土全図	27
第7図	先土器時代の地形図	28
第8図	先土器時代の黒曜石出土図	29
第9図	先土器時代の凝灰岩・砂岩の出土図	30
第10図	黒曜石細石刃・細石刃核の出土状況図	31
第11図	凝灰岩質頁岩・砂岩・頁岩の細石刃と細石刃核の出土状況図	32
第12図	石器出土状況図	33
第13図	敲石・割石・礫などの出土状況図	34
第14図	土器出土状況図	35
第15図	黒曜石(1) 細石刃核・A類	36
第16図	黒曜石(2) 細石刃核・A類	37
第17図	黒曜石(3) 細石刃核 A・B類	39

第18図	黒曜石(4)	細石刃核 C類	40
第19図	黒曜石(5)	細石刃核 D類・E類	41
第20図	黒曜石(6)	細石刃核	42
第21図	黒曜石(7)	ブランク	43
第22図	黒曜石(8)	ブランク	44
第23図	黒曜石(9)	搔器	46
第24図	黒曜石(10)	搔器	47
第25図	黒曜石(11)	搔器	48
第26図	黒曜石(12)	搔器	49
第27図	黒曜石(13)	使用痕のある剥片	50
第28図	黒曜石(14)	使用痕のある剥片	51
第29図	黒曜石(15)	使用痕のある剥片	52
第30図	黒曜石(16)	彫刻刀・ドリル状石器	53
第31図	黒曜石(17)	剥片	54
第32図	黒曜石(18)	剥片	55
第33図	黒曜石(19)	剥片	57
第34図	黒曜石(20)	剥片	58
第35図	剥片と石核の接合資料		59
第36図	黒曜石(21)	細石刃	63
第37図	黒曜石(22)	細石刃	64
第38図	頁岩・砂岩を用いた石器(1)		74
第39図	頁岩・砂岩を用いた石器(2)		75
第40図	頁岩・砂岩を用いた石器(3)		76
第41図	頁岩・砂岩を用いた石器(4)		77
第42図	頁岩・砂岩を用いた石器(5)		78
第43図	頁岩・砂岩を用いた石器(6)		79
第44図	頁岩・砂岩を用いた石器(7)	細石刃	80
第45図	頁岩・砂岩を用いた石器(8)	細石刃	82
第46図	頁岩・細石刃核		89
第47図	頁岩・削器		90
第48図	頁岩・削器 剥片		91
第49図	安山岩 ハンマーストーン		92
第50図	V層における集石遺構の配置図		94
第51図	V層中の集石遺構(1)		95
第52図	V層中の集石遺構(2)		96

第53図	ⅢC層中の集石遺構	97
第54図	縄文土器 (1)	98
第55図	縄文土器 (2)	99
第56図	縄文土器 (3)	100
第57図	縄文土器 (4)	101
第58図	縄文土器 (5)	102
第59図	縄文土器 (6)	103
第60図	縄文土器 (7)	104
第61図	V層出土の石器 (1)	105
第62図	V層出土の石器 (2)	106
第63図	縄文土器 (8)	109
第64図	縄文土器 (9)	110
第65図	縄文土器 (10)	111
第66図	縄文土器 (11)	112
第67図	Ⅲ層出土の石器 (1)	113
第68図	Ⅲ層出土の石器 (2)	114
第69図	土壇	115
第70図	古墳時代以降の遺構図	116
第71図	古墳時代以降の遺物	117
第72図	土層分析図	123
第73図	各グリッド別出土遺物と水簸遺物 (1)	126
第74図	各グリッド別出土遺物と水簸遺物 (2)	127
第75図	各グリッド別出土遺物と水簸遺物 (3)	128
第76図	各グリッド別出土遺物と水簸遺物 (4)	129
第77図	各グリッド別出土遺物と水簸遺物 (5)	130
第78図	各グリッド別出土遺物と水簸遺物 (6)	131
第79図	接合全図	137
第80図	接合資料 (1)	138
第81図	接合資料遺物実測図 (1)	139
第82図	接合資料遺物実測図 (2)	140
第83図	接合資料 (2)	141
第84図	接合資料遺物実測図 (3)	142
第85図	接合資料遺物実測図 (4)	143
第86図	接合資料 (3)	144
第87図	接合資料遺物実測図 (5)	145

第88図	接合資料遺物実測図 (6).....	146
第89図	接合資料 (4).....	147
第90図	接合資料遺物実測図 (7).....	148
第91図	接合資料 (5).....	149
第92図	接合資料遺物実測図 (8).....	150
第93図	接合資料 (6).....	151
第94図	接合資料 (7).....	152
第95図	接合資料 (8).....	153
第96図	接合資料 (9).....	154
第97図	接合資料遺物実測図 (9).....	155
第98図	接合資料遺物実測図 (10).....	156
第99図	接合資料遺物実測図 (11).....	157
第100図	接合資料遺物実測図 (12).....	158
第101図	接合資料遺物実測図 (13).....	159
第102図	接合資料遺物実測図 (14).....	160
第103図	加治屋園技法の模式展開図.....	165
第104図	土器図.....	166

表 目 次

第1表	黒曜石・細石刃一覧表 (1)	60
第2表	黒曜石・細石刃一覧表 (2)	61
第3表	黒曜石・細石刃一覧表 (3)	62
第4表	黒曜石を用いた石器一覧表 (1)	65
第5表	黒曜石を用いた石器一覧表 (2)	67
第6表	頁岩・砂岩の貴物表.....	72
第7表	頁岩・砂岩の細石刃の細石刃一覧表 (1)	80
第8表	頁岩・砂岩の細石刃の細石刃一覧表 (2)	81
第9表	頁岩・砂岩の細石刃核一覧表.....	83
第10表	加栗山・加治屋園両遺跡土層区分の対比表.....	121
第11表	細砂の一次鉱物組成表.....	122
第12表	重鉱物・火山ガラスの内容.....	122
第13表	水洗表.....	125
第14表	接合遺物表.....	162
第15表	訓層の土器出土表.....	167
第16表	敲石・割石・礫出土表.....	169

図 版 目 次

第1図	遺跡遠景	176
第2図	遺跡の土層断面A B面　遺跡土層断面C D面	177
第3図	遺跡の土層断面3～7面	178
第4図	遺跡の土層断面　遺跡の砂礫層	179
第5図	先土器時代遺物出土状況	180
第6図	先土器時代遺物出土状況	181
第7図	先土器時代の削器出土状況　先土器時代の遺物出土状況	182
第8図	先土器時代の土器出土状況	183
第9図	V a層の集石遺構、V a層の集石遺構2	184
第10図	V a層の集石遺構1、Ⅲ c層の集石遺構	185
第11図	V a層の出土遺物、Ⅲ層の出土遺物	186
第12図	V a層の出土遺物、Ⅲ a層の出土遺物	187
第13図	土鋤検出状況、溝検出状況	188
第14図	V a層の出土遺物	189
第15図	V a層の出土遺物	190
第16図	V a層の出土遺物	191
第17図	V a層の出土遺物	192
第18図	V a層の出土遺物	193
第19図	Ⅲ c層の出土遺物	194
第20図	Ⅲ a層の出土遺物	195
第21図	Ⅲ a層の出土遺物	196
第22図	Ⅲ層の出土遺物、古墳時代以降の出土遺物	197
第23図	黒曜石細石刃核　黒曜石細石刃核	198
第24図	黒曜石細石刃核　黒曜石細石刃核	199
第25図	黒曜石細石刃核　黒曜石細石刃核	200
第26図	黒曜石ブランク　黒曜石ブランク	201
第27図	黒曜石ブランク　黒曜石搔器	202
第28図	黒曜石搔器　黒曜石搔器	203
第29図	黒曜石、使用痕のある剥片（削器）　黒曜石、使用痕のある剥片（削器）	204
第30図	黒曜石、その他石器　黒曜石フレイク	205
第31図	黒曜石フレイク　黒曜石フレイク	206
第32図	黒曜石、使用痕のある剥片（削器）　黒曜石、使用痕のある剥片（削器）	207
第33図	黒曜石、折断剥片（接合）　黒曜石、石材、削器	208

第34図	黒曜石、石核と剝片（接合）	石核	209	
第35図	頁岩・削器	彫器・剝片	210	
第36図	ホルンフェルス細石刃核（正面）	ホルンフェルス細石刃核（側面）	211	
第37図	ハンマー・ストーン		212	
第38図	黒曜石	細石刃	213	
第39図	凝灰岩質頁岩の下縁調整石核	凝灰岩質頁岩の下縁調整石核	214	
第40図	凝灰岩質頁岩の下縁調整細石刃石核	凝灰岩質頁岩の下縁調整細石刃石核	215	
第41図	凝灰岩質頁岩の非下縁調整石核	頁岩・砂岩の非下縁調整細石刃核	216	
第42図	凝灰岩質頁岩の下縁調整細石刃石核		217	
第43図	凝灰岩質頁岩の下縁調整細石刃石核		218	
第44図	凝灰岩質頁岩の下縁調整細石刃核、同非下縁調整細石刃核		219	
第45図	凝灰岩質頁岩の非下縁調整細石刃核		220	
第46図	接合資料		221	
第47図	接合資料		222	
第48図	接合資料		223	
第49図	接合資料		224	
第50図	接合資料		225	
第51図	接合資料		226	
第52図	接合資料		227	
第53図	接合資料		228	
第54図	接合資料		229	
第55図	接合資料		230	
第56図	接合資料		231	
第57図	接合資料		232	
第58図	接合資料		233	
第59図	接合資料		234	
第60図	接合資料		235	
第61図	接合資料		236	
第62図	接合資料		237	
第63図	接合資料	238	第69図 先土器時代の土器片、粘土紐貼り付け文土器	244
第64図	接合資料	239	第70図 先土器時代の土器片	245
第65図	接合資料	240	第71図 水簸作業	246
第66図	接合資料			241
第67図	接合資料			242
第68図	凝灰岩質頁岩の細石刃	頁岩砂岩の細石刃	調整剝片	243

第 I 章 序 説

第 1 節 調査にはいるまでの経過

昭和43年4月加治木―鹿児島間25Kの工事施工が発表され、日本道路公団は「日本道路公団の建設事業等、工事施行に伴う埋蔵文化財包蔵地の取り扱いに関する覚書」に基づき、鹿児島線（加治木―鹿児島線）の埋蔵文化財についての取り扱いを求めた。鹿児島県教育委員会は昭和43年12月17日～44年1月20日に於いて大まかな分布調査を行い、路線決定後、昭和47年8月22日再度綿密な分布調査を行ない加治屋園遺跡をはじめ4ヶ所の遺跡をチェックした。

調査団組織

調査責任者	文化課長	宇都哲	(昭和50年度)	
	文化課長	嶋元牧雄	(昭和51年度)	
	文化課長	山下典雄	(昭和55年度)	
	調査企画	専門員	河野治雄	(昭和50・51年度)
		課長補佐	有村八郎	(昭和50・51年度)
		課長補佐	新時弘	(昭和55年度)
主任文化財研究員	専門員	本蔵久三	(昭和50・51年度)	
	専門員		(昭和55年度)	
調査担当	主事	新東晃一	(昭和51・55年度)	
	主事	池畑耕一	(昭和55年度)	
	主事	弥栄久志	(昭和50・51・55年度)	
	主事	長野真一	(昭和50・55年度)	
	主事	中村耕治	(昭和50年度)	
事務担当	係長	中島敏光	(昭和50・51年度)	
	係長	川畑栄蔵	(昭和55年度)	
	主事	野村和徳	(昭和50・51年度)	
	主事	長山恭子	(昭和50・51年度)	
	主査	安藤幸次	(昭和55年度)	
	主事	天辰京子	(昭和55年度)	

第 2 節 調査の経過

発掘調査は昭和50年11月26日から51年7月31日まで行なった。調査面積は300㎡であったが5層にわたり遺物が出土した。なお調査の経過は週ごとにまとめて略述することにした。

日誌抄

昭和50年11月26日（水）～8日（金）

トレンチの設定 D-1・2・3・4 5、D・C-4、A～D-3 トレンチの第1層～第3層まで掘り下げる。D-3・4区に溝状遺構検出、遺物としては古墳時代以降の土器および岩崎式土器（縄文時代 検出 第1次調査（試掘調査）

12月1日（月）～5日（金）

D-1～5、D・C-4 A～D-3 トレンチの第3～8層の掘り下げ第5層に縄文前期の土器、第8層に黒曜石出土。

12月8日（月）～13日（土）

第2次調査（全面調査）にはいる。

C・D-1・2・5、A～D-1・2 A・B-3～5の表土剥ぎからはいる。

12月15日（月）～20日（土）

A・D-1～5 C・D-3～6の第2層掘り下げ、第2層下部に集石、第3層上面に縄文後期の遺物出土（岩崎・指宿・西平・三万田式土器）

12月22日（月）～25日（木）

第2層まで全面掘り下げ、集石遺構の検出、第2層下部集石遺構実測

昭和51年1月7日（水）～10日（土）

C・D-1・2・3・4・5、A・B-3の第3層調査、C・D1～6の第3層面の平板図取り、遺物取り上げ、C・D-5にピット検出掘り上げ

昭和51年1月12日（月）～16日（金）

A-2・3・4、B-1～5、C・D-1～6区の第3層の調査、第3層面におけるピット掘り、C-1～5、D-1～6区はⅢ6層から第3C層へ、第3C層上部にすり石出土、また塞ノ神式土器と第3c層に少量出土。

1月19日（月）～24日（土）

C・D-1～5区の第3c層調査し第4層上面を露出させる。ピットの平板測量（3C面）

1月26日（月）～30日（金）

C・D-1～5区の第4層面までの整理後、D-3～6、C-3・4区の第4～5層へ掘り下げる。C-4-5層に集石遺構出土、D-3-5…に集石遺構検出。

2月2日（月）～6日（金）

C・D-1～4、A-2・3、B-1～3区の写真、平板図作成、一部を残し第5層の調査を終了。

2月9日（月）～2月13日（金）

一部を残し第6層から第7層へ移る。B-4・5区の平板図作成遺物取り上げ、A・B-1・2、C・D-1・2の第5層下部平板、遺物取り上げ

2月16日（月）～21日（土）

A-4・B-4・5、C-5・6等の第5層残部の調査。

2月23日(月)～28日(土)

A-4、B-4・5、C-5・6区等の第7層上面、C-3・4区の第5層下の遺物取り上げ、土手部を残し、一応縄文時代関係終了。

3月1日(月)～6日(土)

A-3・4、B-3～6、C-1～6区の第6層剥ぎ、第7剥ぎ。

3月8日(月)～3月12日(金)

この週より第8層の調査にはいる。A-1～5、B-1～6の第8層の調査が主体である。この層からも黒曜石が出土するのが下部にみられる。

3月15日(月)～19日(金)

第8層6面のコンタ(5cm)図作成、第8層6面の調査にはいる。第8a層下部で第8b層上面の遺物調査終了。(1面目)、第8b上部面(2面目)の調査にはいる。

3月22日(月)～27日(土)

第8層2面目が一部残し終了し、A-3・4、b-3～6の第8層3面目の調査にはいる。

3月29日(月)～4月2日(金)

第8層3面目の調査とV層集石の残部整理、C-2区で細石器に伴い土器片が出土する。

4月5日(月)～10日(土)

第8層3面目調査とV層集石の残部整理。水簸調査も始める。静岡大学の加藤教授土質調査のため来跡(7日)

4月12日(月)～16日(金)

第8層2面目の残部調査終了、第8層3面目の調査、水簸調査を行なう。

4月19日(月)～24日(土)

3面目を終了し、4面目にはいる。22日(木)口縁部にはりつけ文のある土器片がB-5区に出土、Ⅷ6層下部と思われる。又、大形スクレーパー(サイド)も出土。

4月26日(月)～5月1日(土)

第8層4面目の調査途中、遺物が非常に多い。水簸調査

5月4日(火)、6日(木)、7日(金)

第8層4面目調査終了、一部5面目にはいる。水簸調査

5月10日(月)～15日(土)

第8層5面目調査、水簸調査

5月17日(月)～22日(土)

第8層5面目調査、水簸調査

5月24日(月)～29日(土)

第8層5面目調査終了、一部6面目にはいる。水簸調査

5月31日(月)～6月5日(土)

第8層6面目調査、水簸調査

6月7日（月）～12日（土）

第8層6面目調査、水簸調査

6月14日（月）～19日（土）

第8層6面目終了、土層断面図作成にはいる。水簸調査

6月21日（月）～26日（土）

土手の調査にはいる。第3層まで掘り下げる。水簸調査。

6月28日（月）～7月3日（土）

土手の調査第7層まで掘り下げる。第8層は1mのグリッドを作り各グリッドごとに調査して各面の水簸調査を行なう準備をする。第8層1面目調査にはいる。

7月5日（月）～10日（金）

土手の第8層2～4面目 水簸調査

7月12日（月）～16日（金）

土手の第8層4～5面目調査 水簸調査

7月19日（月）～24日（土）

土手の第8層5～6面目調査、水簸調査

7月26日（月）～31日（土）

土手の第8層6面目調査、水簸調査、断面図作成

第Ⅱ章 調査の概要

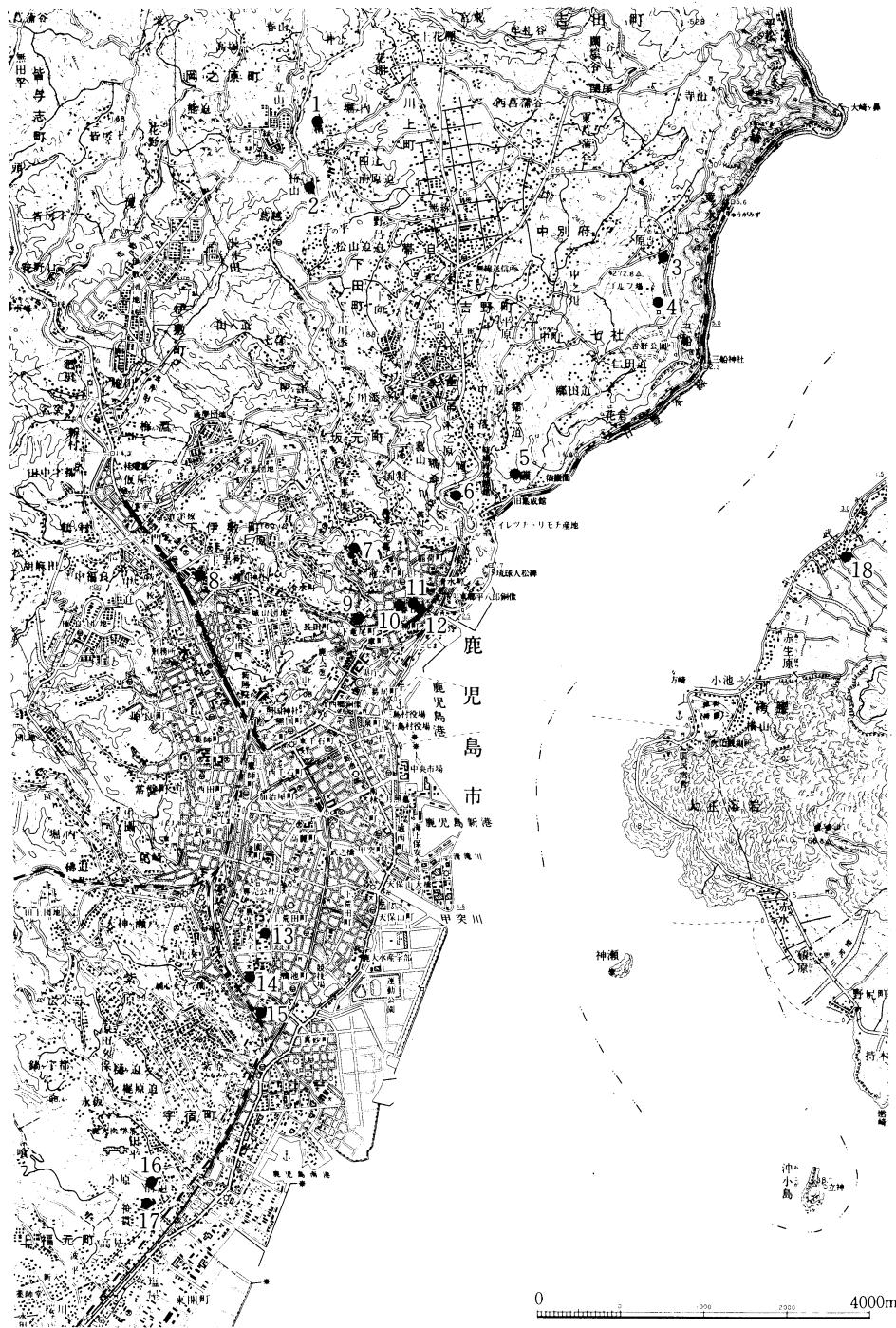
第1節 遺跡の位置および環境（第1図）

遺跡は鹿児島市川上町加治屋園にある。川上町は鹿児島市の市街地より約6km北にあり、加治屋園遺跡は川上町のほぼ中央部に位置している。遺跡の基盤は鹿児島県本土をほぼおおっているシラス台地である。本遺跡のシラス台地は川上町および吉野町を中心とした標高200m～260m級の東から西へ傾斜した約16,000,000㎡におよぶものである。遺跡はこのシラス台地の西端にあたり、西側には精木川が南方に流れている。このシラス台地は約20,000年前に錦江湾奥部の始良カルデラ形成時に噴出した入戸火砕流といわれる火山噴出物の堆積である。加治屋園遺跡付近は入戸火砕流が形成後、精木川の侵食により150～160m級の台地に形成されたと見られる。というのは遺跡の下部には入戸火砕流とその後の火山灰の間には礫層を中心とした水成層がみられる。

精木川は蛇行し小さな河岸段丘が数段でき畑地や水田が営なまれ、精木川に流入する小さな谷川がいくつもみられ多くの舌状台地を形成している。遺跡附近の北側には谷川が東西に走り精木川にそそいでおり小さな谷水田もみられる。

以上のように遺跡のまわりには水が豊富であり、普通のシラス台地よりも一段低く、西側に若干傾斜した舌状台地である。（第2図）また周囲の遺跡は下記のとおりである。（第1図）

1	加治屋園遺跡	散布地	鹿児島市川上町加治屋園
2	加栗山遺跡	集落地	〃 〃 加栗山
3	石郷遺跡	散布地	〃 吉野町石郷
4	七社遺跡	〃	〃 〃 七社
5	雀ヶ宮遺跡	〃	〃 〃 雀ヶ宮島津興業
6	前平遺跡	〃	〃 〃 雀ヶ宮前平
7	丸岡遺跡	〃	〃 坂坂元町たんとう丸岡
8	玉里遺跡	〃	〃 玉里町旧練丘場跡
9	南州神社遺跡	〃	〃 上竜尾町南州神社
10	大竜小学校校庭遺跡	〃	〃 池ノ上町大竜小学校
11	若宮神社遺跡	集落地	〃 〃 若宮神社
12	春日町遺跡	〃	〃 春日町
13	上荒町遺跡	散布地	〃 上荒田町鹿児島大学校内
14	県立医大遺跡	集落地	〃 鴨池町鹿大付属中学校
15	一の宮遺跡	〃	〃 郡元町一の宮神社境内
16	前ノ迫遺跡	散布地	〃 宇宿町前ノ迫
17	笹貫遺跡	〃	〃 上福元町笹貫湯貫迫
18	武貝塚	貝塚	鹿児島郡桜島町武



第1図 加治屋園遺跡の位置と周辺遺跡図



第2図 加治屋園遺跡の地形図

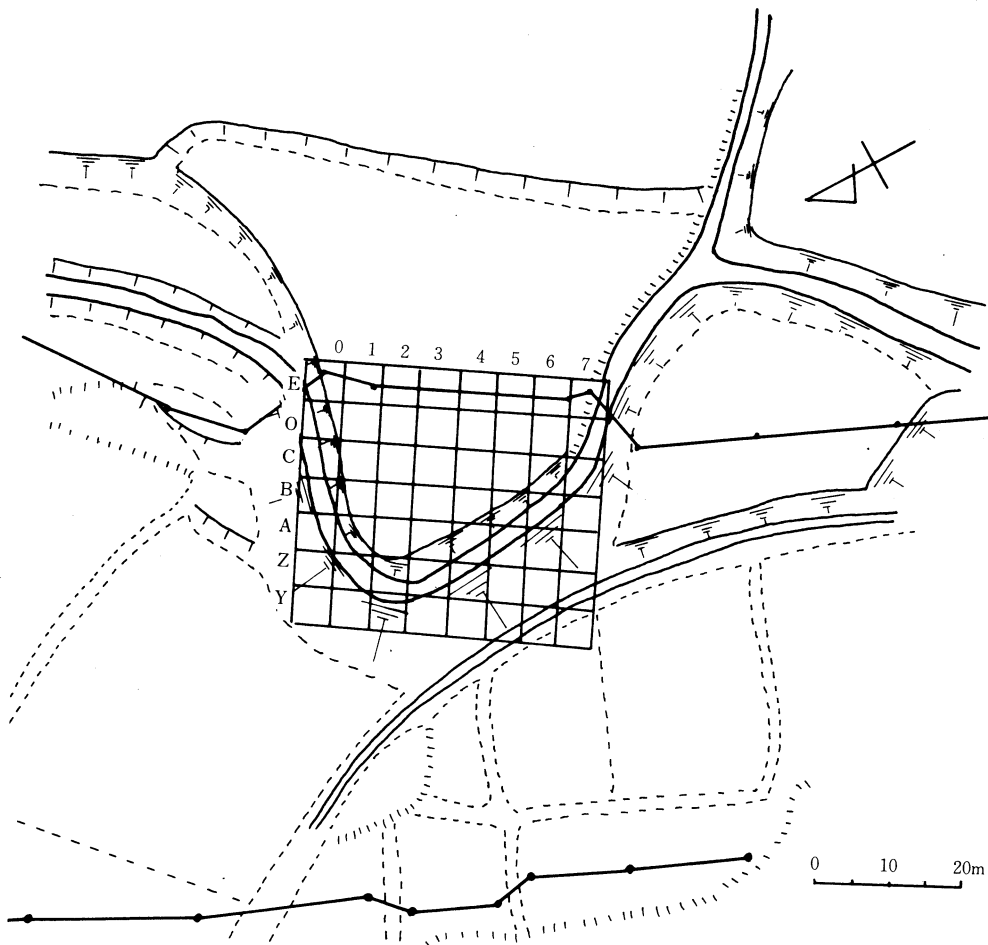
遺跡のグリッド配置図

九州縦貫自動車道の工事区側辺にそって吉田インター方から1・2・3・4・5・6・7とし、舌状台地の先端を中心に精木川方へ8、台地の奥へA・B・C・Dと5m区画で区域を設定した。

なおトレンチは2m幅で3列と、C列に設定し、一次調査を行ない、断面トレンチ(土手)は1m幅でシラス層まで掘り下げた。

遺跡の調査と道路のノリ面に関しては日本道路公団と協議を行ない、調査できる範囲を発掘した。

先土器時代の発掘で、水簸を行なった区画はA・B-1・2をⅠ区、A・B-3・4・5・6をⅡ区、C・D-1・2をⅢ区、C・D-3・4・5・6・7をⅣ区にして調査した。土手部分は1m区画で行なった。



第3図 加治屋園遺跡のグリッド配置図

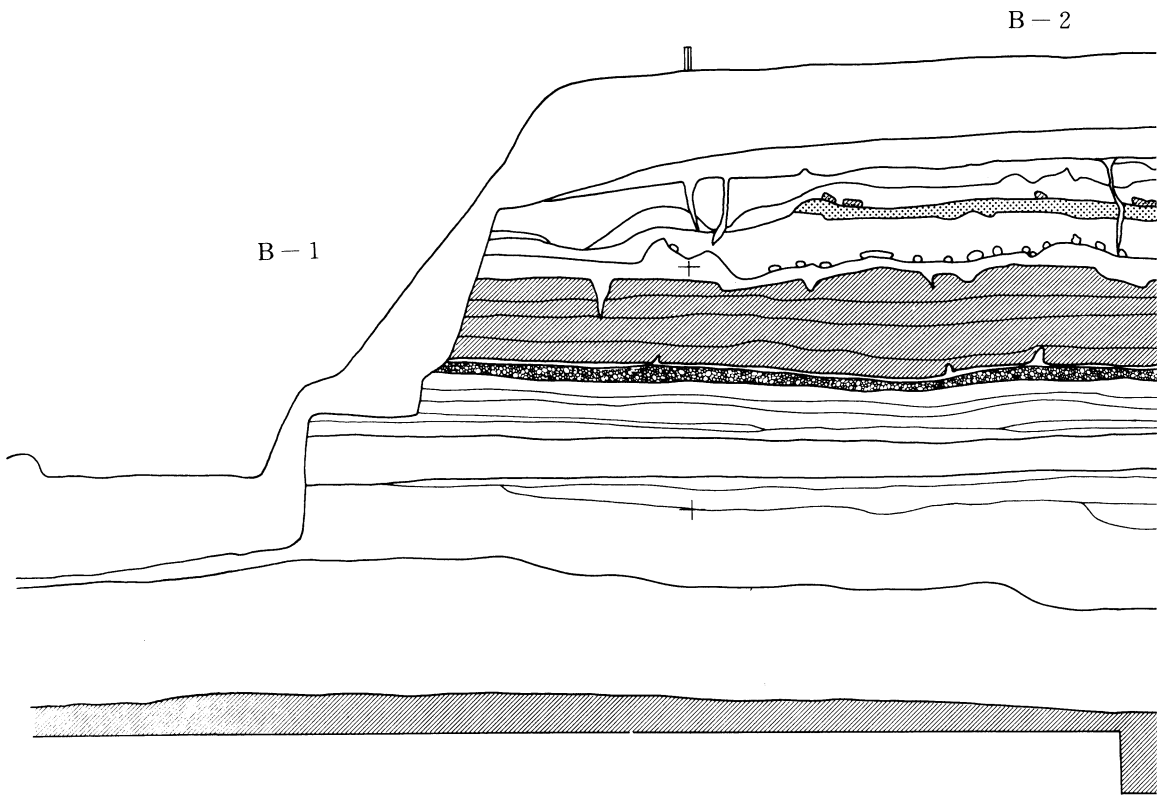
2 層位

本遺跡の台地の形成はシラス台地が基盤となっている。シラス台地の形成後、水でシラスが削られてその後に水成層（砂礫層 白粘土とシラス質の互層 軽石層と砂層の互層）が推積されその上に腐植土層や火山灰が重なり、現地形となっている。

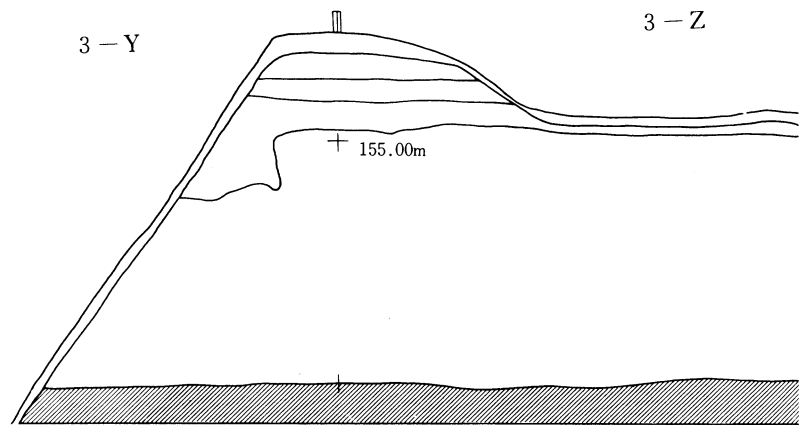
1層は表層で暗褐色を呈し0.8~1.5mの堆積をみる。上部20~30cmは現在の耕作土になっている。2層は暗褐色を呈し0.2m位の層である。先端部はない。遺物は土師器等が出土している。3層は3つの層位に分かる。aは褐色軟質火山灰層、bは黄褐色軽石層、cは褐色軟質火山灰層である。aないしb層の上部には縄文中期から後期にかけての遺物が出土している。c層と5a層には縄文前期の遺物の蠡式土器が出土している。遺構は3c層に集石が2基みられている。4層はaとbに分けられる。aは極くガラス質火山灰でbは軽石、火山灰豆石層である。3a b c 4 a bはアカホヤ火山灰に関係するものとおもわれる。アカホヤ火山灰は約6,000年BPの噴出火山灰である。4b層は火山豆石が主であり火山灰が降下する前に降下するものである。そしてその後4a層が降下した火山灰堆積現象が著しくみられる。3c層は4a層が自然現象で2次的に軟質化したものとおもわれる。3b層は桜島火山の噴の一部と思われる3b層から3c層にかけては3b層の軽石層を基盤として3a層の腐植化がみられる。5層はaとbに分けられ40cmの厚さである。aは暗褐色火山灰、bは極暗褐色火山灰であり縄文前期土器と早期土器が出土している。縄文前期土器は蠡式土器である。3c層の遺構・遺物等からみれば3c層の遺物の落ちこみと思われる。早期の遺物は塞ノ神B式土器で貝殻文主体の土器である。また5層中には少量であるが塞ノ神A式土器が出土している。6層は30cm位の厚さでありaとbに分かれる。aは黒褐色腐植火山灰層でbは黒色を呈している。bは軽石が下部に多い。遺物は出土していない。なお5a、b、6a、bの層境は不明確である。7層は70cm位の厚さの軽石層である。aは黄褐色軽石層でbはやや微密軽石層のロームである。cは黄褐色軽石層で砂質を含むdは同様であるがやや硬い。これらの層は桜島起源？未同定で4層のfall、unitsからなっている。なおこの層は無遺物層である。8層はa~gまでの7つに分けられる。それらの層は上から極暗赤褐色、黒色、極暗赤褐色、暗赤褐色、暗褐色、極暗褐色 極暗褐色の粘質火山灰層である。とくにb層は腐植化が進み乾燥するとクラックができる層である。先土器時代の遺物はこの層に出土する。9層は7つに分層できる。これは黒褐色硬質粘質火山灰層と軽石を含む火山砂層の互層である。中間に黄褐色繊維質角形軽石に富む層を挟在している。10層は5つに分層できる。白粘土とシラス質土の互層で水成粘土である。シラス台地開折谷斜面に局部的に残存の可能性である。11層は1.5~1mの厚さで砂礫層になっている。この層も10層と同様な性格であろう。12層は入戸火砕流で本遺跡の基盤となっている。これは1.6~2.6万年の年代が出ているが2~2.2万年が有力説である。

柱状断面図	発掘調査班による土層区分	火山灰層位学的区分	備考
	1 表層	暗～黒褐色腐植質火山灰層	新鮮淡色軽石（硬質）あり
	2 黒褐色層	暗褐色軟質	下底より古墳時代以降の土器出土
	3 a b c	褐色軟質火山灰層（やや粘質）	縄文中後期の土器出土
		黄褐色軽石層	桜島起源？ 未同定
		褐色軟質火山灰層（やや粘質）	縄文前期土器出土
	4 a b	極くガフス質火山灰層（アカホヤ）	幸屋火砕流（約6000年B.P.）
		軽石・火山豆石層	
	5 a b	暗褐色火山灰層（やや粘質）木炭含む	縄文前期土器出土 B列東面では5, 6両層の境に細粒火山灰, オレンジ軽石層の団塊あり
		極暗褐色腐植質火山灰層（やや粘質）	
	6 a b	黒褐色腐植質火山灰層 白粒子含む	
		白粒子・軽石含む	
	7 a b c d	黄褐色軽石層	桜島起源？未同定 4層のfall unitsよりなる 下から2層目ゴマシオ層
		やや緻密軽石質褐色ローム層	
		黄褐色軽石層・黒色白色火山砂に富む	
		同上 含む	
	8 a	明茶褐色層 極暗赤褐色粘質火山灰層（ローム層）	赤色粒子をふくむ
	b	黒色	先土器期遺物を出土
	8 c d e f g	極暗赤褐色	
		暗赤褐色	
		暗褐色	
		極暗褐色	
	9 a b c d e f g	黒褐色硬質粘質火山灰層と 軽石をふくむ火山砂層の互層	
		軽石層と砂層の互層	
		中間に黄色繊維質角形軽石に富む層を挟在	
	10 a b c d e	水成粘土・砂互層	シラス台地開折谷斜面に局部的に残存？
		白粘土とシラス質土の互層	
	11 砂礫層		
	12 シラス層		入戸火砕流約 1.6～2.6万年前

第4図 加治屋園遺跡の層位図

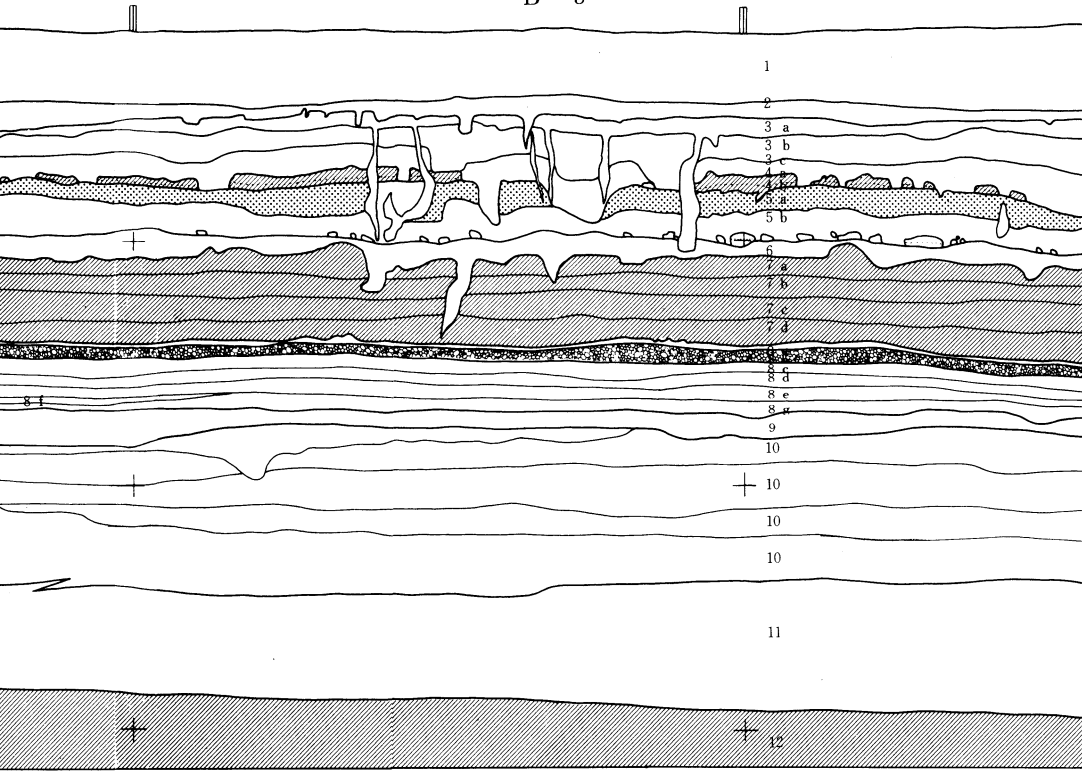


3 列北側断面図



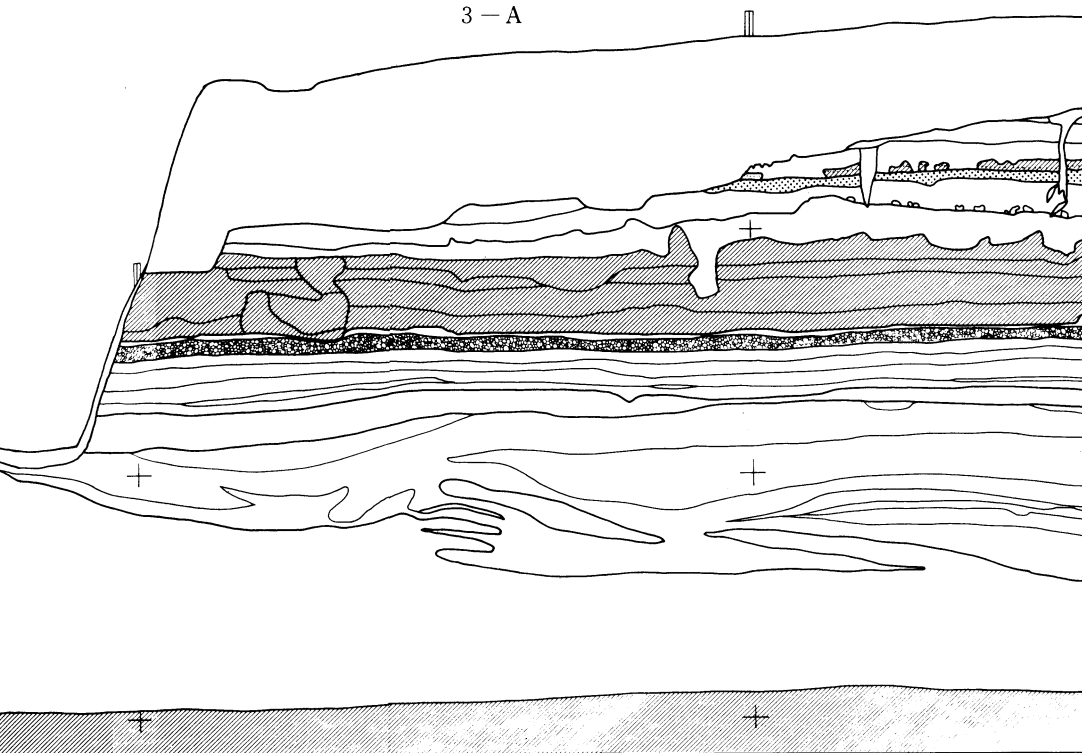
B-3

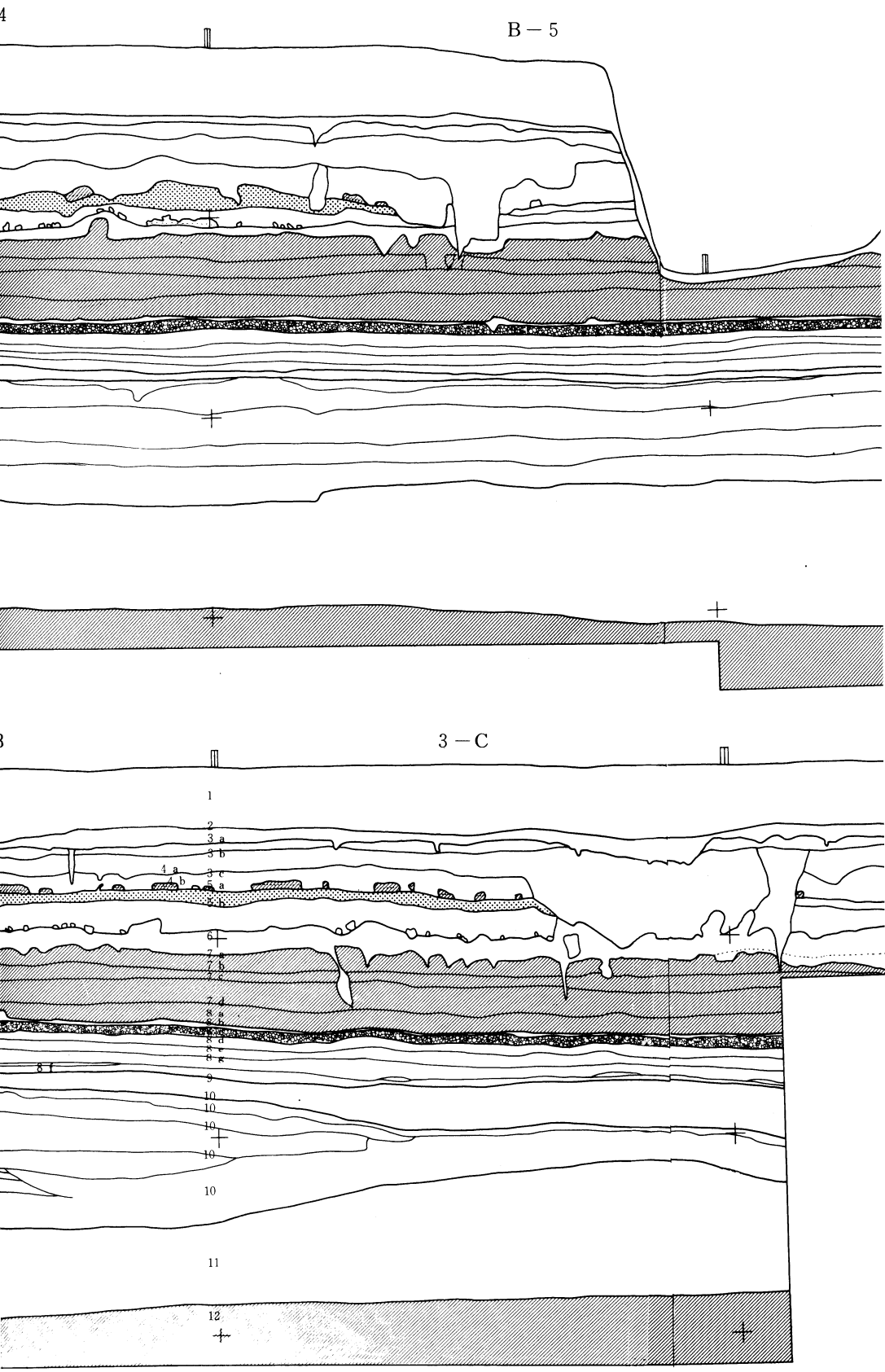
B-



3-1

3-A

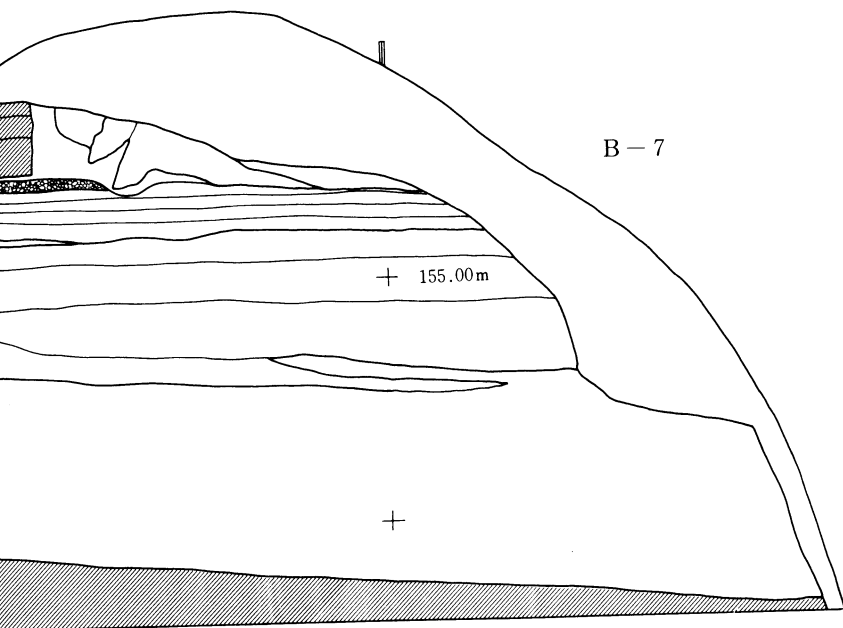




第5図 加治屋園遺跡の地層断面図

(B列東側断面図)

B-6

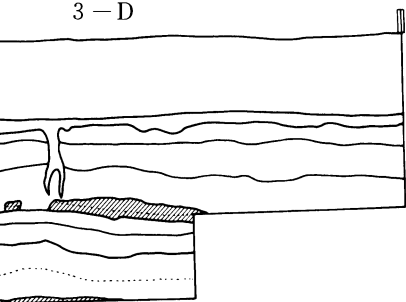


B-7

+ 155.00m

+

3-D



第3節 遺跡の概要

1 先土器時代

(1) 概要

器時代の遺物はⅧ層のa・b・cにかけて出土したが主体はb層であった。調査は上部から2～2.5cm前後の深さで1面から6面まで掘り下げて完掘した。全体を4つのブロックに分けて細石刃等の小遺物を採集するため水簸調査を行なった。また4つのブロック境にある土手部(2列と3列の間、B列とC列の間)は1mグリッドを設定し各グリットごとに水洗調査を行なった。

第6図は出土遺物約10,000点の全体図である。全体として舌状台地の先端部に多く特に集中している部分はB-1・2の境、B-3・4の境、B-4・5の境からB・C-5・6の境と3ヶ所にみられる。これを断面図でみると第6図の断面図になる。この断面図はB列を50cm幅で標高におとしてみたもので波状に出土している状態がわかる。B-1・2の境は平坦状態であるが、B-3・4の境の集中部分は傾斜して出土している。また50幅の断面図と包含層最下面の地形図(第7図)と合わせると前途のごとく遺物も波状に出土することが判明できよう。

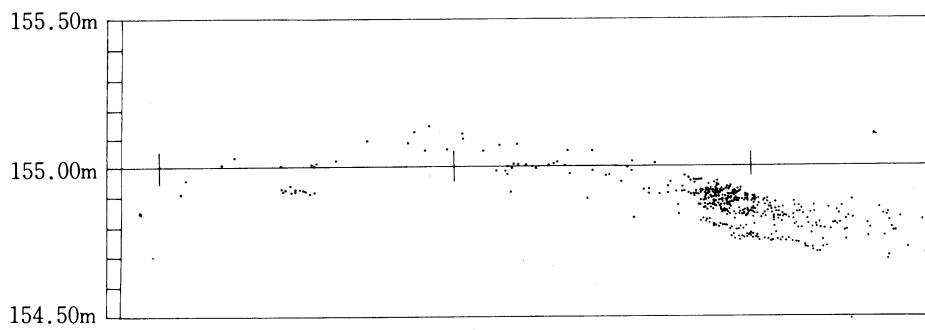
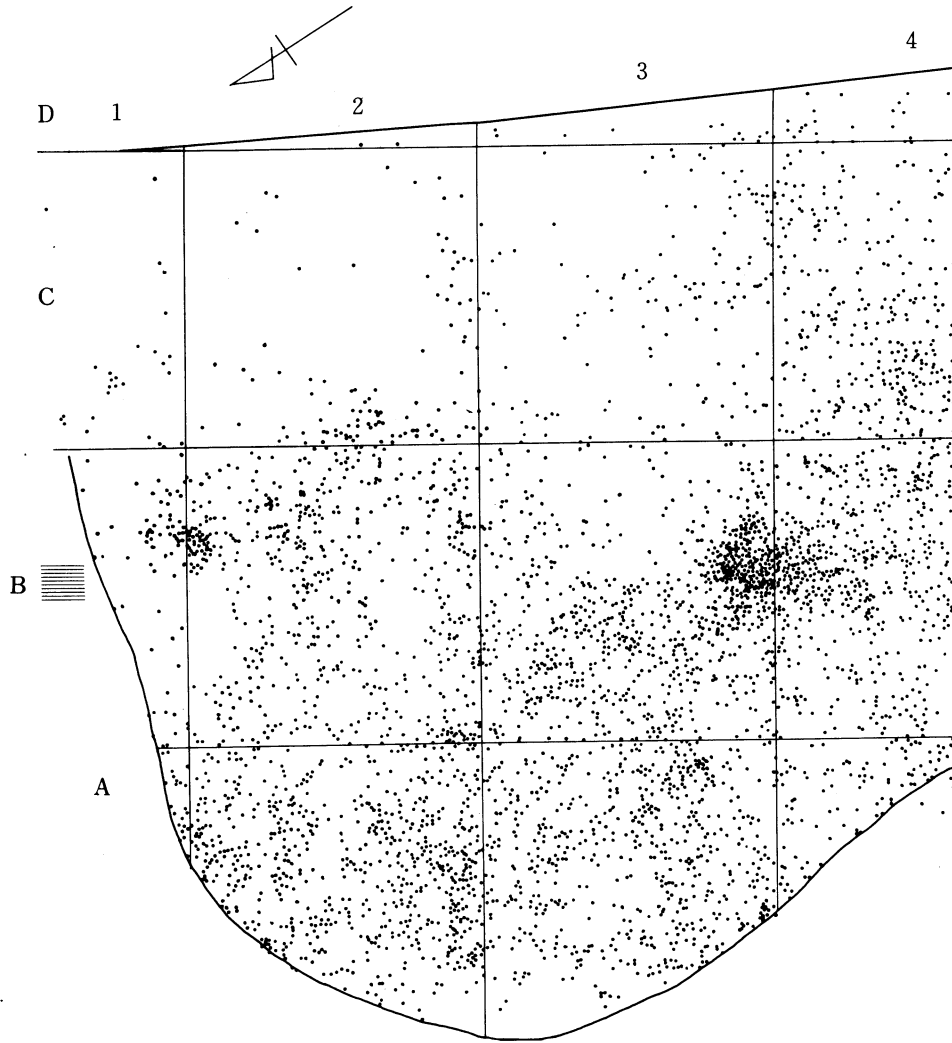
第7図は遺物包含層最下面の地形図である。5m間隔の等高線で表わしたものである。北側部は高く南側部は低い。高低差は約50cm位である。

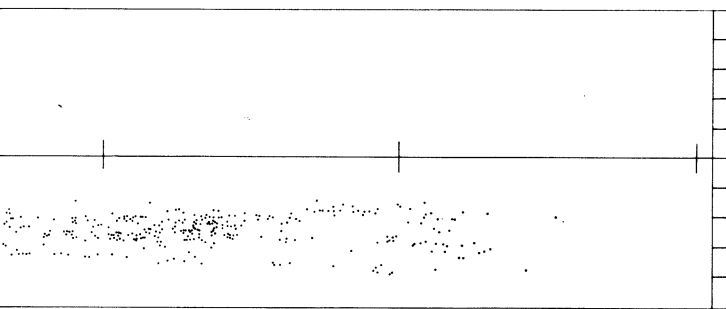
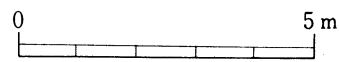
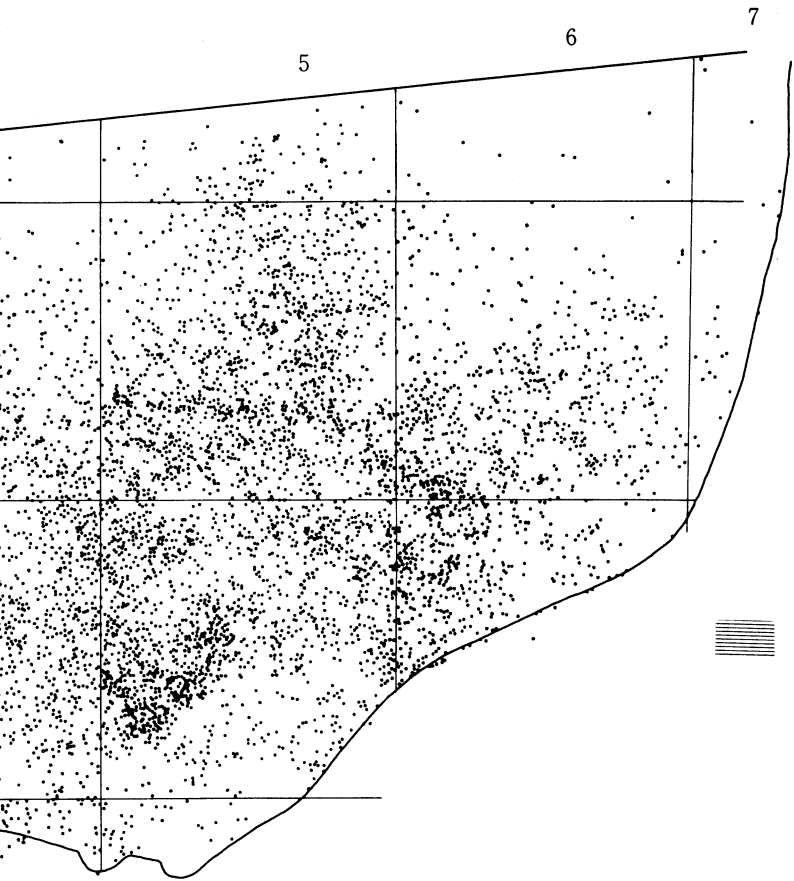
第8図は黒曜石の分布状態の図である。全体図と同様な状況を示す。黒曜石は、8693点出土している。集中部分は全体図と同様な位置にある。

第9図は頁岩・砂岩の遺物の出土状況である。砂岩は非常に少なく頁岩が主である。頁岩は凝灰岩質頁岩と、普通の頁岩があり前者は、1078個、後者は134個出土している。全体的に南西部に集中しているが密度は小さい。しかし黒曜石に比べると若干東南部が多い。

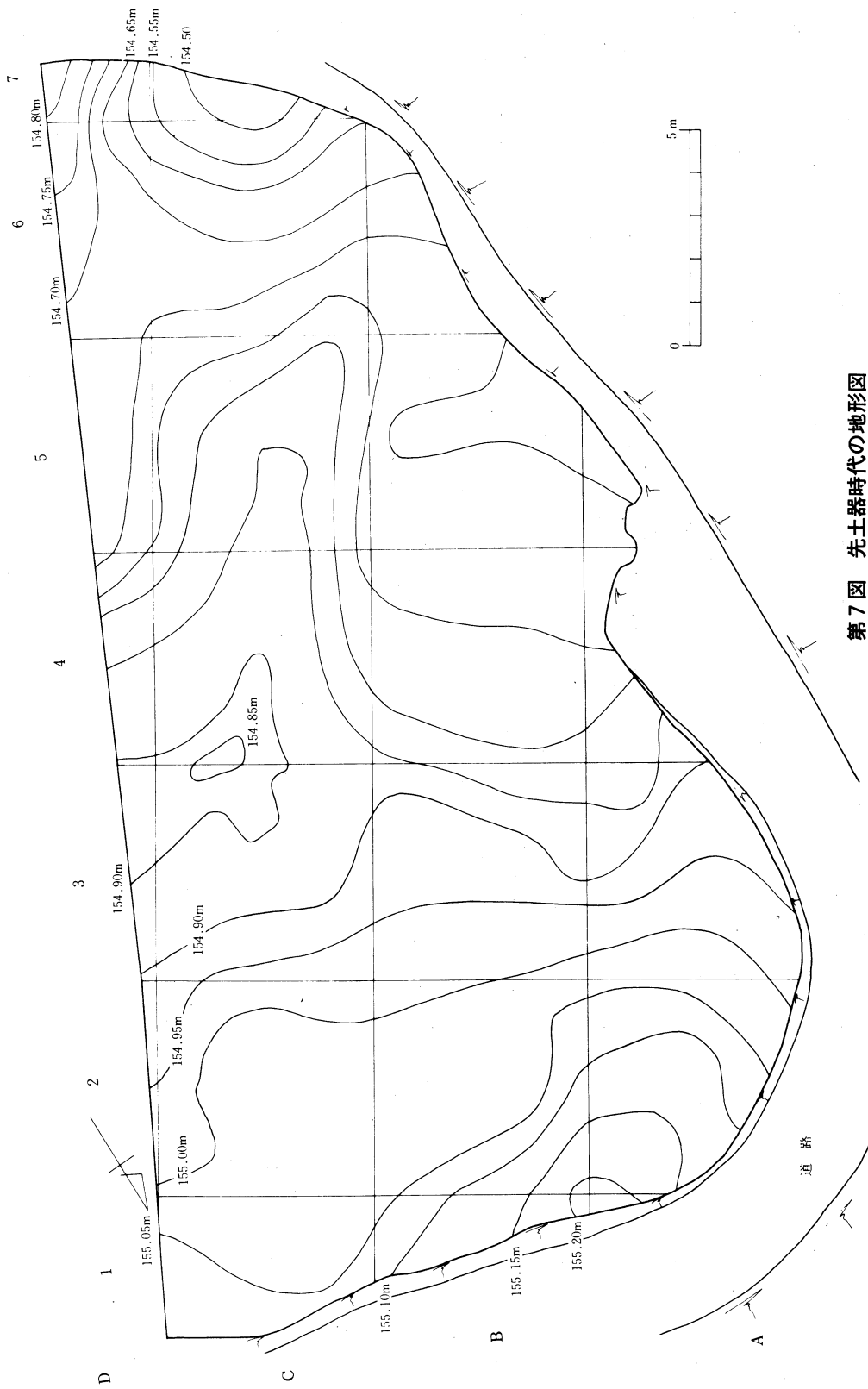
第10図は黒曜石を用いた細石刃核と細石刃の出土状況である。細石刃核は、45点出土し、細石刃は272点出土した。この細石刃は図面番号が付いたものだけである。水洗資料等からみても、A・B-3～6区が一番多い。図面番号では黒曜石の集中部分と合い(第8図参照)、B-1・2、B-3・4、B・C-4・5・6に集中がみられる。細石刃核は黒曜石の集中部分の出土状況とは若干ずれている。B・C-2区やA-2・3、B-3、B・C-5・6等がまとまって出土している地域である。細石刃とも若干ずれていることが示されている。

第11図は凝灰岩質頁岩と砂岩の細石刃核と細石刃の出土状況である。細石刃は少量であるが細石刃核は多い。前者は298点、後者は68点である。砂岩はB-5・6に5点まとまっているのが特徴と思われる。凝灰岩質頁岩の細石刃核は第9図と類似している。C-4・5区にまとまっている。第12図は黒曜石を用いた石器の出土状況図である。第13図は礫やその他の石材を用いた石器の出土地点図である。第14図は土器が出土した地点図である。土器はC-5、B-5・6、やA-2・3と台地の西部に多く出土している。土器は全部で114点出土している。また粘土紐貼り付け文土器は3に出土している。

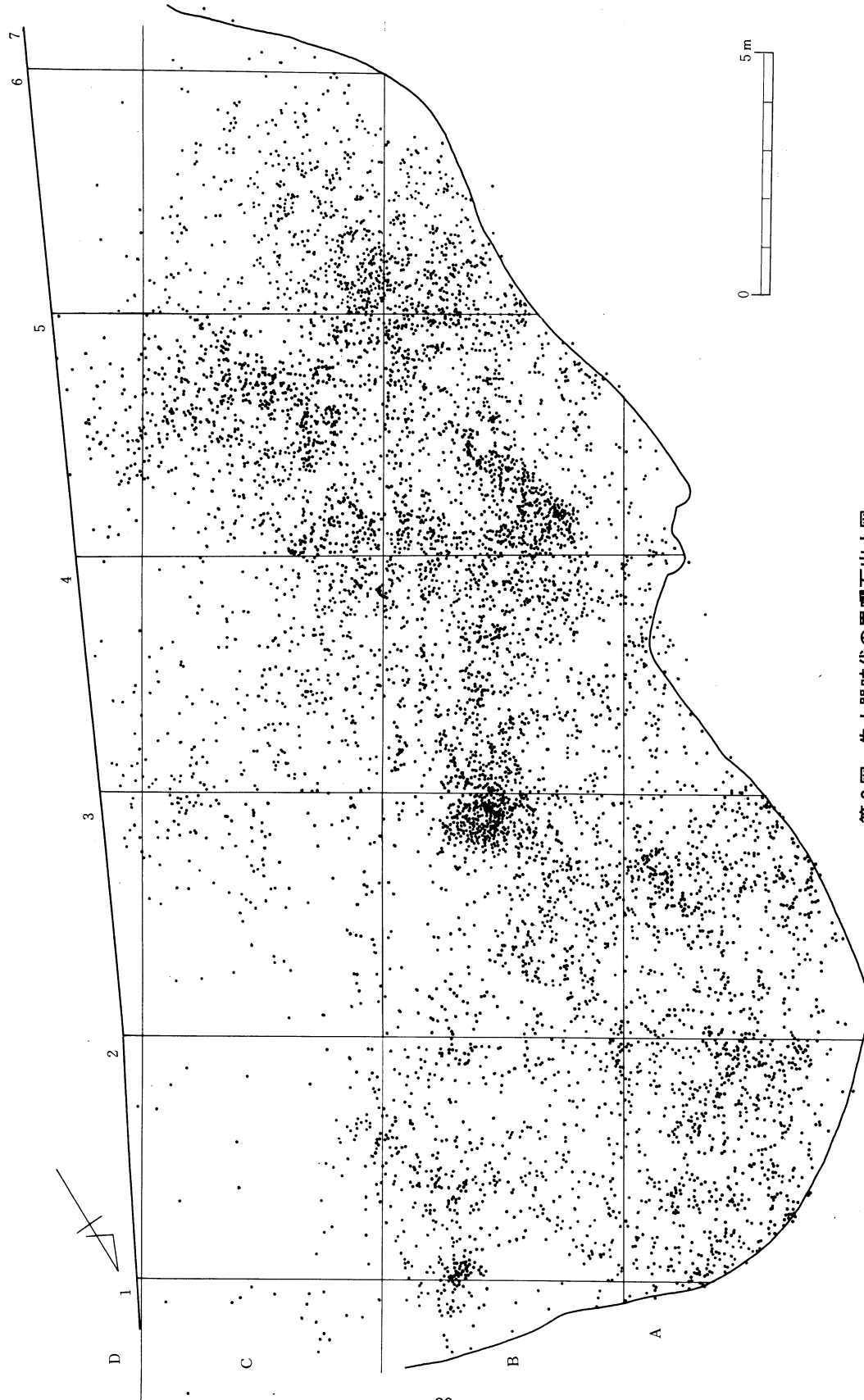




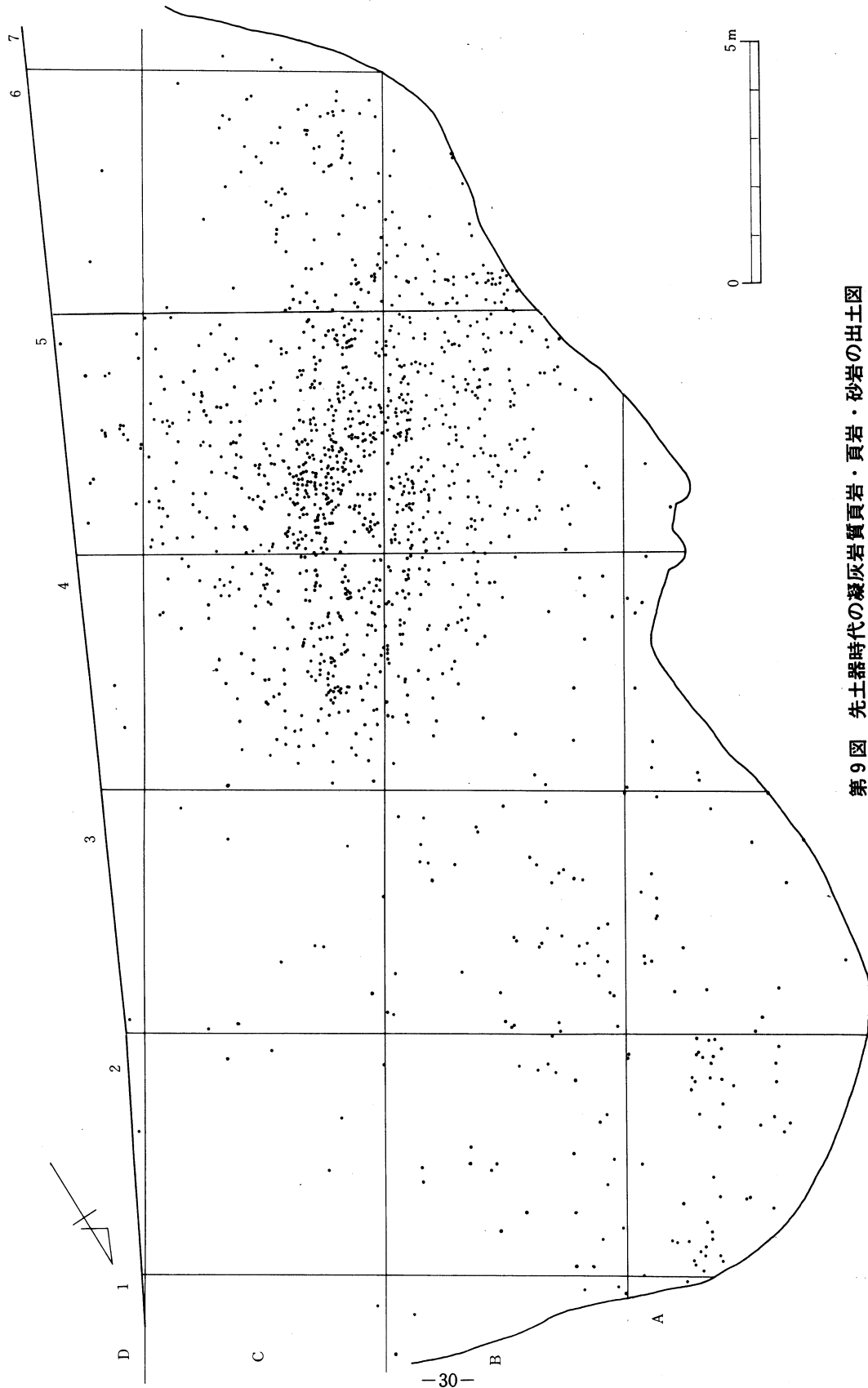
1 先土器時代の遺物出土全体図



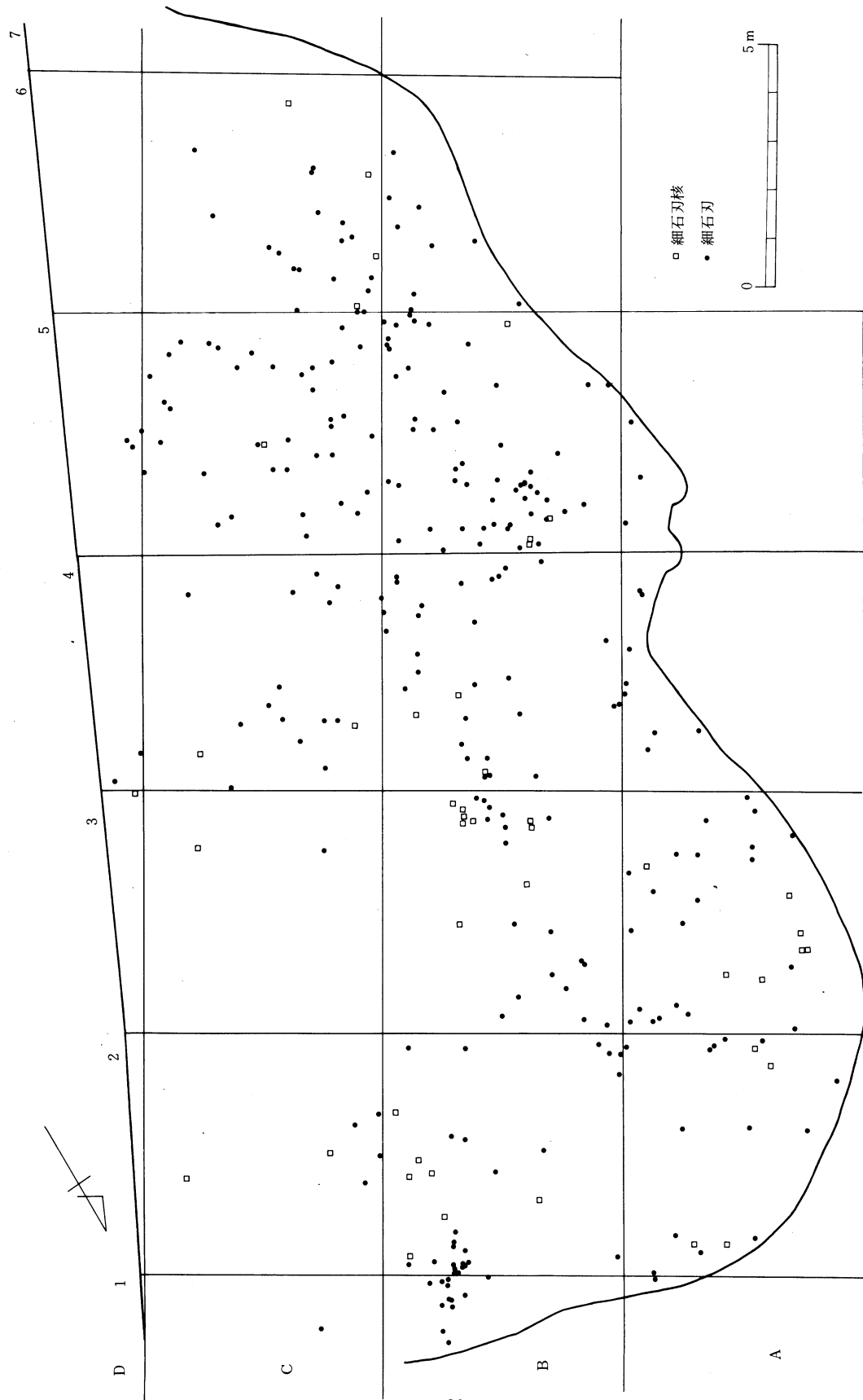
第7図 先土器時代の地形図



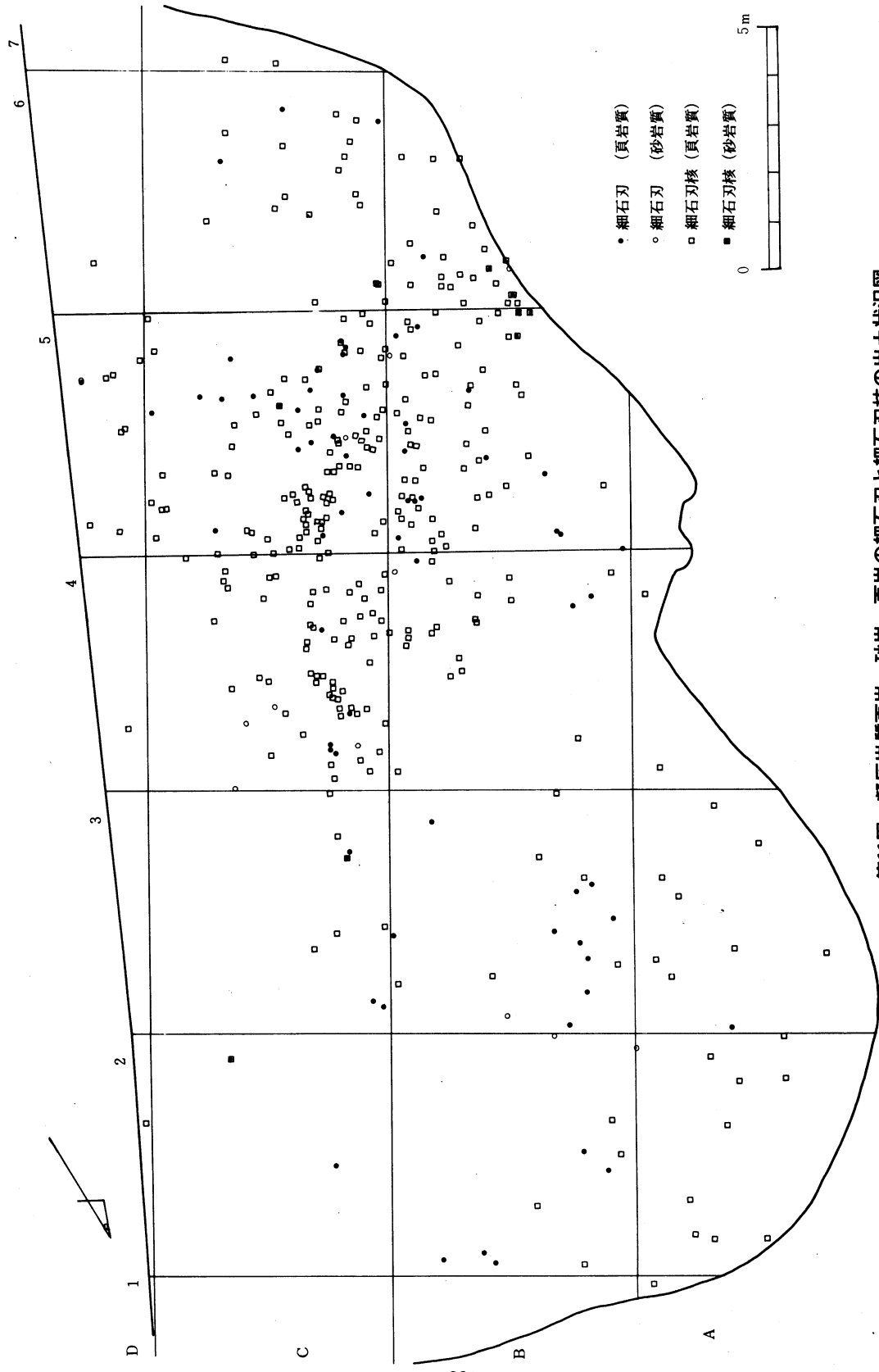
第8図 先土器時代の黒曜石出土図



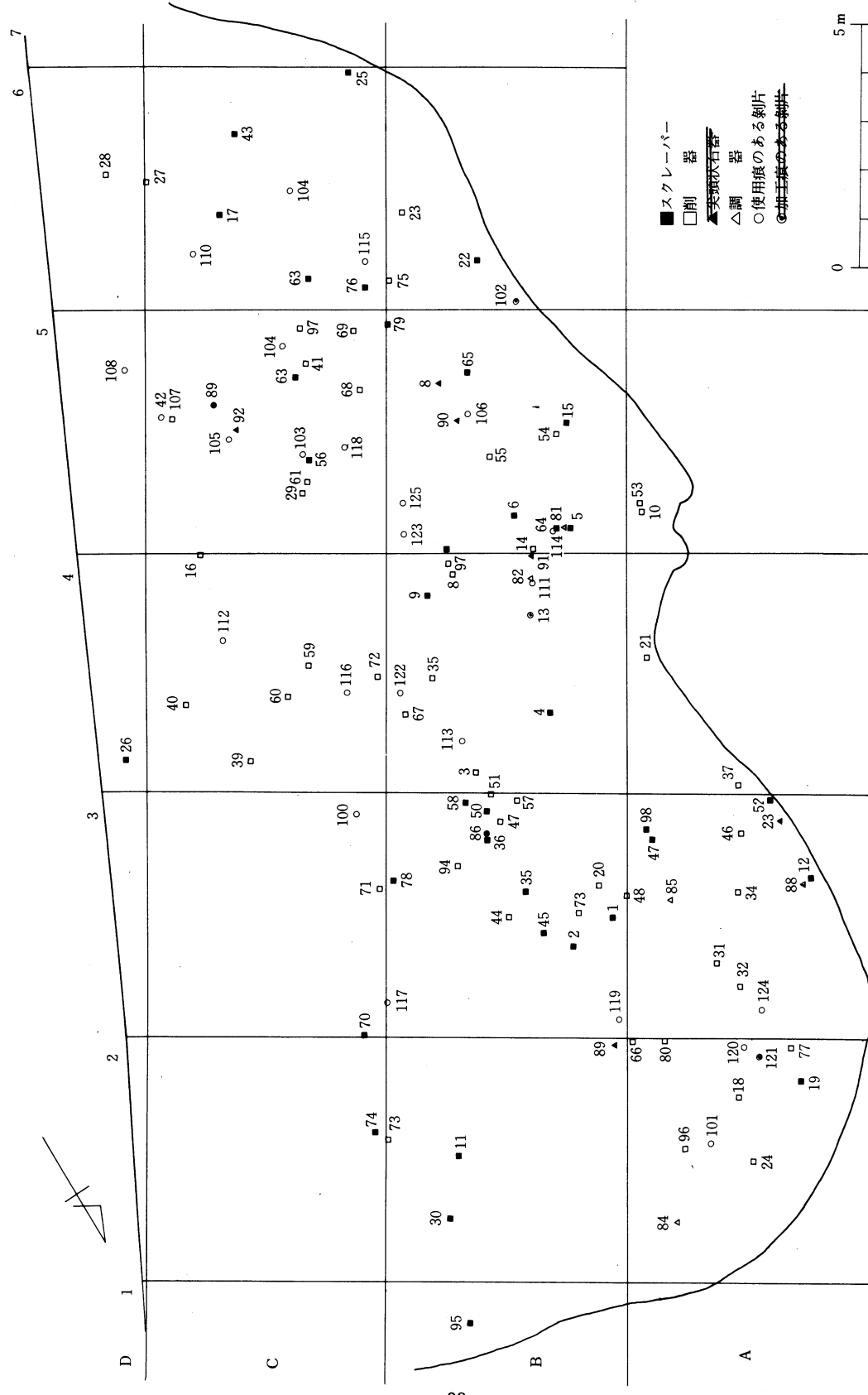
第9図 先土器時代の凝灰岩質頁岩・頁岩・砂岩の出土図



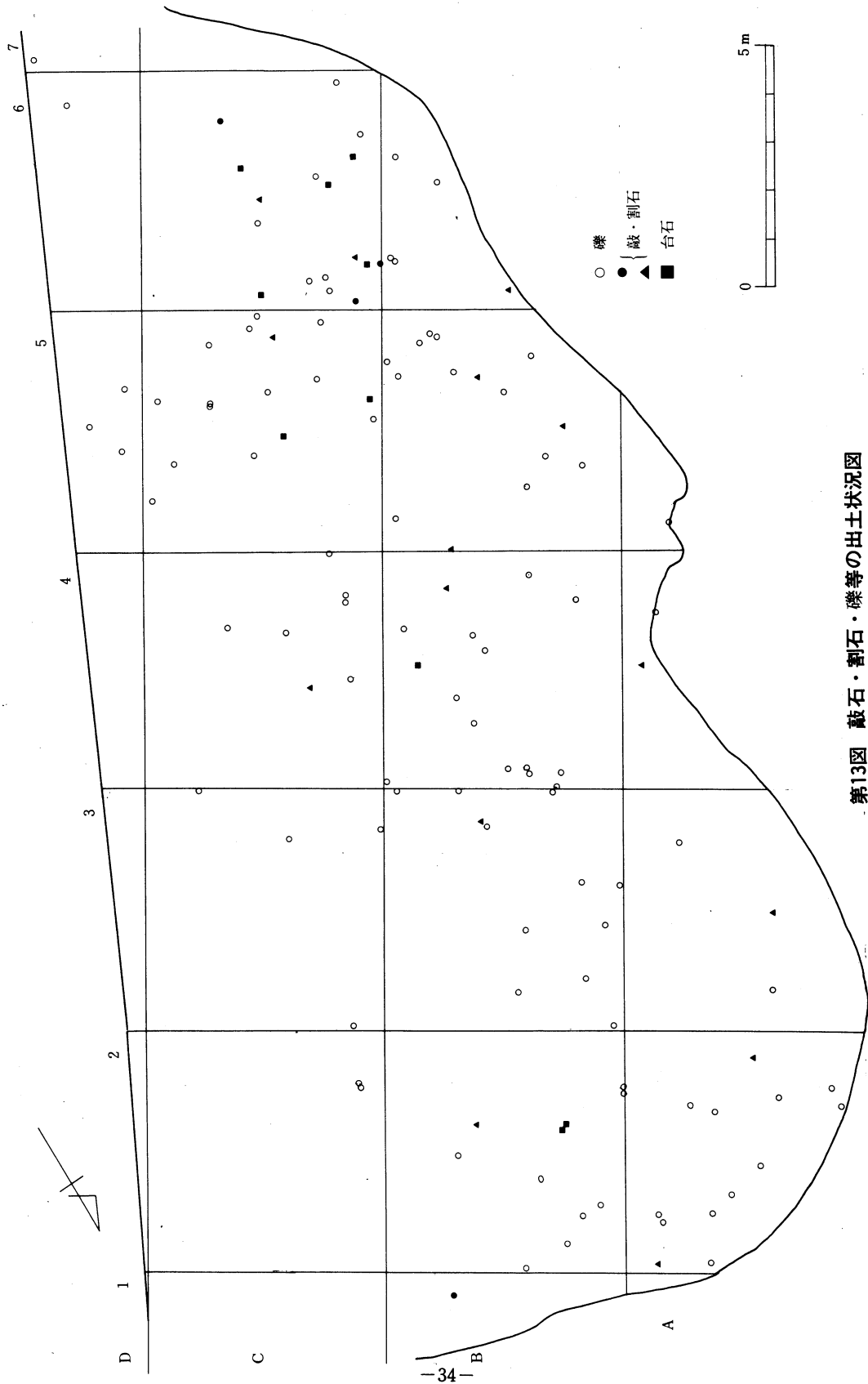
第10図 黒曜石細石刃・細石刃核の出土状況図



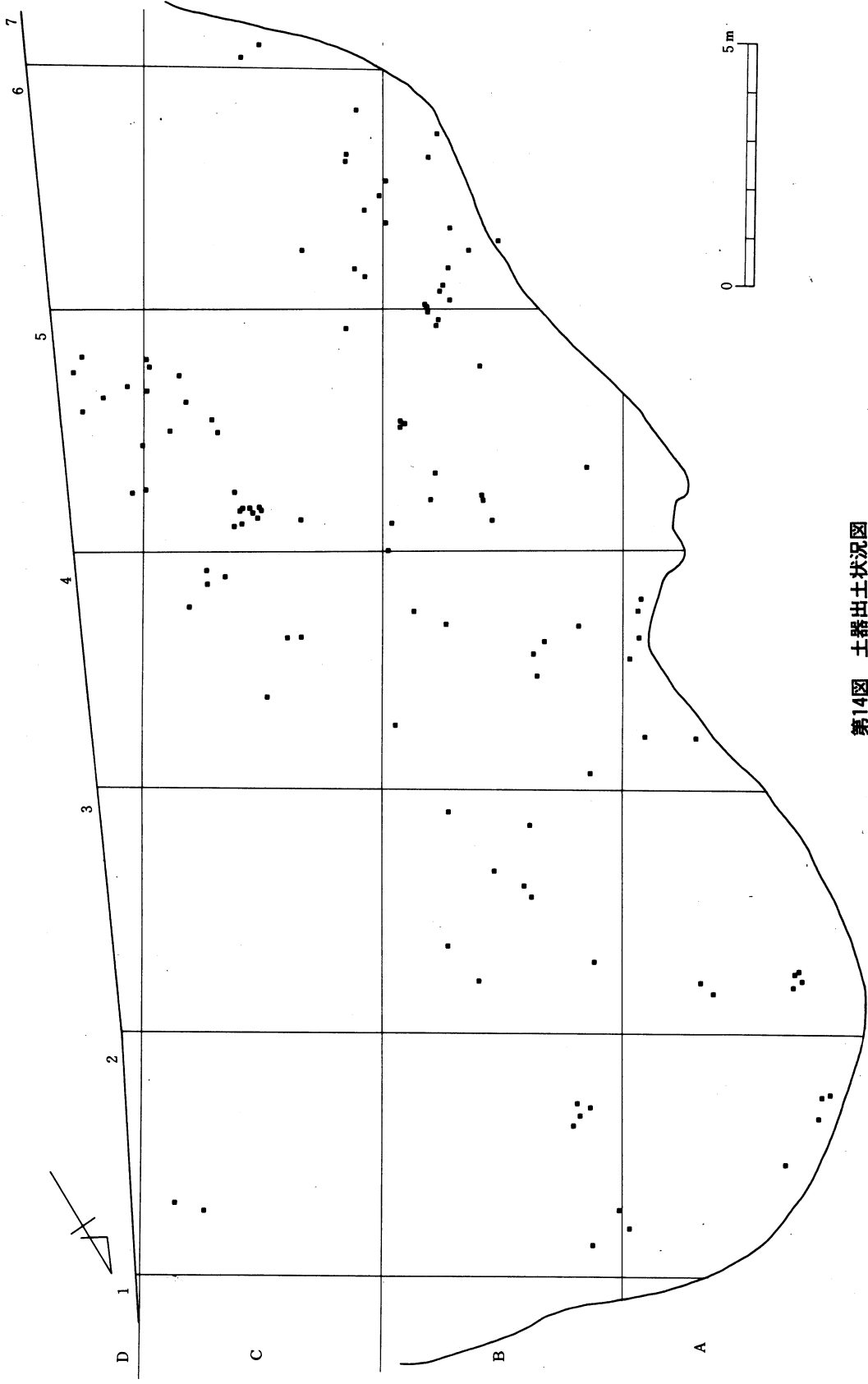
第111図 凝灰岩質頁岩・砂岩・頁岩の細石刃と細石刃核の出土状況図



第12図 黒曜石を用いた石器出土状況図



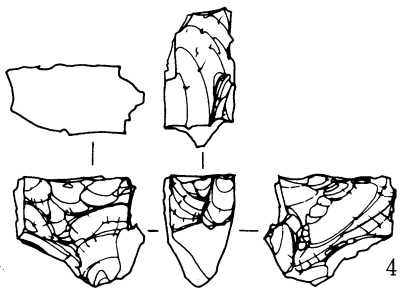
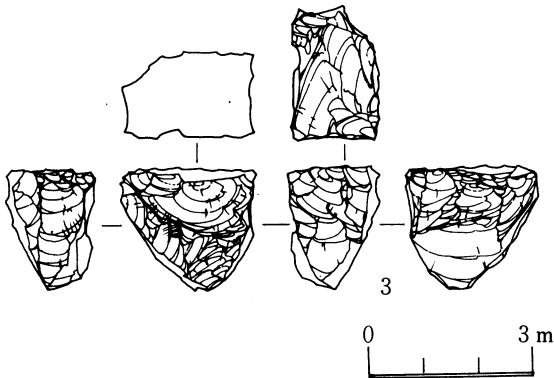
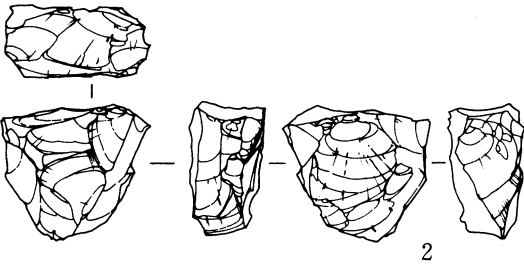
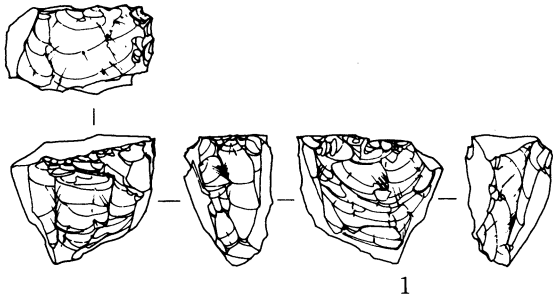
第13図 敲石・割石・礫等の出土状況図



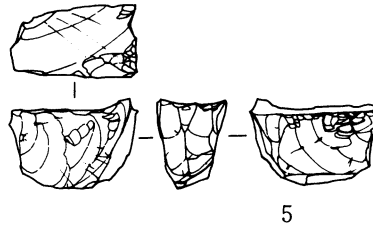
第14図 土器出土状況図

(2) 遺物

① 黒曜石を用いた石器
細石刃核 (1~27)



第15図 黒曜石(1) 細石刃核・A類



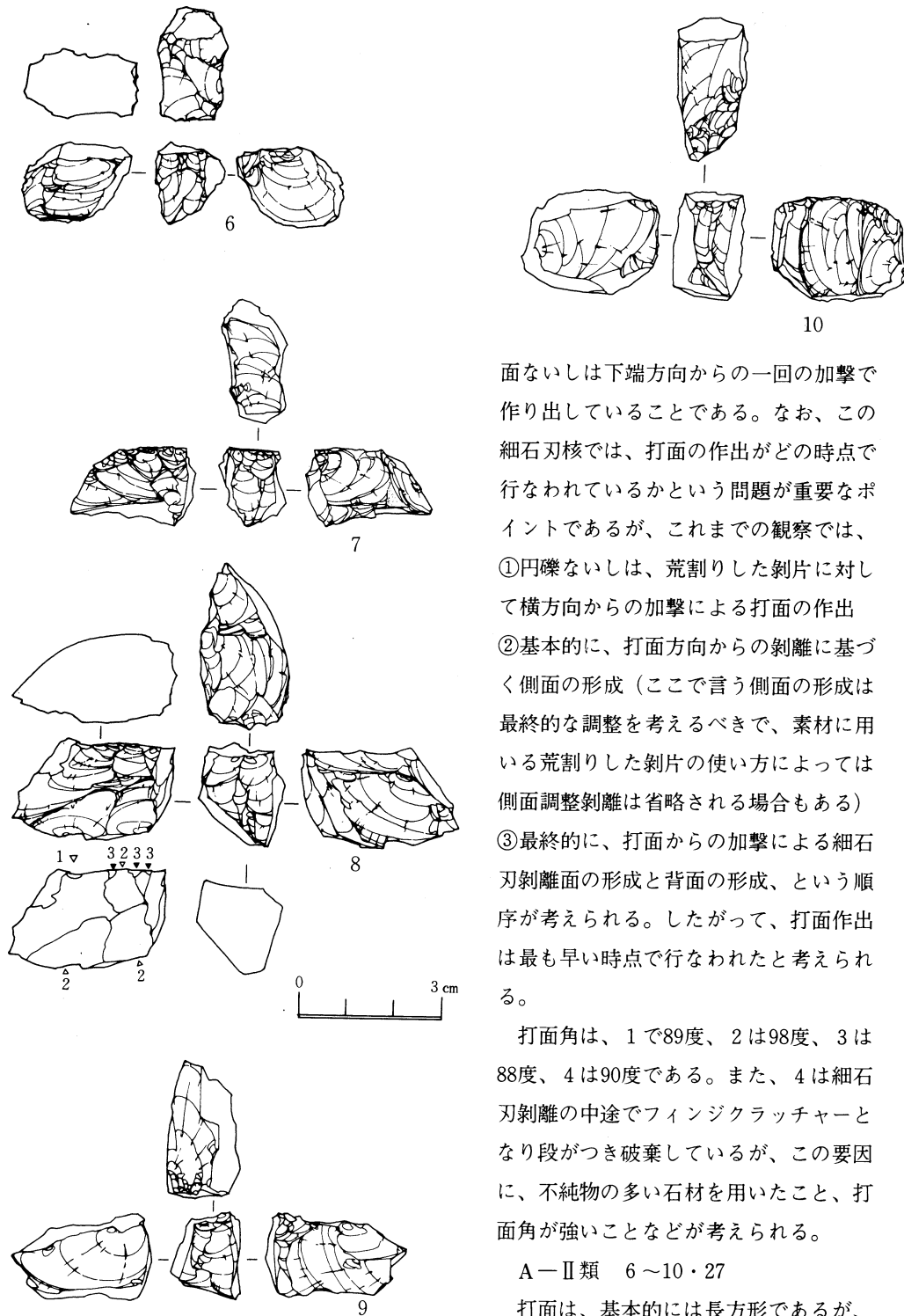
本遺跡で出土している細石刃核は、形態的に分類できるいくつかの要素を持っている。ここでは、形態的に類別を行ない本遺跡の細石刃核の流れを考えてみたい。

〔A類〕 側面観が、舟底形ないしは、半舟底形の形状を持ち打面（甲板）が長方形を呈している一群である。

A-I類 1~4

石核の高さと打面の長さが近似し、また、打面と細石刃剥離面が長方形を呈し、側面は台形ないしは三角形の形状をなしている。両側面の作出は、基本的に打面より行ない、特に、1は細かい整形のための調整剥離を施している。3では、左側面の整形に下端方向からの調整剥離を施している。

この4点、いずれも共通していることは、一回の加撃で打面を作り出し、背面の作出も、打



第16図 黒曜石(2) 細石刃核・A類

面ないしは下端方向からの一回の加撃で作り出していることである。なお、この細石刃核では、打面の作出がどの時点で行なわれているかという問題が重要なポイントであるが、これまでの観察では、
 ①円礫ないしは、荒割りした剥片に対して横方向からの加撃による打面の作出
 ②基本的に、打面方向からの剝離に基づく側面の形成（ここで言う側面の形成は最終的な調整を考えるべきで、素材に用いる荒割りした剥片の使い方によっては側面調整剝離は省略される場合もある）
 ③最終的に、打面からの加撃による細石刃剝離面の形成と背面の形成、という順序が考えられる。したがって、打面作出は最も早い時点で行なわれたと考えられる。

打面角は、1で89度、2は98度、3は88度、4は90度である。また、4は細石刃剝離の途中でフィンジクラッチャーとなり段がつき破棄しているが、この要因に、不純物の多い石材を用いたこと、打面角が強いことなどが考えられる。

A-II類 6~10・27

打面は、基本的には長方形であるが、平担さを欠き、背面方向にかけてやや斜

行する傾向を持っている。このことは、背面の作出を行っていない結果によるものとも考えられる（7・8・9）。ただし、6・10の細石刃核では背面の作り出しは行なわれているが、入念さを欠き、形式的でありやはり背面方向にかけて打面は斜行していく。次に、細石刃剥離面も短くなり、その形状も不定形でばらつきが認められ（9のように下部の方が広がる）の特長を持っている。

ここでは、側面部の作出方法について細かく考えてみたい。8の細石刃核の左側面の作出は模式図に示したように大きく3つの段階を踏んだと捉えることができる。

第1段階 打面からの1の加撃による側面の予測づけと打面の幅の決定（一次剥離）

第2段階 次に、打面・周辺部（この場合は下端部）からの2の調整剥離（二次剥離）による側面の整形を行ない最終的な形状を作りあげている。さらに二次剥離には、細石刃剥離面の形成にも目的が置かれ、上部（打面）よりも下部が広がることを防止する役割があったものと考えられることができる。

第3段階 最後の仕上げの工程に入り、3の微調整剥離（三次剥離）で、これまでの一次・二次剥離で残された剥離面と剥離面の稜を取り去り、それと同時に打面の整形を行なっている。

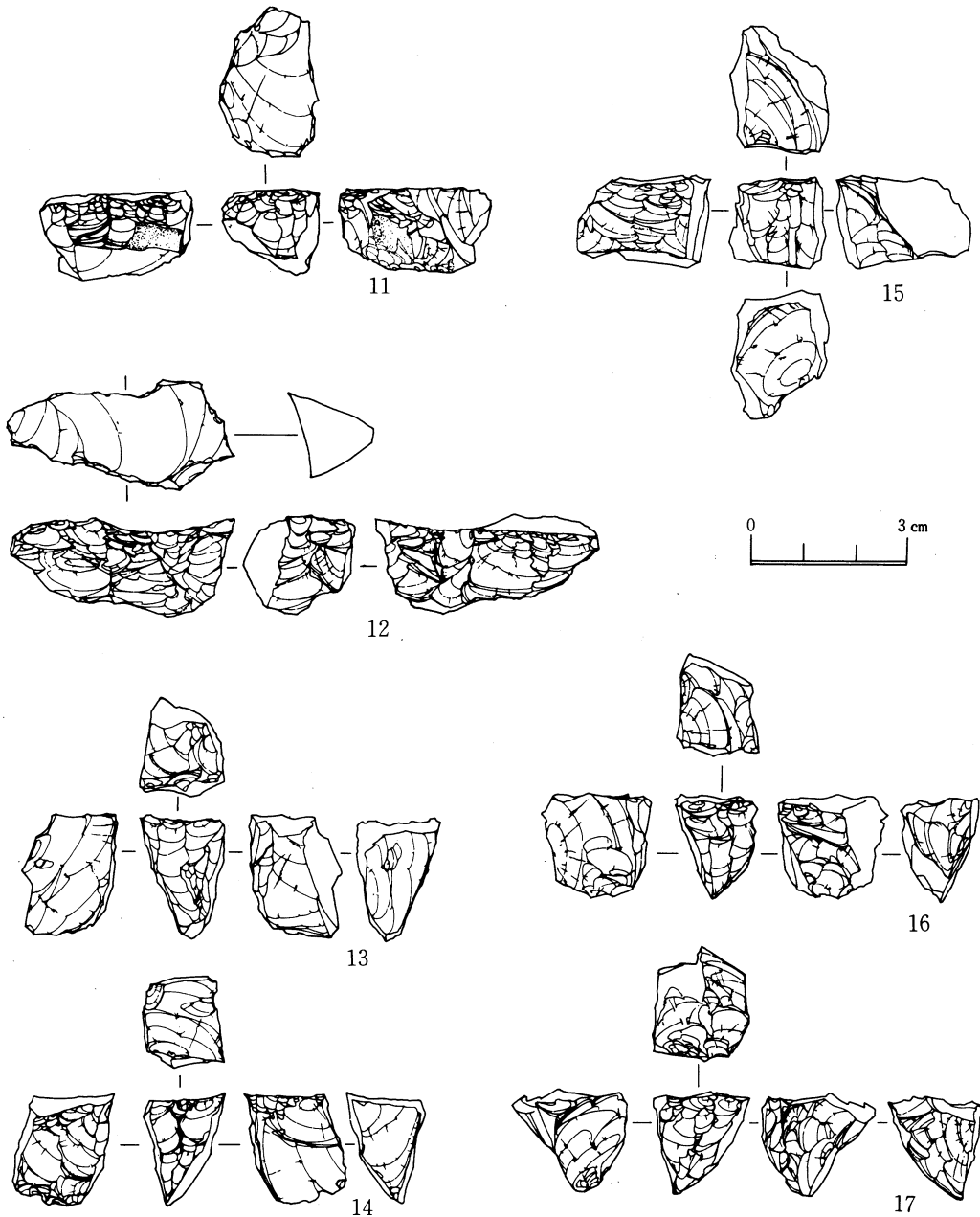
以上の3つの段階が、側面部の作出に行なわれている手順である。なお、この各段階で最も注意が注がれ、最もウェイトを占めるのは、第1段階の剥離であり、この一次剥離がどのような方向で行なわれたかによって、次の二次剥離・三次剥離を必要とするか、省略されるかということが導き出される。一次剥離が十分に行なわれ、満足すべきものであったのが、5・6・10の細石刃核であり、一次剥離と二次剥離を必要としたものが、2・4の細石刃核であり、一次剥離と三次剥離を必要としたのが14の細石刃核に見られ、全ての段階を必要とした細石刃核に7・8・12等があったと捉えることができる。

それぞれの細石刃核の打面角は、6で62度、7で89度、8で88度、9で84度、10で75度となっている。

A—Ⅲ類 5・11・12

最も安定した舟底形を呈するものである。特に、11と12の細石刃核に共通する特長は、打面作出の打点の位置と細石刃剥離面が正反対の位置を占めていることである。これまでのA—I類、A—Ⅱ類の細石刃核に見られた細石刃剥離面と打面の関係は、同一の関係（6・7・9・10）、側面で直交の関係（1・2・3・4・8）を示していた。

11は、長さ 2.9cm、高さ 1.6cmで、両側面の一部に礫面を残している。このことより、素材には小さな円礫を用いたものと思われる。打面は平坦で、側面調整は細かく施されている。下端部の破線で示した剥離面は、発掘調査によるカマの引っかき傷である。打面角は85度である。12は、長さ 4.3cm、高さ 1.8cmの最も形の整ったもので、甲板面はやや凹面の傾向を持っている。側面調整は、全て甲板面より全周に施され、特に入念である。打面角は67度である。

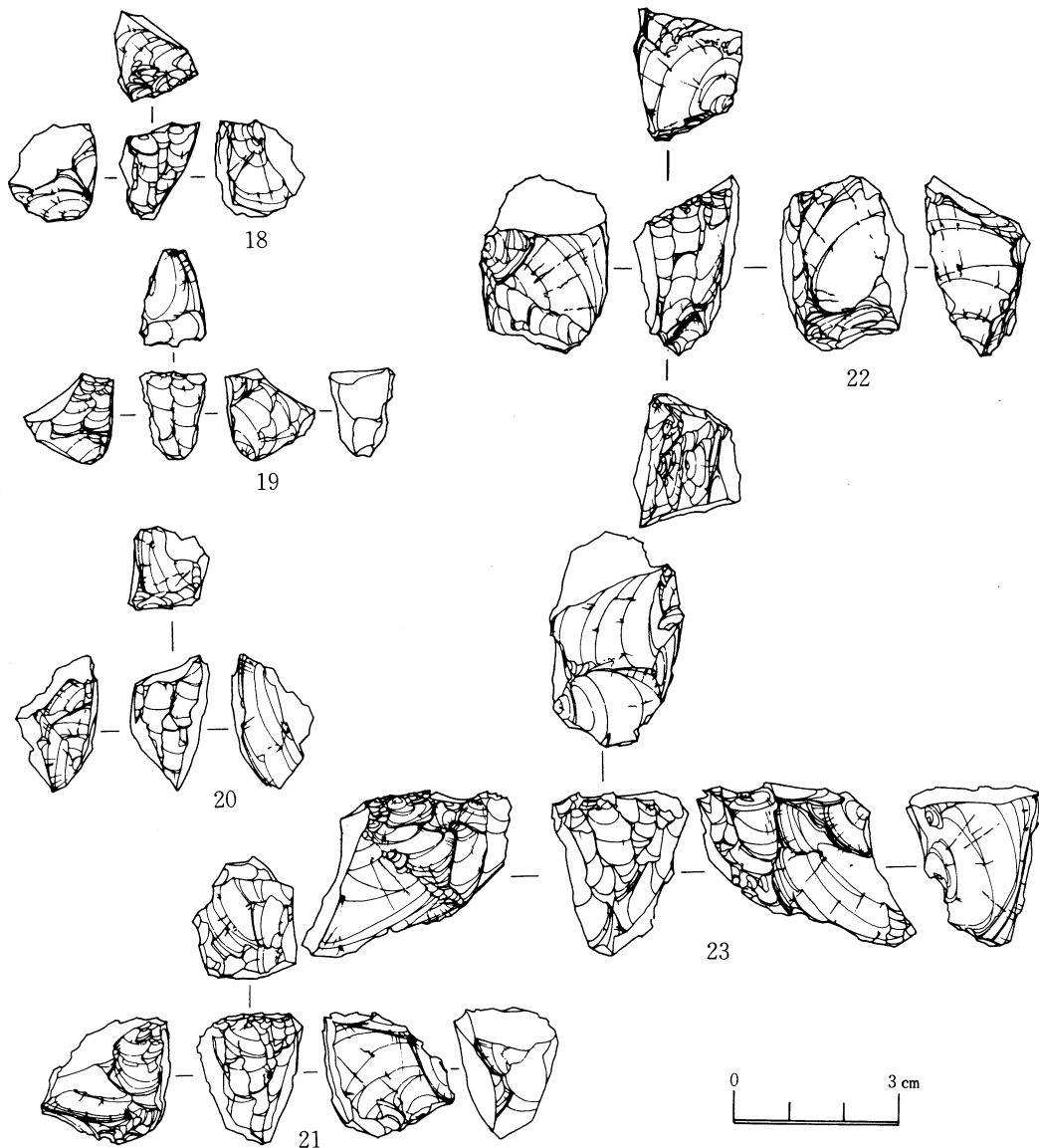


第17図 黒曜石(3) 細石刃核 A・B類

〔B類〕 打面が方形ないしは台形状となり、細石刃剥離面が三角形・二等辺三角形の形状を呈し、さらに下端部が全く面を持たず鋭利に尖がり「楔」形となる一群である。

B-I類 13・14

細石刃剥離面は、二等辺三角形を呈し、下端部は鋭利に尖り、最も「楔」形を示している。



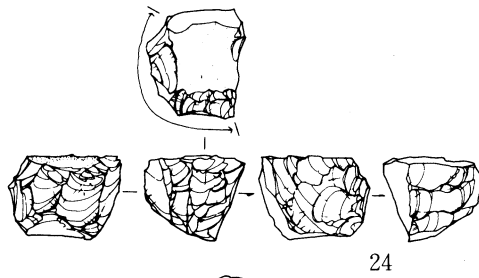
第18図 黒曜石(4) 細石刃核 C類

13の細石刃核では、両側面の形成は一次剥離で終了し、背面作成は側面作成よりも以前に行なわれたと思われる。さらに、背面の方向と細石刃剥離面の傾斜が平行であり、側面観が平行四辺形となっている。打面角は、13で84度、14で82度となる。

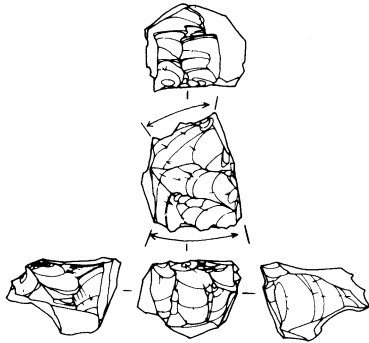
B-II類 15・16・17

打面は台形状を呈し、下端部は面として形成されない。15は、下部が欠落したものと思われる。打面角は、15で83度、16で85度、17で89度となる。

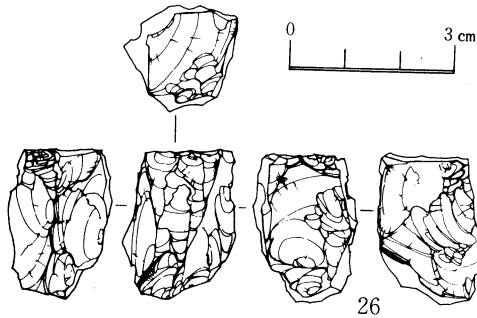
[C類] 18・19・20・21・22・23



24



25



26

第19図 黒曜石(5) 細石刃核 D類・E類

打面の形状にばらつきがあり、いわゆる“斜行打面”をなす一群として分類した。

しかし、この一連の細石刃核を独立した形態として捉えてよいのか、どうかという疑問も残っている。図で示したように、甲板面が急激に傾斜し、左側面上部が低くなっているが、19・20に見られるように平坦な打面の残りが少なくなったものとして捉え、例えばA-II類の残核的な性格をもつものとして考える必要性も残されている。打面角は、18で88度、19・20で90度、21で81度、22で86度、23で87度となる。

〔D類〕 24・25

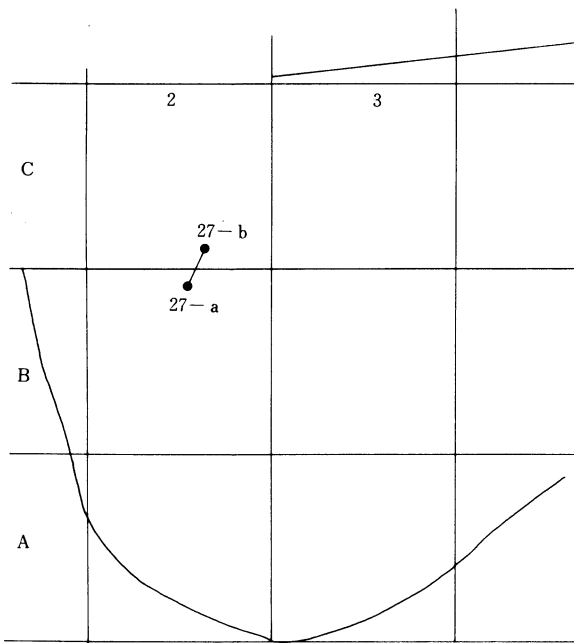
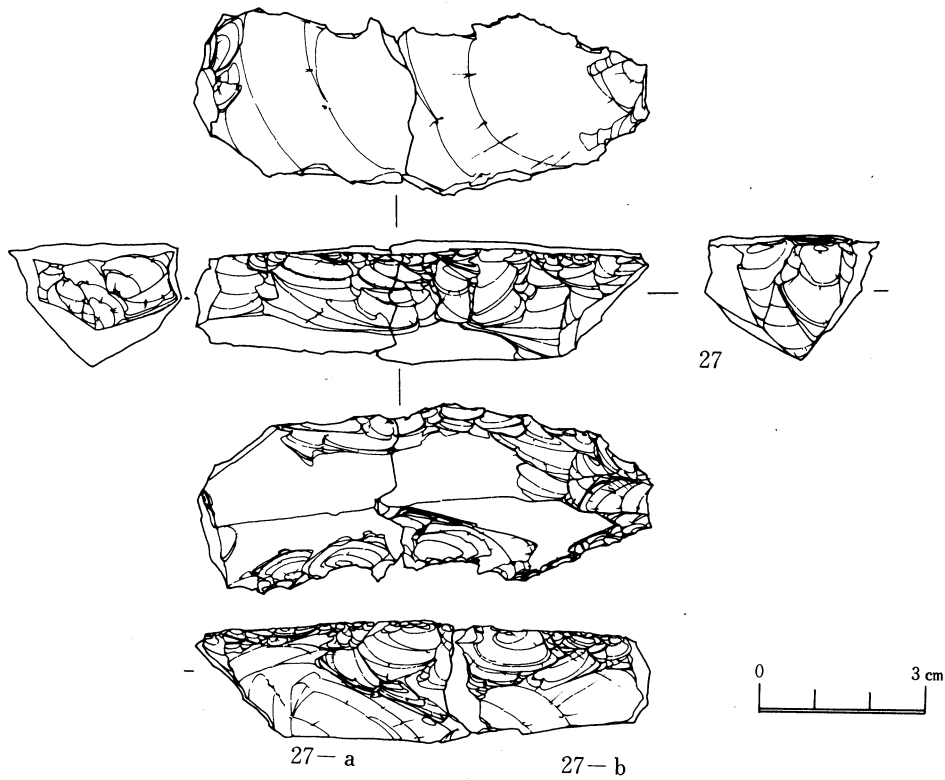
細石刃剝離面を二面もつものである。

24は、打面が異なり、礫面を残した打面に横方向からの打面調整を加えて細石刃剝離を行なっている。一方の打面は、側面が打面となったもので、本来の細石刃剝離はこの打面で行なったものと考えられる。25は、同一の打面を利用したもので、正面と背面とがそれぞれ細石刃剝離面となり、打面は、最初の一撃で作成した後、三回の剝離で平坦な打面を作り出している。いずれも石材は良質である。

〔E類〕 26

唯一の角形をなす細石刃核で、使用している石材は良質である。

以上、形態の分類を行なってみたが、これらの中で最も把握しやすいのは、A類とB類であり、その他は数も少なく不鮮明な部分が多かった。舟底形の形態を持つA類と、楔形の形態を持つB類、この二つの形態が本遺跡の細石刃核の主流であり、中でもA類の打面形成後に側面の作成を行なっている舟底形細石刃核が主体であり、他の全ての細石刃核の作出・形状に影響を与えたと考えられる。

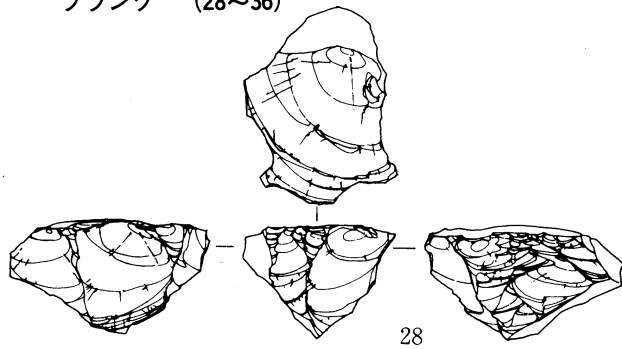


27・最も安定した舟底形細石刃核
 で、細石刃剝離面と打面作出との関
 係でA-II類に置いている。長さが
 8.2cm、高さ 2.2cmで、稜の高い断
 面が三角形の縦長剝片を素材として
 いる。側面調整は、全て打面方向よ
 り行なっている。

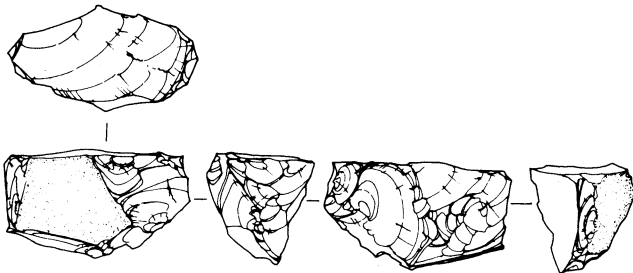
左図は、接合した2点の出土位置
 と分布の関係を示したものである。

第20図 黒曜石(6) 細石刃核

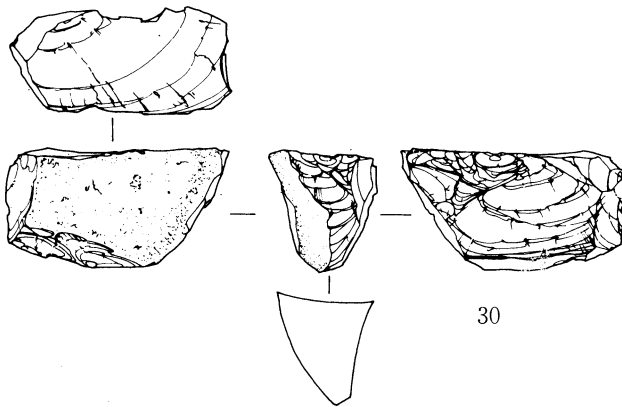
ブランク (28~36)



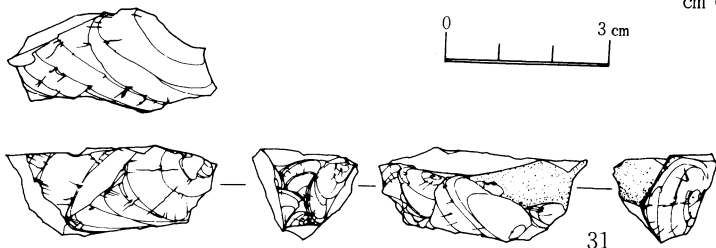
28



29



30



31

第21図 黒曜石(7) ブランク

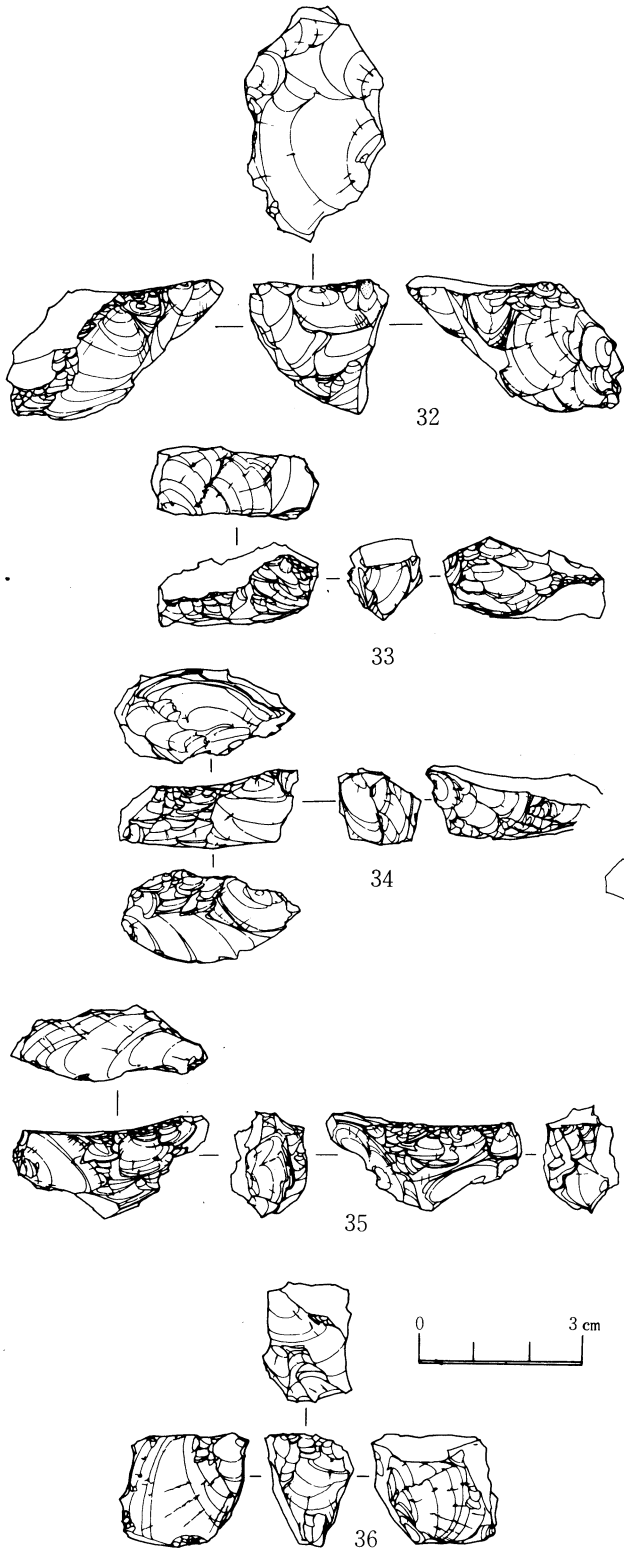
数多くのブランク類が出土しているが、ブランクの製作を短摘に示し、細石刃核との関係をよく現わしているものについて比較し分類を行なった。なお、この分類は、先に行なった細石刃核の分類に照合させており、例えば、A-I類のブランクは、A-I類の細石刃核と直接関連している。

〔A類〕 舟底形細石刃核の作出を目的として用意された一群で、最も多く作り出されている。

A-I類 28・31

細石刃核A-I類の作出に用意・製作したもので、打面作出時における打点(加撃点)の位置と細石刃剝離予定面とが、同一の関係、ないしは直交する関係となっている。打面は、一回の加撃で作出し平坦面となっている。側面の作出は、基本的に打面より行なっている。

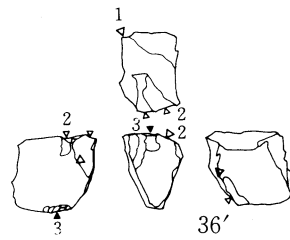
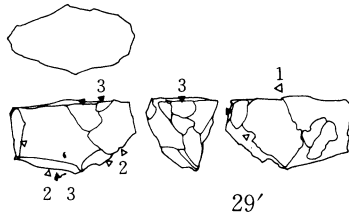
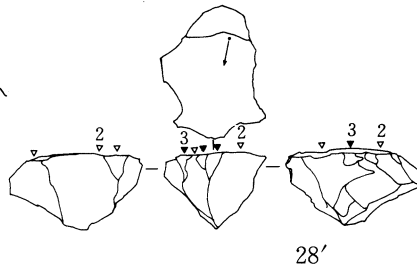
28は、長さ 3.6cm、高さ 2.1cmで、二分割した円礫の片方を素材としたと思われる、分割面を打面(甲板面)とし、打面方向よりの剝離で側面、細石刃剝離面を作り出している。31は、長さが 3.8cm、



高さ 1.6cmで、荒割りした不定形な剥片を素材としている。

A-II類 33・34

A-II類の細石刃核と関連するもので、そのために用意製作したものと思われる。甲板面が背面方向にかけて斜行する形状となり、正面（細石刃剝離予定面）は短かく、形状も不定形となっている。また、このブランクの形態・製作過程は、C類の細石刃核とも関連さして捉える必要があると思われる。特に、33に見られる。打面が短かく甲板



第22図 黒曜石(8) ブランク

面が背面より左側面にかけて急激に傾斜し低くなる様相は、細石刃核の19・20に見られる形状と類似している。したがって、C類の細石刃核は、A—II類細石刃核の残核的な様相・性格を含んでいると考えられる傾向が、ブランクにおいても見られている。

33は、長さ 2.9cm、高さ 1.4cmで、不定形な剥片を素材にし、側面の作出は全て甲板面よりの剥離で行なっている。また、背面・左側面の斜行する甲板面は、打面作出後の側面方向から剥離で形成されたもので、この剥離の原因は、細石刃剥離予定面よりも背面部分が高くなっていたためと思われ、したがって、それらを防止する目的の調整剥離であったと思われる。

34は、長さが 3.3cm、高さ 1.4cmで、荒割りによって得られた不定形な剥片を素材としている。このブランクに見られる甲板面の斜行は、打面作出を行なった際の側面方向からの加撃が反対側の側面方向に流れていったことによるものと思われる。

A—III類 29・30・35

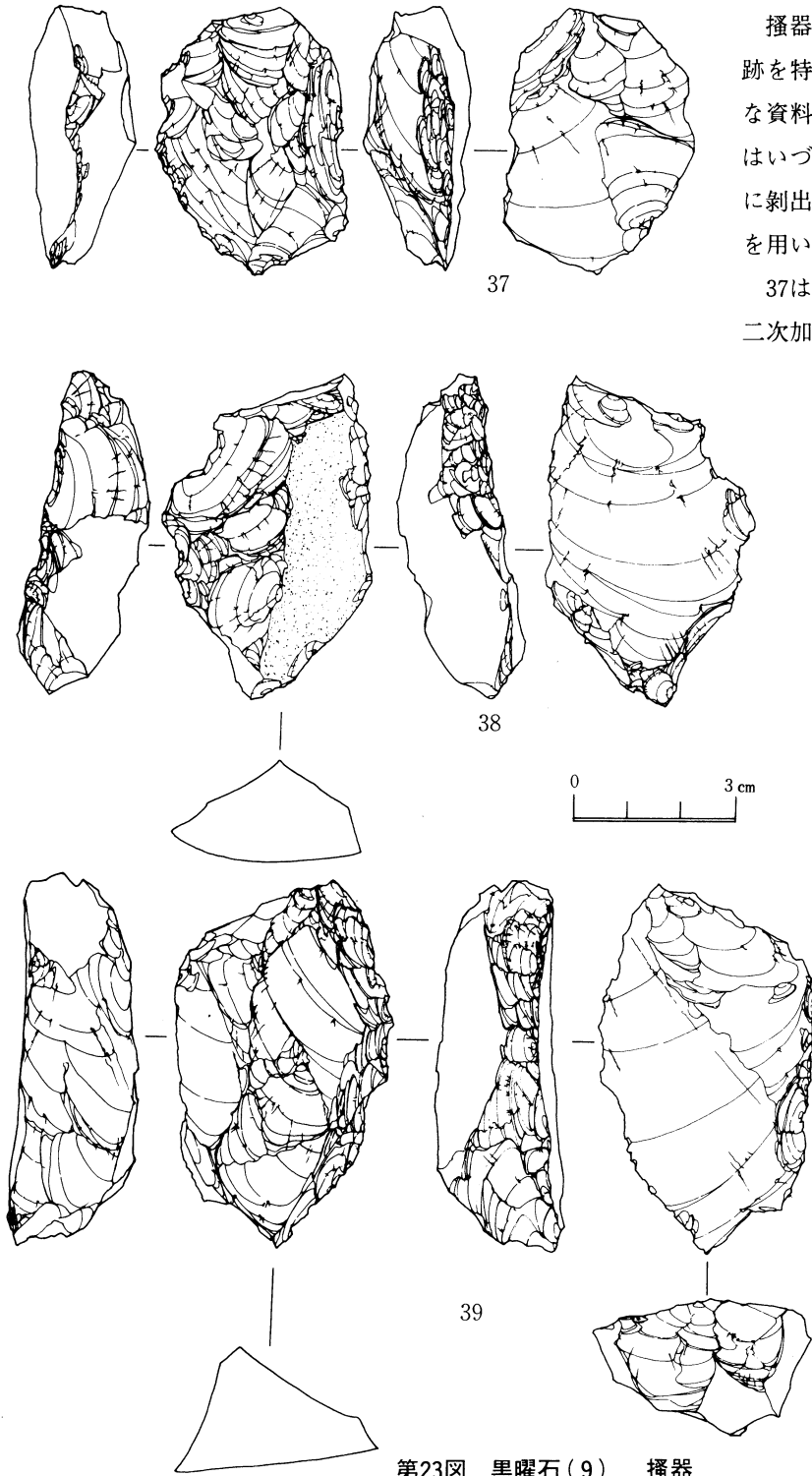
細石刃核のA—III類の作出に用意・製作されたもので、打面作出時の打点の位置と細石刃剥離予定面とが正反対の関係を示している。

29は、長さが 3.5cm・高さ 2.1cmであり、30では、長さ 4.1cm、高さ 2.1cmである。これらの2点のブランクには、礫面が残されており、礫面・分割面の状態より原礫の復元予想を行なうと、基本的に、原石を十文字に四分割したことが考えられ、分割した剥片の四分の一がブランクの素材に用いられている。

〔B類〕 36の1点だけであるが、細石刃核B—I類の楔形細石刃核の作出に用意されている。

〔C類〕 32のブランクで、斜行打面をなしている細石刃核C類、特に23ときわめて類似している。

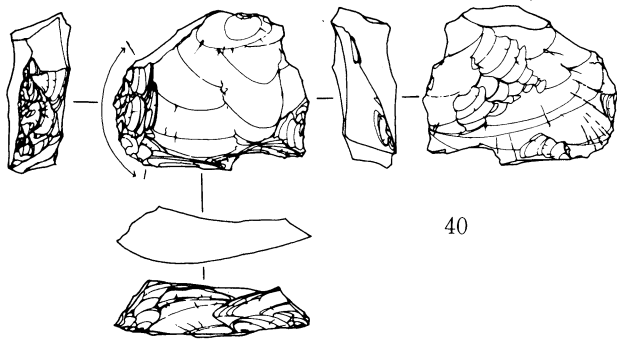
搔器・削器 (37~48)



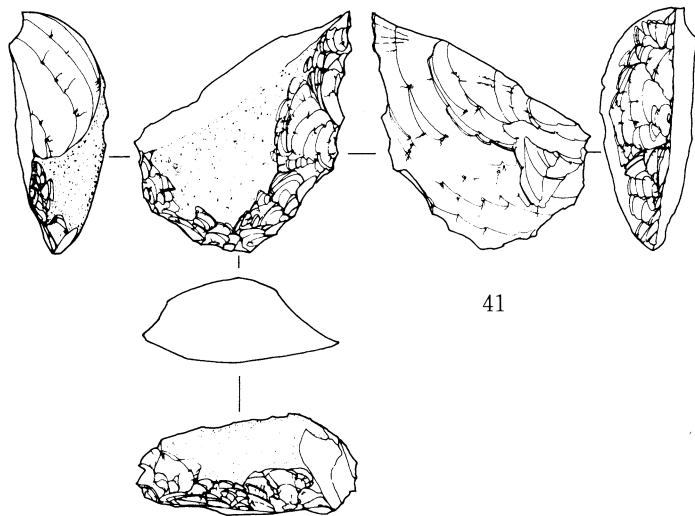
搔器・削器は、本遺跡を特長づける代表的な資料である。37~39はいづれも、長軸方向に剥出した厚手の剥片を用いている。

37は両側を刃部に、二次加工は裏面→正面への加工が主として右側に施されている。裏面は平坦面を作り出すための調整剥離を施している。長さ 4.8cm 厚さ 1.9cm、気泡の多い石材である。38は右側に礫面を残し、剥片の上部は裏面方向からの加撃で取り去っている。39は右側全周に刃部を設けている。裏面は上部を除いて主要剥離面をそのまま残している。長さ 6.8cm で65度の刃部をもつ。

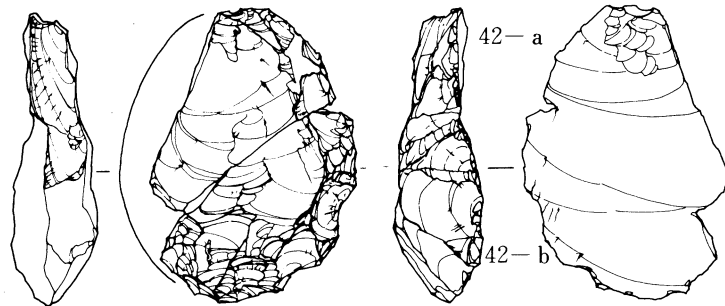
第23図 黒曜石(9) 搔器



40



41

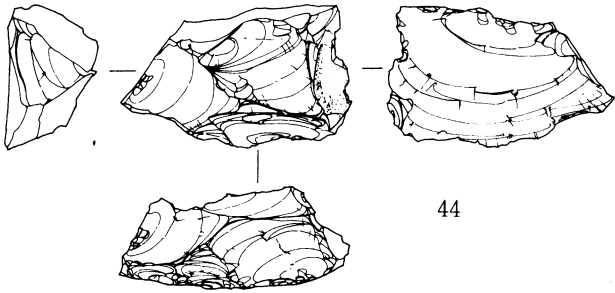
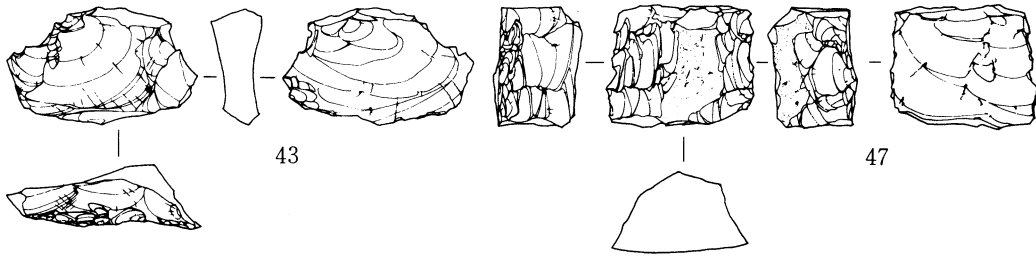


42

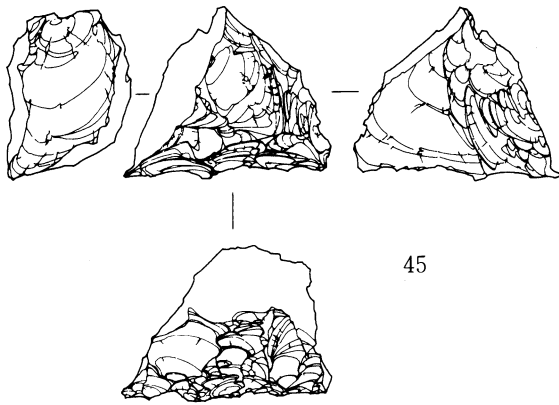


第24図 黒曜石(10) 搔器

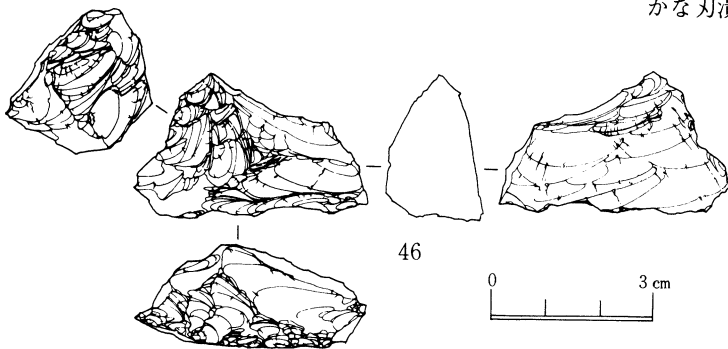
40は、本来42・48と同様の形状に造りあげた石器であったと考えられる。正面に二条の稜の走る縦長剥片を素材とし、その両側に裏面→正面への二次加工で刃部を造り出している。図示した石器は、その後二つに折れたものと考えられ、折れた石器の上半分（上端部）に再度の調整を行ない利用している。打面は平坦で、断面は台形状を呈し50度と65度の角度に刃部加工している。41は円礫の荒割りを取り出した礫面を残す第一次剥片を利用したもので、この石器も欠損品である。断面が「カマボコ」状の剥片の全周に全て裏面→正面への二次加工を施し刃部を造り出している。主要剥離面は、やや湾曲し凸レンズ状を呈する面をそのまま利用している。42は接合した資料で、良質の石材を用いている。



断面は、正面の中央部が凹状を呈し、剥片の全周に裏面→正面への刃部加工のための二次加工が入念に行なわれている。特に、右側では槌状剥離が観察される。裏面は主要剥離面がそのまま残されている。長さ 5.4cm、厚さ 1.6cmである。

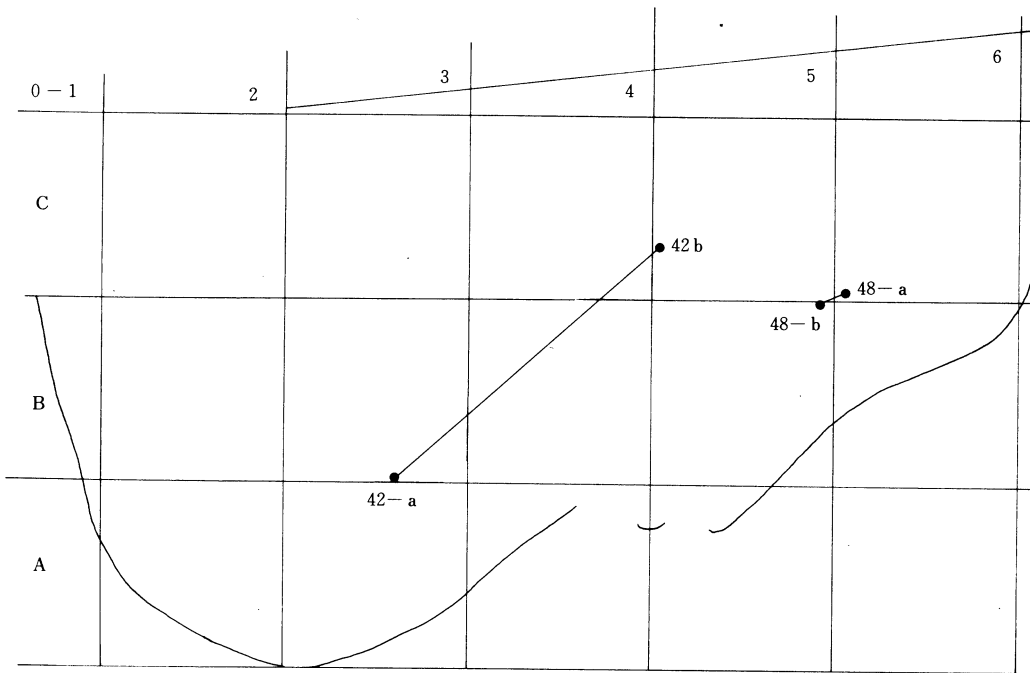


43は横長の不定形な剥片を利用し、剥片の下端部に刃部を設けている。刃部加工は、剥片の下端部を打ち欠いて除去した後にこなっている。44は、45・46と類似した形状をもつもので、厚手の荒割りした不定形な剥片を素材とし、下端部に裏面→正面への加工で刃部を造り出し、刃部の加工角度は68度である。また、裏面上端部に細かな刃潰れ状の痕が観察される。

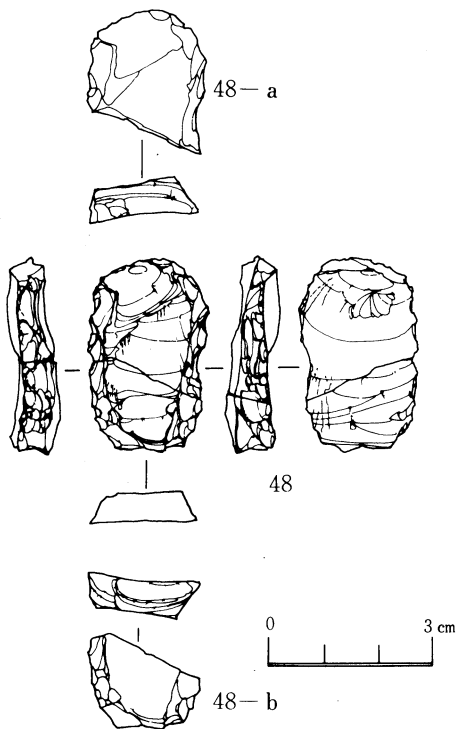


45も同様な石器で、厚さ 2.2cm、刃部の加工角度は75度である。46は荒割りした横長剥片で、左側と下端部に裏面→正面への二次加工により刃部を形成している。

第25図 黒曜石(11) 搔器



42. 48搔器の接合関係

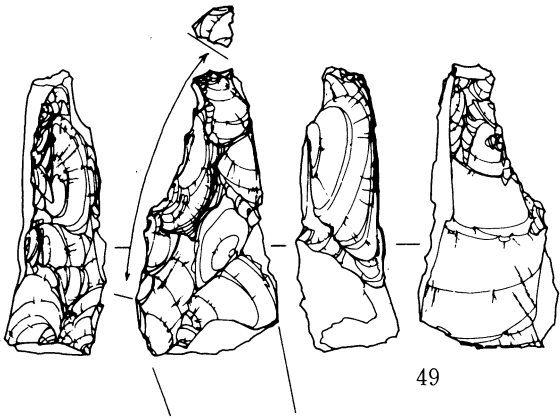


48は、接合した資料で断面が台形状を呈する縦長剥片（本遺跡の中では均正のとれた縦長剥片である）の、打面を除く全てに裏面→正面への刃部加工を行なっている。接合に成功したのは二個であるが、下端部も欠落しており三個に折れたものと思われる。長さ 3.5 cm、厚さ 0.8cmである。石材は、光沢のない黒曜石を用いている。

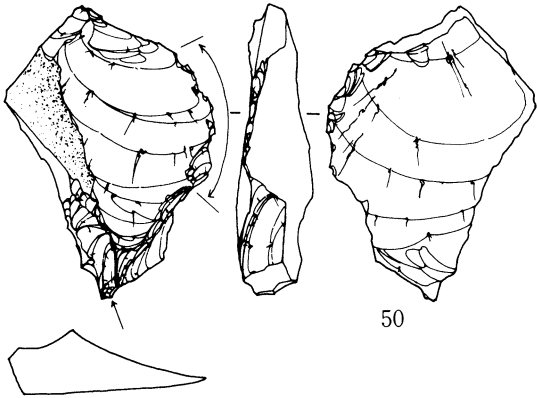
なお上図は、42と48のそれぞれの接合資料の出土位置と分布の距離を示したグリッド配置図である。

第26図 黒曜石(12) 搔器

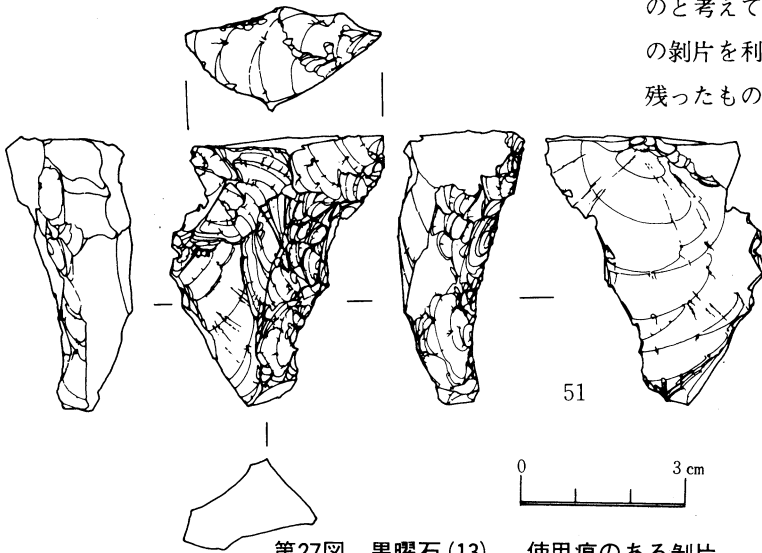
使用痕のある剥片 (49~56)



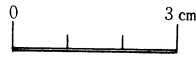
49



50



51



第27図 黒曜石(13) 使用痕のある剥片

49 平坦な打面をもつ不定形な剥片を利用した稜の高い石器である。刃部は左側に集中し裏面→正面に加工し、右側半分は欠損したものと考えられる。50は礫面を残す剥片の上半部、右側部分に機能が集中している。さらに、図示した正面図の下端に↓印で示した部分に彫刻刃的な機能を持たしたことも観察でき、多目的な石器であったとも考えられる。51は稜の高い剥片の右側に刃部を設けている。52は良質の石材を用いたもので剥片の先端部に刃部を造り、搔器的な横相をもつものと考えられる。53は、数点に欠落した石器の一部と考えられ、この場合も52同様の役割りをもっている。刃部は85度の角度をなしている。54・55・56は同一の形状をもつものとして紹介した。先の47もこの3点に近いものと考えている。54は縦長の厚手の剥片を利用したもので下半分が残ったものであり、剥片の右側に

裏面→正面に刃部加工を行ない70度の刃部角度をなしている。割れ口の観察から、故意に加撃を行なっている。56も同様な様素をもち、両側に刃部を設け、左側で60度、右側で40度の刃部角度をなしてい

る。これらの石器は、全て厚手の縦長剥片の側縁部に裏面→正面にかけての二次加工で刃部を造り出し、主要剥離面（平坦面）をそのまま利用する共通の技術に支えられている。

57は厚手の剥片の右側を刃部としたもので、60度の刃部角度をなしている。58は、板状の薄い剥片を利用している。59と62は同種の石器で、小形の不定形の剥片の先端部を使用している。60は、断面三角形の剥片の右側に正面→裏面方向の調整で使用の痕跡がうかがえる。61は先の52と同様の形状をもつ石器で厚手の剥片の下端部を刃部としている。63は、灰色の石材を用い右側に刃部を設け、平坦な主要剥離面をそのまま利用し、長さは4.2cmである。64は横剥ぎにした不定形剥片を用い、切り出しナイフ形石器的な形状に仕上げている。上端部を使用部にしたと思われ、両側縁にナイフ形石器に見られるような背面をもっている。使用の目的が何であったかは明らかでない。長さは3.5cmである。65は亀甲状の剥片を利用したもので左側を刃部としている。66は平坦な打面をもち、断面は台形状を呈して、刃部は右側である。逆に67は、左側に刃部を設けたもので打面は平坦である。

以上、使用痕の見られる剥片類について紹介してきたが、剥出した剥片の主要剥離面をそのまま利用し、主として裏面→正面への二次加工により刃部を造り出し、使用方向としている。

54・55・56の共通する一群、52・60・61の先端部を搔器的な機能を持たしたものの、さらの49・51・63などの湾曲した刃部をもち削器的な機能を持つなどに細分できる可能性もある。

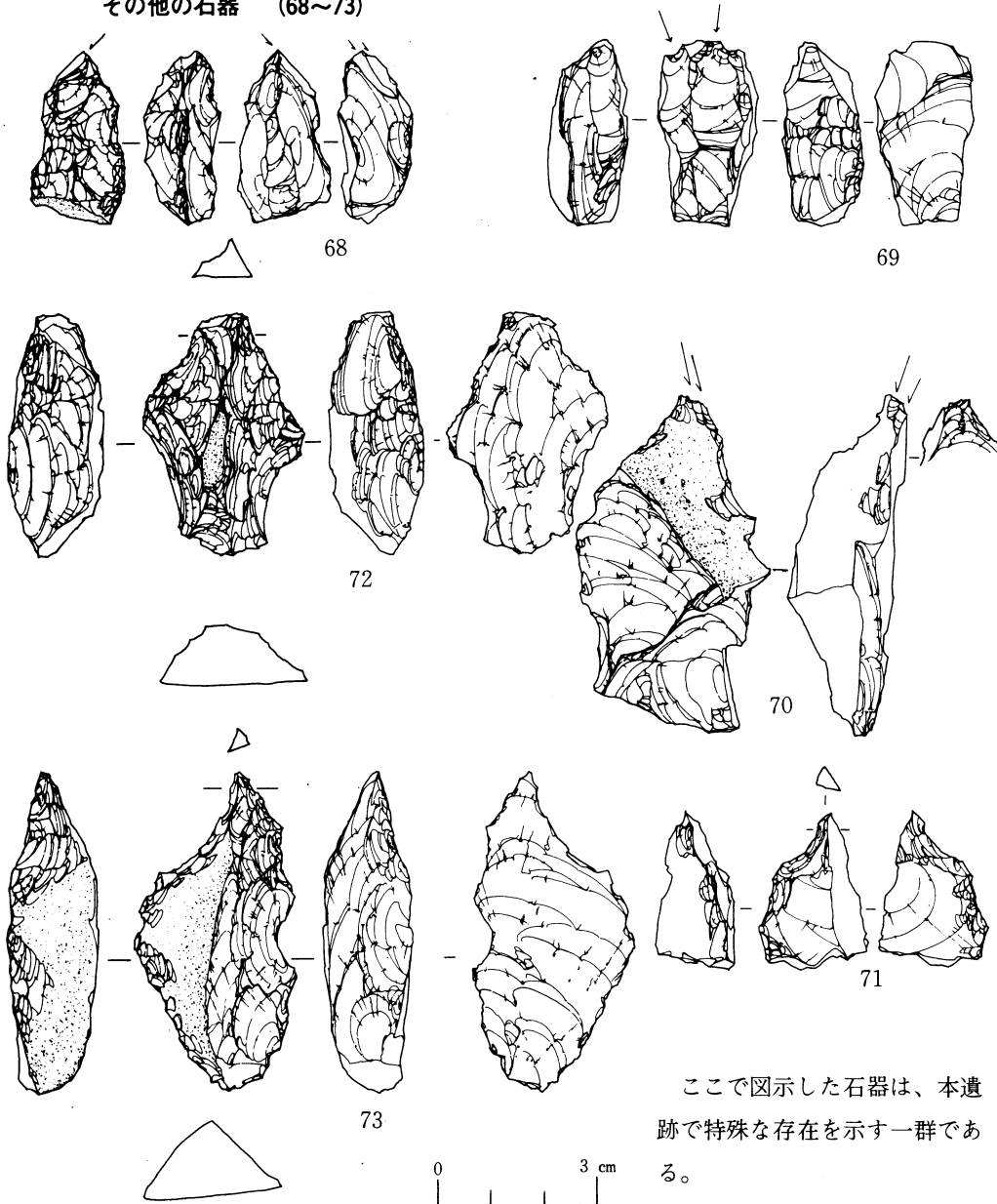


第28図 黒曜石(14) 使用痕のある剥片



第29図 黒曜石(15) 使用痕のある剥片

その他の石器 (68~73)

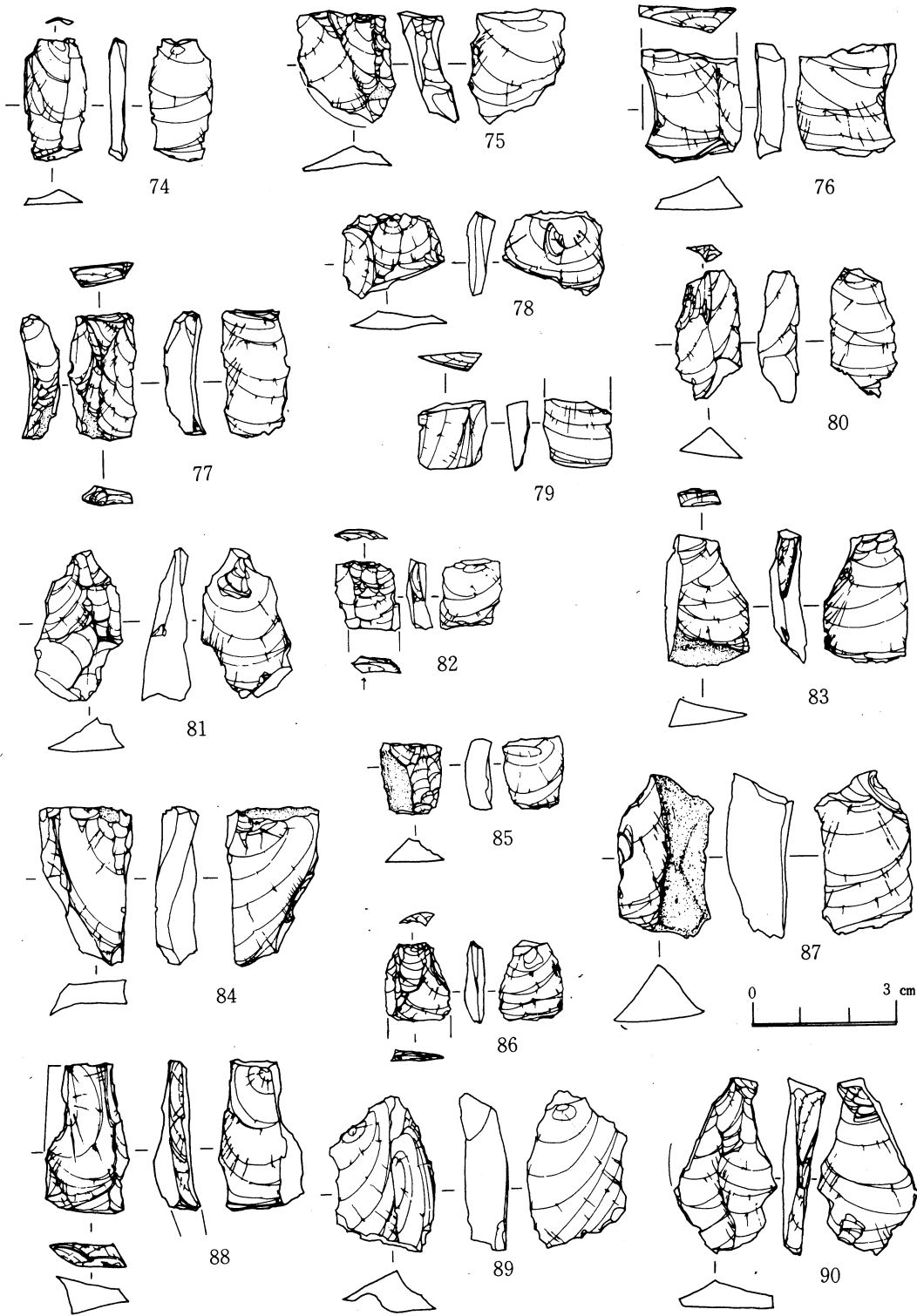


第30図 黒曜石(16) 彫刻刀・ドリル状石器

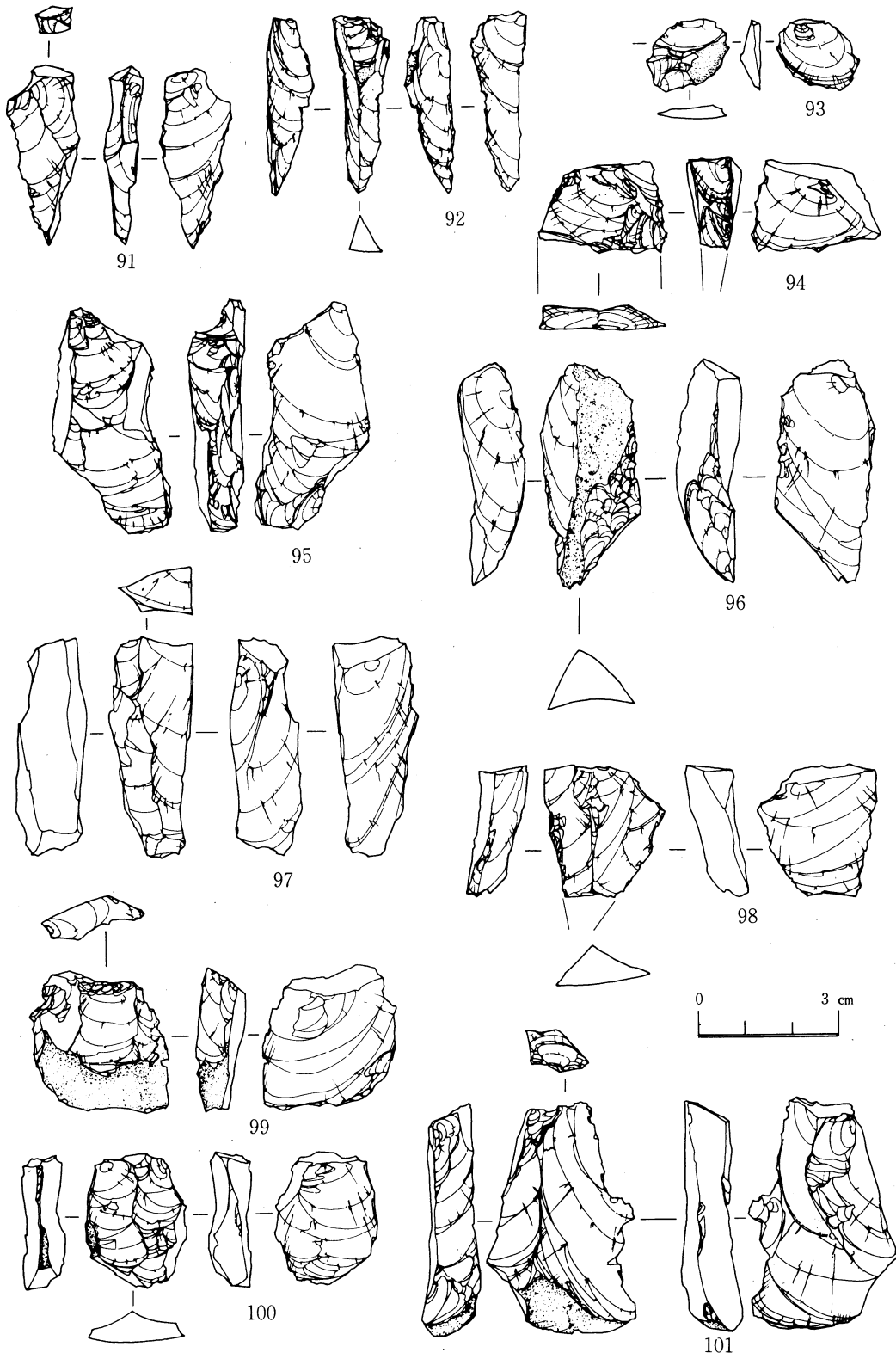
ここで図示した石器は、本遺跡で特殊な存在を示す一群である。

65・69・70は彫刻刀的機能をもった石器として判断した。

71は、ドリルと考えている。72・73は、同一の機能をもつものと考えられ、72は先端部（機能部分）が欠落したものと考えている。73は、長さ 5.9cm、厚さ 1.4cmの石器で、礫面を残す荒割りの縦長剥片を素材とし、裏面→正面にかけての二次加工で側面調整を行ない、先端までの側縁を取り去っている。特に先端部は鋭利で断面は台形状を呈し、主要剥離面は平坦面をそのまま使用している。



第31图 黑曜石(17) 剥片



第32图 黑曜石(18) 剥片

剥片類 (74～104)

出土している多量の剥片は、本遺跡の石器群の多様性を示し、それと同時に本遺跡の特徴でもある。それら多くの剥片の中で特に、企画的・かつ連続的に剥出されているものを列挙している。

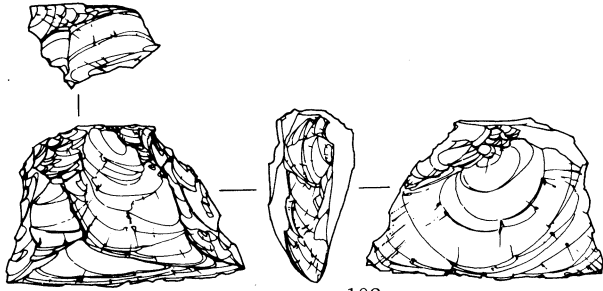
生産されている剥片は、縦長剥片（広義の解釈による）が主体で、横長剥片はきわめて少ない。

74・77は、形状の最も整った縦長剥片で、いずれも台形状の断面を呈している。剥片の長さは、74で2.5cm、77で2.7cmで剥片の横幅に対する長さの比率は、74で1:1.78、77では1:2.07となっている。この2点の剥片は、連続的に剥離されたものであり、特に77は、打面調整を行なった調整石核より剥出され、下端部には裏面からの明瞭な調整剥離が施されている。

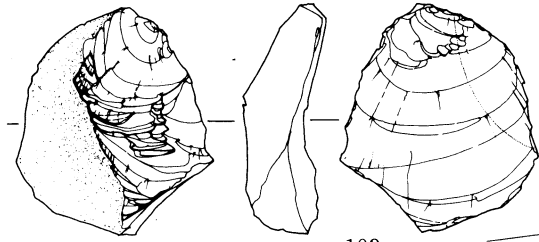
87は、礫面を残してはいるが、打瘤部は取り除かれている。92は、断面三角形の稜の高い剥片で、側縁右側に刃こぼれ状剥離が見られる。98は、側縁左側下部に、100は上部にそれぞれ刃こぼれ状剥離が残されている。102は、剥片の横幅が剥片の長さよりも大きい厚手の剥片である。103、裏面の右側に、破線で図示した部分より側縁にかけて、タール状の附着物が認められるが正体は不明である。

これらの剥片類には、多くの刃こぼれ状剥離がみられ、観察できるものに(75・76・80・82・83・84・87・91・92・94・95・96・98・99・100・101・103・104)がある。これらを考えると労働(剥片を剥離する行為)に対してのむだのない生産活動(利器としての機能を与え使用すること)の行なわれたことを示しているといえる。

次に、折断(分割)剥片の存在がある。県内の先土器時代の遺跡では、これまで出水市市場遺跡Ⅳ・Ⅵ層、指宿市小牧3A遺跡等のナイフ形石器(特に台形石器の共伴する)文化に伴う遺跡として知られていた。最近では、始良郡溝辺町石峰遺跡の細石刃文化の中で数点存在していたが、今回の資料の中にも同じように含まれており考慮しなければならない遺物と考えられる。折断剥片と認められるものに(76・78・79・82・85・86・88・94・98・104)があり、折断面より、何らかの方法で剥片に①打撃による力が加わり、その結果折断したものに(76・82・86・88・94・104—a)、②打撃以外の圧力・圧迫(人為的ないしは自然的)によったと思われるものに(79・85・98・104—b)がある。88は、折断面に裏面からの調整剥離もみられる。これらの折断剥片が、意図的に生産されているとは本遺跡の資料でも決しがたいが、いづれにしろ注意していく必要がある。



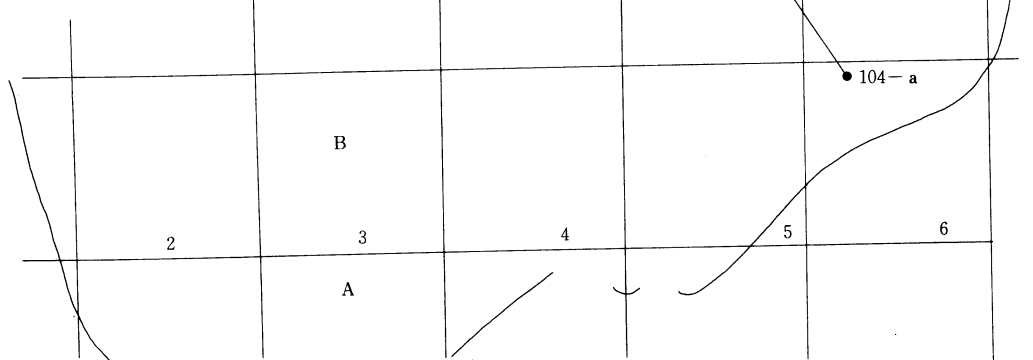
102



103



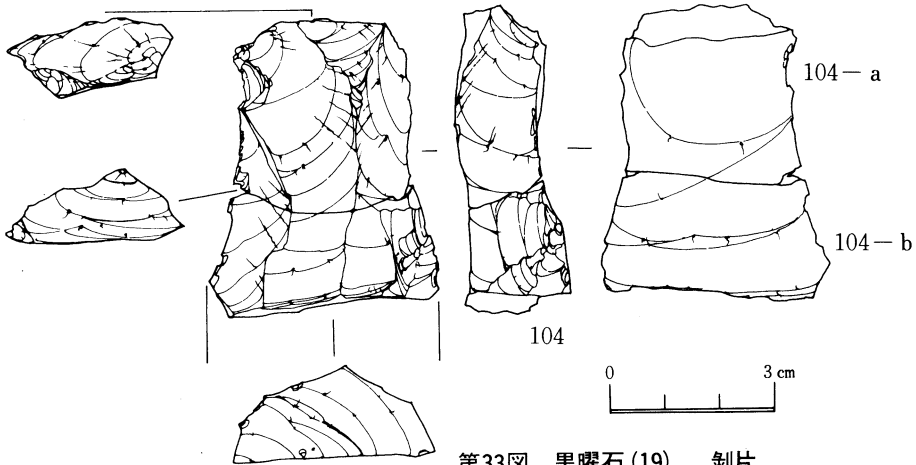
C



104

縦長剥片の接合資料で、長さ 5.6cm、最大幅 4.2cm、2 点の接合であるが、さらに、下端部が存在したと思われる。折断面は、上面と下面とでは折断面が逆転し、上面は正面からの打撃によっている。

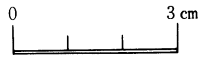
グリッド図は、資料の出土位置と分布の距離を示したものである。



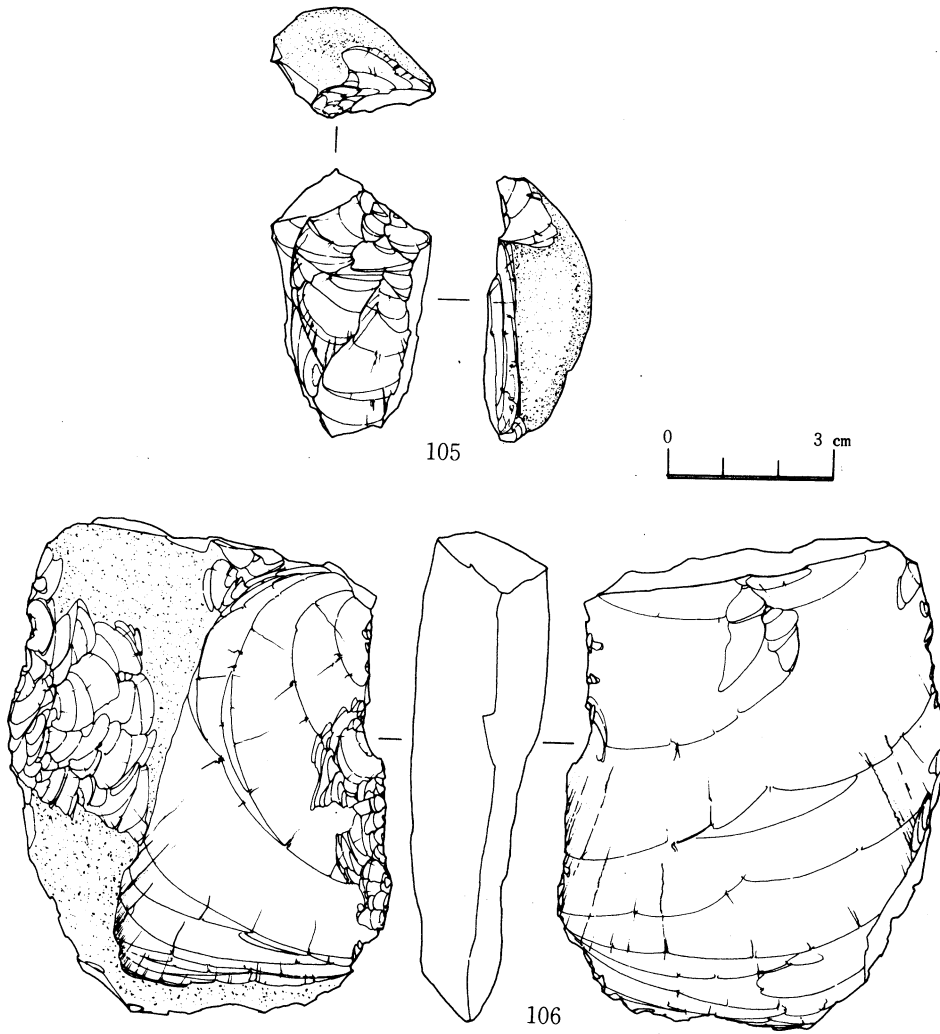
104

104-a

104-b



第33図 黒曜石(19) 剥片

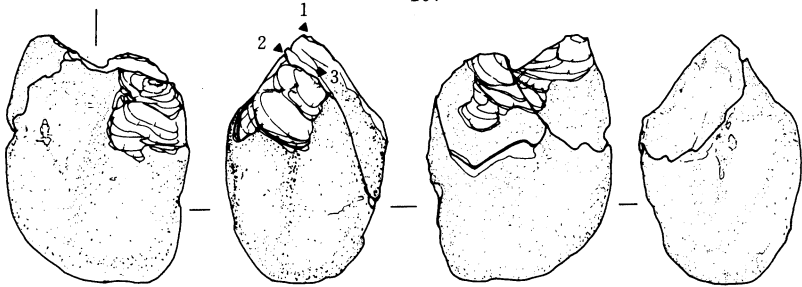
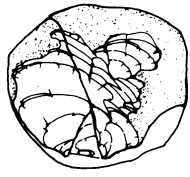


第34図 黒曜石 (20) 剝片

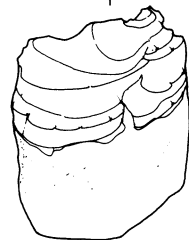
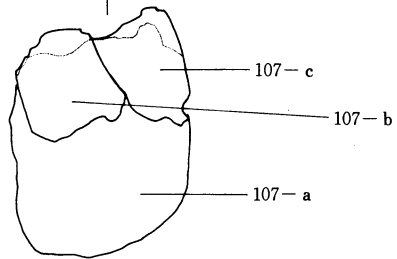
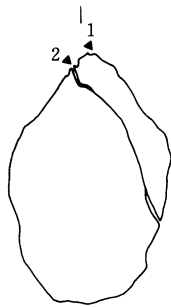
105、高さ 4.8cmの調整石核で、107と数少ない石核の1つである。礫面を残すことより、小円礫を素材とし、円礫の上端部の一部に、礫の長軸に対して横ないしは斜めに加撃して打面を作り出している。

106、長さ8.7cm、幅6.5cm程の大形の剝片で、両側に細かな剝離痕が認められ、削器的な使用も考えられる。

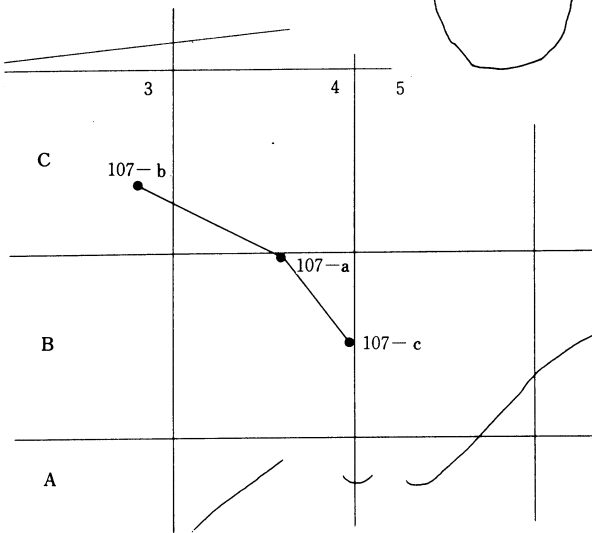
剥片と石核の接合資料



107



第35図 剥片と石核の接合資料



剥片と石核の接合資料であり、左図は、資料の出土位置と分布の距離を示したグリッド配置図である。

この石核からは、三回の剥片剥離が行なわれたと思われ、示した剥片は二度目の剥離により取り出されている。剥片は二つに分割しているが、剥出後に分割している。

細石刃 (108~238)

原位置のおさえられた黒曜石製の細石刃は、195点であるが、他に水洗作業によって得られたものも多い。

図番	個所	長さ	幅	厚さ	使用	稜	備考	138	中間	1.15	0.95	0.2		1
108	完形	0.85	0.35	0.15		1		139	〃	1.0	0.5	0.15		1
109	〃	0.8	0.4	0.15		2		140	〃	0.9	0.8	0.2		1
110	〃	1.2	0.45	0.1		2		141	〃	0.85	0.35	0.1		1
111	〃	0.8	0.4	0.15		1		142	〃	1.0	0.7	0.15	○	1
112	〃	1.15	0.7	0.1		2		143	〃	0.8	0.6	0.25		1
113	〃	1.2	0.7	0.2		1		144	〃	0.4	0.9	0.3	○	1
114	〃	1.8	0.65	0.25		1		145	〃	0.75	0.45	0.2		1
115	〃	1.75	0.65	0.3		2		146	〃	0.75	0.5	0.15	○	1
116	〃	1.65	0.7	0.3		1		147	〃	1.1	0.7	0.35		1
117	中間	2.1	0.8	0.4	○	1		148	〃	1.05	0.4	0.2		2
118	〃	1.8	0.7	0.2		2		149	〃	0.6	0.45	0.35		2
119	〃	1.5	0.7	0.4	○	1		150	〃	0.8	0.5	0.2		1
120	〃	1.5	1.05	0.3		1		151	〃	1.05	0.8	0.2		2
121	〃	1.6	0.9	0.2		1		152	〃	1.0	0.7	0.25		1
122	〃	1.25	0.7	0.3		1		153	〃	0.9	0.6	0.15	○	1
123	〃	1.4	0.9	0.25		1		154	〃	0.75	0.4	0.2		1
124	〃	1.4	1.0	0.2		2		155	〃	0.8	0.4	0.1	○	1
125	〃	1.3	0.9	0.35	○	1		156	〃	1.0	0.55	0.2		1
126	〃	1.3	0.8	0.2		1		157	〃	0.75	0.75	0.3		1
127	〃	1.45	0.9	0.3		1		158	〃	0.85	0.5	0.2	○	1
128	〃	1.1	0.7	0.3		1		159	〃	1.0	0.55	0.2		2
129	〃	1.1	0.5	0.2		1		160	〃	0.65	0.85	0.25		1
130	〃	1.0	1.2	0.5		1		161	〃	1.0	0.5	0.2		1
131	〃	0.9	0.9	0.2		?		162	〃	1.2	0.55	0.15		2
132	〃	0.95	0.9	0.45		1		163	〃	0.8	0.7	0.15		2
133	〃	0.95	0.5	0.2		?		164	〃	1.3	0.7	0.2		2
134	〃	1.25	0.4	0.2		1		165	〃	1.1	0.5	0.2		1
135	〃	0.7	0.8	0.2		2		166	〃	1.15	0.6	0.2		2
136	〃	0.9	0.8	0.1		1		167	〃	1.2	0.6	0.2		2
137	〃	0.7	0.35	0.2		1		168	〃	0.95	0.5	0.15		1

第1表 黒曜石・細石刃一覧表(1)

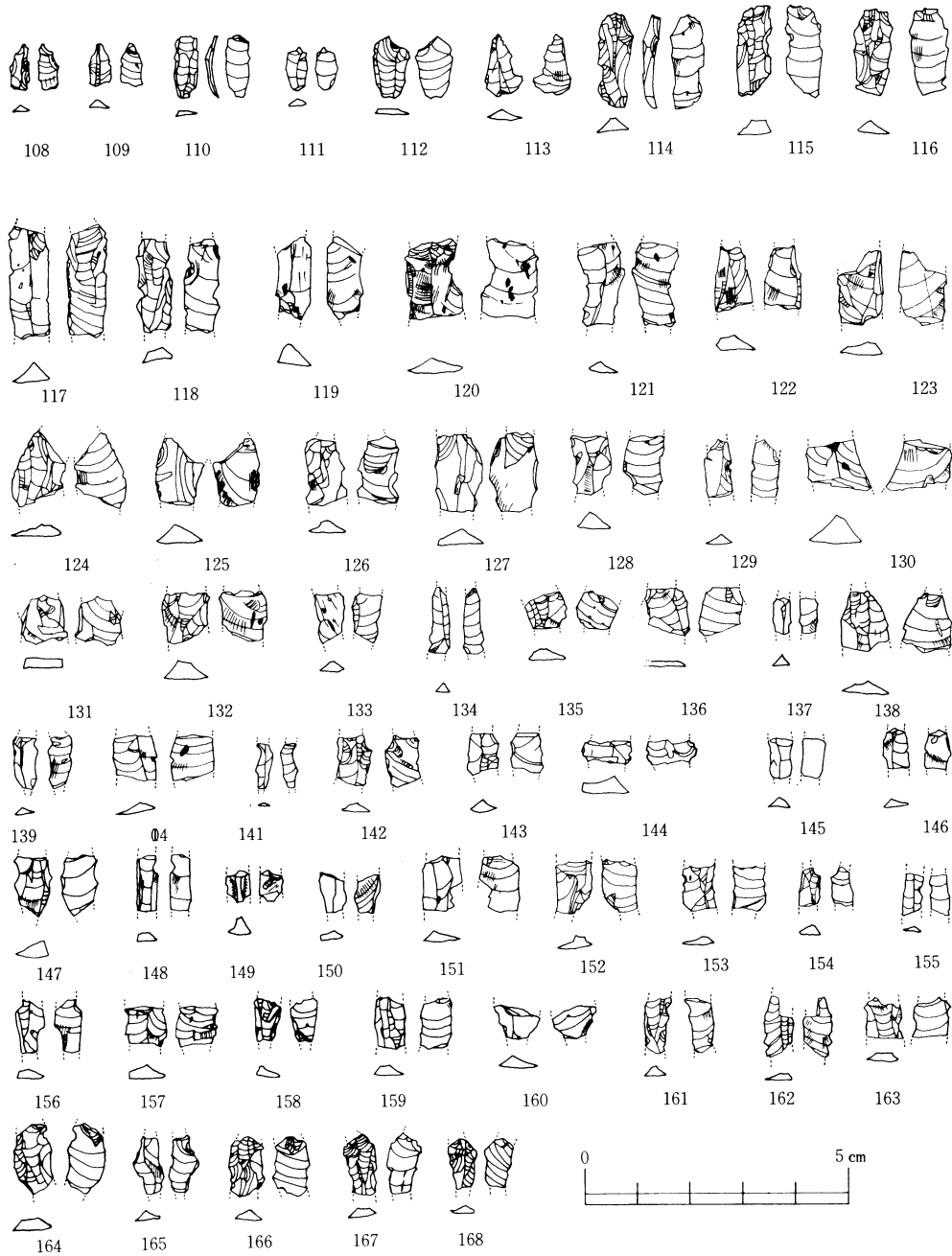
169	頭部	0.6	0.6	0.25		2		203	頭部折断	1.4	0.6	0.2		1	
170	〃	0.6	0.65	0.3		1		204	〃	1.45	0.5	0.2		1	
171	〃	0.55	0.35	0.1	○	1		205	〃	1.3	0.55	0.25		1	
172	〃	0.55	0.7	0.1		1		206	〃	1.0	0.65	0.2		1	
173	〃	0.7	0.35	0.15		1		207	〃	1.05	0.7	0.15	○	1	
174	〃	0.8	0.5	0.15		2		208	〃	1.1	0.45	0.2		2	
175	〃	0.7	0.65	0.2		1		209	〃	1.5	0.6	0.3		1	
176	〃	1.0	0.8	0.35		1		210	〃	1.2	0.7	0.35		1	
177	〃	1.0	0.6	0.15		2		211	〃	1.2	0.7	0.2		1	
178	〃	1.3	0.6	0.2		1	自然面あり	212	〃	1.4	0.7	0.2	○	1	
179	〃	0.7	0.8	0.2		?		213	〃	0.75	0.3	0.1		1	
180	〃	1.05	1.0	0.2		2		214	末端	0.7	0.35	0.15		1	
181	〃	1.05	0.65	0.35		1		215	〃	0.9	0.45	0.15		1	
182	〃	0.95	0.9	0.3		1		216	〃	0.55	0.35	0.1		1	光沢のない石材
183	〃	0.85	0.6	0.25		1		217	〃	0.45	0.6	0.05		2	
184	〃	1.3	0.85	0.3		1	自然面あり	218	〃	1.1	0.5	0.2	○	1	
185	末端折断	1.1	0.45	0.1		1		219	〃	0.75	1.0	0.25		1	
186	〃	0.8	0.5	0.2		1		220	〃	0.7	0.75	0.2		1	
187	〃	1.0	0.5	0.2		1		221	〃	0.9	0.3	0.1		2	
188	〃	1.3	0.5	0.2	○	1		222	〃	0.95	0.6	0.2		3	
189	〃	1.4	0.4	0.15		1		223	〃	1.1	0.4	0.05		1	
190	〃	1.35	0.6	0.4		1		224	〃	1.5	0.6	0.3		1	自然面あり
191	頭部折断	1.25	0.65	0.2		1		225	〃	0.05	0.4	0.1		1	
192	〃	0.6	0.6	0.15		2		226	〃	0.95	0.4	0.1		1	光沢のない石材
193	〃	1.15	0.8	0.2		?		227	〃	0.5	0.9	0.2		1	
194	〃	1.1	0.45	0.2		1		228	〃	1.0	0.6	0.2		1	
195	〃	1.0	0.35	0.15	○	1		229	〃	1.25	0.5	0.35		1	
196	〃	0.8	0.6	0.1		1		230	〃	0.7	0.6	0.1		1	
197	〃	0.85	0.5	0.2		2		231	〃	1.4	0.9	0.25		1	
198	〃	0.85	0.5	0.15		1		232	〃	1.0	0.85	0.35		1	
199	〃	1.3	0.8	0.2	○	1		233	〃	0.85	0.65	0.35		1	
200	〃	1.2	0.4	0.3		1		234	〃	1.2	0.9	0.2		1	
201	〃	1.35	0.7	0.15	○	1		235	〃	1.0	0.65	0.25		1	
202	〃	1.25	0.7	0.2		1		236	〃	0.85	0.8	0.15	○	2	

第2表 黒曜石・細石刃一覧表(2)

237	末端	1.05	0.55	0.15		1			頭部	0.65	0.6	0.2		1
238	〃	1.2	0.4	0.15	○	1			〃	0.5	0.5	0.1		2
	以中間	0.6	0.6	0.15		2			〃	0.65	0.5	0.1		1
	下	0.7	0.5	0.2		2			〃	0.5	0.75	0.25		1
	、	0.6	0.4	0.1		2			〃	0.6	0.45	0.1		2
	実	0.8	0.45	0.1		2			〃	1.2	0.8	0.2		1
	測	0.5	0.5	0.2		1			〃	0.8	0.6	0.15		1
	図	0.4	0.6	0.15		2			〃	0.55	0.55	0.2		1
	な	0.5	0.8	0.3		1			〃	1.1	0.5	0.2		2
	し	0.5	0.5	0.25		1			〃	0.65	0.7	0.3		1
	〃	0.6	0.65	0.2		1			〃	0.7	0.5	0.2		2
	〃	0.4	0.4	0.1		2			〃	0.7	0.4	0.15		1
	末端折斷	0.75	0.45	0.15		1			〃	0.55	0.7	0.2		1
	〃	1.4	0.65	0.4		1			〃	1.0	0.8	0.2		?
	〃	0.7	0.65	0.15		1			〃	0.65	0.6	0.1		1
	〃	0.55	0.45	0.1		2			〃	0.7	0.55	0.2		1
	〃	0.7	0.65	0.15		1			〃	0.7	0.65	0.2		1
	〃	1.1	0.5	0.2		1			〃	0.45	0.5	0.1		2
	〃	0.8	0.5	0.2		1			〃	0.7	0.7	0.2		2
	〃	0.8	0.5	0.25		2			〃	1.1	0.7	0.2		1
	〃	0.6	0.5	0.15		1			〃	0.7	0.5	0.2		2
	〃	0.7	0.4	0.15		1	自然面あり		〃	0.75	0.7	0.15		2
	〃	0.6	0.7	0.15		1			〃	0.65	1.2	0.35		1
	〃	0.95	0.55	0.15		1			〃	0.5	0.6	0.1		2
	〃	0.6	0.8	0.15		2			〃	1.0	0.5	0.2		1
	〃	0.6	0.55	0.15		1			〃	0.75	0.45	0.2		1
	〃	0.7	0.3	0.1		2			〃	0.6	0.75	0.2		1
	頭部	0.6	0.5	0.15		1			〃	0.55	0.45	0.15		1
	〃	1.2	0.6	0.25		1			〃	0.5	0.4	0.15		1
	〃	0.9	0.75	0.25		1			末端	0.7	0.4	0.15		1
	〃	0.4	0.7	0.15		1			〃	0.6	0.2	0.15		1
	〃	0.9	0.9	0.2		2			〃	0.6	0.55	0.15		1
	〃	0.7	0.45	0.1		1			〃	0.65	0.45	0.1		1
	〃	0.3	0.3	0.15		2								

第3表 黒曜石・細石刃一覧表(3)

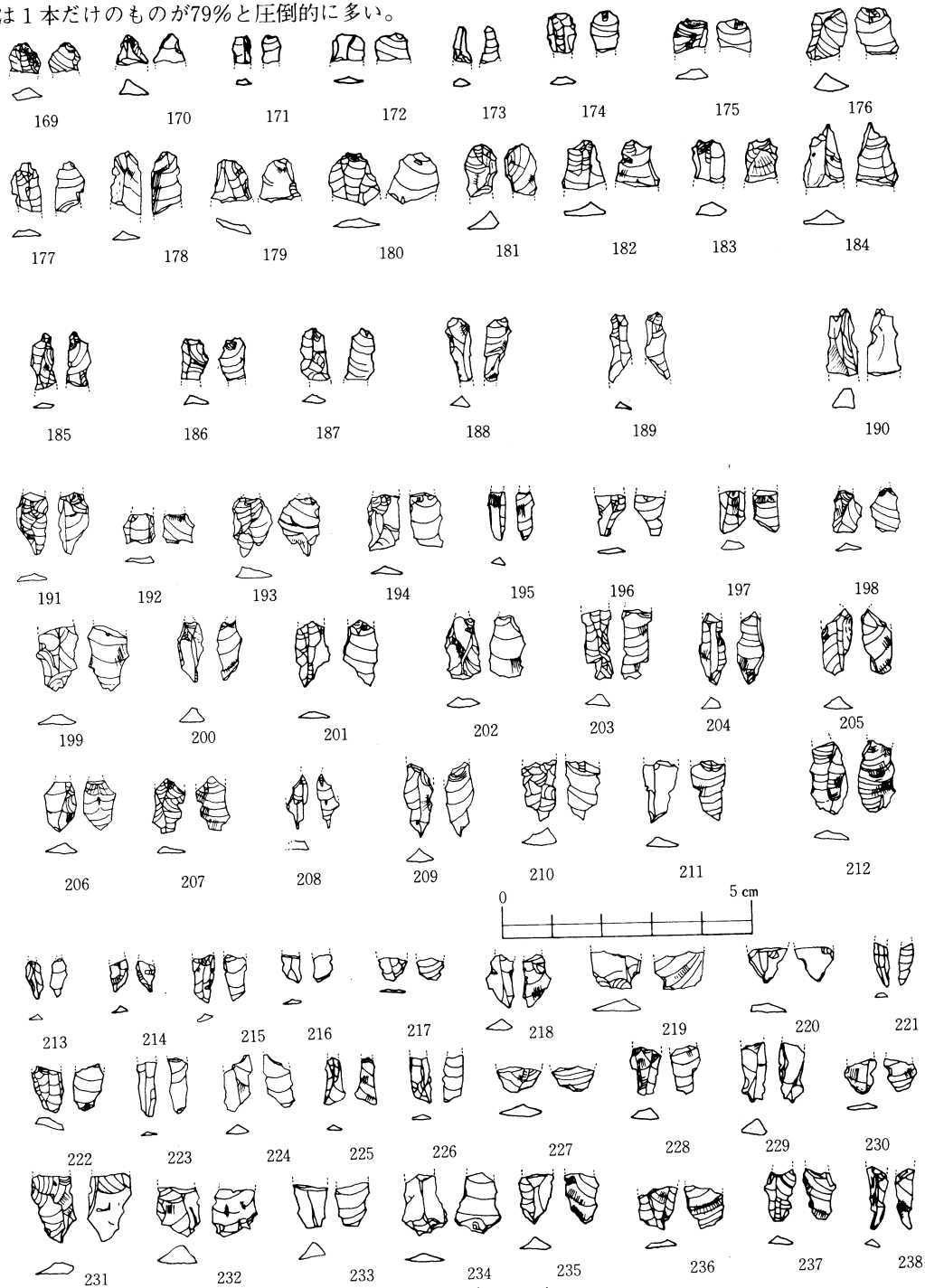
これには完形のもの、二分割によるもの、三分割によるものの3種類がある。完形のものは9点あり、これらの中には調整剥片も含まれている。長さは1cm前後の短いものと、1.5cmを越えるものがある。二分割によるものは末端折断が21点、頭部折断が23点ある。三分割による中間部は61点あり、その長さは0.4cmの短いものから、2.1cmの長いものまで各種みら



第36図 黒曜石 (21) (細石刃)

れる。頭部は52点、末端部は29点ある。

刃こぼれのあるものは19点と少なく、そのうち中間部・末端折断・頭部折断が15点ある。稜は1本だけのものが79%と圧倒的に多い。



第37図 黒曜石 (22) (細石刃)

第4表 黒曜石を用いた石器一覧表(1)

番号	遺物番号	区	面	レベル	遺物名		番号	遺物番号	区	面	レベル	遺物名	
1	9	B-3	1	155-045	スクレーパー		34	2657	A-3	4	154-950	削器	
2	14	B-3	1	155-050	スクレーパー	56	35	2723	B-3	4	154-980	スクレーパー	
3	111	B-4	1	154-880	削器		36	2795	B-3	4	154-905	スクレーパー	73
4	163	B-4	1	154-850	スクレーパー	71	37	2901	A-4	4	154-880	削器	
5	194	B-5	1	154-810	スクレーパー	53	38	2924	B-4	4	154-770	削器	
6	231	B-5	1	154-810	スクレーパー		39	3651	C-4	4	154-835	スクレーパー	
7	270	B-5	1	154-830	スクレーパー		40	3665	C-4	4	154-900	削器	
8	271	B-4	1	154-820	削器		41	3835	C-5	4	154-750	削器	371
9	274	B-4	1	154-800	スクレーパー		42	3907	C-5	4	154-780	削器	
10	442	A-5	1	154-790	削器		43	4023	C-6	4	154-630	スクレーパー	67
11	461	B-2	1	155-050	スクレーパー		44	4064	B-3	5	154-980	スクレーパー	
12	593	A-3	2	155-470	スクレーパー		45	4137	B-3	5	155-000	スクレーパー	61
13	791	B-4	2	155-290	スクレーパー		46	4352	A-3	5	154-915	スクレーパー	
14	857	B-5	2	155-290	削器		47	4391	A-3	5	154-845	スクレーパー	
15	978	B-5	2	154-735	スクレーパー		48	4401	B-3	5	154-890	削器	
16	1047	C-4	1	155-100	削器		49	4500	B-3	5	154-865	削器	
17	1171	C-6	1	154-760	スクレーパー	66	50	4630	B-3	5	154-840	スクレーパー	
18	1245	A-2	2	155-110	削器		51	4639	B-3	5	154-845	削器	
19	1331	A-2	2	155-115	スクレーパー	54	52	4758	A-3	5	154-910	スクレーパー	40
20	1349	B-3	3	154-930	削器		53	5034	A-5	5	154-720	スクレーパー	
21	1462	A-4	3	154-800	スクレーパー		54	5107	B-5	5	154-730	削器	
22	1626	B-6	3	154-780	スクレーパー	41	55	5205	B-5	5	155-735	削器	
23	1653	B-6	3	154-730	削器		56	5542	C-5	5	154-880	スクレーパー	
24	1733	A-2	3	155-140	削器		57	6093	B-3	6	154-810	スクレーパー	
25	1760	C-6	2	154-200	スクレーパー	58	58	6168	B-3	6	154-845	スクレーパー	
26	1981	D-4	2	154-895	スクレーパー		59	6523	C-4	6	154-890	削器	
27	1993	C-6	2	154-835	削器		60	6528	C-4	6	154-885	削器	
28	1994	D-6	2	154-780	スクレーパー		61	6553	C-5	6	154-900	削器	
29	2383	C-5	3	155-350	削器		62	7098	C-5	6	154-890	スクレーパー	96
30	2510	B-2	4	155-030	スクレーパー	47	63	7199	C-6	6	154-850	スクレーパー	28
31	2582	A-3	4	155-005	削器	64	64	7486	B-5	6	154-665	スクレーパー	94
32	2595	A-3	4	155-015	削器		65	7594	B-5	6	154-645	スクレーパー	
33	2633	A-3	4	154-915	スクレーパー	55	66	8080	A-2	1	155-080	削器	

番号	遺物番号	区	面	レベル	遺物名		番号	遺物番号	区	面	レベル	遺物名	
67	8119	B-4	1	154-910	削器		97	2983	B-4	4	154-770	削器	
68	8179	C-5	1	154-905	削器		98	6069	A-3	6	154-830	スクレーパー	
69	8184	C-5	1	154-870	削器		99	7191	C-5	6	154-880	削器	
70	8263	C-3	2	155-030	スクレーパー		100	8109	C-3	1	154-960	使用痕のある剥器	
71	8269	C-3	2	154-980	削器		101	1251	A-2	2	155-180	使用痕のある剥片	
72	8578	B-6	3	154-870	削器		102	3256	B-6	4	154-780	加工痕のある剥片	50
73	9069	B-2	4	155-045	削器		103	3816	C-5	4	154-875	使用痕のある剥片	
74	9073	C-2	4	155-040	スクレーパー	38	104	4004	C-6	4	154-690	使用痕のある剥片	
75	9353	B-6	4	154-765	削器	65	105	6569	C-5	6	154-895	使用痕のある剥片	
76	9360	C-6	4	154-780	スクレーパー	48-A	106	6908	B-5	6	154-620	使用痕のある剥片	
77	9645	A-2	5	155-030	削器		107	7162	C-5	6	154-830	使用痕のある剥片	
78	9790	B-3	5	154-905	スクレーパー		108	7172	D-5	6	154-785	使用痕のある剥片	
79	10079	B-5	5	154-755	スクレーパー	48-B	109	7183	C-5	6	154-870	使用痕のある剥片	
80	10201	A-2	4	154-970	削器		110	7215	C-6	6	154-810	使用痕のある剥片	
81	867	B-5	2	155-295	調器		111	7494	B-4	6	154-660	使用痕のある剥片	
82	1500	B-4	3	154-780	調器		112	7643	C-4	6	154-900	使用痕のある剥片	
83	1569	B-5	3	154-800	尖頭状石器		113	7834	B-4	6	154-725	使用痕のある剥片	
84	2456	A-2	4	155-180	調器?		114	7927	B-4	6	154-555	使用痕のある剥片	
85	2583	A-3	4	155-000	調器		115	8206	C-6	1	154-800	使用痕のある剥片	
86	2794	B-3	4	154-900	船底石器		116	8299	C-4	2	154-935	使用痕のある剥片	
87	3865	C-5	4	154-720	船底石器		117	9091	B-3	4	155-000	使用痕のある剥片	
88	6044	A-3	6	154-930	グレイパー		118	9247	C-5	4	154-868	使用痕のある剥片	
89	6682	B-2	6	154-770	尖頭状石器		119	9572	B-3	5	155-010	使用痕のある剥片	
90	6912	B-5	6	154-620	尖頭状石器		120	9623	A-2	5	155-045	使用痕のある剥片	
91	7491	B-4	6	154-650	尖頭状石器		121	9628	A-2	5	155-035	加工痕のある剥片	
92	2395	C-5	3	155-340	尖頭状石器		122	9865	B-4	5	154-800	使用痕のある剥片	
93	12	B-3	1	155-025	削器		123	9908	B-5	5	154-820	使用痕のある剥片	
94	118	B-3	1	154-990	掻器		124	10176	A-3	6	154-980	使用痕のある剥片	98
95	1231	B-1	2	155-150	スクレーパー	43	125	10499	B-5	7	154-730	使用痕のある剥片	
96	1254	A-2	2	155-170	削器								

第5表 黒曜石を用いた石器一覧表(2)

番号	遺物番号	区	面	レベル	遺物名		番号	遺物番号	区	面	レベル	遺物名	
1	22	A-3	1	155-020	黒曜石細石刃核	20	34	6742	B-3	6	154-780	黒曜石細石刃核	10
2	35	A-3	1	155-010	〃		35	7364	B-4	6	154-770	〃	
3	61	A-4	1	154-860	〃	16	36	7420	B-3	6	154-790	〃	1
4	119	B-3	1	155-000	〃	19	37	7736	C-5	6	154-880	〃	
5	466	B-2	1	155-020	〃	2	38	8061	A-2	1	155-105	〃	21
6	467	B-2	1	155-000	〃		39	8095	C-2	1	155-075	〃	15
7	548	B-2	1	155-000	〃	36	40	8199	C-6	1		〃	32
8	587	A-3	2	155-540	〃	8	41	8257	B-2	2	155-090	〃	7
9	860	B-5	2	155-280	〃		42	8285	C-4	2	154-910	〃	
10	861	B-5	2	155-280	〃		43	8920	A-2	4	155-686	〃	18
11	870	B-5	2	155-275	〃		44	9398	B-6	4	154-735	〃	
12	1186	C-6	1	154-670	〃	11	45	10143	C-6	5	154-735	〃	
13	1295	A-2	2	155-165	〃		46	3	B-3	1	155-110	黒曜石細石刃	
14	1299	A-2	2	155-140	〃		47	172	B-4	1	154-850	〃	
15	1951	B-2	1	155-050	〃	4	48	176	B-4	1	154-845	〃	
16	2607	A-3	4	154-985	〃	23	49	295	B-5	1	154-825	〃	
17	2611	A-3	4	154-990	〃		50	425	B-6	1	154-745	〃	
18	2619	A-3	4	154-950	〃	17	51	605	A-3	2	155-435	〃	
19	2814	B-3	4	154-890	〃	14	52	703	B-3	2	155-395	〃	
20	2946	B-4	4	154-820	〃		53	792	B-4	2	155-310	〃	
21	3655	C-4	4	154-890	〃		54	799	B-4	2	155-305	〃	
22	4308	A-3	5	154-990	〃	25	55	806	B-5	2	155-310	〃	5
23	4382	A-3	5	154-860	〃		56	816	B-5	2	155-310	〃	
24	4431	B-3	5	154-860	〃	13	57	828	B-5	2	155-305	〃	
25	4577	B-3	5	154-845	〃		58	834	B-5	2	155-320	〃	
26	5228	B-5	5	154-725	〃		59	862	B-5	2	155-295	〃	
27	5732	A-3	6	154-975	〃	22	60	875	B-5	2	155-270	〃	
28	5757	B-2	6	154-915	〃	3	61	879	B-5	2	155-285	〃	
29	5781	B-2	6	154-930	〃	24	62	880	B-5	2	155-295	〃	
30	5785	B-2	6	154-940	〃		63	894	B-5	2	155-295	〃	
31	6241	B-4	6	154-810	〃	6	64	905	B-5	2	155-290	〃	
32	6516	D-3	6	154-860	〃		65	974	B-5	2	154-650	〃	
33	6733	B-3	6	154-820	〃		66	1046	C-4	1	155-100	〃	

番号	遺物番号	区	面	レベル	遺物名	番号	遺物番号	区	面	レベル	遺物名
67	1230	B-1	2	155-120	黒曜石細石刃	101	2221	C-5	3	154-840	黒曜石細石刃
68	1325	A-2	2	155-135	〃	102	2231	C-5	3	154-810	〃
69	1372	A-3	3	154-970	〃	103	2297	C-6	3	155-195	〃
70	1384	A-3	3	154-910	〃	104	2352	C-6	3	155-032	〃
71	1420	B-3	3	154-895	〃	105	2450	A-2	4	155-150	〃
72	1435	B-3	3	154-895	〃	106	2549	B-3	4	155-030	〃
73	1450	B-4	3	154-840	〃	107	2628	A-3	4	154-930	〃
74	1459	A-4	3	154-820	〃	108	2672	A-3	4	154-920	〃
75	1601	B-5	3	154-840	〃	109	2831	B-4	4	154-850	〃
76	1633	B-6	3	154-760	〃	110	2967	B-4	4	154-820	〃
77	1664	B-6	3	154-705	〃	111	3002	B-4	4	154-750	〃
78	1669	B-2	3	155-000	〃	112	3018	B-4	4	154-770	〃
79	1670	B-2	3	155-010	〃	113	3071	A-4	4	154-640	〃
80	1682	B-2	3	155-090	〃	114	3072	A-4	4	154-630	〃
81	1686	B-1	3	155-130	〃	115	3093	B-5	4	154-745	〃
82	1687	B-1	3	155-115	〃	116	3107	B-5	4	154-750	〃
83	1726	A-2	3	155-190	〃	117	3160	B-5	4	154-770	〃
84	1751	A-2	3	155-130	〃	118	3372	B-2	5	155-020	〃
85	1786	C-6	2	154-220	〃	119	3374	B-2	5	155-030	〃
86	1820	C-6	2	154-300	〃	120	3375	B-2	5	155-040	〃
87	1822	C-6	2	154-310	〃	121	3383	B-2	5	155-050	〃
88	1847	C-6	2	154-275	〃	122	3400	B-2	5	155-040	〃
89	1858	C-6	2	154-365	〃	123	3404	B-2	5	155-065	〃
90	1868	C-5	2	154-305	〃	124	3406	B-2	5	155-070	〃
91	1873	C-5	2	154-335	〃	125	3410	B-2	5	155-035	〃
92	1928	C-4	2	154-410	〃	126	3427	B-2	5	155-180	〃
93	2018	C-5	2	154-855	〃	127	3546	A-2	5	155-175	〃
94	2046	C-5	2	154-810	〃	128	3641	C-4	4	154-860	〃
95	2054	C-5	2	154-895	〃	129	3688	C-4	4	154-875	〃
96	2058	C-5	2	154-860	〃	130	3748	C-5	4	154-785	〃
97	2064	C-5	2	154-860	〃	131	3763	C-5	4	154-850	〃
98	2144	D-4	3	154-880	〃	132	3786	C-5	4	154-840	〃
99	2204	C-5	3	154-855	〃	133	3798	C-5	4	154-870	〃
100	2205	C-5	3	154-860	〃	134	3803	C-5	4	154-860	〃

番号	遺物番号	区	面	レベル	遺物名	番号	遺物番号	区	面	レベル	遺物名
135	3886	C-5	4	154-750	黒曜石細石刃	169	5673	C-6	5	154-715	黒曜石細石刃
136	4167	B-3	5	154-980	〃	170	5741	A-3	6	154-945	〃
137	4182	B-3	5	154-980	〃	171	5792	B-2	6	154-950	〃
138	4183	B-3	5	154-990	〃	172	5805	B-2	6	154-960	〃
139	4269	A-3	5	154-940	〃	173	5806	B-2	6	154-960	〃
140	4281	A-3	5	154-930	〃	174	5808	B-2	6	154-950	〃
141	4353	A-3	5	154-940	〃	175	5809	B-1	6	154-940	〃
142	4370	A-3	5	154-960	〃	176	5810	B-1	6	154-945	〃
143	4584	B-4	5	154-830	〃	177	5811	B-1	6	154-940	〃
144	4649	B-4	5	154-820	〃	178	5812	B-1	6	154-905	〃
145	4705	B-4	5	154-830	〃	179	5814	B-1	6	154-940	〃
146	4736	A-4	5	154-820	〃	180	5817	B-1	6	154-975	〃
147	4783	A-4	5	154-760	〃	181	5818	B-1	6	154-975	〃
148	4920	B-5	5	154-740	〃	182	5819	B-1	6	154-980	〃
149	4928	B-5	5	154-730	〃	183	5822	B-1	6	154-970	〃
150	4932	B-5	5	154-730	〃	184	5823	B-1	6	155-000	〃
151	4933	B-5	5	154-730	〃	185	5835	B-2	6	154-910	〃
152	4948	B-4	5	154-725	〃	186	5849	B-2	6	154-935	〃
153	4951	B-4	5	154-725	〃	187	5906	A-2	6	155-140	〃
154	4979	B-5	5	154-750	〃	188	5907	A-1	6	155-140	〃
155	5035	A-5	5	154-725	〃	189	5920	A-2	6	155-065	〃
156	5072	B-5	5	154-750	〃	190	5957	A-2	6	155-045	〃
157	5096	B-5	5	154-760	〃	191	6000	B-3	6	154-940	〃
158	5101	B-5	5	154-756	〃	192	6054	A-3	6	154-895	〃
159	5143	B-5	5	154-755	〃	193	6080	B-3	6	154-835	〃
160	5145	B-5	5	154-750	〃	194	6121	B-3	6	154-870	〃
161	5163	B-5	5	154-755	〃	195	6141	B-3	6	154-850	〃
162	5310	B-5	5	154-670	〃	196	6270	B-4	6	154-770	〃
163	5373	B-5	5	154-680	〃	197	6463	B-5	6	154-645	〃
164	5433	B-6	5	154-760	〃	198	6477	B-6	6	154-690	〃
165	5449	B-6	5	154-650	〃	199	6519	C-4	6	154-860	〃
166	5471	B-6	5	154-760	〃	200	6529	C-4	6	154-885	〃
167	5613	C-5	5	154-760	〃	201	6542	C-4	6	154-890	〃
168	5668	C-6	5	154-680	〃	202	6619	C-5	6	154-890	〃

番号	遺物番号	区	面	レベル	遺物名	番号	遺物番号	区	面	レベル	遺物名
203	6638	C-6	6	154-780	黒曜石細石刃	237	7832	B-4	6	154-750	黒曜石細石刃
204	6680	A-4	6	154-775	〃	238	7850	B-3	6	154-780	〃
205	6810	A-4	6	154-720	〃	239	7851	B-3	6	154-810	〃
206	6836	B-4	6	154-680	〃	240	7874	A-3	6	154-830	〃
207	6864	B-4	6	154-680	〃	241	7882	A-3	6	154-835	〃
208	6875	B-5	6	154-655	〃	242	7906	A-4	6	154-770	〃
209	6882	B-5	6	154-665	〃	243	7917	B-4	6	154-675	〃
210	6891	B-5	6	154-635	〃	244	7960	A-5	6	154-600	〃
211	6894	B-5	6	154-625	〃	245	7974	C-5	6	154-860	〃
212	6911	B-5	6	154-620	〃	246	8048	D-5	6	154-780	〃
213	6979	C-4	6	154-860	〃	247	8079	A-3	1	155-060	〃
214	6992	C-4	6	154-900	〃	248	8084	B-3	1	155-100	〃
215	7053	C-5	6	154-920	〃	249	8210	B-6	1	ナシ	〃
216	7063	C-5	6	154-910	〃	250	8217	A-2	2	155-095	〃
217	7165	C-5	6	154-800	〃	251	8253	B-2	2	155-040	〃
218	7207	C-6	6	154-820	〃	252	8290	C-4	2	154-945	〃
219	7208	C-6	6	154-850	〃	253	8416	B-5	2	154-790	〃
220	7251	B-3	6	154-870	〃	254	8453	C-6	2	154-840	〃
221	7290	A-3	6	154-800	〃	255	8505	B-2	3	155-075	〃
222	7389	B-4	6	154-750	〃	256	8625	B-5	3	154-910	〃
223	7391	B-4	6	154-730	〃	257	8681	B-5	3	154-885	〃
224	7432	B-4	6	154-700	〃	258	8693	B-5	3	154-875	〃
225	7451	B-4	6	154-700	〃	259	8712	B-5	3	154-880	〃
226	7522	B-5	6	154-650	〃	260	8757	B-4	3	154-855	〃
227	7535	B-5	6	154-645	〃	261	8768	C-4	3	154-820	〃
228	7561	B-4	6	154-635	〃	262	8786	B-4	3	154-805	〃
229	7626	D-4	6	154-870	〃	263	8792	B-4	3	154-765	〃
230	7694	C-5	6	154-895	〃	264	8948	A-2	4	155-065	〃
231	7730	C-5	6	154-890	〃	265	9006	B-2	4	154-006	〃
232	7759	C-5	6	154-835	〃	266	9008	B-3	4	154-035	〃
233	7766	D-5	6	154-765	〃	267	9042	B-2	4	155-050	〃
234	7772	D-5	6	154-785	〃	268	9048	C-1	4	154-975	〃
235	7775	C-5	6	154-815	〃	269	9060	C-2	4	154-965	〃
236	7812	B-5	6	154-660	〃	270	9075	C-2	4	155-040	〃

番号	遺物番号	区	面	レベル	遺物名	番号	遺物番号	区	面	レベル	遺物名
271	9153	B-4	4	154 - 850	黒曜石細石刃	295	9930	C-5	5	154 - 840	黒曜石細石刃
272	9175	C-4	4	154 - 900	〃	296	9954	B-5	5	154 - 835	〃
273	9178	B-4	4	154 - 850	〃	297	10087	B-5	5	154 - 780	〃
274	9181	B-4	4	154 - 835	〃	298	10090	B-5	5	154 - 760	〃
275	9232	C-5	4	154 - 880	〃	299	10091	B-5	5	154 - 760	〃
276	9448	C-2	5	154 - 995	〃	300	10104	C-6	5	154 - 750	〃
277	9463	C-2	5	155 - 010	〃	301	10106	C-6	5	154 - 755	〃
278	9531	B-3	5	155 - 055	〃	302	10110	C-6	5	154 - 765	〃
279	9577	A-2	5	155 - 030	〃	303	10128	C-6	5	154 - 755	〃
280	9578	B-2	5	155 - 050	〃	304	10138	C-6	5	154 - 750	〃
281	9580	B-2	5	155 - 055	〃	305	10233	B-2	6	154 - 965	〃
282	9585	A-3	5	155 - 020	〃	306	10283	B-4	6	154 - 805	〃
283	9587	A-3	5	155 - 015	〃	307	10332	B-5	6	154 - 770	〃
284	9588	A-3	5	155 - 020	〃	308	10336	B-5	6	154 - 760	〃
285	9592	A-3	5	155 - 015	〃	309	10343	C-5	6	154 - 785	〃
286	9593	A-3	5	155 - 010	〃	310	10349	B-5	6	154 - 765	〃
287	9606	A-2	5	155 - 035	〃	311	10374	B-5	6	154 - 735	〃
288	9616	A-2	5	155 - 025	〃	312	10399	C-5	6	154 - 750	〃
289	9649	A-3	5	155 - 045	〃	313	10422	B-5	6	154 - 725	〃
290	9687	C-3	5	154 - 835	〃	314	10426	B-6	6	154 - 740	〃
291	9730	C-4	5	154 - 850	〃	315	10491	B-4	7	154 - 725	〃
292	9759	C-4	5	154 - 855	〃	316	10503	C-5	7	154 - 730	〃
293	9863	B-4	5	154 - 795	〃	317	3224	B-5	4	154 - 815	〃
294	9902	B-4	5	154 - 820	〃						

② 凝灰岩質頁岩・頁岩・砂岩をもちいた石器 (第37～42図)

(ア) 頁岩・砂岩をもちいた細石刃核

本細石刃核は三つの石材を用いている。凝灰岩質頁岩ならびに同質シルトと、砂岩と頁岩に分けられる。

凝灰岩質頁岩ならびにシルト使用は 239～ 279である。これは石材が扁平な礫でこれを分割し、分割面を打面にして細石刃を剥離するものである。その中で下縁を調整するものとしなものがある。この調整は全体的に行なうものと半分のいし部分的に行うものがある。

239～ 247、249～ 264は下縁調整石核である。241・243・247・252・256・257・258～ 260は下縁調整は剥離部分ないし半分位まで行った。細石刃核である。この下縁調整は分割であっても自然面であっても行っている。248・265・268～ 273は下縁に調整がない非調整石核である。非調整石核でも下縁が自然面のものと分割面のものがある。なお 251・261・262・264・276・277・278・279は両面にわたり細石刃を剥離している。

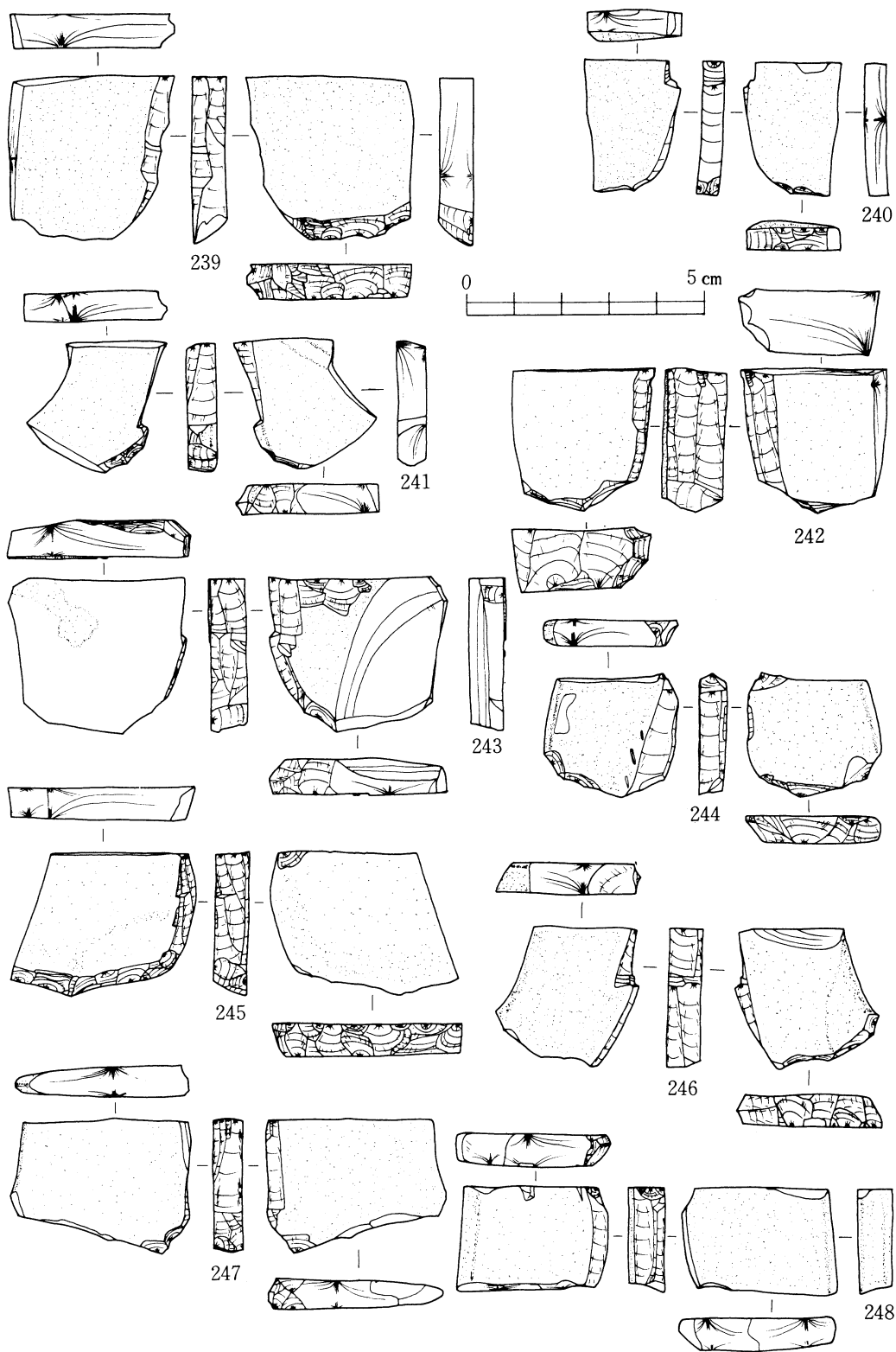
砂岩使用の細石刃核は、280・281・282・283である。扁平な自然円礫を分割して分割面を打面に利用して細石刃を剥離するもので技術的には凝灰質頁岩ならびにシルト利用と同じである。これらは非下縁調整石核で下縁部は自然面である。

頁岩使用の細石刃核は 284～ 288の 5点である。扁平な自然円礫を分割し、分割面を打面に利用して細石刃を剥離するもので技術的には前述 2例と同じである。下縁は自然が残り下縁調整はない。

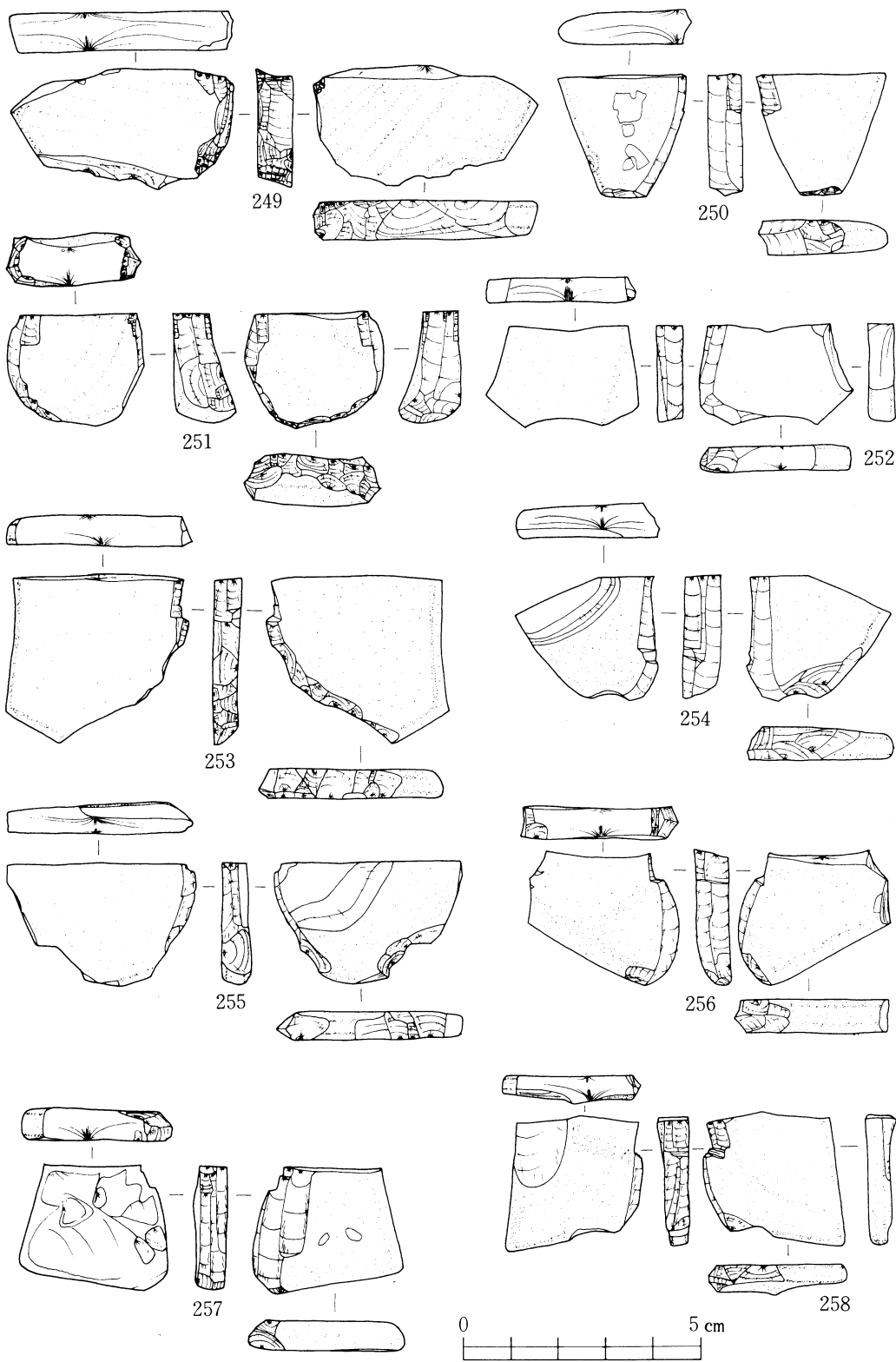
第 6 表 頁岩・砂岩の遺物

番号	出土番号	特 徴
239	3800	下縁部は全面調整 239～ 279まで凝灰頁岩・シルト
240	6548	下縁部は全面調整
241	9765	下縁部は部合調整
242	1745	下縁調整は全面である。細石刃剥離は 4 面みられる。
243	375	下縁部は部分調整
244	9664	下縁部は全面調整
245	9310	下縁部は全面調整
246	7048	下縁部は全面調整
247	5246	下縁部は部分調整
248	372	非下縁調整石核で下縁部は分割面が 2 面ある
249	1061	下縁部は全面調整
250	1086	下縁部は全面調整
251	9156	細石刃剥離が両面あり、下縁調整全面である。
252	2976	下縁部は部分調整
253	10044	下縁調整は全面に近い

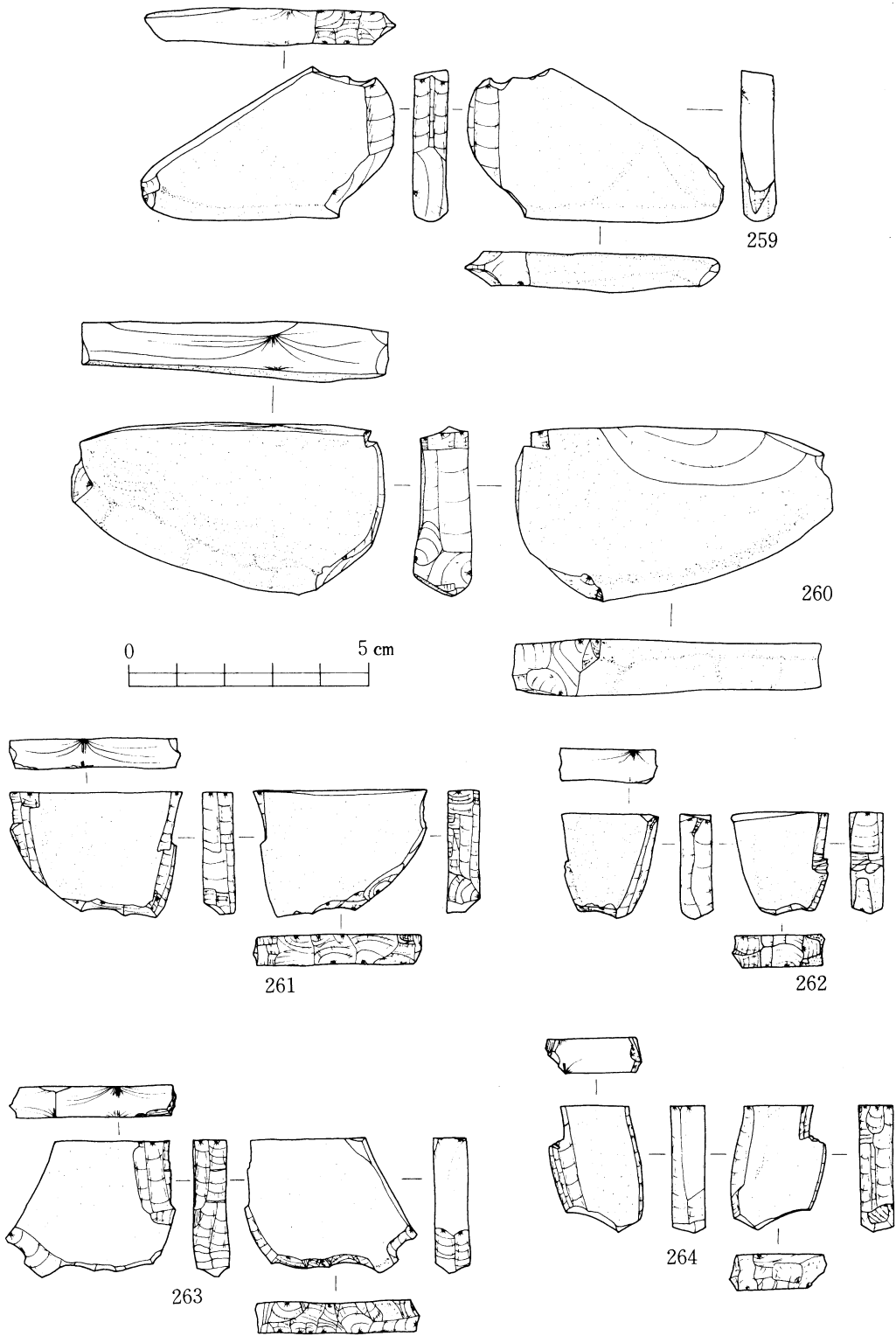
254	7672	下縁調整
255	5878	全面下縁調整の形をとっているが一部自然面がみられる。
256	9399	下縁部は部分調整で他は自然面が残っている。
257	2070	下縁部は部分調整。 半面が剥がれている。幅広い細石刃が剥離されている
258	3788	下縁調整は短い。下縁部は自然面
259	4418	下縁部は部分調整、下縁部は自然面が多い。打面調整を行っている。
260	5415	下縁部は部分調整で自然面が多い。
261	3677	下縁部は全面調整。両面を細石刃剥離に使用している。
262	8772	下縁部は全面調整。両面を細石刃剥離に使用している。
263	4849	下縁部は全面調整。2面を細石刃剥離に使用している。
264	2369	下縁部は全面調整、両面を細石刃剥離に使用している。
265	8890	非下縁調整細石刃核。 自然面部を細石刃剥離している。
266	8381	非下縁調整細石刃核。背部を調整している。
267	3173	下縁部は部分調整で細石刃剥離面に若干のこる。下縁部は分割面が広い。
268	7864	非下縁調整細石刃核、下縁部は分割面
269	8120	非下縁調整細石刃核、下縁部は分割面
270	10502	非下縁調整細石刃核、下縁部は分割面
271	1632	非下縁調整細石刃核、下縁部は自然面
272	6508	非下縁調整細石刃核、下縁部は自然面
273	8588	非下縁調整細石刃核、下縁部は自然面
274	2608	非下縁調整細石刃核、下縁部は自然面
275	8197	非下縁調整細石刃核、下縁部は自然面
276	5348	非下縁調整細石刃核、下縁部は自然面
277	3657	両面を細石刃剥離に使用、共に剥離方向が逆で非下縁調整と下縁調整である。
278	9728	2面を細石刃剥離に使用した非下縁調整細石刃核である。下縁部は自然面。
279	522	2面を細石刃剥離に使用した非下縁調整細石刃核である。下縁部は自然面
280	9683	砂岩の扁平長楕円小礫を使用、非下縁調整細石刃核、下縁は自然面 両面使用
281	9378	砂岩の扁平楕円小礫を使用、非下縁調整細石刃核。下縁部は自然面 両面使用
282	1057	砂岩の扁平楕円小礫を使用、非下縁調整細石刃核、下縁部は自然面
283	2374	砂岩の扁平楕円小礫を使用、非下縁調整細石刃核、下縁部は自然面、1回剥離
284	6476	頁岩の扁平小円礫を使用。非下縁調整細石刃核、下縁部は自然面
285	3231	頁岩の扁平小円礫を使用。非下縁調整細石刃核、下縁部は自然面
286	1596	頁岩の扁平小円礫を使用、非下縁調整細石刃核、両面を細石刃剥離に利用
287	5333	頁岩の扁平小円礫を使用、非下縁調整細石刃核、両面を細石刃剥離に利用。
288	6929	頁岩の扁平小礫を使用、両面を細石刃剥離に利用



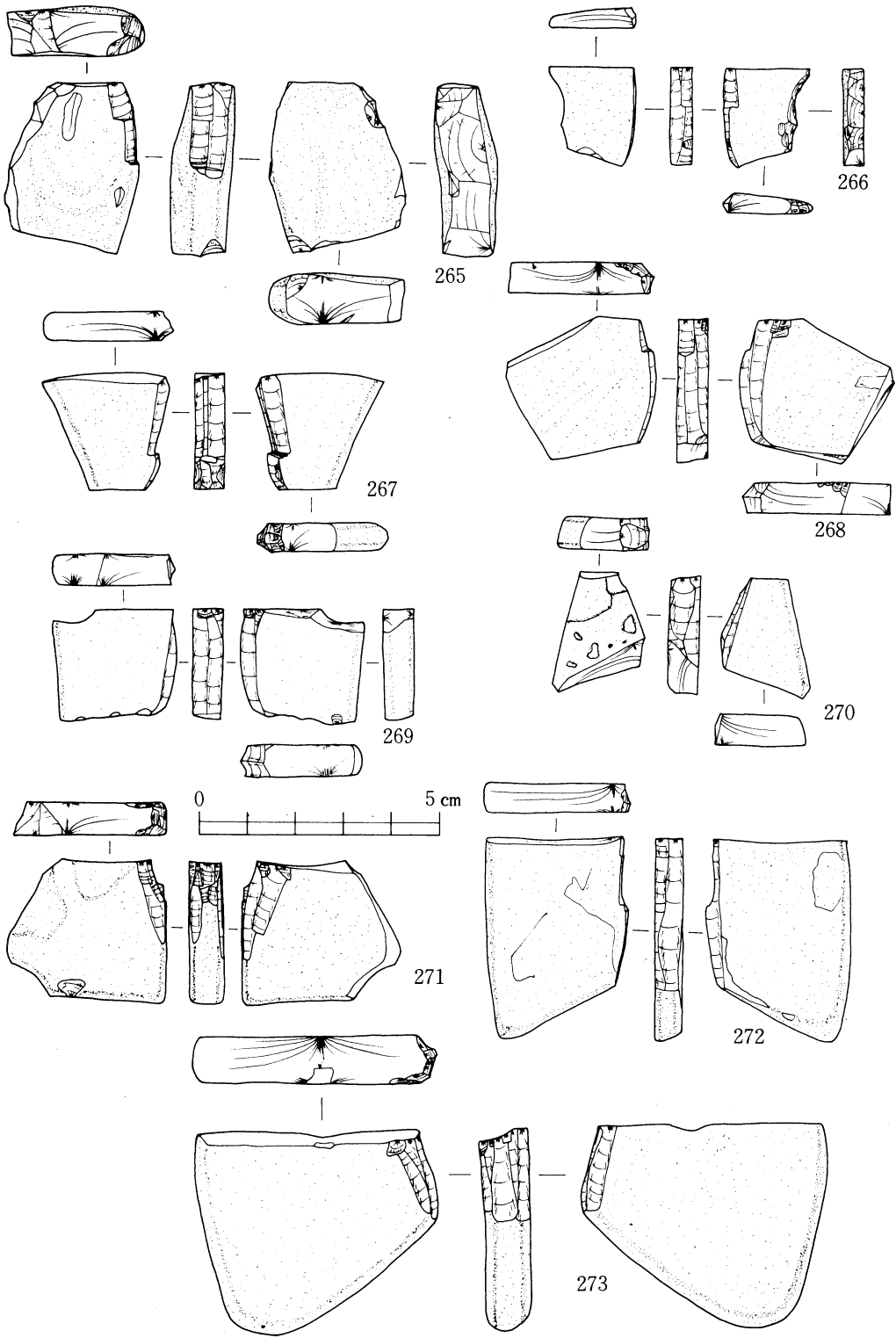
第38図 頁岩・砂岩を用いた石器(1)



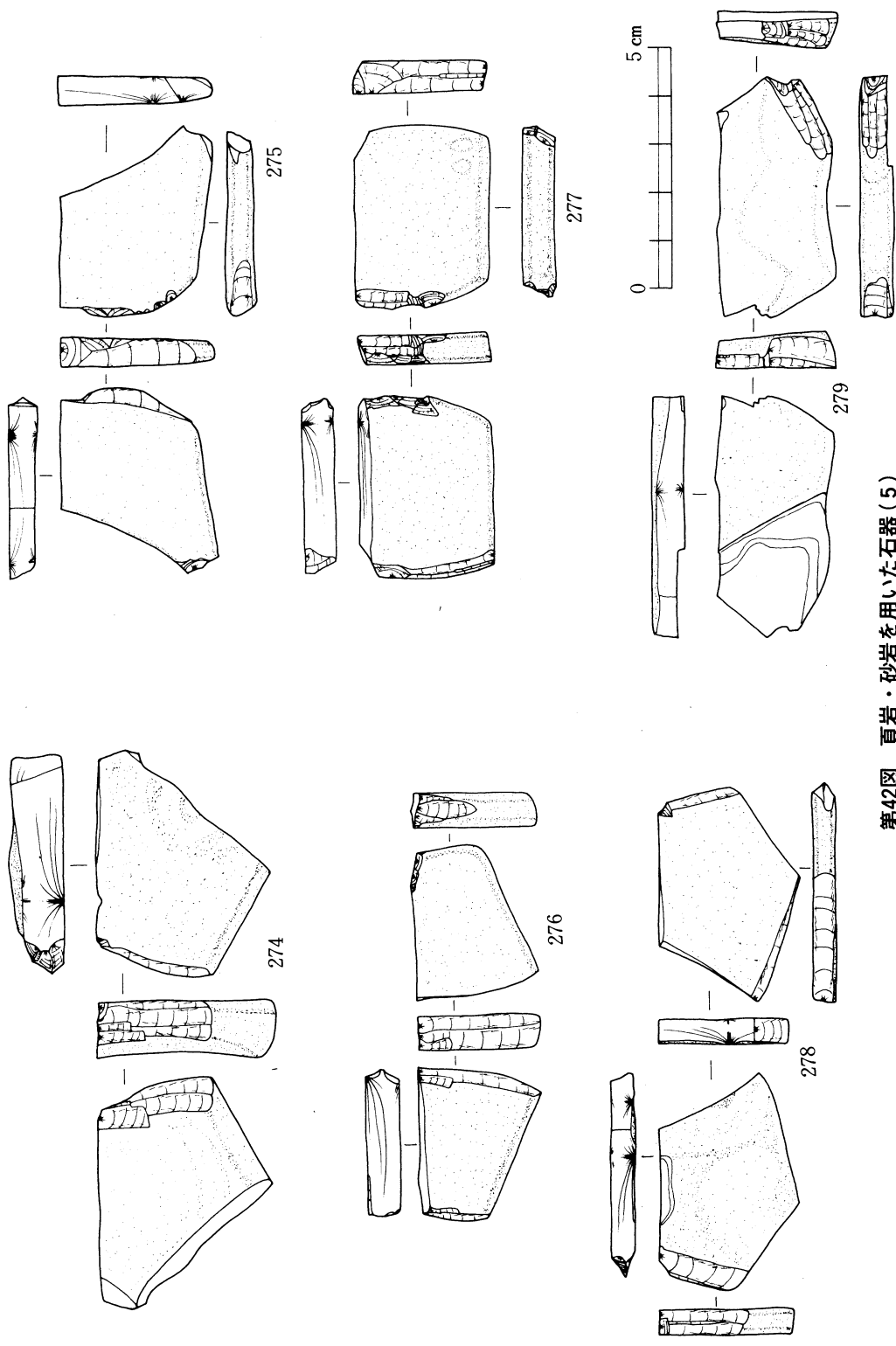
第39図 頁岩・砂岩を用いた石器(2)



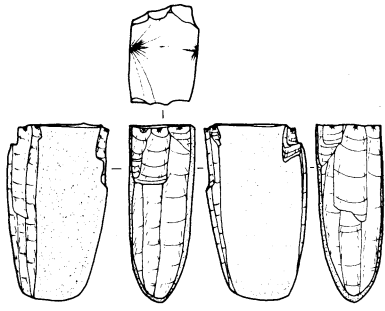
第40図 頁岩・砂岩を用いた石器(3)



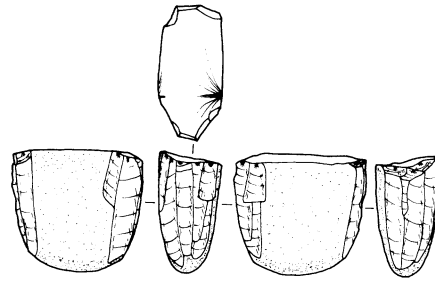
第41図 頁岩・砂岩を用いた石器(4)



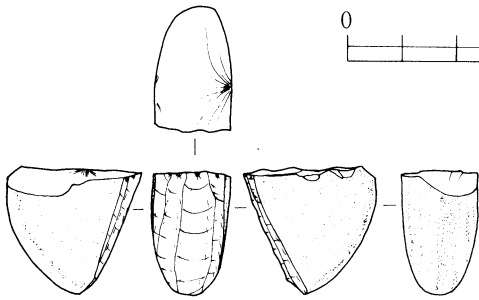
第42図 頁岩・砂岩を用いた石器(5)



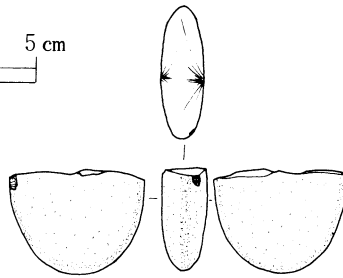
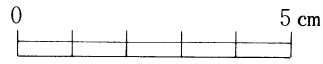
280



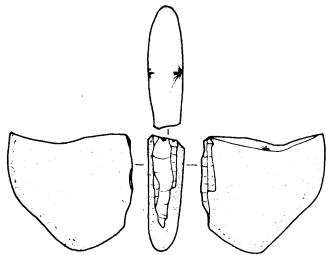
281



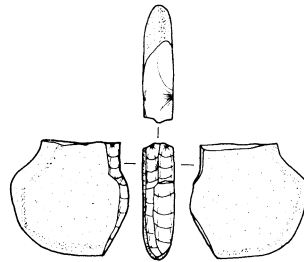
282



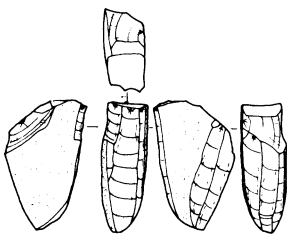
283



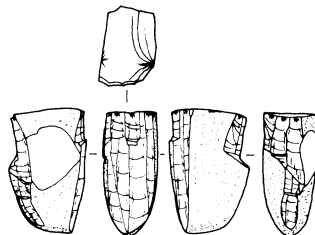
284



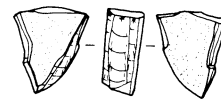
285



286



287



288

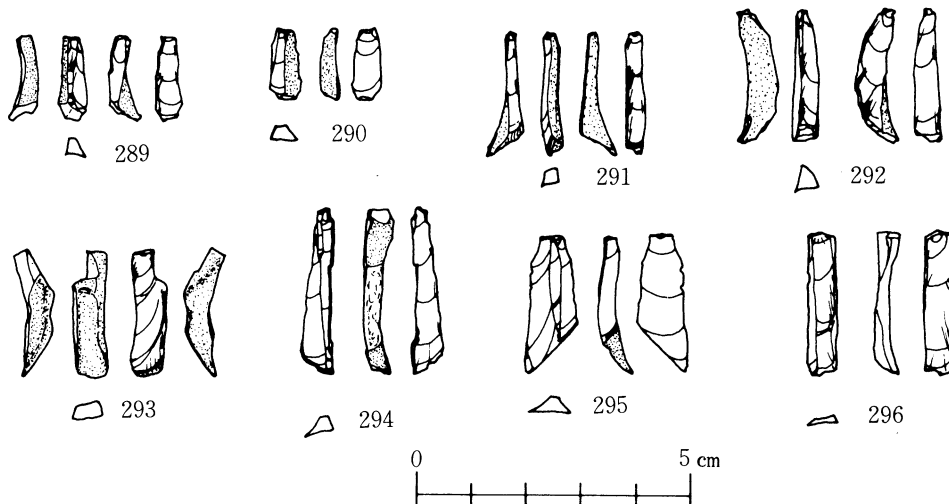
第43図 頁岩・砂岩を用いた石器(6)

細石刃

原位置をおさえられた頁岩製の細石刃が69点、砂岩製の細石刃が8点ある。他に水洗作業によって得られたものも多い。また、頁岩の中でも 354などのように、やや異質なものもみられる。

頁岩製の細石刃には完形のもの、二分割によるもの、三分割によるものの3種がある。完形のものには16点あり、この中には剥離作業の過程で引っかかり、整形のために剥ぎとったもの（294など）や、最初の皮の部分を剥ぎとったもの（293など）などの、いわゆる調整剥片も11点含まれている。長さは1.2cm～3.0cmを測り、自然面を残すものも8点と多い。二分割によるものは末端折断が4点、頭部折断が1点ある。長さは1.6cm前後を測り、331は自然面を残している。三分割による中間部は14点あり、整った形態のものが多い。頭部は27点、末端部は7点ある。稜は1本のもの26点、2本のもの39点とやや2本のものが多い。刃こぼれのあるものは9点と少ない。

砂岩製の細石刃には三分割によるものがあり、頭部が2点、中間部が5点、末端部が1点ある。中間部の長さは、0.7cmほどのものと、1.5～1.8cmのものがある。使用痕と思われる刃こぼれ痕跡のみられるものも多く、357～359は顕著にみられる。



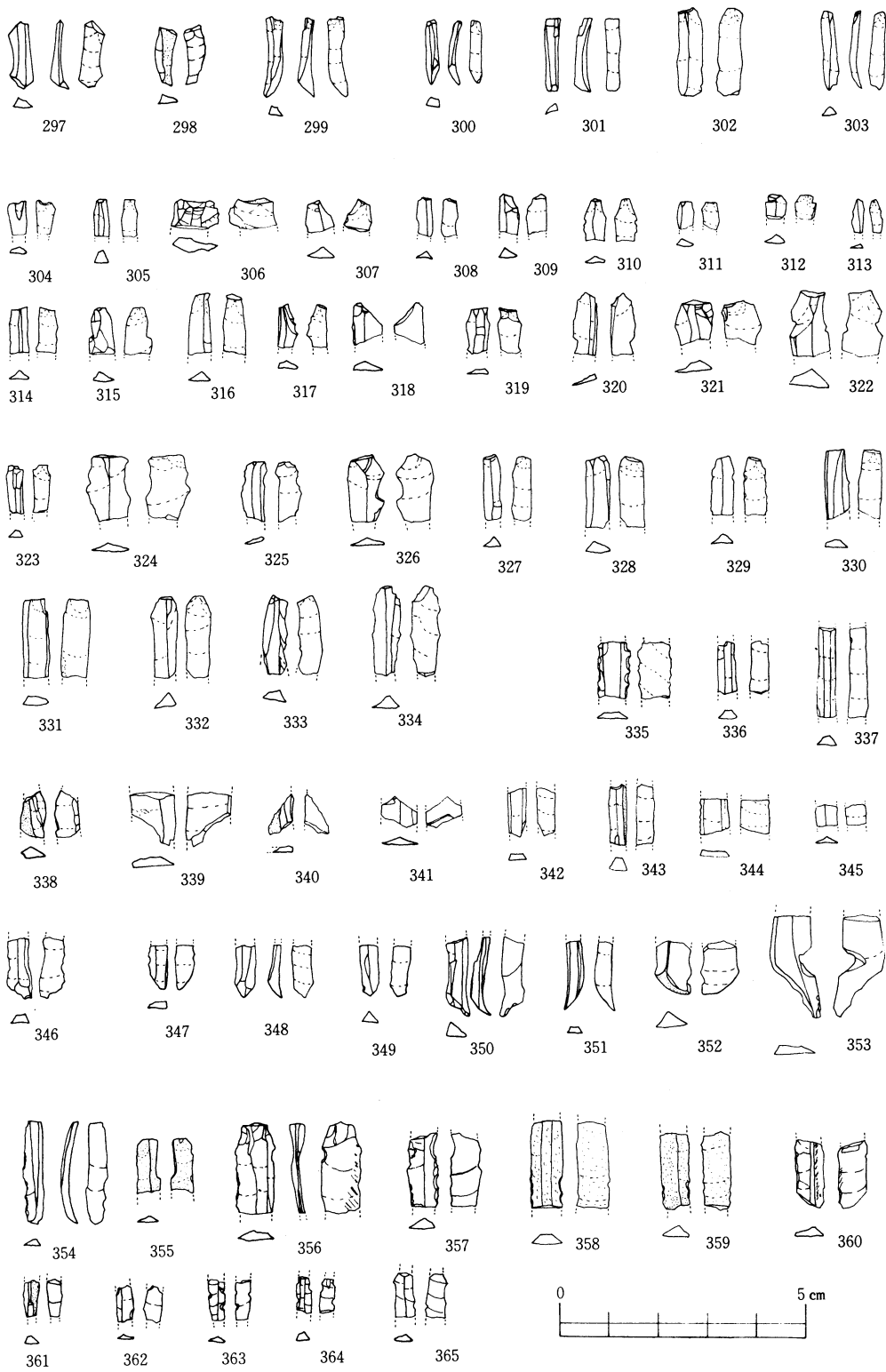
第44図 頁岩・砂岩を用いた石器(7) 細石刃

第7表 頁岩・砂岩の細石刃一覧表(1)

図番	部位	長さ	幅	厚さ	石材	使用稜	備考	293	完形	2.3	0.6	0.3	頁岩	?	自然面
289	完形	1.5	0.5	0.3	頁岩	2	自然面	294	〃	3.0	0.6	0.3	〃	1	〃
290	〃	1.2	0.6	0.3	〃	2	〃	295	〃	2.4	1.0	0.3	〃	2	〃
291	〃	2.2	0.3	0.3	〃	2	〃	296	〃	2.6	0.5	0.15	〃	2	
292	〃	2.4	0.5	0.5	〃	1	〃	297	〃	1.4	0.5	0.2	〃	2	

298	完形	1.2	0.4	0.2	頁岩		1	自然面	332	末端折斷	1.65	0.5	0.3	頁岩		1	
299	〃	1.6	0.3	0.2	〃		2		333	〃	1.6	0.45	0.2	〃		2	
300	〃	1.3	0.25	0.2	〃		2		334	〃	1.8	0.6	0.25	〃		2	
301	〃	1.5	0.3	0.1	〃		2		335	中間	1.2	0.7	0.15	〃	○	2	
302	〃	1.8	0.5	0.2	〃		1		336	〃	1.1	0.4	0.2	〃		2	
303	〃	1.6	0.3	0.2	〃		1		337	〃	1.9	0.4	0.2	〃		2	
304	頭部	0.7	0.4	0.15	〃		?	自然面	338	〃	0.95	0.5	0.25	〃		2	自然面
305	〃	0.75	0.3	0.25	〃		2		339	〃	1.05	0.95	0.2	〃		1	
306	〃	0.6	0.9	0.3	〃		2		340	〃	?	?	0.15	〃		2	
307	〃	0.7	0.6	0.25	〃		1		341	〃	0.6	0.75	0.15	〃		1	
308	〃	0.7	0.35	0.15	〃		1		342	〃	1.0	0.35	0.15	〃	○	2	
309	〃	0.8	0.35	0.2	〃		1		343	〃	1.25	0.35	0.25	〃		2	自然面
310	〃	0.85	0.4	0.15	〃		1		344	〃	0.75	0.6	0.1	〃	○	2	
311	〃	0.55	0.35	0.15	〃		1		345	〃	0.45	0.45	0.15	〃		1	
312	〃	0.5	0.4	0.2	〃		1		346	頭部折斷	1.25	0.5	0.2	〃		2	
313	〃	0.7	0.2	0.1	〃		1		347	末端	0.9	0.4	0.15	〃		2	
314	〃	0.95	0.4	0.2	〃		2		348	〃	1.1	0.45	0.15	〃		2	
315	〃	0.95	0.55	0.2	〃		2		349	〃	1.05	0.4	0.2	〃		1	
316	〃	1.2	0.5	0.2	〃		1		350	〃	1.6	0.45	0.2	〃	○	2	
317	〃	0.9	0.35	0.15	〃		2		351	〃	1.4	0.4	0.15	〃		2	自然面
318	〃	0.8	0.6	0.2	〃		1		352	〃	1.1	0.75	0.35	〃		1	〃
319	〃	0.95	0.4	0.1	〃		2		353	〃	2.1	0.85	0.2	〃		2	
320	〃	1.3	0.5	0.1	〃		2		354	完形	2.15	0.45	0.15	〃	○	2	
321	〃	0.9	0.75	0.2	〃	○	2		355	頭部	1.1	0.45	0.15	砂岩	○	1	自然面
322	〃	1.3	0.8	0.35	〃		2		356	〃	1.85	0.8	0.2	〃	○	2	
323	〃	1.0	0.3	0.2	〃		2		357	中間	1.5	0.7	0.2	〃	○	1	
324	〃	1.3	0.9	0.15	〃		1		358	〃	1.8	0.65	0.2	〃	○	2	
325	〃	1.2	0.5	0.1	〃	○	2		359	〃	1.55	0.55	0.2	〃	○	1	自然面
326	〃	1.4	0.7	0.15	〃		1		360	末端	1.4	0.6	0.2	〃	○	2	
327	〃	1.35	0.4	0.2	〃		1		361	中間	0.75	0.3	0.2	頁岩		2	自然面
328	〃	1.5	0.5	0.2	〃		2		362	〃	0.75	0.35	0.1	砂岩		1	
329	〃	1.2	0.45	0.2	〃		1	自然面	363	〃	1.85	0.3	0.1	頁岩	○	1	
330	〃	1.4	0.5	0.15	〃		3	〃	364	〃	0.7	0.3	0.2	砂岩		2	
331	末端折斷	1.6	0.6	0.2	〃		2	〃	365	〃	0.9	0.4	0.15	頁岩	○	1	

第8表 頁岩・砂岩 細石刃一覽表(2)



第45図 頁岩・砂岩を用いた石器(8) 細石刃

第9表 頁岩・砂岩の細石刃核一覧表

番号	遺物番号	区	面	レベル	遺物名		番号	遺物番号	区	面	レベル	遺物名	
1	130	B-4	1	154-835	頁岩細石刃核	非下縁調整	34	1373	A-3	3	154-970	頁岩細石刃核	下縁調整
2	260	B-5	1	154-850	〃		35	1406	B-4	3	154-235	〃	下縁調整
3	374	B-6	1	154-795	〃		36	1476	B-4	3	154-840	〃	
4	375	B-6	1	154-820	〃		37	1480	B-4	3	154-810	〃	下縁調整
5	385	B-6	1	154-850	〃	非下縁調整	38	1565	B-5	3	154-770	〃	下縁調整
6	407	B-6	1	154-810	〃	下縁調整	39	1567	B-5	3	154-740	〃	下縁調整
7	550	D-2	1	154-910	〃		40	1596	B-6	3	154-780	〃	
8	832	B-5	2	155-315	〃		41	1632	B-6	3	154-960	〃	
9	896	B-5	2	155-250	〃		42	1649	B-6	3	154-780	〃	
10	935	B-5	2	154-845	〃	非下縁調整	43	1691	B-2	3	155-160	〃	下縁調整
11	946	B-6	2	154-830	〃		44	1712	A-2	3	155-145	〃	下縁調整
12	960	B-6	2	154-775	〃		45	1745	A-2	3	155-150	〃	
13	965	B-6	2	154-770	〃		46	1767	C-7	2	154-095	〃	下縁調整
14	988	C-3	1	154-940	〃	非下縁調整	47	1771	C-6	2	154-190	〃	非下縁調整
15	1004	C-4	1	154-940	〃	非下縁調整	48	1819	C-6	2	154-260	〃	
16	1010	C-4	1	154-910	〃	下縁調整	49	1840	C-6	2	154-275	〃	非下縁調整
17	1020	C-4	1	154-910	〃	非下縁調整	50	1901	C-4	2	154-405	〃	下縁調整 2面
18	1027	C-4	1	154-920	〃		51	1902	C-4	2	154-400	〃	下縁調整
19	1029	C-4	1	154-900	〃	下縁調整	52	1904	C-5	2	154-405	〃	非下縁調整
20	1031	C-4	1	154-910	〃		53	1916	C-4	2	154-395	〃	下縁調整
21	1049	C-4	1	154-920	〃		54	1922	C-4	2	154-400	〃	下縁調整
22	1052	C-5	1	154-920	〃	下縁調整	55	1967	C-5	3	154-880	〃	下縁調整
23	1057	C-5	1	154-935	〃		56	1987	C-4	2	154-890	〃	非下縁調整
24	1061	C-4	1	154-920	〃		57	1995	D-4	2	154-900	〃	非下縁調整
25	1066	C-5	1	154-910	〃		58	2017	C-5	2	154-855	〃	
26	1069	C-5	1	154-910	〃	下縁調整	59	2027	C-5	2	154-880	〃	非下縁調整
27	1078	C-5	1	154-910	〃	下縁調整 2面	60	2070	C-5	2	154-900	〃	
28	1086	C-5	1	154-930	〃		61	2085	C-5	2	154-860	〃	下縁調整
29	1097	C-5	1	154-910	〃		62	2125	C-4	3	154-850	〃	
30	1104	C-5	1	154-810	〃	下縁調整	63	2128	C-4	3	154-890	〃	
31	1271	A-1	2	155-260	〃	非下縁調整	64	2155	C-4	3	154-895	〃	下縁調整
32	1286	A-2	2	155-215	〃	下縁調整	65	2168	C-5	3	154-875	〃	非下縁調整
33	1332	A-2	2	155-085	〃	下縁調整	66	2170	C-5	3	154-860	〃	

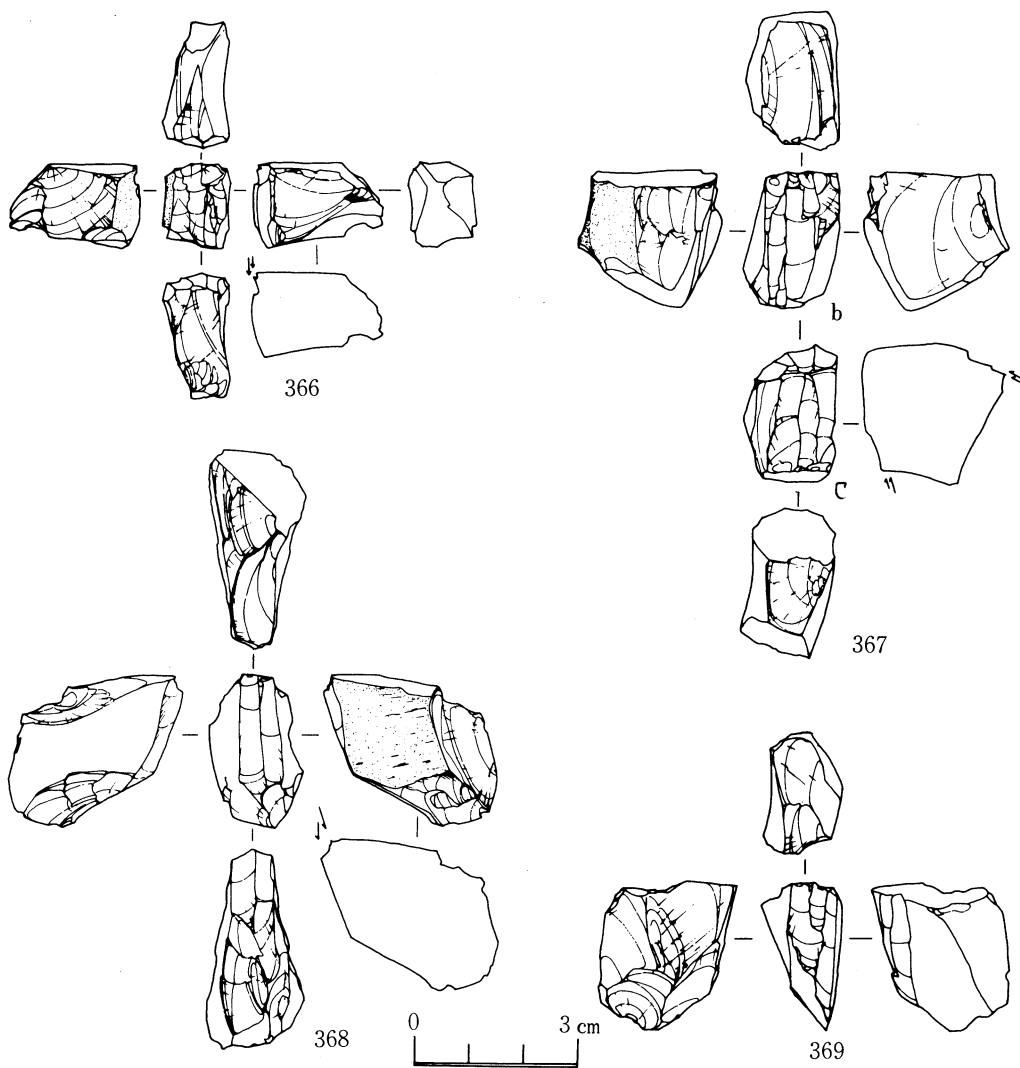
番号	遺物番号	区	面	レベル	遺物名		番号	遺物番号	区	面	レベル	遺物名	
67	2179	C-5	3	154-850	頁岩細石刃核		101	3702	C-5	4	154-875	頁岩細石刃核	
68	2180	C-5	3	154-865	〃		102	3704	C-4	4	154-880	〃	非下縁調整
69	2188	C-5	3	154-850	〃	非下縁調整	103	3709	C-4	4	154-880	〃	
70	2216	C-5	3	154-800	〃		104	3713	C-4	4	154-870	〃	非下縁調整
71	2227	C-5	3	154-865	〃		105	3714	C-4	4	154-875	〃	非下縁調整
72	2236	D-5	3	154-750	〃		106	3718	C-5	4	154-870	〃	
73	2295	C-6	3	155-200	〃	下縁調整	107	3732	C-5	4	154-790	〃	下縁調整
74	2304	C-6	3	155-155	〃	下縁調整	108	3749	C-5	4	154-800	〃	下縁調整
75	2310	C-6	3	155-200	〃	非下縁調整	109	3752	C-5	4	154-835	〃	
76	2369	C-5	3	155-340	〃		110	3787	C-5	4	154-840	〃	非下縁調整
77	2374	C-5	3	155-340	〃		111	3788	C-5	4	154-830	〃	
78	2384	C-5	3	155-380	〃	下縁調整	112	3793	C-5	4	154-855	〃	
79	2418	A-2	4	155-070	〃	非下縁調整	113	3804	C-5	4	154-860	〃	下縁調整
80	2459	A-2	4	155-180	〃	下縁調整 2面	114	3826	C-5	4	154-840	〃	非下縁調整
81	2582	A-3	4	155-005	〃		115	3839	C-5	4	154-830	〃	下縁調整
82	2608	A-3	4	154-990	〃		116	3927	D-5	4	154-700	〃	下縁調整
83	2950	B-4	4	154-810	〃		117	3933	D-6	4	154-720	〃	非下縁調整
84	2974	B-5	4	154-780	〃	非下縁調整	118	3935	C-5	4	154-740	〃	下縁調整
85	2977	B-5	4	154-775	〃		119	3963	C-6	4	154-790	〃	下縁調整 2面
86	3070	A-4	4	154-730	〃	非下縁調整	120	3998	C-6	4	154-660	〃	非下縁調整
87	3078	B-4	4	154-760	〃	非下縁調整 2面	121	4008	C-6	4	154-680	〃	下縁調整
88	3124	B-5	4	154-760	〃		122	4051	C-7	4	154-530	〃	非下縁調整
89	3149	B-5	4	154-755	〃		123	4075	B-3	5	154-990	〃	
90	3173	B-5	4	154-770	〃		124	4243	A-3	5	154-955	〃	
91	3197	B-5	4	154-810	〃	下縁調整	125	4258	A-3	5	154-960	〃	
92	3209	B-5	4	154-780	〃	非下縁調整	126	4297	A-3	5	154-980	〃	
93	3231	B-5	4	154-810	〃		127	4378	A-3	5	154-885	〃	
94	3263	B-6	4	154-830	〃	下縁調整	128	4418	A-3	5	154-820	〃	
95	3281	B-6	4	154-815	〃	下縁調整	129	4743	A-3	5	154-855	〃	非下縁調整
96	3443	B-2	5	155-120	〃	非下縁調整	130	4809	B-4	5	154-765	〃	非下縁調整
97	3561	A-2	5	155-150	〃	非下縁調整	131	4819	B-4	5	154-815	〃	下縁調整
98	3697	C-5	4	154-855	〃		132	4840	B-4	5	154-735	〃	非下縁調整
99	3698	C-5	4	154-870	〃	非下縁調整	133	4849	B-5	5	154-740	〃	
100	3699	C-5	4	154-865	〃	下縁調整	134	4856	B-5	5	154-760	〃	非下縁調整

番号	遺物番号	区	面	レベル	遺物名		番号	遺物番号	区	面	レベル	遺物名	
135	4885	B-4	5	154-730	頁岩細石刃核	非下縁調整 2面	169	1676	B-6	6	154-685	頁岩細石刃核	
136	4903	B-4	5	154-730	〃	下縁調整	170	6481	B-6	6	154-685	〃	非下縁調整
137	4952	B-4	5	154-730	〃	下縁調整	171	6499	B-6	6	154-710	〃	下縁調整
138	4963	B-4	5	154-735	〃	非下縁調整	172	6508	B-6	6	154-620	〃	
139	5201	B-5	5	154-730	〃		173	6532	C-4	6	154-890	〃	下縁調整
140	5227	B-5	5	154-720	〃	非下縁調整	174	6547	C-5	6	154-880	〃	
141	5245	B-5	5	154-740	〃		175	6548	C-5	6	154-875	〃	
142	5260	B-5	5	154-750	〃	下縁調整	176	6550	C-5	6	154-880	〃	非下縁調整 2面
143	5267	B-5	5	154-750	〃	下縁調整	177	6596	C-5	6	154-800	〃	非下縁調整
144	5282	B-5	5	154-740	〃		178	6668	B-3	6	154-845	〃	非下縁調整
145	5284	B-5	5	154-760	〃	非下縁調整 2面	179	6778	B-4	6	154-705	〃	
146	5300	B-5	5	154-750	〃	非下縁調整	180	6929	B-6	6	154-620	〃	
147	5307	B-5	5	154-720	〃	下縁調整	181	6930	B-6	6	154-600	〃	
148	5333	B-6	5	154-725	〃		182	6934	B-6	6	154-555	〃	
149	5345	B-5	5	154-710	〃	非下縁調整	183	6945	D-5	6	154-730	〃	
150	5348	B-5	5	154-720	〃		184	6949	D-5	6	154-730	〃	下縁調整
151	5350	B-5	5	154-730	〃	下縁調整	185	7000	C-5	6	154-900	〃	
152	5387	B-6	5	154-705	〃		186	7033	C-5	6	154-915	〃	下縁調整
153	5411	B-6	5	154-710	〃	下縁調整	187	7037	C-5	6	154-910	〃	
154	5415	B-6	5	154-715	〃		188	7048	C-5	6	154-905	〃	
155	5420	B-6	5	154-700	〃	下縁調整	189	7082	C-5	6	154-920	〃	
156	5476	B-6	5	154-630	〃		190	7102	C-5	6	154-890	〃	
157	5510	C-4	5	154-900	〃	下縁調整	191	7112	C-5	6	154-920	〃	下縁調整
158	5512	C-4	5	154-895	〃	下縁調整	192	7343	A-3	6	154-755	〃	下縁調整 2面
159	5516	C-4	5	154-900	〃	下縁調整	193	7679	C-5	6	154-890	〃	
160	5537	C-5	5	154-860	〃	下縁調整	194	7686	C-5	6	154-880	〃	非下縁調整
161	5593	D-5	5	154-755	〃	非下縁調整	195	7692	C-5	6	154-885	〃	
162	5594	D-5	5	154-740	〃	非下縁調整	196	7751	C-5	6	154-905	〃	下縁調整
163	5603	D-5	5	154-750	〃		197	7864	B-4	6	154-770	〃	
164	5652	C-6	5	154-655	〃		198	7969	C-4	6	154-880	〃	非下縁調整
165	5700	B-3	6	154-900	〃	下縁調整 2面	199	7970	C-4	6	154-820	〃	下縁調整
166	5856	B-2	6	154-985	〃	非下縁調整	200	8103	B-3	1	154-060	〃	非下縁調整
167	5870	B-2	6	155-010	〃	下縁調整	201	8112	C-4	1	154-930	〃	下縁調整
168	6399	B-5	6	154-720	〃		202	8117	C-4	1	154-900	〃	下縁調整

番号	遺物番号	区	面	レベル	遺物名		番号	遺物番号	区	面	レベル	遺物名	
203	8120	C-4	1	154-920	頁岩細石刃核		237	8694	B-5	3	154-865	頁岩細石刃核	下縁調整
204	8125	C-4	1	154-920	〃	非下縁調整	238	8696	C-5	3	154-855	〃	
205	8128	C-4	1	154-825	〃		239	8703	B-5	3	154-890	〃	非下縁調整
206	8130	C-4	1	154-900	〃		240	8719	B-4	3	154-850	〃	
207	8137	C-4	1	154-830	〃		241	8720	B-4	3	154-885	〃	下縁調整
208	8158	B-5	1	154-885	〃	非下縁調整	242	8729	B-4	3	154-865	〃	下縁調整
209	8190	B-5	1	154-820	〃	下縁調整	243	8738	B-4	3	154-895	〃	非下縁調整
210	8212	C-6	1	ナシ	〃	非下縁調整	244	8744	B-4	3	154-840	〃	
211	8252	B-2	2	155-090	〃	非下縁調整	245	8751	B-4	3	154-830	〃	非下縁調整
212	8277	C-4	2	154-910	〃	下縁調整	246	8758	B-4	3	154-850	〃	下縁調整
213	8282	B-4	2	154-845	〃	下縁調整 2面	247	8772	B-4	3	154-830	〃	
214	8291	C-4	2	154-925	〃		248	8800	C-4	3	154-770	〃	
215	8301	C-4	2	154-925	〃	下縁調整	249	8810	B-4	3	154-785	〃	下縁調整
216	8313	C-4	2	154-935	〃	非下縁調整	250	8828	B-4	3	154-780	〃	非下縁調整
217	8314	C-4	2	154-930	〃	非下縁調整	251	8833	C-4	3	154-780	〃	下縁調整
218	8354	B-5	2	154-890	〃		252	8890	B-4	3	154-785	〃	
219	8371	C-5	2	154-930	〃	下縁調整	253	8966	A-2	4	155-050	〃	下縁調整
220	8372	C-5	2	154-925	〃		254	9118	C-4	4	154-900	〃	下縁調整
221	8377	C-5	2	154-925	〃	下縁調整	255	9119	C-4	4	154-895	〃	非下縁調整
222	8381	C-5	2	154-900	〃		256	9121	C-4	4	154-890	〃	非下縁調整 2面
223	8383	B-5	2	154-870	〃		257	9122	C-4	4	154-890	〃	
224	8432	C-6	2	154-820	〃	下縁調整	258	9145	C-4	4	154-890	〃	下縁調整
225	8474	A-2	3	154-090	〃	非下縁調整 2面	259	9150	C-4	4	154-880	〃	
226	8565	B-6	3	154-890	〃	下縁調整	260	9156	B-4	4	154-850	〃	
227	8571	B-6	3	154-875	〃	下縁調整	261	9177	C-4	4	154-885	〃	下縁調整
228	8588	B-6	3	154-910	〃	下縁調整	262	9238	B-5	4	154-860	〃	非下縁調整
229	8594	B-5	3	154-855	〃		263	9249	C-5	4	154-870	〃	下縁調整
230	8603	B-5	3	154-925	〃	非下縁調整	264	9250	C-5	4	154-086	〃	非下縁調整
231	8611	B-5	3	154-870	〃	非下縁調整 2面	265	9252	B-5	4	154-853	〃	下縁調整
232	8617	B-5	3	154-890	〃		266	9258	B-5	4	154-853	〃	下縁調整
233	8621	B-5	3	154-910	〃		267	9267	B-5	4	154-818	〃	非下縁調整
234	8643	B-5	3	154-880	〃	非下縁調整	268	9300	C-5	4	154-790	〃	非下縁調整
235	8664	B-5	3	154-880	〃	非下縁調整	269	9310	C-5	4	154-775	〃	
236	8686	B-4	3	154-900	〃		270	9322	C-5	4	154-815	〃	非下縁調整 2面

番号	遺物番号	区	面	レベル	遺物名		番号	遺物番号	区	面	レベル	遺物名	
271	9372	C-6	4	154-780	頁岩細石刃核		305	3382	B-2	5	155-025	頁岩細石刃	
272	9297	B-6	4	154-700	〃		306	3389	B-2	5	155-050	〃	
273	9655	C-3	5	154-820	〃	非下縁調整	307	3391	B-2	5	155-060	〃	
274	9661	C-3	5	154-850	〃	非下縁調整	308	3818	C-5	4	154-870	〃	
275	9683	C-3	5	154-835	〃		309	3876	C-5	4	154-780	〃	
276	9690	C-3	5	154-880	〃	下縁調整	310	3911	C-5	4	154-760	〃	
277	9724	C-3	5	154-890	〃	非下縁調整	311	4134	B-3	5	155-000	〃	
278	9728	C-4	5	154-885	〃		312	4176	B-3	5	155-000	〃	
279	9731	C-4	5	154-860	〃	下縁調整	313	4185	B-3	5	154-985	〃	
280	9765	C-4	5	154-835	〃		314	4193	B-3	5	155-010	〃	
281	9775	C-4	5	154-825	〃	下縁調整	315	4419	B-3	5	154-910	〃	
282	9840	B-4	5	154-815	〃	非下縁調整	316	4421	B-3	5	154-930	〃	
283	9924	B-5	5	154-808	〃		317	4561	B-3	5	154-900	〃	
284	9925	B-5	5	154-810	〃	非下縁調整	318	4992	B-5	5	154-740	〃	
285	9927	B-5	5	154-805	〃		319	4993	B-5	5	154-745	〃	
286	9957	C-5	5	154-830	〃		320	5103	B-5	5	154-760	〃	
287	9973	C-5	5	154-810	〃	下縁調整	321	5193	B-5	5	154-750	〃	
288	9975	C-5	5	154-820	〃	非下縁調整	322	5552	C-5	5	154-870	〃	
289	10004	B-5	5	154-795	〃	下縁調整	323	5624	C-5	5	154-870	〃	
290	10044	C-5	5	154-800	〃		324	5878	B-2	6	154-955	〃	
291	10073	C-5	5	154-780	〃	非下縁調整	325	5889	B-2	6	155-025	〃	
292	10139	B-6	5	154-758	〃	下縁調整	326	6006	B-3	6	154-890	〃	
293	10169	C-6	5	154-645	〃		327	6395	B-5	6	154-680	〃	
294	10257	C-2	4	154-903	〃		328	7130	C-5	6	154-870	〃	
295	10312	B-5	4	154-790	〃	非下縁調整	329	7297	A-3	6	154-775	〃	
296	10367	C-5	6	154-760	〃	下縁調整	330	7635	C-4	6	154-870	〃	
297	10490	B-4	7	154-765	〃	下縁調整	331	7653	C-5	6	154-880	〃	
298	10502	C-5	7	154-780	〃		332	7764	C-5	6	154-890	〃	
299	1572	B-5	3	154-780	頁岩細石刃		333	7715	C-5	6	154-885	〃	
300	1780	C-6	2	154-170	〃		334	7743	C-5	6	154-870	〃	
301	2001	D-5	2	154-730	〃		335	7925	B-4	6	154-630	〃	
302	2172	C-5	3	154-840	〃		336	8028	C-6	6	154-740	〃	
303	2405	C-5	3	155-325	〃		337	8682	B-5	3	154-895	〃	
304	3324	B-6	4	154-786	〃		338	8723	B-4	3	154-865	〃	

番号	遺物番号	区	面	レベル	遺物名		番号	遺物番号	区	面	レベル	遺物名	
339	8946	A-3	4	155 - 060	頁岩細石刃		353	9906	B-5	5	154 - 830	頁岩細石刃	
340	9046	C-3	4	155 - 005	〃		354	9936	B-5	5	154 - 810	〃	
341	9278	C-5	4	154 - 850	〃		355	9939	B-5	5	154 - 815	〃	
342	9405	C-6	4	154 - 670	〃		356	9940	B-5	5	154 - 800	〃	
343	9446	C-2	6	154 - 985	〃		357	9961	C-5	5	154 - 825	〃	
344	9555	B-3	5	155 - 040	〃		358	9964	C-5	5	154 - 850	〃	
345	9739	C-4	5	154 - 850	〃		359	9984	B-5	5	154 - 830	〃	
346	9740	C-4	5	154 - 855	〃		360	10042	C-5	5	154 - 810	〃	
347	9760	C-4	5	154 - 840	〃		361	10048	C-5	5	154 - 800	〃	
348	9768	C-4	5	154 - 860	〃		362	10094	B-5	5	154 - 755	〃	
349	9779	C-3	5	154 - 965	〃		363	10278	B-3	4	154 - 930	〃	
350	9793	C-3	5	154 - 880	〃		364	10330	B-5	4	154 - 745	〃	
351	9877	B-4	5	154 - 800	〃		365	10360	C-5	4	154 - 795	〃	
352	9890	B-5	5	154 - 855	〃		366	10381	B-5	4	154 - 750	〃	



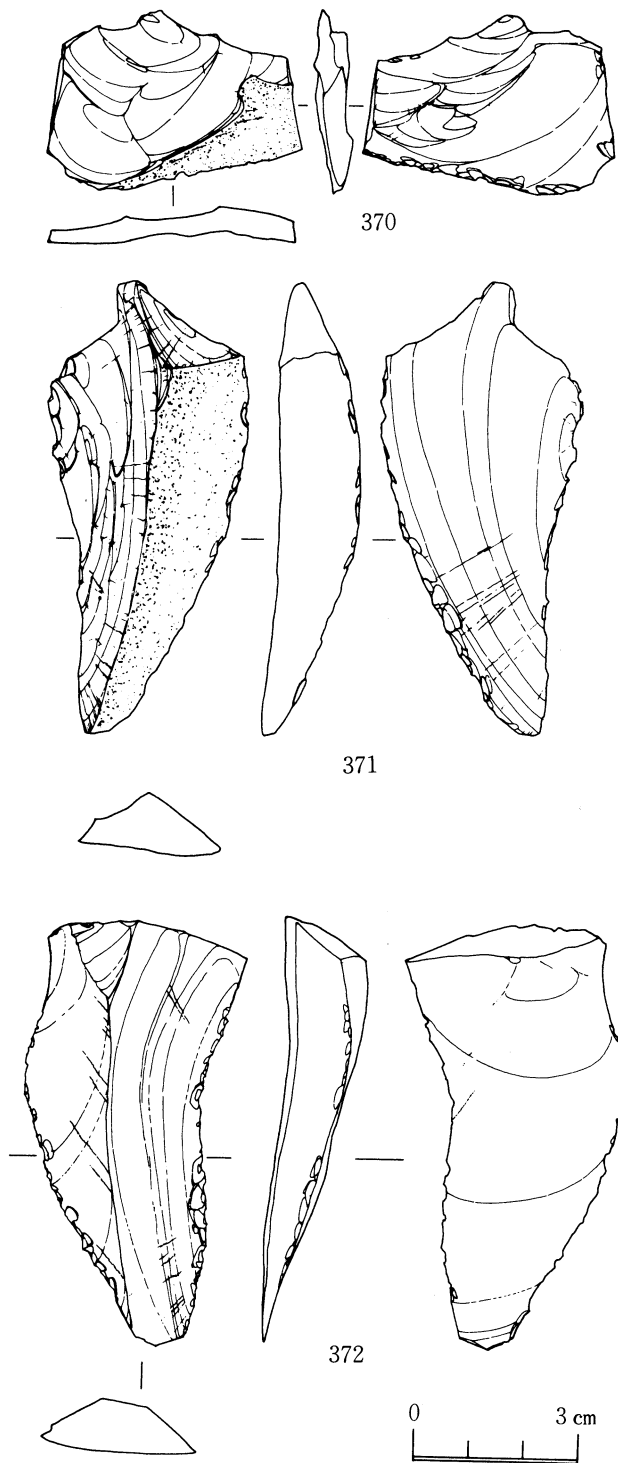
第46図 頁岩・細石刃核

③その他

373、頁岩（茶色）製で、彫器として使用したと思われる。素材は、角礫を用いたもので、上部と側面は礫面を残している。剥片の右側縁に a 方向より打撃を行ない a の彫刻刃面を作り出し、次に、b 方向よりの加撃で b 面の彫刻刃面を作り出している。

374、366の細石刃核と同質の石材で、石材に光沢がある。彫器として使用したものと思われる。

375、軟質の粘板岩性の石材で、風化も激しく剥脱が目立っている。礫の原面を打面としている。扁平な縦長剥片で、下部は欠落しているが、中央部に稜の通った剥片であり、連続して剥離されたことがわかる。下部の欠落は圧迫による折断と思われる。



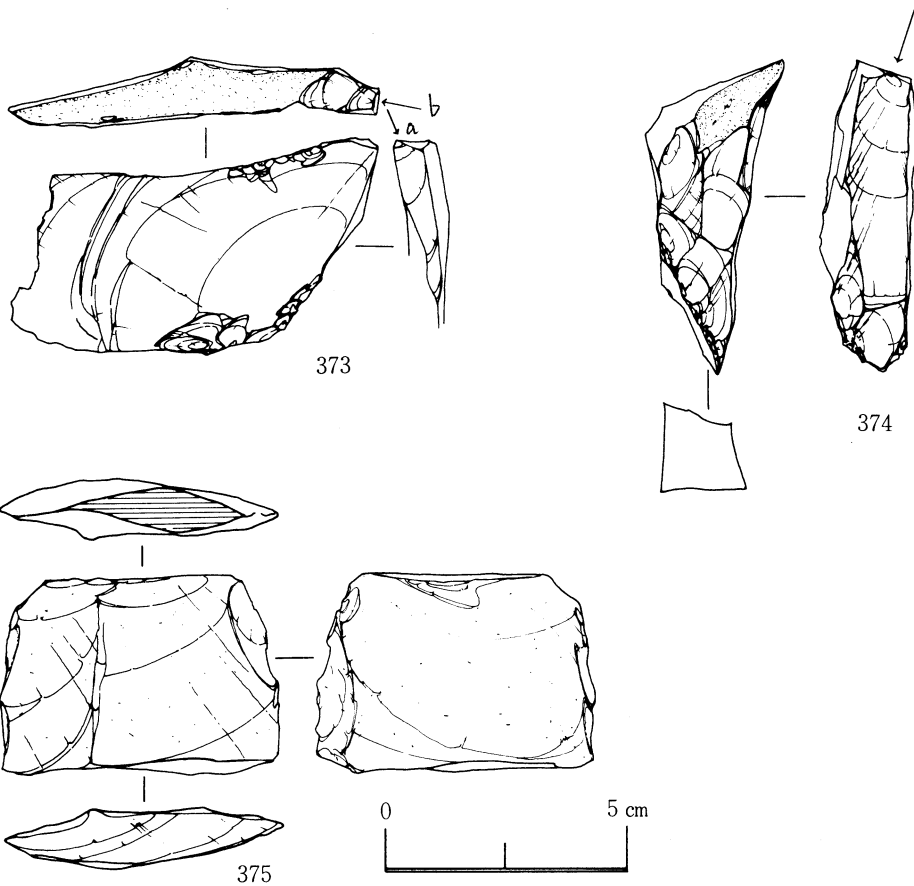
3) 安山岩の石器

点のハンマー・ストーンが出土している。

376は、硬質の安山岩製で、長さ 6.4 cm、幅 4.6cm、厚さ 3.4cmの円形のハンマー・ストーンである。この石器に見られるキズは、側縁部（全周）に認められるが、特に、b面、C面に多く、そのキズは、丸くつぶれた打撃痕となっている。したがって、対象物となる硬い礫（素材）に対して直角に振りおろして使用していたものと思われる。

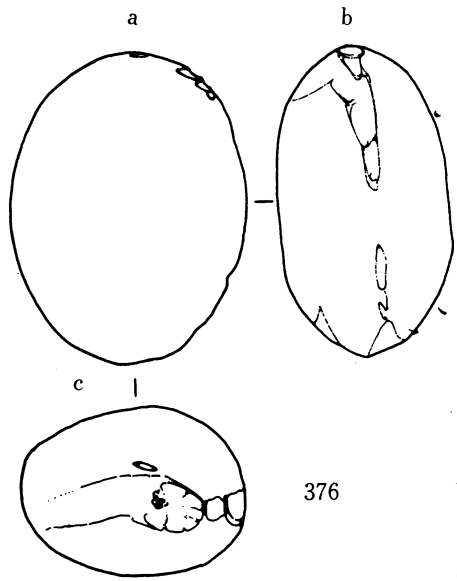
377は、細長い形状をしたハンマー・ストーンで硬質の砂岩製である。この石器に残されるキズは、c面は磨耗痕が見られ、端部には大きく剥がれた剝離痕が見られる。長さ10.2cm幅 5.4cm、厚さ 3.5 cmとなる。

第47図 頁岩・削器



第48図 頁岩・削器 剥片

全て同質の頁岩を素材としている。368の左側縁に、下方向よりの調整剥離が見られるが、基本的には、舟底形細石刃核と考えられる。367の細石刃核では、b面、c面に対する打面はいずれも平坦打面である。c面の細石刃剥離がb面の細石刃剥離よりも古く行なわれている。

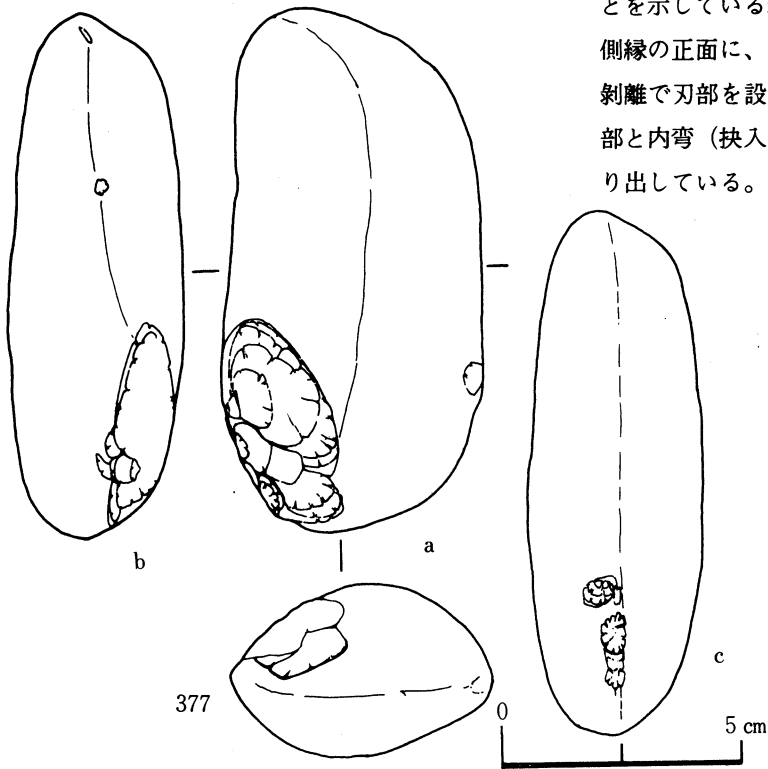


376

370 扁平な横長剥片を用いたもので、裏面の下縁部に調整剥離を刃こぼれ状剥離が認められ、下縁部を刃部とした削器である。

371、連続して剥離した横長剥片を用いたもので、外反する右側縁部に調整剥離が施され、刃部とし、左側縁部には刃こぼれ状剥離が認められる。

372、正面のネガティブ・バルブは、横剥ぎの行なわれたことを示し、裏面のポジティブ・バルブは縦剥ぎの行なわれたことを示している剥片である。両側縁の正面に、裏面からの調整剥離で刃部を設け、外反する刃部と内弯（袂入）する刃部を作り出している。



377

第49図 安山岩 ハンマーストーン

2 縄文時代

(1) 概要

縄文時代の遺物は3 a 中期～晩期、3 c 層～5 a 層に前期、5 a 層に早期のものがみられた遺構は3 c 層に集石が2基、5 a 層に7基検出された。

3 c 層と5 a 層に前期の遺物が出土しているが4層がブロック状になっているため3 c 層のものが落ちこんだものと思われる。

全体として遺物は少ない。

(2) 早期・前期

①遺構 (第50図～第53図)

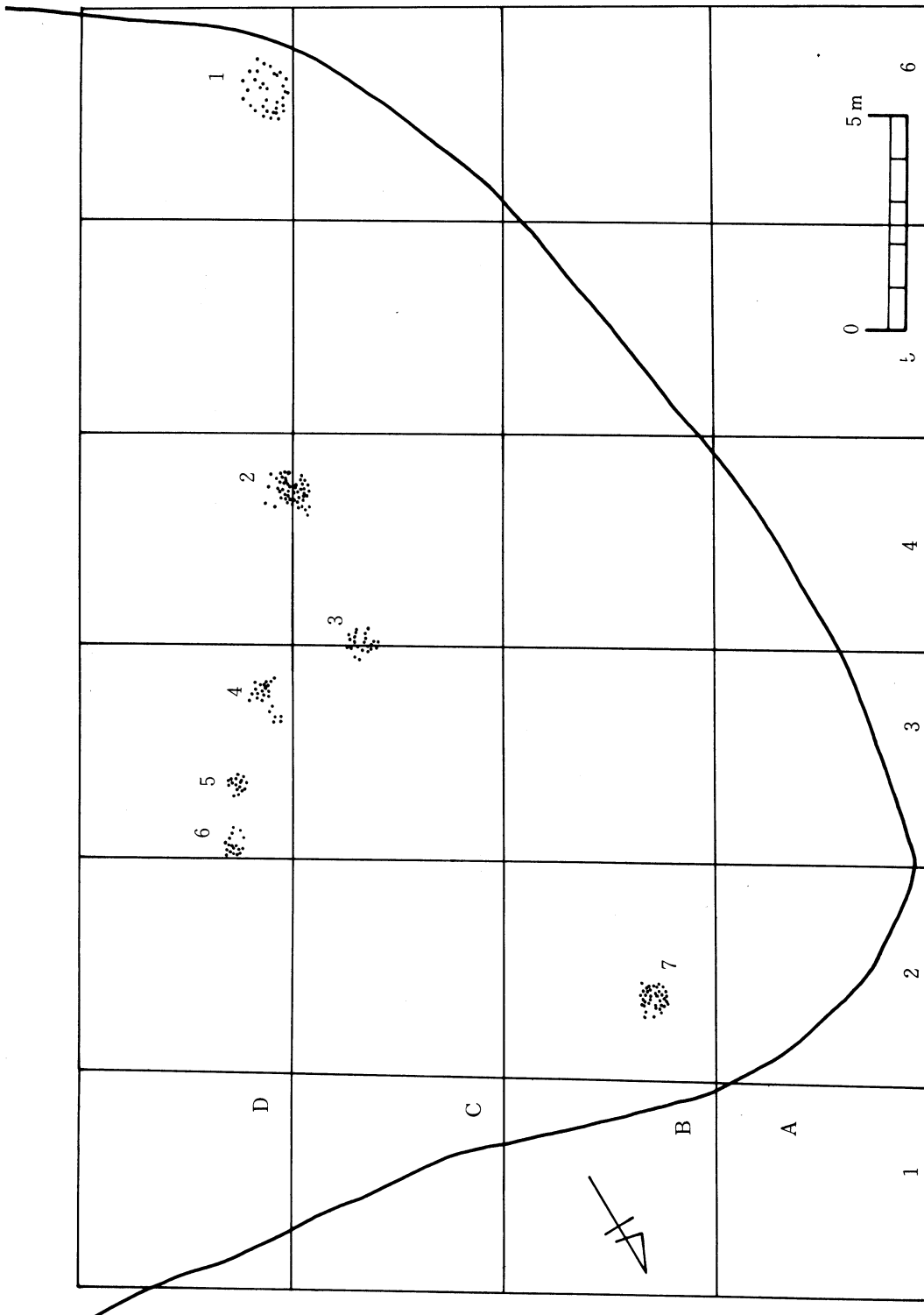
集石遺構が5 a 層に7基検出された。1・2・7号集石はしっかりしていたが3・4・5・6号集石は石の散乱状態で検出された。第48図はその全体図であるが3・4・5・6号集石の周囲には礫が散乱していた。

1号(D-6) 2m×2m位の広さに集められているもので円礫や角礫が若干散乱した状況で検出された。礫は10～20cm前後のものが主である。2号(CD-4)は1.5×1.5の面積に南西部の一部を除き密に集められている集石である。礫は大小さまざまで30～10cmの円・角礫である。南部は掘り込まれたような状態で礫が落ち込んでいる。木炭もある集石である。3号集石はC-3・4区に検出され円、角礫の混合であった。4・5・6号集石はD-3区に検出し角礫主体であり、小規模である。7号(B-2区は1m前後の規模で中央部を除き密度が濃い。円礫、角礫の集合である(第50図)

②遺物 (第54～60図)

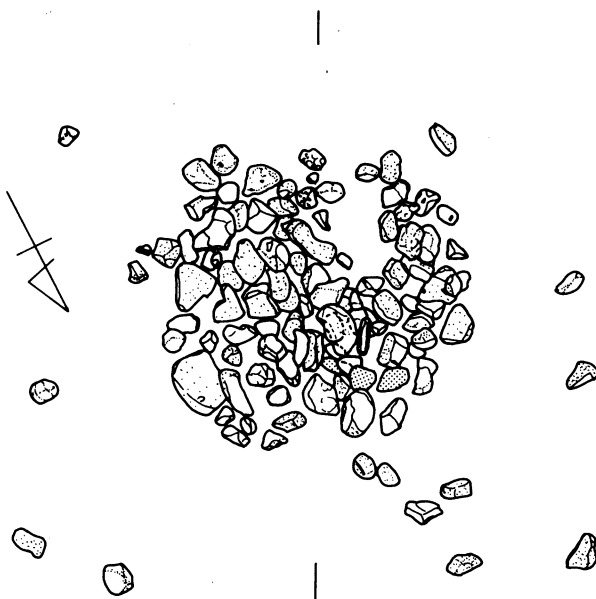
387はD-4-V区に出さした土器である。口縁部から胴部までの土器で胎土、焼成共に良く灰褐色を呈している。口縁部は波状口縁で蒲鉾型を呈し文様は沈線と連点の組み合わせである。379、380(C-4-V)は連点と沈線の組合せをもつ口縁部である。381(C-3-V)は蒲鉾形口縁を呈した無文の波状口縁である。382(D-4-III C)は胴部であり撚糸文様で結節が2本ある胎土焼成共によく灰褐色を呈す。383(D-6-V)は胴部で撚糸文様で結節をみられる。384(B-2-V)は胴部で沈線と連点の組み合わせの文様である。385(B-2-V)は384と同様な文様を呈す土器である。386(B-2-V)は384と同様な文様を呈す土器で底部である。378～386は塞ノ神A類の系統の土器であろう。387(A-3-V)は口縁部である。外反し押圧縄文がみられる。色調は赤褐色である。胎土は良いが焼成は良くない。形式不明

388(b-2・3・4-V)は口縁部が頸部から外反し、胴部は若干ふくら 器形を呈し口縁部から頸部にかけて貝殻刺突文の連続が5段あり胴部には6～8本の沈線が帯状に横行し頸部から胴部の沈線帯に7～9本の斜行する沈線帯を施こしている。胎土は焼成共に良く硬質である。389(C-4-V)、390(D-2-III C)、391(C-2-V)、392(A-3-V) 393(C-4-V)は口縁部が外反する貝殻刺突連続文をもつ口縁部である。389だけは波状口縁である。全体的に厚味があり胎土、焼成は良い。



第50図 V層における集石遺構の配置図

2号集石



— 156.20m



1号集石

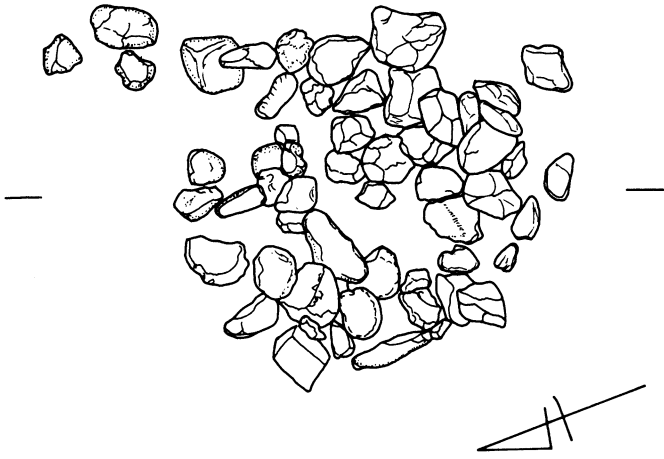


b' — 156.20m

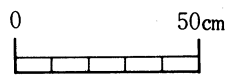
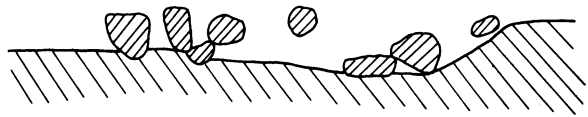


第51図 V層中の集石遺構(1)

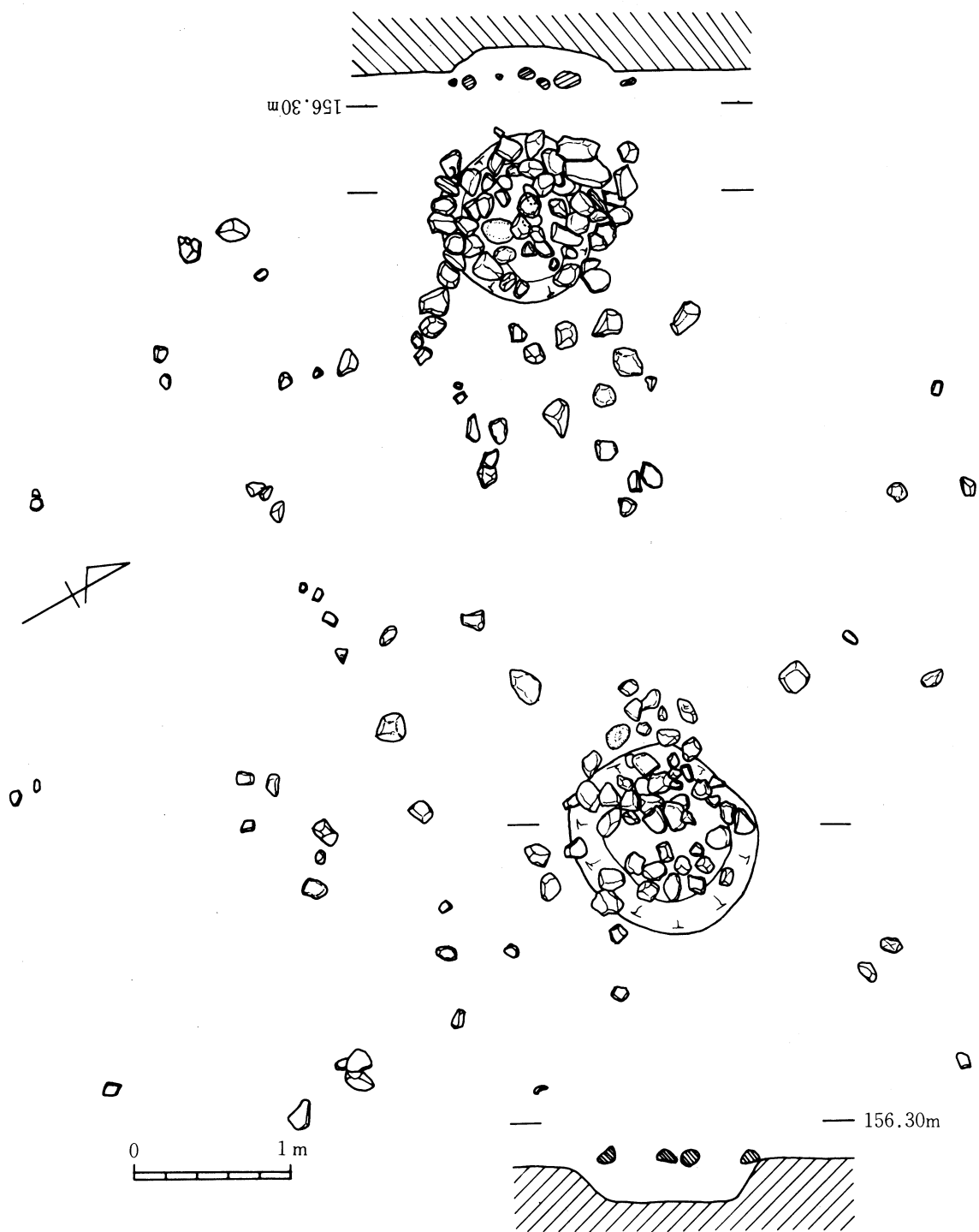
7号集石



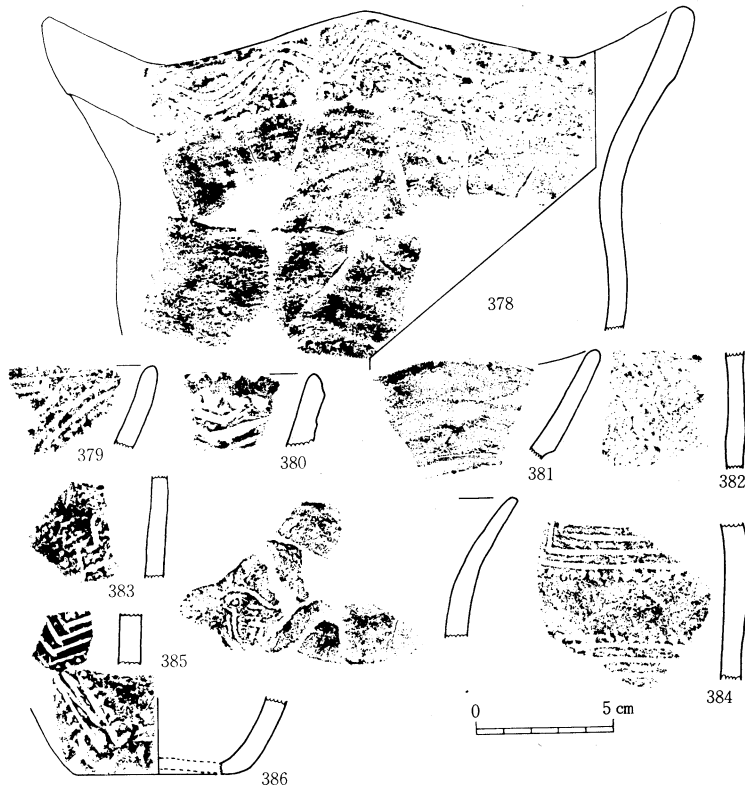
— 156.20m



第52図 V層中の集石遺構(2)



第53図 III C層中の集石遺構



第54図 縄文土器 (1)

394(B-2-V)口縁部が外反する土器であるが 388~ 393と違って口縁部に沈線を横行させ、頸部に貝殻刺突連続文を施してしている。胎土、焼成はあまり良くない。388~ 394は塞ノ神B式の外反する口縁部である。

395(D-2-V, D-2-III C)は頸部から胴部にかけてである。頸部は貝殻刺突文で胴部は沈線の組み合わせである。胎土、焼成は良い。396(D-4-V)は395と同様であるが沈線文をかけ合せている。397(B-2-V)は胴部で斜行沈線帯と思われる。398(C-4-V)は胴部で2本の平行沈線の組み合わせ文様である。399(C-3-V)は口縁部で外反口縁である。

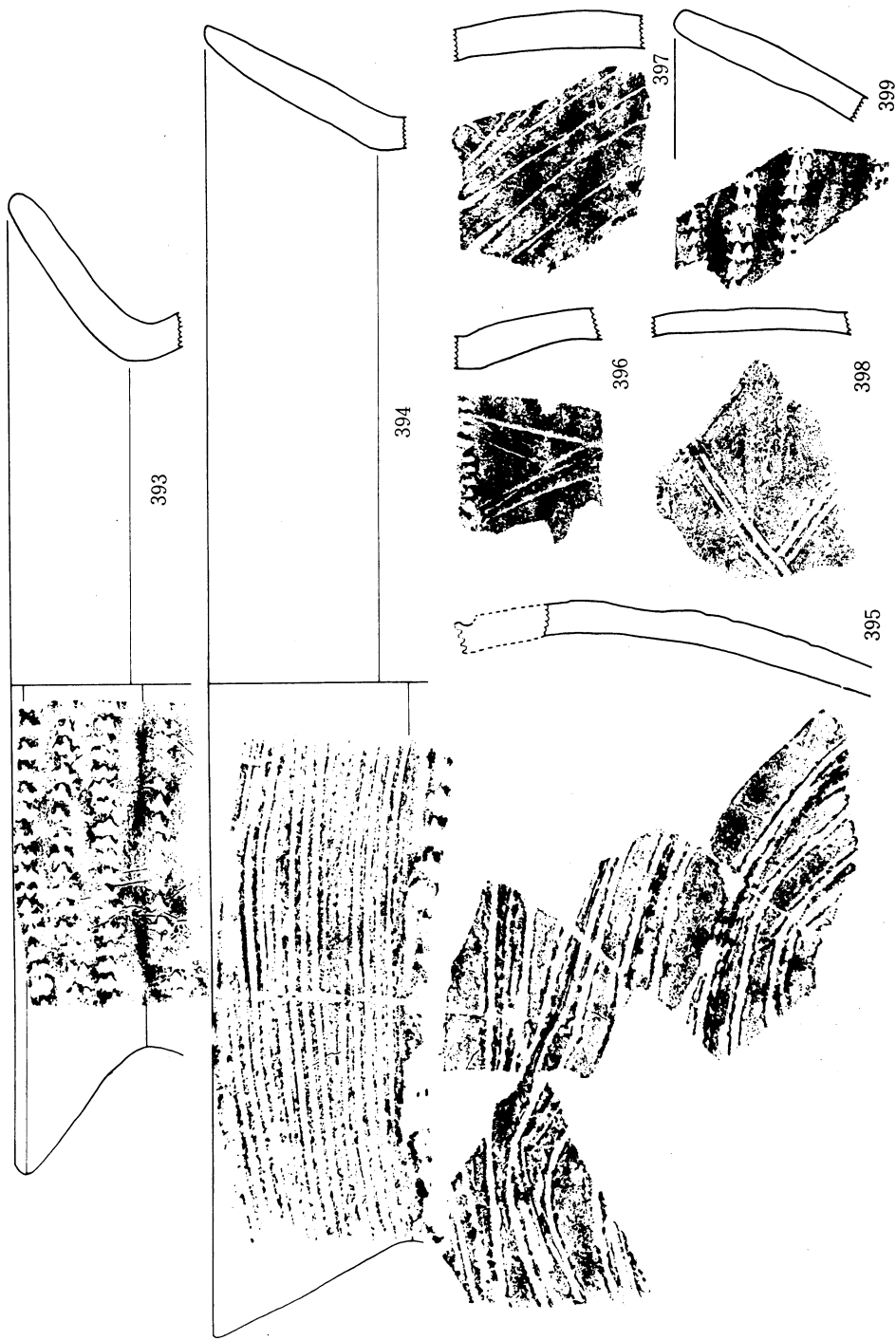
400は口縁部が若干外反するもので貝殻刺突連続文様を施している。D-3-VとC-1-Vに出土した。胎土、焼成は良い。401(D-3-V)は口縁部が若干外反するが直口の土器である。文様は貝殻刺突連続文である。焼成、胎土は良い。402(D-2-V)は口縁部の直行する土器で貝殻文と沈線文の組み合わせである。胎土、焼成は良くない。403(A-3-V)は直口型の土器で貝殻文だけの文様を施こしている。文様は貝殻刺突連続文を平行に横行させている。胎土、焼成は良く、底部だけがない土器である。404(D-3-V)は胴部だけであり、沈線文が斜行している。405は完形である。C-3-Vに出土し口縁部に貝殻刺突文を施こしその下は斜行する沈線文を施こし貝殻条痕が胴部と底部にみられる。内側にも貝殻で調整した部合もみられる。器形は口縁が直行した土器である。底部は上げ底を呈している。胎土、焼成は良くない、407~ 411は底部である。上げ底 407・410・411まで 408(若干上げぎみ) 409は平底を呈する。411は上げ幅は深い。



第55図 縄文土器 (2)

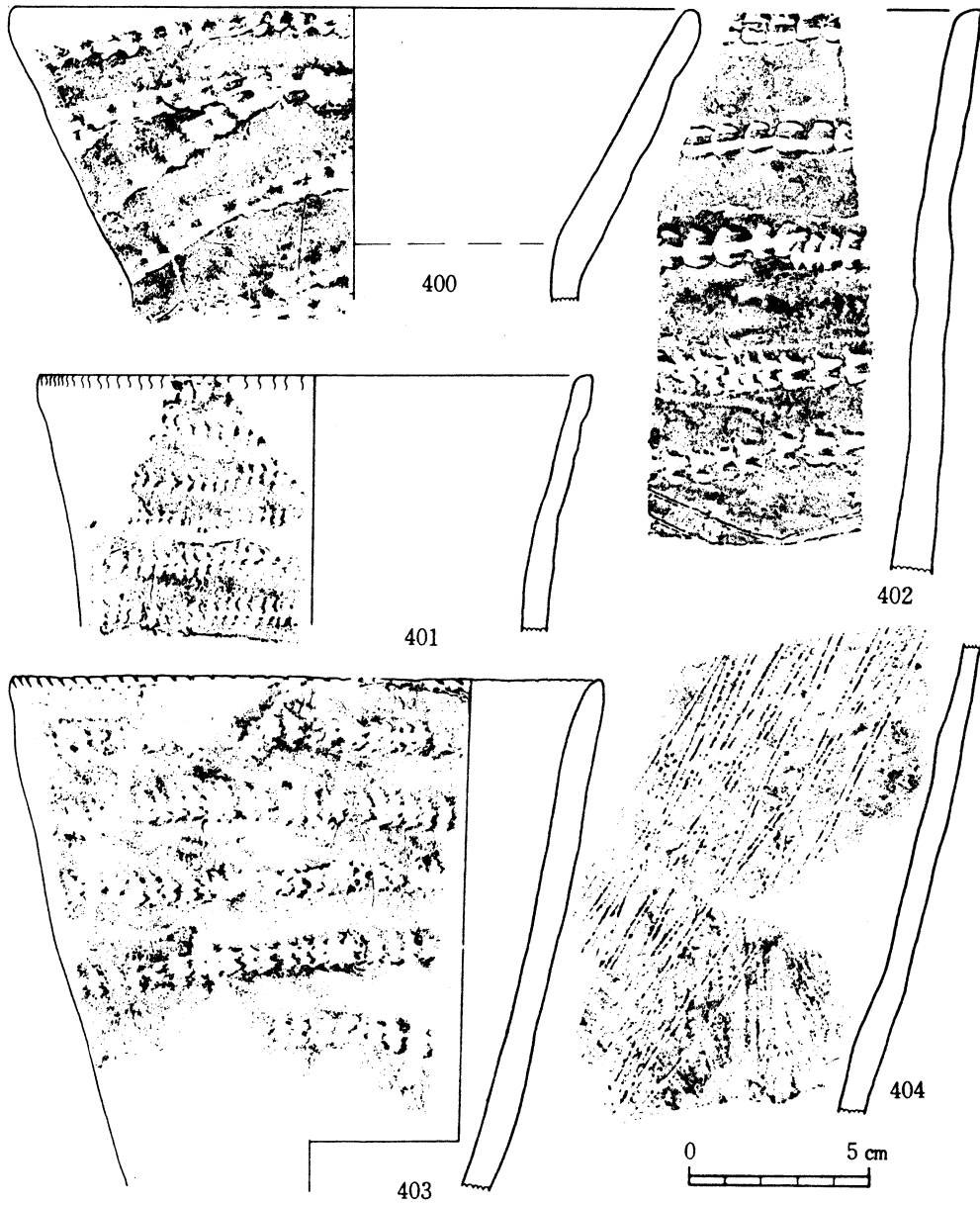
388～411は塞の神B式口縁部が外反するものと直行するものがあり直行するものは円筒筒形の土器である。

412はC-5-Ⅲ層に出土した。集石部にも一部混入しているものがあった。胴部である。表側は貝殻条痕に連点文が施こされている。裏側は貝殻条痕だけである。413、414はC-3ⅢC層に出土したもので貝殻条痕だけである。胴部である。415はD-4-V層に出土した土器で表裏とも貝殻条痕である。416はC-5-ⅡC層で貝殻条痕の地文である。417はC-3

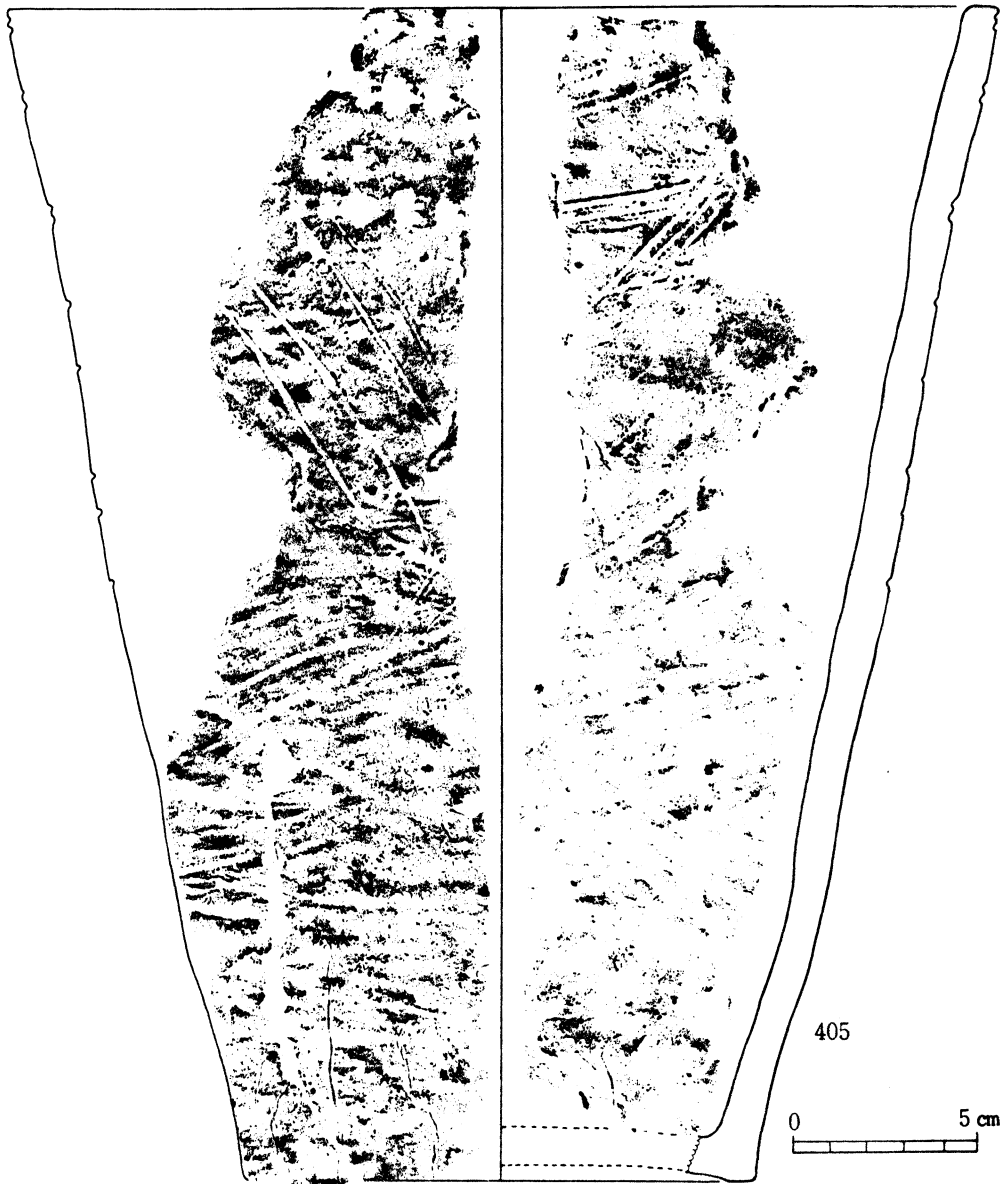


第56図 縄文土器 (3)

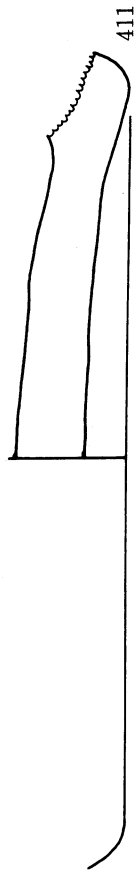
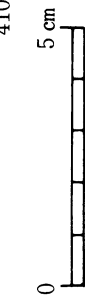
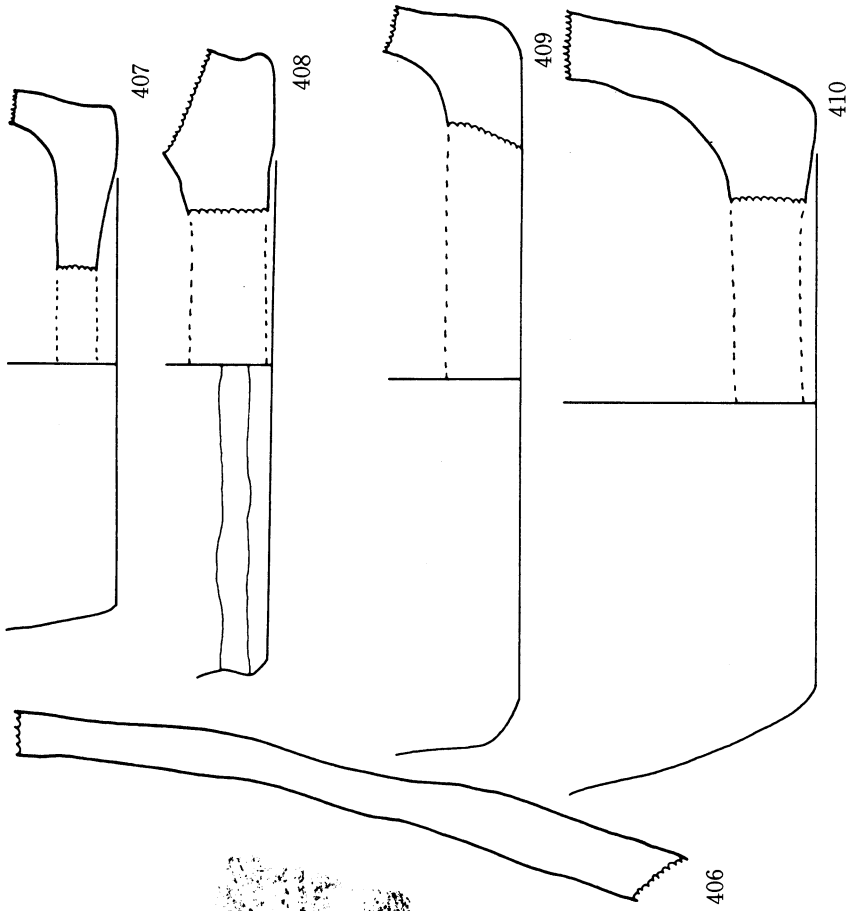
V層に出土した底部である。地文は貝殻条痕であり若干尖底ぎみの丸底を呈する。418はD—4—V層に出土した若干尖底ぎみの丸底で地文は貝殻文である。412～418は貝殻条痕を地文とする土器で胎土・焼成は非常に良く、硬質にできている。これらは縄文式土器の範囲になると思われる。



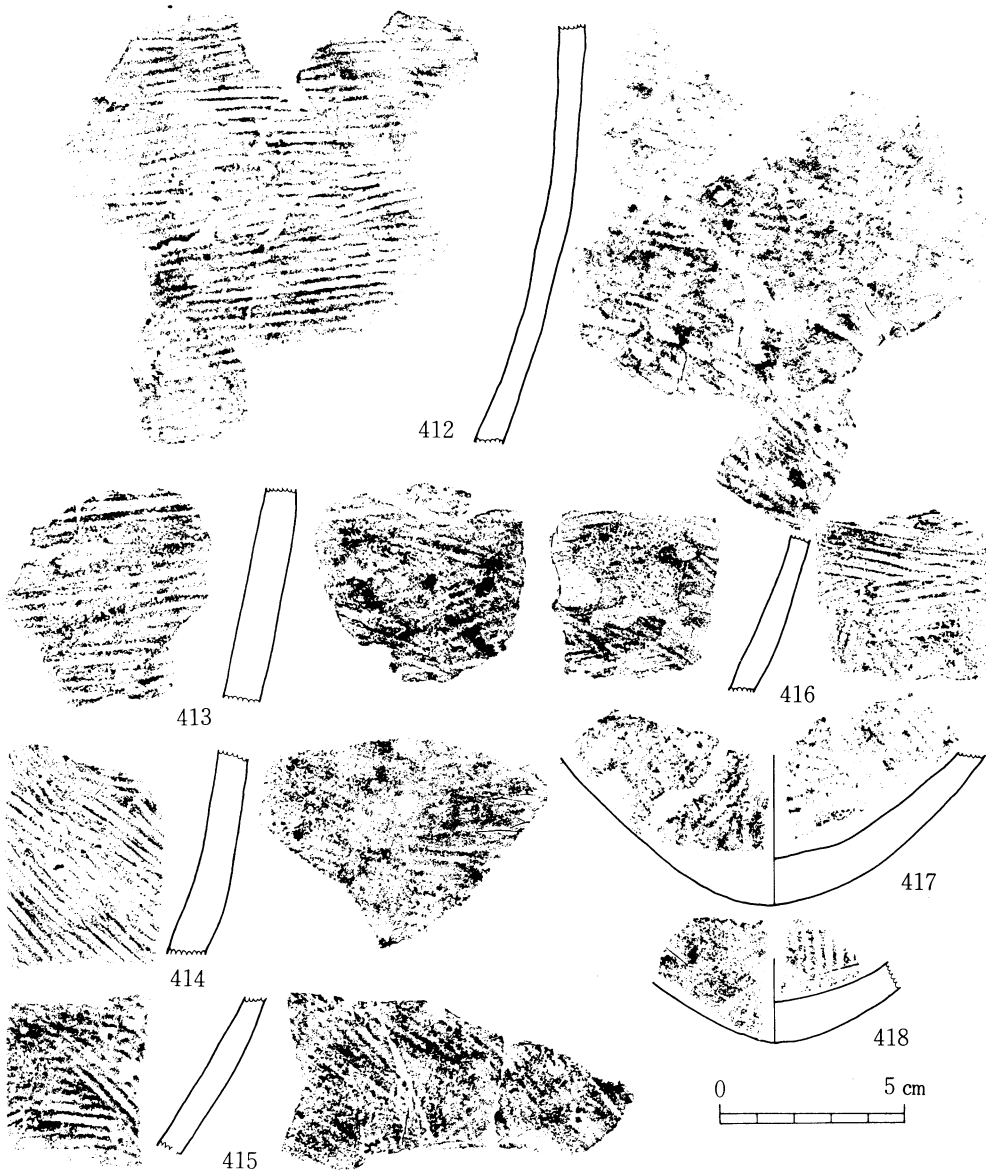
第57図 縄文土器 (4)



第58図 縄文土器 (5)



第59図 縄文土器 (6)



第60図 縄文土器 (7)

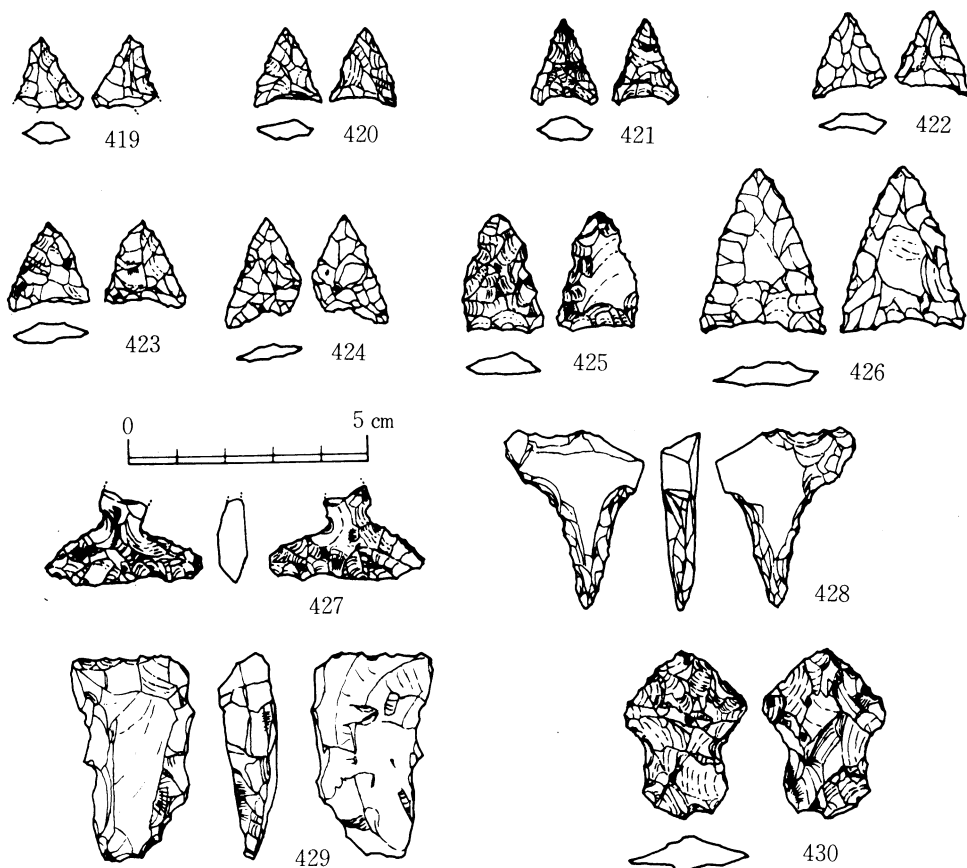
イ. 石器

(1) 5層出土の石器 (第61図、第62図)

5層で出土した石器には、石鏃・石匙・石錐・スクレイパー・石銛・磨製石斧・磨石・叩き石などがある。

①石鏃 (419~426)

8点の石鏃があり、これらに共通していえることは、形態的にほぼ正三角形に近い形をし、浅いえぐりをもつことである。また、左右対称となるものは半数しかなく、特に422・423・424は片脚といってもいいほど不均衡である。424は石材に影響されてか、片面に凹部がみられ、細部の加工も粗い。425は片面に大剥離面を残している。長さは1.5cm~2.4cmに集中し、幅も1.4cmから1.9cmの間にあるが、426は長さ3.4cm、幅2.6cm、重さ3.9gと大型である。石材は黒曜石4・チャート2・安山岩2であるが、黒曜石4のうち、いわゆる黒い光沢を呈するのは1点のみで、他は石英質を呈している。出土区は、B5区(423)・C2区(426)・C3区(421・422)・C4区(420)・D1区(419)・D3区(424・425)である。



第61図 5層出土の石器 (1)

②石匙 (427)

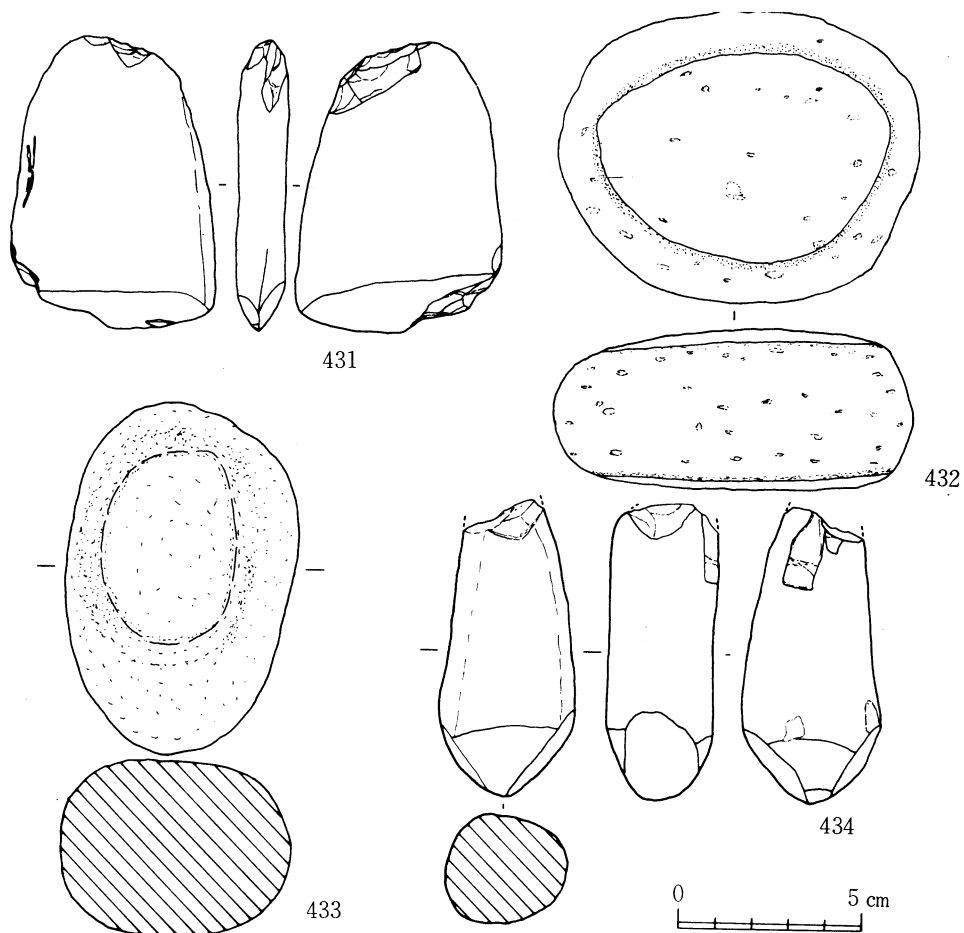
A 3区より出土した黒曜石製の横形石匙である。つまみは一部欠けているが、ほぼ中央に付いている。部厚いつくりであるが、周辺よりていねいな加工が施される。

③石錐 (428)

D 3区より出土したもので、頁岩質の石材を使用したT字形石錐である。扁平な原石を折断したもので、つまみは広がっており、多くの部分に自然面を残しているが、裏面片側だけに剝離加工が加えられている。刃部は両面からていねいに剝離作業が施されて細くしており、刃部角33度を測る。

④スクレイパー (429)

D 2区より出土した黒曜石製のスクレイパーである。横長の剥片の片面を周辺加工しており、その外反する部分を刃部とする。刃部角はほぼ水平といえる。



第62図 5層出土の石器 (2)

⑤石銛 (430)

D 3区より出土した黒曜石製の石銛である。全長3.4cm、茎長1.6cm、銛部幅2.5cm、茎幅1.7cm、厚さ0.7cm、重さ4.95g を測る。両面ともていねいな加工が施されており、銛部先端角は90度を測る。

⑥磨製石斧 (431)

C 3区より出土した、緑泥片岩製の磨製石斧である。河原石を使用したもので、加工痕跡は少ないが、刃部のみは両方から横方向のていねいな研磨を施している。頭部には打痕跡がみられる。全体に鉄分の付着が目立ち、摩耗している。

⑦磨石 (432・433)

2B区と3B区より各1点ずつ、砂岩製の磨石が出土している。432は2B区より出土したもので、長径10cm、短径8cm、厚さ4.3cmを測るだ円形の円礫を用い、いわゆる石けん状の形態を呈する。よく使用しており、表面・裏面・側面とも光沢を呈するほどツルツルとしている。433は3B区より出土したもので、長径9.5cm、短径6.3cm、厚さ4.8cmを測るだ円形の円礫を使用しているが、432の磨石と違って、使用痕と思われる面は一面しかなく、磨石と断定しかねる要素もある。

⑧叩き石 (434)

D 6区より出土した砂岩製の叩き石である。直径約3cmの丸みをもった角柱状円礫を用いているが、頭部には打痕跡があって欠けている。先端部はかなり使って、すりへった状況を呈している。また、周辺にも叩き痕があって、4面の角錐状を呈している。

(2) 3C層出土の石器 (第67図・第68図)

石鏃・削器・磨石がある。

①石鏃 (460・461)

黒曜石の石鏃2点が出土しており、共に先端部を少し欠いている。460はD 3区から出土したもので、長さ1.9cm、幅1.1cm、厚さ0.5cmを測る。二等辺三角形のすどい石鏃である。約4cmのえぐりを有し、ていねいな剥離作業で、いわゆる鋸歯状の側縁部をつくる。461はC 4区から出土したもので、長さ1.9cm、幅1.8cm、厚さ0.6cmを測る、正三角形の石鏃で約3cmのえぐりを有している。

②スクレイパー (462・463)

2点とも黒曜石製である。462はB 4区より出土したもので、半月形をした縦長の剥片の弧状となった辺に両面から加工を施し、刃部としている。463はD 5区より出土したもので、長方形を呈する部厚い縦長剥片の一長辺に、側縁から片側のみに細部加工が施される。

③磨石 (472)

C 4区から出土した砂岩製の磨石である。直径約9cm、厚さ4.5cmの平面略円形を呈する河原石を使用しているが、側縁部をよくすっており、かすかに綾もみえる。

(3) 中期～晩期の遺物 (第63～66図)

435 (C-3-Ⅲ、B-4-Ⅲ) は大形沈線と刻目文の組み合わせ文様をもっている土器である。3つの突起を1セットにし大・小の突起を口唇部に付けている。調整はナデ調整を内外面とも行なっている。並水式土器であろう。436 (B-4-Ⅲ a) は突帯部に刻目文を施し、内側は貝殻条痕の調整がみられる。形式不明。437 (B-5-Ⅲ a) は口縁部で段をもち上部だけに沈線文を施こしている。内側は貝殻調整痕がみられる。438 (A-2-Ⅲ) は突帯をもち・刺突文を施こしている。胎土、焼成は良い。裏側は貝殻調整痕がみられる。439 (B-3-Ⅲ a) は口縁部はカマホコ型で口唇部に突起を付けている粗製土器である。口縁部の器形は外反し調整は裏側は貝殻である。440は貝殻調整痕の土器で段があり段上に平行沈線を施こしている。441は2本の突帯をもち貝殻条痕の調整がみられその上に手ナデが若干ある。B-4-3 a と3 C層に出土している。442はC-3-Ⅲ a層より出土した土器である。口縁部は三つ山の突起をもち若干外反する。内外面とも貝殻条痕を施こしている。底部は平底であり、貝殻調整もみられる。中期の土器であろう。

443はC-5-Ⅲ層から出土したもので口唇部に貝殻の刻目を施こし、口縁部は沈線の間に長円の形をした沈線を施こしている。器面はナデ調整行なっているが底部には貝殻条痕もみられる。底部は平底である。中期の岩崎式土器と思われる。444は4-3-Ⅲ aより出土したもので平行沈線が波状に施こされている。調整痕は貝殻である。445、446も444同様平行沈線文を施こす土器であり、貝殻調整痕もみられる。447 (D-3 Ⅲ) は平行沈線文であるが貝殻調整痕がない、448はC-3-Ⅲ a層に出土したもので沈線文土器である。胎土、焼成共に良い。444～448は後期の指宿式土器系であろう。

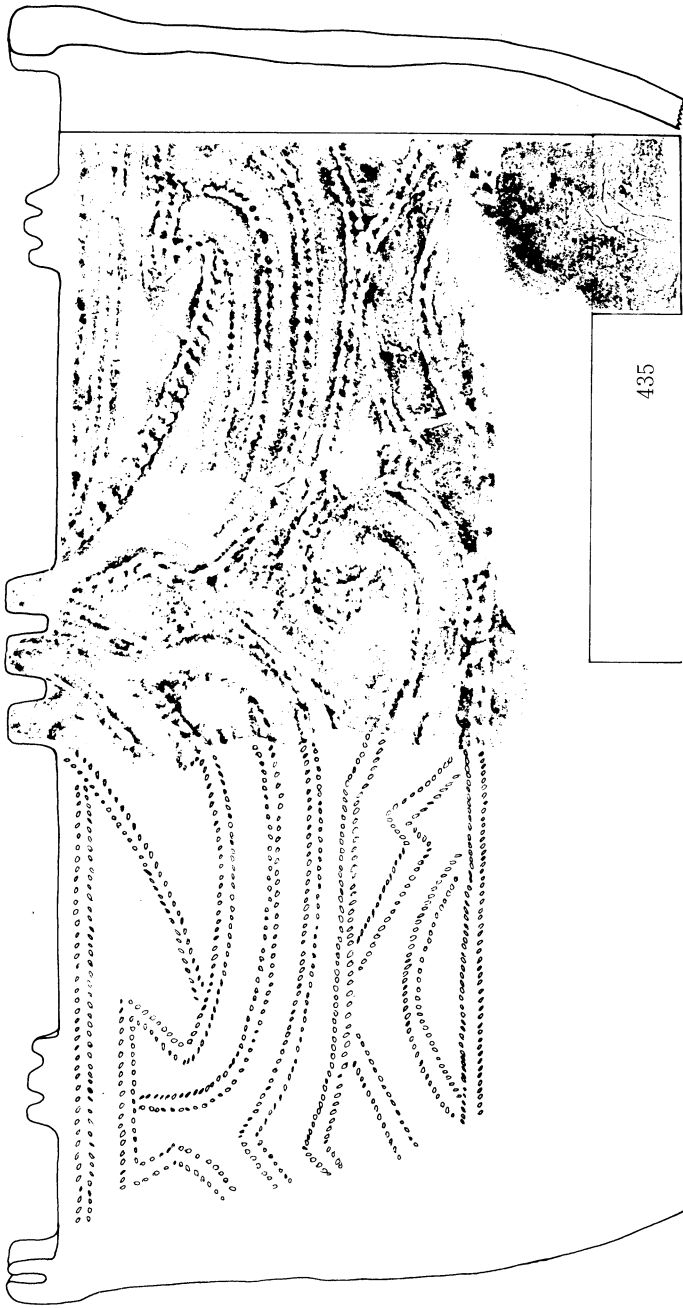
449は波状口縁の一部で「く」字形口縁である。磨消縄文が口縁部にあり研磨土器である。西平武土器系になると考えられる。D-5-Ⅲ a層に出土している。

450は外反する。口縁部で研磨土器である。D-3-Ⅲ Cより出土3 a層より落ち込んだと考えられる。451はa-4-Ⅲ aとC-4 Ⅲ a層に出土している、研磨土器である、黒色研磨土器の系統であろう。453はC-3-Ⅲ a層より出土した土器で無文である。全体的に黒褐色を呈しているが部分的に暗赤褐のところがある。外面はススが多量に付着している。胎土、焼成はあまり良くない。器形は浅鉢である。晩期の土器で晩期Ⅱ式の時期にあたりと考えられる。底部は丸か台が付くか不明である。

452は口縁部に貝殻刺突連続文を施している土器である。地文は貝殻調整痕で外面だけであり、内面はヘラ調整痕である。D-3-Ⅲ C層に出土している。形式は不明であるが市来式土器系に近い。

454～459はⅢ層に出土した土器の底部である。平底が主で454と459が若干上げ底である。459は不安定な底部で厚い。その他は安定感がある。

Ⅲ層はⅢ b層の軽石層で分けられているが遺物は上下の動きがあり3 a層と3 c層の遺物が接合する土器もあった。



435



436



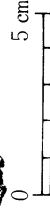
437



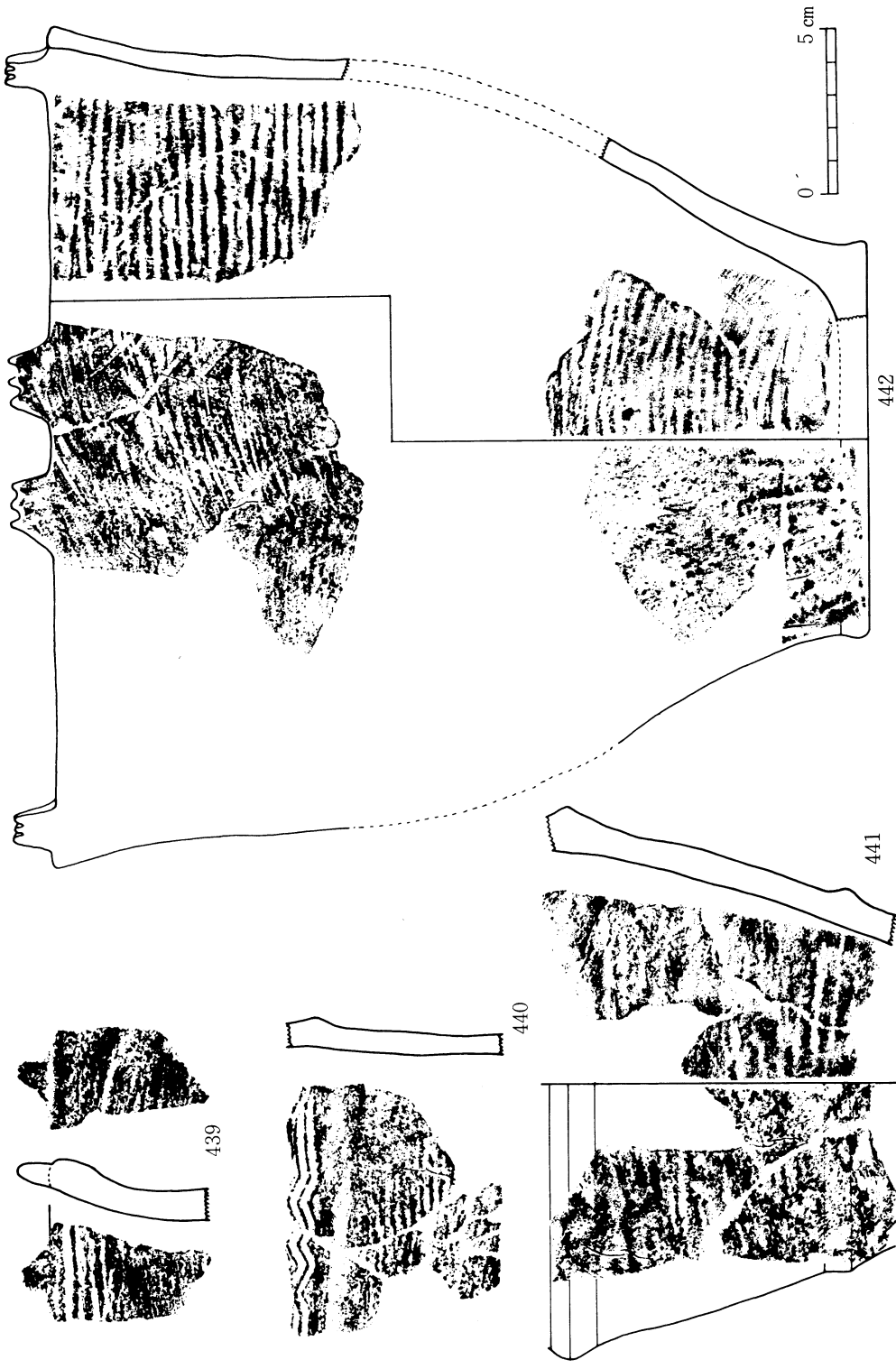
438



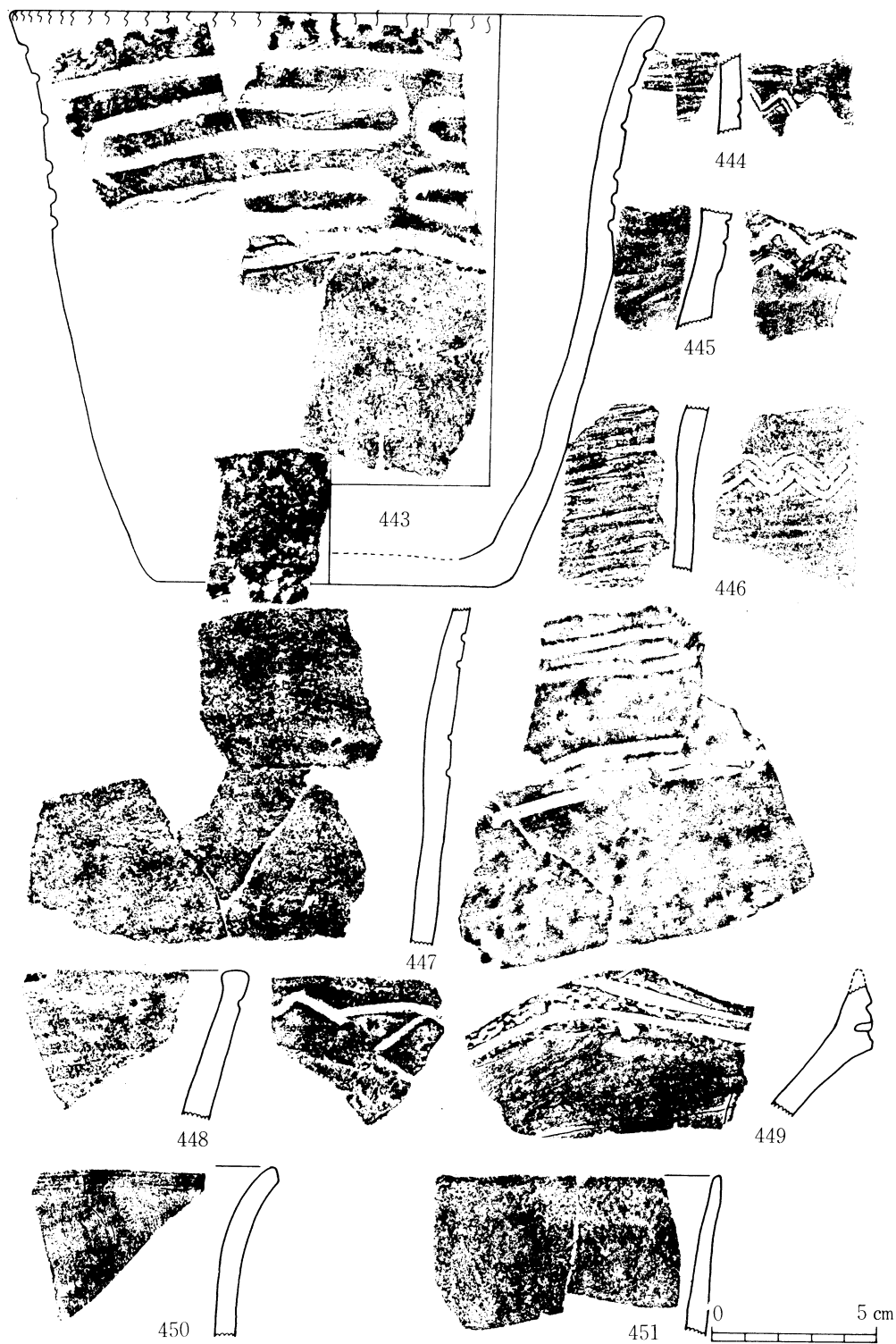
439



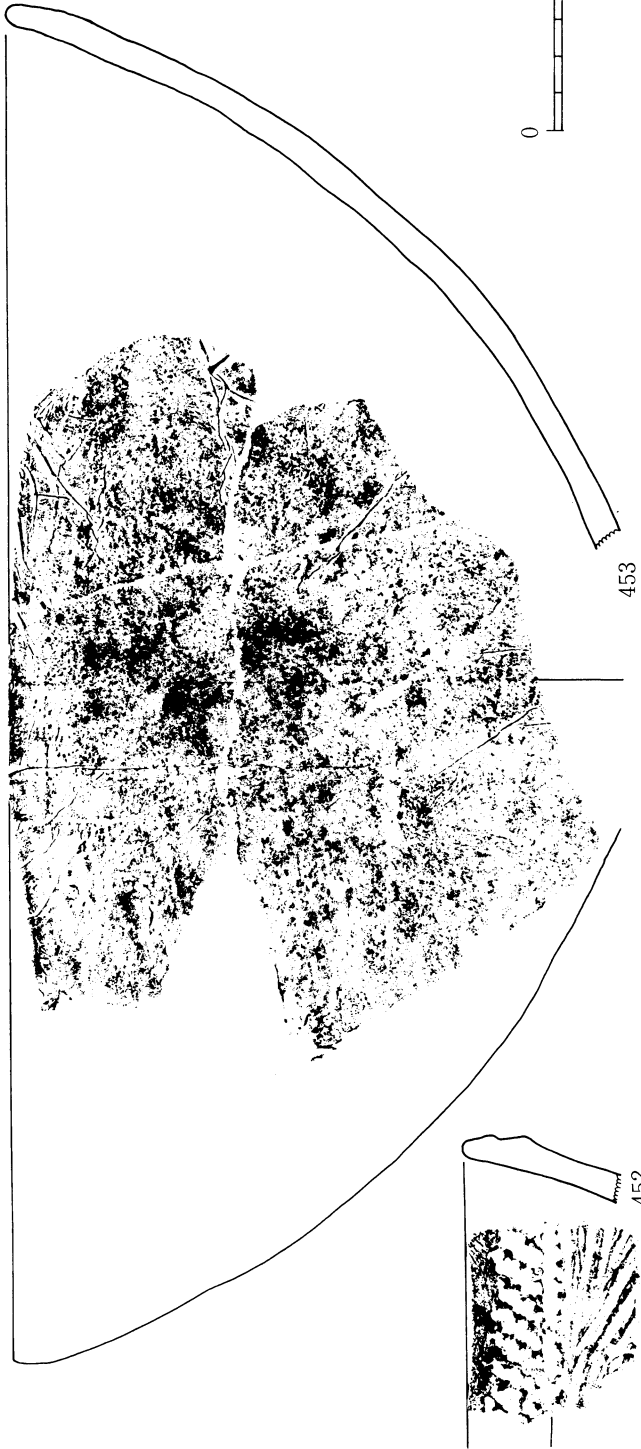
第63図 縄文土器 (8)



第64図 縄文土器 (9)



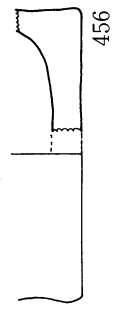
第65図 縄文土器 (10)



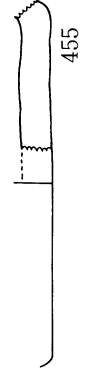
0 5 cm

453

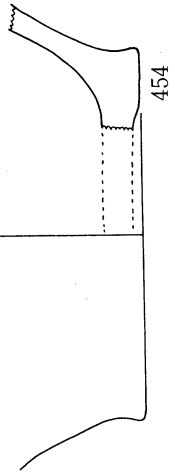
452



456



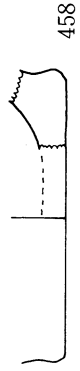
455



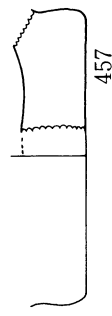
454



459



458



457

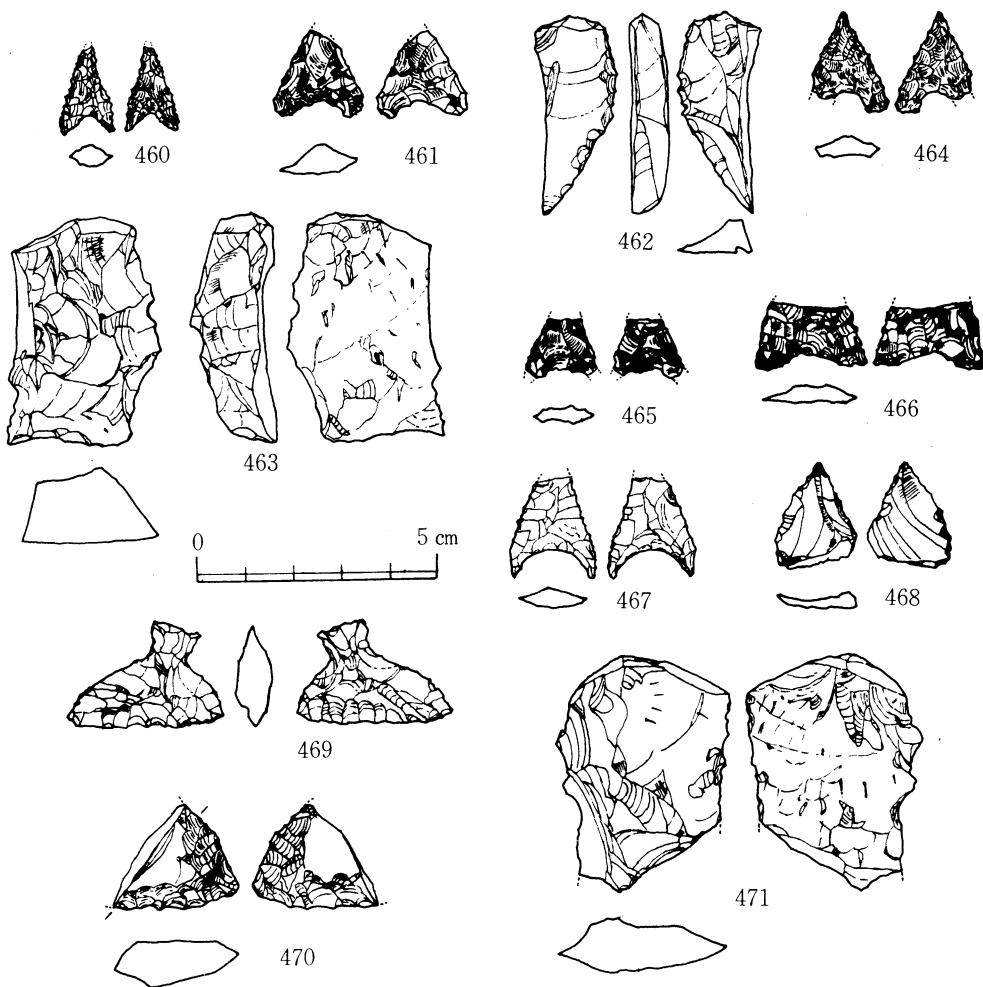
第66図 縄文土器 (11)

②石器 (第67図・第68図)

3 a 層より出土した石器には石鏃・石匙・スクレイパー・磨製石斧・磨石がある。

①石鏃 (464~468)

5本の石鏃が出土しており、石材には黒曜石4本と安山岩1本がある。形態的には平基式のもの1本で、他は凹基式である。464は長さ2.1cm、幅1.7cmを測る先端のとがった二等辺三角形のものである。えぐりは方形に近く、鋏形鏃の部類に近い。調整はていねいであり、D2区より出土している。465は頭部と脚部を欠いており、C2区より出土している。466も頭部を欠いているが、幅2.3cmと割に大型で、浅いえぐりをもつ。B4区より出土している。467は頭部を欠くが、えぐりがU字となった安山岩製の整った鏃で、C4区より出土している。468はC4区で出土した平基式のもので、薄い剥片の2辺の縁辺部のみに、こまかい剝離調整を加え



第67図 Ⅲ層出土の石器 (1)

た粗雑なものである。

②石匙 (469・470)

黒曜石製のものが2点出土している。470はB3区より出土したもので、欠損品のため原形は不明であるが、刃部は外反しており、周辺剥離はていねいである。469はC3区で出土しており、つまみがやや片方に寄っている。刃部はほぼ水平で、つまみのえぐりはややくぼんでいる。刃部のみはこまかい押圧剥離が加えられる。

③スクレイパー (471)

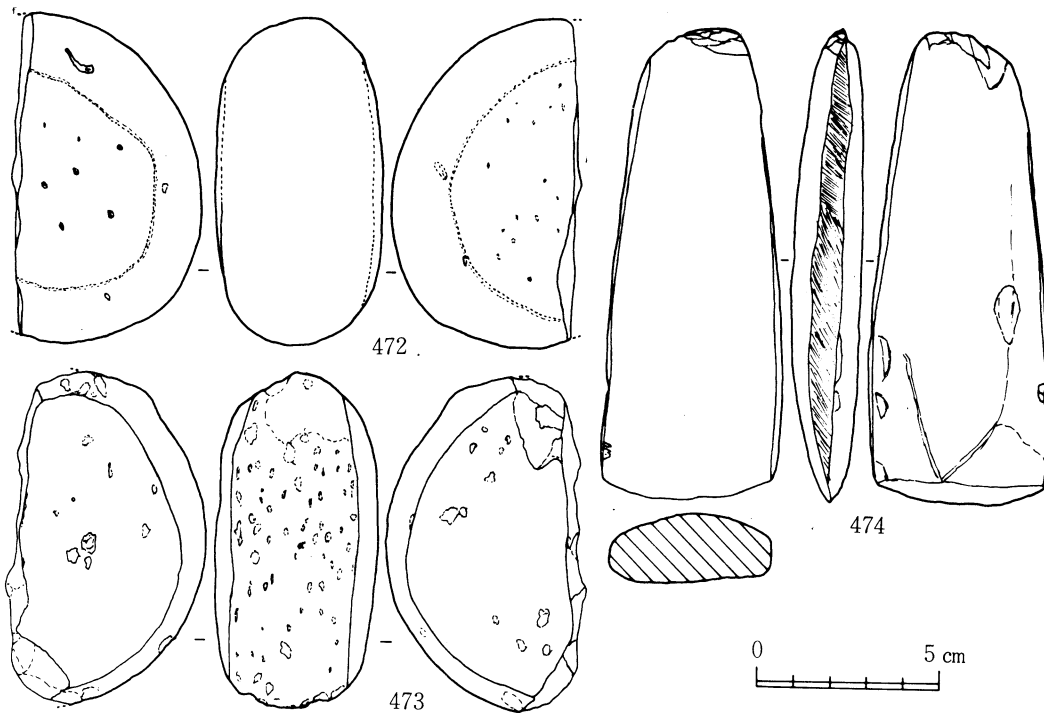
4区より出土した黒曜石製のスクレイパーで、縦長剥片の一侧縁の一部分にこまかい剥離痕をみるが、整然としたものではない。

④磨製石斧 (474)

B2区より出土した長さ12.7cm、幅4.9cm、厚さ1.9cmの粘板岩製石斧である。頭部に使用中と思われる打撃痕跡がみられる。表面、裏面、側縁ともていねいに研磨された定角式の石斧で、刃部には小さな刃こぼれが一部にみられる。

⑤磨石 (473)

B4区より出土した磨石で、半欠品である。砂岩の自然円礫を用いており、両面および、側面の一部がすられている。



第68図 3層出土の石器 (2)

3 古墳時代以降

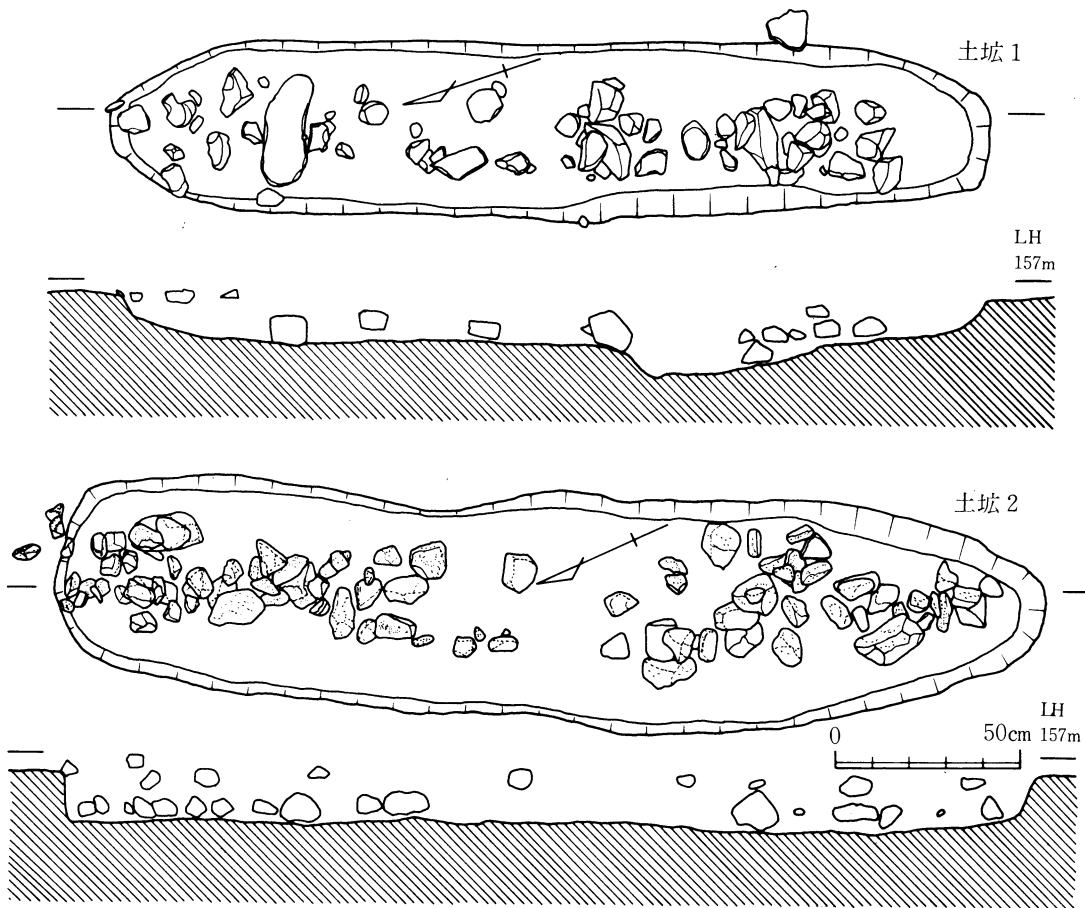
(1) 遺構

① 土塚 (第69図)

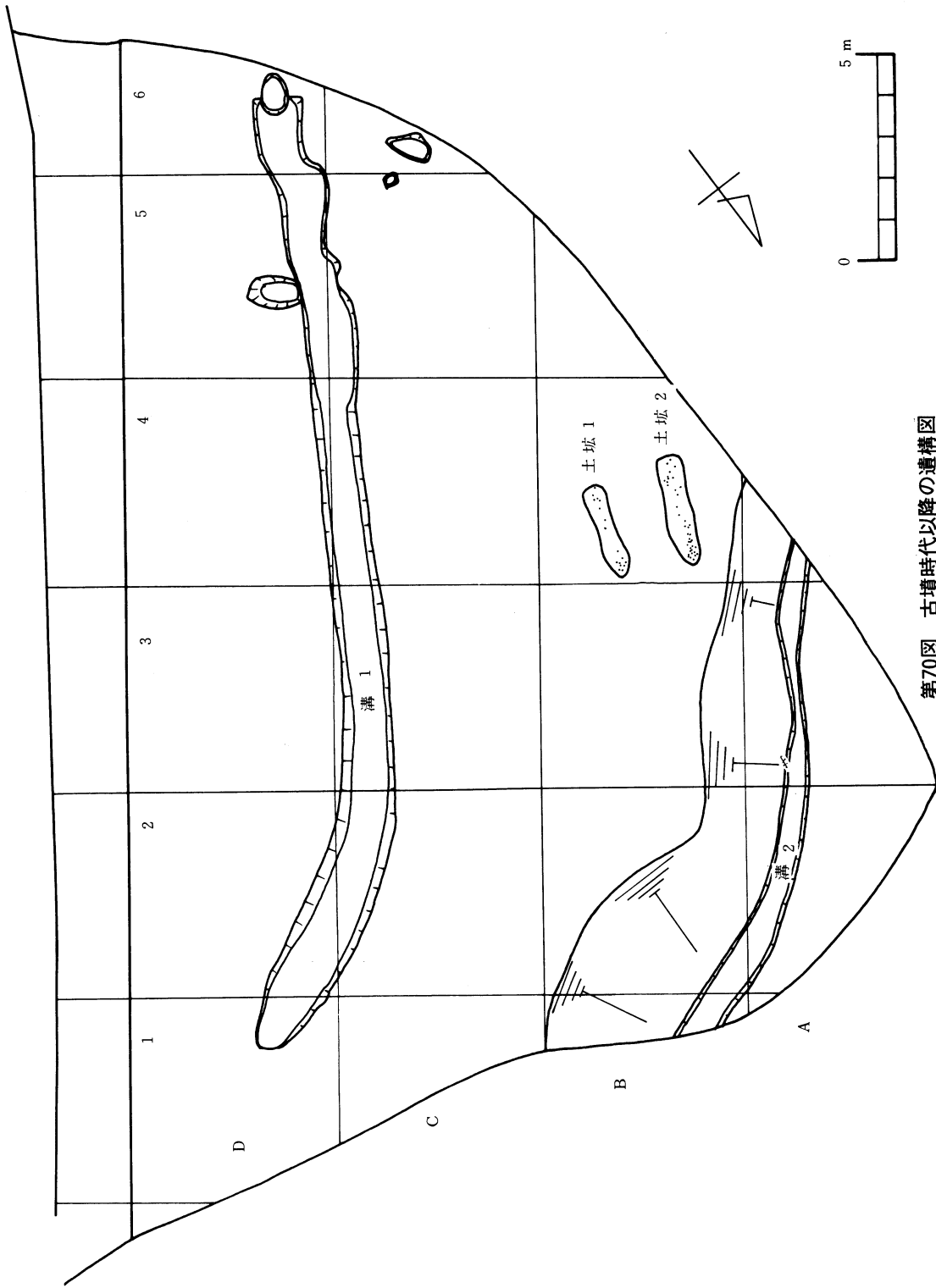
B 4 区付近に 3 a 層を掘り込んで、暗褐色の土のはいった長だ円形の土塚が 2 基ある。

土塚 1 は N20E に主軸をもち、長径 2.4m、短径 0.5m、深さ 0.1m を測る。土塚内にはこぶし大から人頭大の安山岩を主体とした円礫が多数あり、このうち北端付近にある人頭大の礫は、長軸と直交しており、枕石のようにもみえる。礫は規則的に置かれている状況でなく、全面に散在している。床面に貼り付いているものは少なく、浮きあがったものが多い。床面は平坦であるが、南側はやや凹凸がみられる。

土塚 2 は N25E に主軸をもち、長径 2.7m、短径 0.6m、深さ 0.15m を測る。これも埋土中に多数の円礫を含んでいるが、ほぼ土塚全体に広がっている。床面に貼り付いているものが多い。



第69図 土塚



第70図 古墳時代以降の遺構図

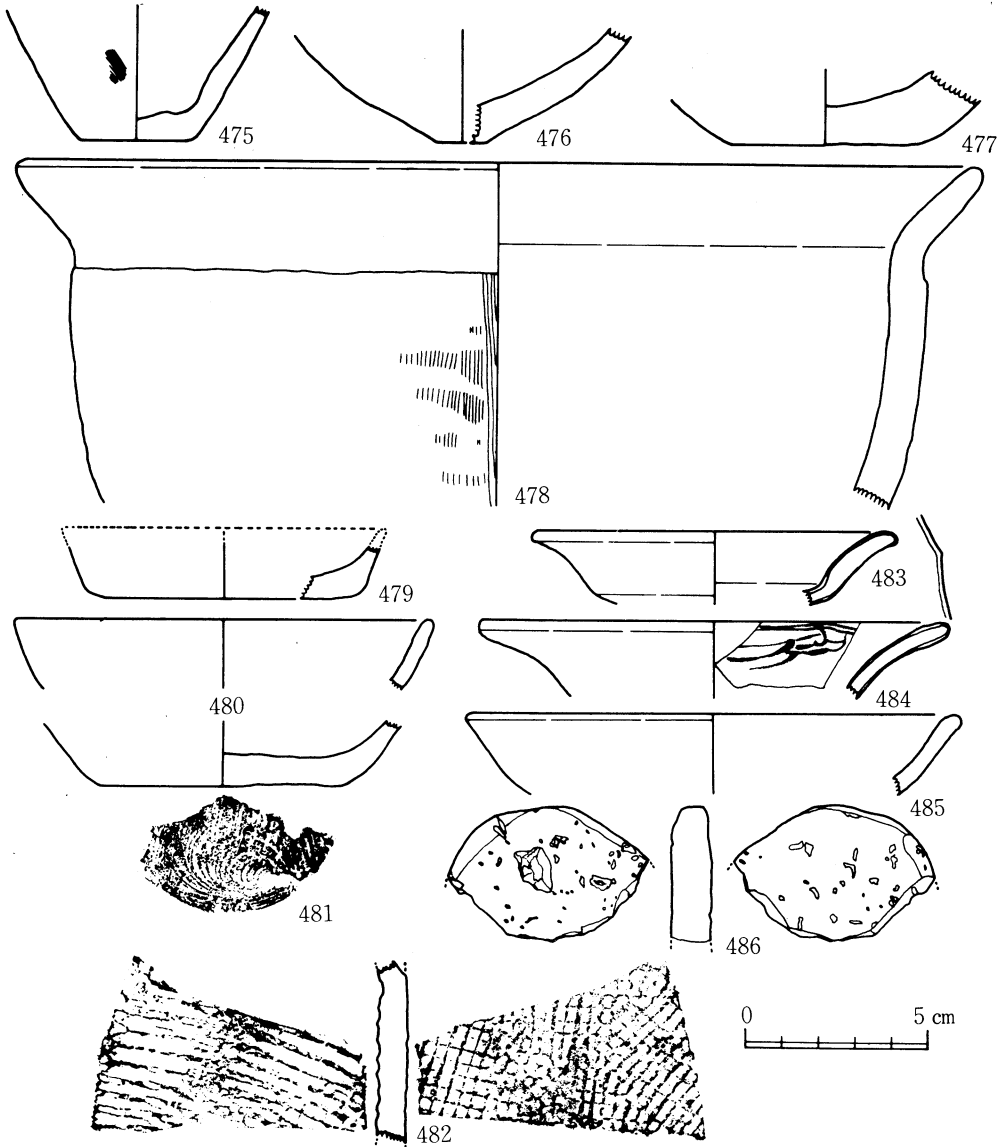
床面は、ほとんど平坦である。

②溝状遺構 (第70図)

3 a 層を掘り込んで、暗褐色の土がはいった溝状遺構が2本ある。

溝状遺構1は台地を横切るように、C区とD区の境付近を1区から6区まで続き、両端は浅くなっておわっている。検出された長さは約24m、幅は1.2m、深さは15cmである。端部はやや弧状を呈している。

溝状遺構2は台地末端にあり、1B区から4A区へと続いているが、両方とも崖面となって切断されている。検出した長さは約12m、幅は0.8m、深さは10cmである。



第71図 古墳時代以降の遺物

(2) 遺物 (第71図)

①土師器 (475~481)

鉢形土器・壺形土器・甕形土器・皿・坏がある。

鉢形土器 (475・476) 475はB5区より出土した小型のものである。安定した直径3cmの平底で、開きながらまっすぐのびる。外面・内面とも指でていねいになでている。476は直径1.4cmを測る小さな平底をもち、強く外へ開いて立ちあがる。外面はヘラ様のもので、研磨に近くていねいになで、内面は板様のもので下から上へなでている。両方とも淡茶褐色を呈するが、476は外面が黒い。石英・黒雲母等の微石粒を多く含む砂質胎土である。

壺形土器 (477) 溝から出土したもので直径5.1cmの平底である。外面・内面ともヘラなどで仕上げる。外面は赤みがかかった茶褐色、内面は淡茶褐色を呈し、焼成は普通である。5mm大の小礫を含む砂質の胎土である。

甕形土器 (478) 口縁部直径27cmを測り、口縁部がくの字状に外反するものである。外面の頸部から上は横方向のヘラなどで、下はハケなでのあとヘラでなでている。頸部で強くくびれる。内面は、ヘラによるあらいなで、頸部から上は横方向、下は縦方向である。淡茶褐色を呈し、焼成は普通である。石英・雲母粒などの多い砂質胎土を使う。

皿 (479) 口縁部が外へ開きながら、まっすぐのびるもので、底部切り離しはヘラである。外はやや明茶褐色がかっているが、内面とも乳灰色を呈し、焼成は普通で、精製土を使う。

坏 (480・481) 480は口縁直径11.5cmを測り、端部は丸みをもつ。乳灰色を呈し、焼成は普通である。481は底部切り離しが糸切りのもので、直径6.8cmを測る。淡茶褐色を呈するが外面・内面ともススが附着している。淡茶褐色を呈し、焼成は良い。両方とも精製土を使う。

②須恵器 (482)

外面が小さい正格子目の叩き、内面が平行線の叩きの施されたかめの破片である。暗灰色を呈し、焼成は良い。

③青磁 (483~485)

貫入の多い灰緑色あるいは緑色の釉がかかり、灰色あるいは白灰色土を使う。483は口縁部が強く外反する皿で、口縁直径10cmを測る。484も口縁部が強く外反する稜花皿で、口縁直径13cmを測る。内面には劃花文が描かれる。485は溝から出土した坏で、口縁直径13.6cmを測る。口縁部へまっすぐのびる。

④軽石製品 (486)

表面・裏面・側面をすって、扁平な略円形の円盤をつくっている。D1区から出土している。

5 科学データ

1. 加栗山遺跡、加治屋園遺跡の土層調査と土壌分析

静岡大学農学部 加藤芳朗

1 土層区分

両遺跡の土層について、火山灰の堆積と土壌化という観点からの区分（火山灰層位学的区分を試みた（第4図））。現地発掘調査班の土層区分はおおむね筆者の区分と一致した。

まずアカホヤ層、軽石火山豆石層から説明する。加栗山遺跡のⅢb層、加治屋園遺跡の4a層は、その外観的な特徴（1mm以下の火山ガラスの密集層、淡オレンジ色、しこしこした感じ・移植ゴテでけずるとサクサクする。指先に付着した火山ガラス片が太陽光の反射でキラキラ光る）、火山ガラスの屈折率が1506~1512、しそ輝石のそれ（8）が1706~1713（モード1709~1710）（群馬大教育学部新井房夫教授の測定による）であること。その下位に軽石—火山豆石（大きさ1~0.5cmの丸い球ねぎ状構造をもった淡褐色の粒子）を含む層（加栗山Ⅲc層、加治屋園の4b層が来ること（宇井、1973）から、赤ホヤ層であることが確認された。これは中部~南部九州一円に広く分布する火山灰で、鹿児島湾口の海底付近に噴出源をもつといわれる。幸屋火砕流（約6000年前）の噴出に伴うものとされている（宇井、福山、1972、宇井、1973）出土遺物の年代の前後関係を知る上できわめて有力なカギ層である。最近の調査では遠く本州中部にまで分布が確認されている。（町田、新井、1978）。

この他に、桜島火山起源と思われる軽石も3層認められた。うち、最下部のものは、薄層理火山灰層（¹⁴C年代10630~11200年B.P.）としてすでに報ぜられている。（石川他、1972）。

加栗山遺跡のⅥ~Ⅸ層、加治屋園遺跡の7a~7d層は、それぞれ、4つのfallunjsをもった顕著な軽石層である。このうち下から2つ目のfallunit（それぞれ、Ⅷ層、7c層）は黒色粒子に富んで、ゴマシオ状を呈する。また加治屋園遺跡の3b層も黄褐色の軽石層である。これらが桜島火山の一連の噴出物のどれに当るかは未詳である。

上記の赤ホヤ層、軽石層を利用して、両遺跡の土層区分の対比を行うことができる。図1、2の説明記載を参考にすると表1のごとくなる。加栗山には加治屋園の2、3bに当る層がない。縄文土器包含層が加栗山でVa、加治屋園で5a、5bだといわれるのでⅣとVaはあるいはVaだけが5a、5bに相当することになると、Vbは6a、6bに対比される。

2 一次鉱物組成

採取試料を風乾し、（10gにコニカルビーカーに入れて湯せん器上で、過酸化水素水を加えて有機物を分解する。ついで青波処理を行ない温式篩別して300井（0.0046mm）のふるい上に残った砂（これを70.05mmとする）を集めて0.2mmのふるいにかけて、これを通過したもの（0.2~0.05mmの砂）をスライドガラス上でカナダバルサムに封じて検鏡し、400粒前後を同定して一次鉱物組成を求めた。表11は主要鉱物群にまとめた組成百分率を示してある。実際には各群内を、火山ガラスの付着の有無、屈折率の大小、色の濃淡、形態などに基づいて細分してあるが、これらについては、必要に応じて説明のすることとする。

第72図は、上で述べた加栗山、加治屋園両遺跡の土層の比較（第10表）を検討するために関係土層を表2から抽出して、その鉱物組成を図化したものである。

同第72図の加治屋園3aは加栗山Ⅱ、Ⅲaと似た金鉱物組成であるが、Ⅲaは扁平型ガラスが多く、むしろ、つぎの3cやⅢbとの共通性が強い。3cは火山ガラス（とくに扁平型ガラス）がきわめて多く、加栗山Ⅲb（アカホヤ層）に近い。

第72図に掲げた、加栗山Ⅳと加治屋園5 a、5 bおよび加栗山Ⅴ a、Ⅴ bと加治屋園6 a、6 bも互に似た組成であるが、（加治屋園の方が汚れた（結晶子を含むため）火山ガラスが多く、扁平ガラスが少ない。しそ輝石に対する普通輝石や不透明鉄鉱物の割合が大きいなど細かい点での相違が見出される。

第72図の加栗山Ⅷと加治屋園8bとは、火山ガラスが多いことや石英、岩片が比較的多い（ともに数%）点では共通するが、火山ガラスの内容は、前者で扁平ガラスが圧倒的なのに対して、後者では、多孔、扁平、繊維型ガラスが大体等量である。

以上のように、鉱物組成から野外観察による土層の対比結果（第10表）を検討するといくつかのくい違いが出てくる。これらの土層はいずれも土壌化したものであり、降灰速度のおだやかな時期の堆積物と考えられる。これが鉱物組成の変異を大きくしているのが、今後の検討にまちたい。

引用文献

石川秀雄、肥後精一、泊芳秀、大木公彦、浜崎和男（1972）

蒲生軽石流および新期火山灰、軽石層のC年代、地質雑、78巻、563～565頁

石川秀雄、加藤芳朗（1977）

鹿児島市加栗山遺跡における火山灰層の層序とC年代、鹿児島大学教育研究紀要28巻、11～14頁

木越邦彦、福岡孝昭、横山勝三（1972）

始良カルデラ妻屋火砕流のC年代、火山、2集、17巻、1～8頁

町田洋、新井房夫（1978）

南九州鬼界カルデラから噴出した広域テフラーアカホヤ火山灰、第四紀研究17巻143～164頁

宇井忠英（1973）

幸屋火砕流一極めて薄く拡がり堆積した火砕流の発見、火山、2集、18巻153～168頁

宇井忠英、福山博之（1972）

幸屋火砕流堆積物のC年代と南九州諸火山の活動時期、地質雑、76巻、631～632頁

第10表 加栗山・加治屋園両遺跡土層区分の対比

加栗山	加治屋園	備 考
I	1 2	
II III a	3 a 3 b 3 c	褐色軟質火山灰層（やや粘質）中部に軽石層（3 b）を挟む
III b	4 a	アカホヤ層（ガラス質火山灰層）
III C	4 b	軽石一火山豆石層
IV	5 a 5 b	上半暗褐色火山灰層（やや粘質）
V a	6 a	下半黒褐色火山灰層（下部軽石多し）
V b	6 b	
VI VII VIII IX	7 a 7 b 7 c 7 d	軽石層
X	8 a	極暗赤褐色粘質火山灰質（ローム層）
X I	8 b	黒色粘質火山灰層（ローム層）
X II	8 c	極暗褐色粘質火山灰層（ローム層）

加栗山遺跡土層区分表

発掘班による土層区分		石川教授による地質区分	
I	耕作土	I	黒色火山灰層
II	火山灰層（ボツコ層）	II	黄褐色ローム層
III	黄褐色土層 （パミス混入） （粘質あり）	III	黄褐色ローム層 （下部は黒色に漸移）
IV	青灰色粘質土層	IV	茶褐色ローム層
V	a 黒褐色粘質土層パミス少 b 〃 〃 〃 パミス多	V	茶褐色ローム層
VI	パミス層 ⊕	V	橙色軽石層
VII	〃 ⊕ 硬い	VI	砂混り橙色軽石層
VIII	〃 ⊕ 砂混	VI	軽石砂層
IX	〃 ⊕	VII	橙色軽石層
X	暗褐色粘質土層	IX	茶黒色粘質ローム層
X I	褐色粘質土層	X	黒色粘質ローム層
		X I	チョコレート色粘質ローム層
		X II	茶褐色ローム層
		X III	黄褐色火山灰層
		X IV	薄層埋火山砂層
	粘質シラス	X V	シラス層
	シラス		

加治屋園遺跡土層区分表

発掘班による土層区分	
1	
2	
3	a b c ボツコ層
4	a b 軽石層
5	a b 青灰色層
6	黒褐色層
7	a b c d 軽石層
8	a b c d e f g 茶褐色層 暗褐色層 }チヨコ層
9 12	

表11 細砂(0.2~0.05mm)の一次鉱物組成(粒数%)

遺跡	試料	一次鉱物								鑑粒定数	
		石英	斜長石	角閃石	しそ輝石	普通輝石	不鉄透鉱物	火山ス	岩片		その他
加栗山遺跡	II	<1	31	<1	8	4	6	42	<1	8	253
	III a	<1	30	—	10	4	<1	49	6	<1	357
	III b	<1	28	—	7	2	<1	58	4	<1	376
	III c	<1	21	—	2	2	1	68	5	—	434
	IV	<1	45	—	9	3	4	36	3	<1	372
	V a	<1	44	—	9	2	2	39	2	<1	413
	V b	2	54	—	8	3	3	28	2	<1	382
	VI	—	61	—	6	3	4	26	<1	<1	372
	VII	1	42	—	4	1	5	36	12	<1	421
	VIII	—	62	—	4	2	3	29	<1	<1	447
	IX	<1	84	<1	4	4	4	3	1	—	364
	X	2	68	<1	5	2	5	15	2	<1	369
X I	3	32	2	2	<1	2	49	8	1	392	
X II	2	40	<1	3	—	2	47	5	<1	390	
加治屋園遺跡	2	<1	20	<1	8	3	2	53	13	—	412
	3 a	—	29	—	13	4	2	37	15	<1	371
	3 c	<1	21	<1	7	3	3	62	4	—	457
	5 a	<1	35	—	10	3	6	41	4	<1	365
	5 b	<1	44	<1	9	5	5	34	2	—	359
	6 a	<1	46	—	9	6	6	27	5	<1	399
	6 b	<1	47	—	11	5	4	30	3	—	384
8 b	5	14	<1	<1	—	2	71	5	2	384	

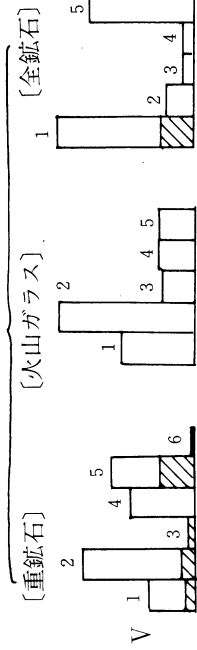
表12 重鉱物、火山ガラスの内容

一次鉱物		*	IV	V a	V b	VI	
重鉱物	しそ輝石	淡色	+	3	8	5	4
		—	12	13	6	6	
		濃色	+	4	10	13	24
	—	32	38	26	13		
	普通輝石	淡色	+	—	—	2	2
		—	2	2	—	—	
		濃色	+	—	1	5	8
		—	20	9	21	13	
	火山ガラス	不透明	+	11	8	12	17
		鉄鉱物	—	16	12	10	14
角閃石		—	<1	—	—	—	
鑑定粒数			119	102	115	108	
火山ガラス	多孔型		23	25	31	65	
	扁平型		45	45	26	6	
	繊維型		10	15	13	21	
	結晶子型		11	6	16	5	
	褐色型		11	9	15	3	
鑑定粒数		111	139	82	96		

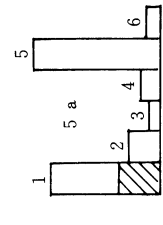
*
火山ガラスを付着するもの+
付着しないもの-

(1) 加栗山

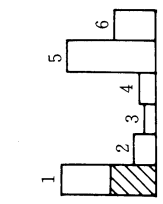
[火山ガラス]



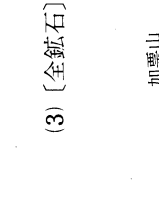
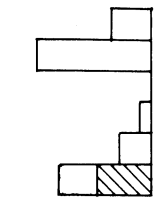
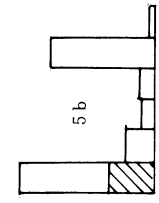
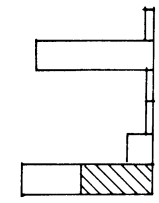
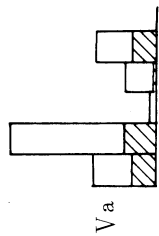
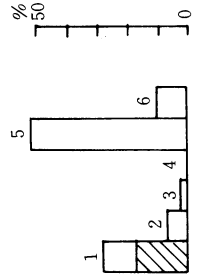
[全鉱石]



[全鉱石]



%



(3) [全鉱石]

加栗山

図3 砂試料 (0.2~0.05mm) の一次鉱物組成図

- 凡記号
 1 重鉱物
 2 輝石 (淡色)
 3 普通輝石
 4 同左 (濃色)
 5 不透明鉄鉱物
 6 角閃石
 例 火山ガラス 多孔型
 輝石 扁平型
 普通輝石 結晶子型
 不透明鉄鉱物 褐色型
 火山ガラス 片岩

斜線部は火山ガラスを付着させた粒子

第72図 土層分析図

2 放射性炭素年代測定

本遺跡は3点の¹⁴C測定を行なった。Ⅷb層より出土した炭は少量であったため測定不能であった。Ⅴa層の第2集石より検出されたものと、Ⅲc層の集石より検出されたものが測定されてきた。なお測定者は日本アイソトープ協会に依頼した。

日本アイソトープ協会コード	依頼者コード	¹⁴ C
N-3924	加治屋園No 2	7550±130YB.P. (7330±125YB. P.)
N-3925	加治屋園No 3	5020±105YB.P. (4880±100YB.P.)

年代は¹⁴Cの半減期5730年（カッコ内はLibbyの値5568年）に基づいて
計算され、西暦1950年よりさかのぼる年数（Years B.P）として示されて
います。日本アイソトープ協会

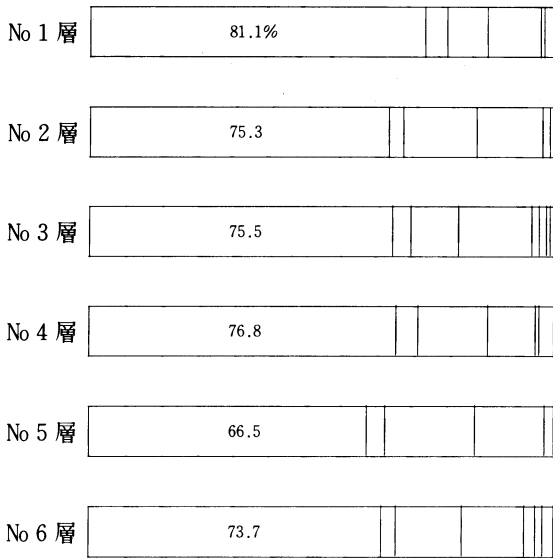
加治屋園No 2は塞ノ神B式が検出されるⅤa層である。No 3は轟式土器が検出されるⅢc層の集石である。

3 水筈調査

全体を4ブロックに分けて包含層の排土の全部を水洗して小遺物を採集した。方法十字形の土手を境にして4ブロックに分けた。Ⅰ区はA、B-1・2、Ⅱ区はA・B・3～6、Ⅲ区はC・D-1・2、Ⅳ区はC・D-3～7として1面ずつ水洗をした。また土手部の調査は1mグリッドを組み各々の区を単独に水洗した。また第73～78図は1mグリッドの出土遺物図である。

第13表 層位別出土遺物と水簸遺物

	●		▲		○		△		⊗		●		★		■		合計
No 1	59	170	6	4	2	14	12	11	0	1	0	2	0	0			281
No 2	73	287	7	3	16	43	11	33	0	3	0	2	0	0			478
No 3	132	339	10	6	23	25	33	44	0	4	0	4	2	0	2		624
No 4	160	277	14	5	20	39	12	33	0	1	0	8	0	0	0	0	569
No 5	199	282	12	7	48	88	19	64	0	0	1	3	0	0	0	0	723
No 6	102	243	6	5	9	43	6	43	0	4	1	2	4	0	0	0	468
合計	725	1,598	55	30	118	252	93	228	0	13	2	21	6	0	2	0	3,143
	●		▲		○		△		⊗		●		★		■		
No 1	59	170	6	4	2	14	12	11	0	1		2					281
%	21.0	60.1	2.1	1.4	0.7	5.0	4.3	3.9		0.4		0.7					99.6
No 2	73	287	7	3	16	43	11	33	0	3	0	2	0	0			478
%	15.3	60.0	1.5	0.6	3.3	9.0	2.3	6.9		0.6		0.4					99.9
No 3	132	339	10	6	23	25	33	44	0	4	0	4	2	0	2		624
%	21.2	54.3	1.6	1.0	3.7	4.0	5.3	7.1		0.6		0.6	0.3		0.3		100
No 4	160	277	14	5	20	39	12	33	0	1	0	8					569
%	28.1	48.7	2.5	0.9	3.5	6.9	2.1	5.8		0.2		1.4					100.1
No 5	199	282	12	7	48	88	19	64	0	0	1	3					723
%	27.5	39.0	1.7	1.0	6.6	12.2	2.6	8.9			0.1	0.4					100
No 6	102	243	6	5	9	43	6	43	0	4	0.2	2	4	0	0	0	468
%	21.8	52.0	1.3	1.1	1.9	9.2	1.3	9.2		0.9	0.2	0.4	0.9				101.2



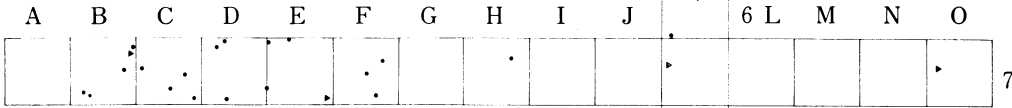
例言

- 黒曜石 (●細石刃
▲チップ)
- 頁岩 (○細石刃
△チップ)
- 砂岩 (⊗細石刃
●チップ)
- 土器 ★
- その他 ■ (礫など)

a : 出土遺物 b は水簸遺物

黒曜石 { ● 細石刃
▲ チップ } 砂岩 { ⊗ 細石刃
● チップ }

頁岩 (凝灰岩) { ○ 細石刃
△ チップ } 土器 ★




	●		▲		○		△		⊗		●		★		合計
	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	
K 1	1	1					1								3
K 2	1						1								2
K 3	4														4
K 4	1														1
K 5	6														6
K 6	3	6				1									10
K 7	15					1						2			18
K 8	1	1													2
K 9	2			1											3
K 10	1														1
K 11	2														2
K 12	1	1													2
K 13	2	8				2	1								13
K 14	6	2		2											10
K 15	7			2	1										10
K 16	2	15		3	2	1									23
K 17	6	7	1	1	1	1									17
K 18	9	8		1	2	1									21
K 19	4	1		1		1									7
K 20	4	2			2	2									10
K 21	5	1	1		1	2									10
K 22	2	5	1												8
合計	41	99	3	3	2	10	12	11	0	0	0	2	0	0	183

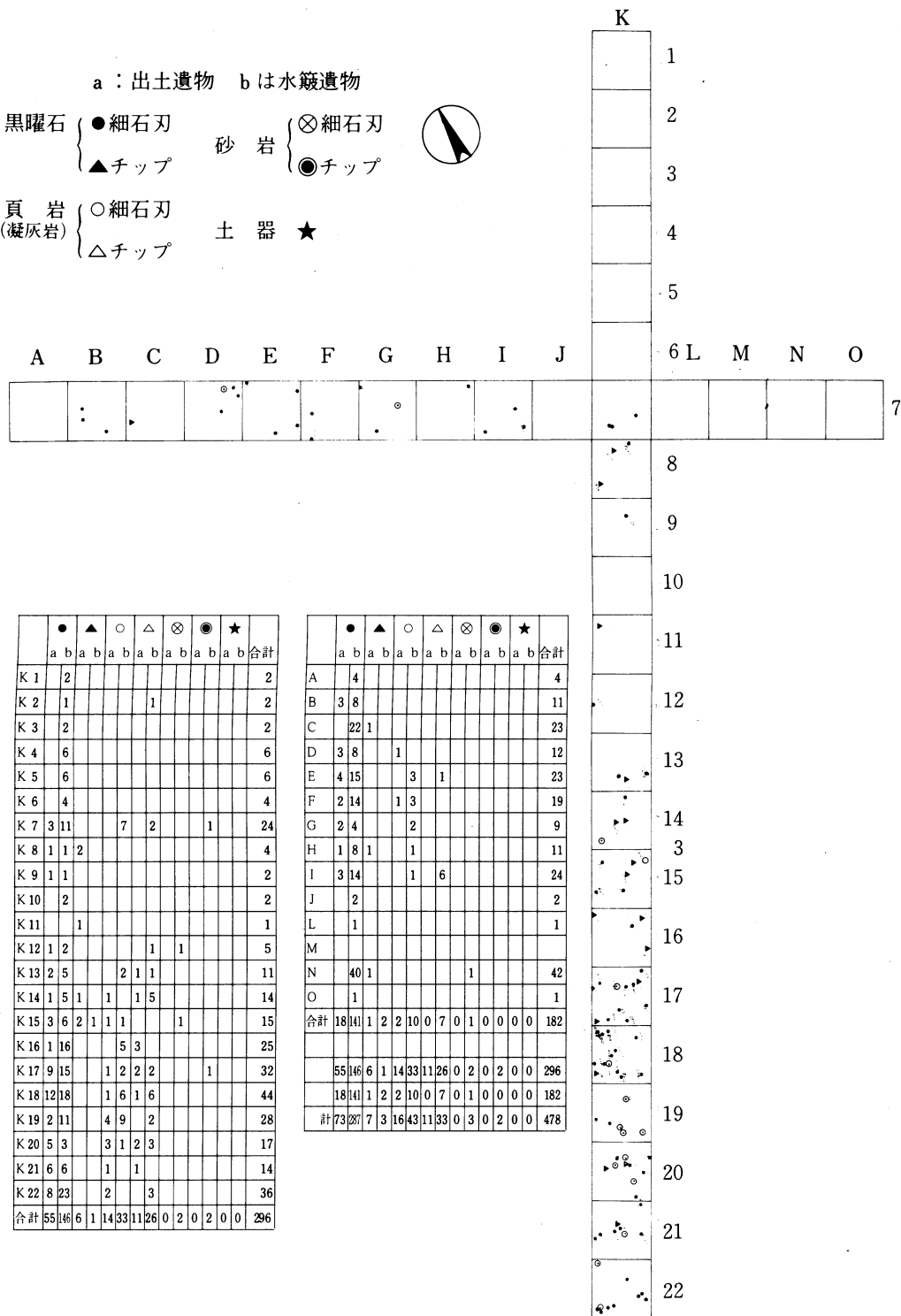
	●		▲		○		△		⊗		●		★		合計
	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	
A 7	6														6
B 7	4	21	1		1										28
C 7	4	15													19
D 7	3	4		1											8
E 7	3	9	1												13
F 7	3														3
G 7	6				3										9
H 7	1														1
I 7															0
J 7	9														9
L 7															0
M 7															0
N 7															0
O 7	1	1													2
合計	18	71	3	1	0	4	0	0	0	0	1	0	0	0	98
						0									0
	41	99	3	3	2	10	12	11	0	0	1	2	0	0	183
	18	71	3	1	1	4	0	0	0	1	0	0	0	0	98
計	59	170	6	4	2	14	12	11	0	1	0	2	0	0	281

第73図 各グリッド別出土遺物と水簸遺物 (1)

a : 出土遺物 b は水簸遺物

黒曜石 { ●細石刃
▲チップ } 砂岩 { ⊗細石刃
●チップ } 

頁岩 (凝灰岩) { ○細石刃
△チップ } 土器 ★



	●	▲	○	△	⊗	●	★	合計							
	a	b	a	b	a	b	a	b	合計						
K 1	2								2						
K 2	1			1					2						
K 3	2								2						
K 4	6								6						
K 5	6								6						
K 6	4								4						
K 7	3	1		7	2		1		24						
K 8	1	1	2						4						
K 9	1	1							2						
K 10	2								2						
K 11		1							1						
K 12	1	2			1	1			5						
K 13	2	5		2	1	1			11						
K 14	1	5	1	1	1	5			14						
K 15	3	6	2	1	1	1		1	15						
K 16	1	16		5	3				25						
K 17	9	15	1	2	2	2	1		32						
K 18	12	18	1	6	1	6			44						
K 19	2	11	4	9	2				28						
K 20	5	3	3	1	2	3			17						
K 21	6	6	1	1	1				14						
K 22	8	23	2	2	3				36						
合計	55	146	6	1	14	33	11	26	0	2	0	2	0	0	296

	●	▲	○	△	⊗	●	★	合計							
	a	b	a	b	a	b	a	b	合計						
A	4								4						
B	3	8							11						
C	22	1							23						
D	3	8		1					12						
E	4	15		3	1				23						
F	2	14		1	3				19						
G	2	4		2					9						
H	1	8	1	1					11						
I	3	14		1	6				24						
J	2								2						
L	1								1						
M															
N	40	1			1				42						
O	1								1						
合計	18	141	1	2	2	10	0	7	0	1	0	0	0	0	182
計	73	287	7	3	16	43	11	33	0	3	0	2	0	0	478

第74図 各グリッド別出土遺物と水簸遺物 (2)

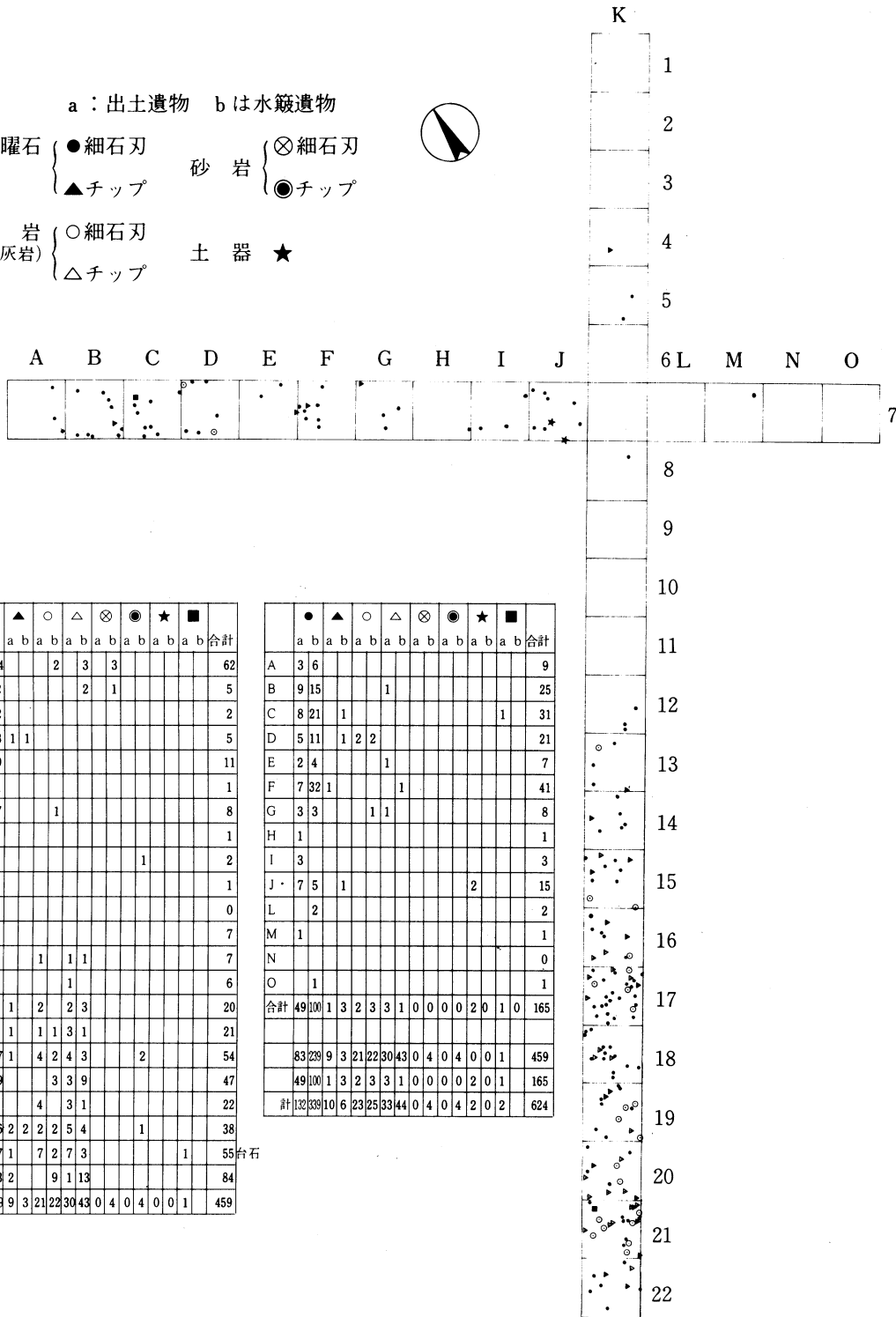
a : 出土遺物 b は水簸遺物

黒曜石 { ● 細石刃
 ▲ チップ

砂岩 { ⊗ 細石刃
 ● チップ

頁岩 (凝灰岩) { ○ 細石刃
 △ チップ

土器 ★



	●	▲	○	△	⊗	●	★	■	合計							
	a	b	a	b	a	b	a	b								
K1	54		2	3	3				62							
K2	2			2	1				5							
K3	2								2							
K4	3	1	1						5							
K5	2	9							11							
K6	1								1							
K7	7		1						8							
K8	1								1							
K9	1					1			2							
K10	1								1							
K11									0							
K12	3	4							7							
K13	3	1	1	1	1				7							
K14	5		1						6							
K15	6	6	1	2	2	3			20							
K16	5	9	1	1	1	3	1		21							
K17	21	17	1	4	2	4	3	2	54							
K18	13	19		3	3	9			47							
K19	7	7	4	3	1				22							
K20	4	16	2	2	2	5	4	1	38							
K21	7	27	1	7	2	7	3	1	55							
K22	6	53	2	9	1	13			84							
合計	83	239	9	3	21	22	30	43	0	4	0	4	0	0	1	459

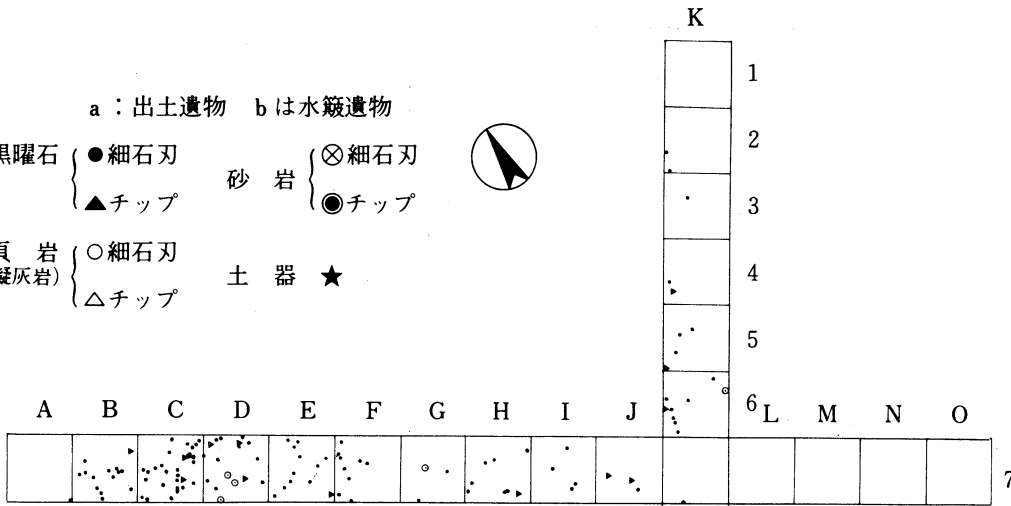
	●	▲	○	△	⊗	●	★	■	合計								
	a	b	a	b	a	b	a	b									
A	3	6							9								
B	9	15			1				25								
C	8	21	1				1		31								
D	5	11	1	2	2				21								
E	2	4			1				7								
F	7	32	1		1				41								
G	3	3		1	1				8								
H	1								1								
I	3								3								
J	7	5	1				2		15								
L	2								2								
M	1								1								
N									0								
O	1								1								
合計	49	100	1	3	2	3	3	1	0	0	0	0	2	0	1	0	165
計	83	239	9	3	21	22	30	43	0	4	0	4	0	0	1	459	
計	49	100	1	3	2	3	3	1	0	0	0	0	2	0	1	165	
計	132	339	10	6	23	25	33	44	0	4	0	4	2	0	2	624	

第75図 各グリッド別出土遺物と水簸遺物 (3)

a : 出土遺物 b は水簸遺物

黒曜石 { ● 細石刃
▲ チップ } 砂岩 { ⊗ 細石刃
● チップ }

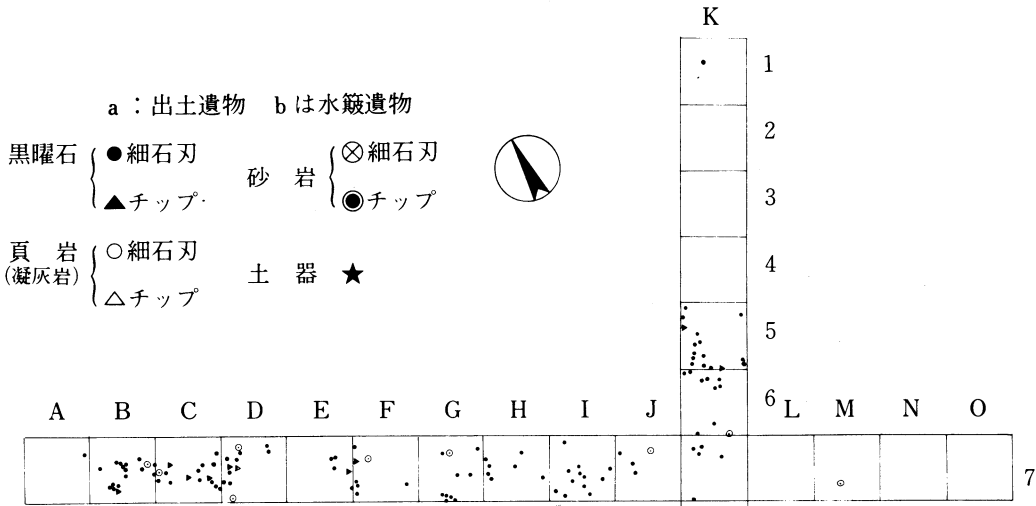
頁岩 (凝灰岩) { ○ 細石刃
△ チップ } 土器 ★



	●	▲	○	△	⊗	●	★	合計
	a	b	a	b	a	b	a	b
K 1	1							1
K 2	2	2						4
K 3	1	3		2				6
K 4	1	1		1				3
K 5	3	17	1	1				22
K 6	7	1	1					9
K 7	1							1
K 8	2	1						3
K 9	2	5		1				8
K 10	1	1		1				3
K 11	2	1		1				4
K 12	2	4		1				7
K 13	1			1				2
K 14	3	5	1	1	1			11
K 15	5	3	1	2	1		1	13
K 16	6	19	1	5	1	1		33
K 17	9	15	1	4	2	5		36
K 18	10	15	1	4	5		1	36
K 19	4	12	1	3	10	1	2	33
K 20	3	32	1	4	6	2	5	53
K 21	4	3	2	2	1	2		14
K 22	10	32	1	1	3	2	4	56
合計	74	174	7	5	16	34	9	338

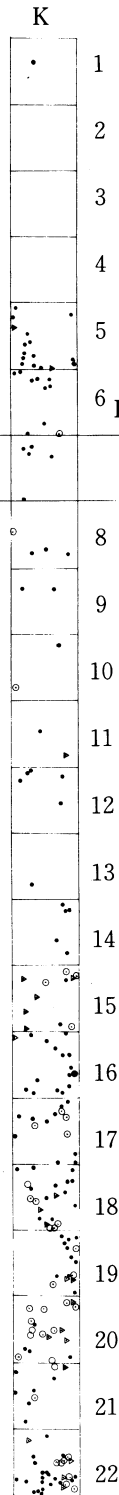
	●	▲	○	△	⊗	●	★	合計
	a	b	a	b	a	b	a	b
A	1	1					1	3
B	13	3	1					17
C	27	14	2					43
D	11	14		3	1	3		33
E	11	37	1	1			1	51
F	9	3						12
G	2	13		1	2			18
H	7	3	1					11
I	4	4						8
J	1	8	2					11
L	2			1				3
M								0
N	1							1
O								0
合計	86	103	7	0	4	5	3	211
	74	144	7	5	16	34	9	338
	86	103	7	0	4	5	3	211
計	160	247	14	5	20	39	12	569

第76図 各グリッド別出土遺物と水簸遺物 (4)



	●		▲		○		△		⊗		●		★		合計
	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	
K 1	1	2					1								4
K 2															0
K 3	1						1								2
K 4	4				1		1								6
K 5	14	14	2												30
K 6	9			1											10
K 7	5														5
K 8	3	6		1	1		2								13
K 9	2	2		1											5
K 10	1	2		1											4
K 11	1	3			1										5
K 12	5	2		1											8
K 13	1	5		1			2								9
K 14	5			1		3									9
K 15	2	8	1	1	4	3	4								23
K 16	14	30		2	1	3			1						51
K 17	10	16		4	9	5			1						45
K 18	11	22	1	2	6	2	13			2					88
K 19	10	18		3	15	2	12								60
K 20	4	9		11	5	4	8								41
K 21	6	13	1	1	2	9	9								41
K 22	20	13		7	3	4									47
合計	124	170	5	5	40	80	186	0	1	3	0	0	1	3	506

	●		▲		○		△		⊗		●		★		合計
	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	a	b	
A	1	7		1											9
B	15	13		1		1									30
C	11	22	3	1	1	2									40
D	8	9	1		2	1	1								22
E	4	11	1												16
F	5	11	1		1	1									19
G	9	1			1	2									13
H	7	7			1		2								17
I	12	12													24
J	3	14			1	1									19
L		3					1								4
M					1		1								2
N															0
O		2													2
合計	75	112	7	2	8	8	1	4							217
計	124	170	5	5	40	80	186	0	0	1	3	0	0	1	506
計	75	112	7	2	8	8	1	4							217
計	199	282	12	7	48	88	196	4	0	0	1	3	0	0	723


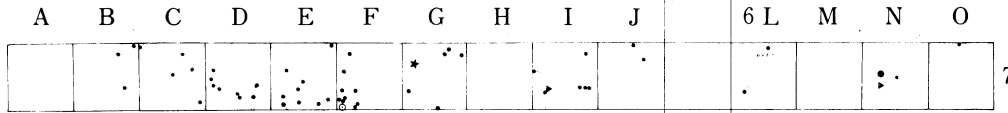


第77図 各グリッド別出土遺物と水簸遺物 (5)

a : 出土遺物 b は水簸遺物

黒曜石 { ● 細石刃
 ▲ チップ
 砂岩 { ⊗ 細石刃
 ● チップ

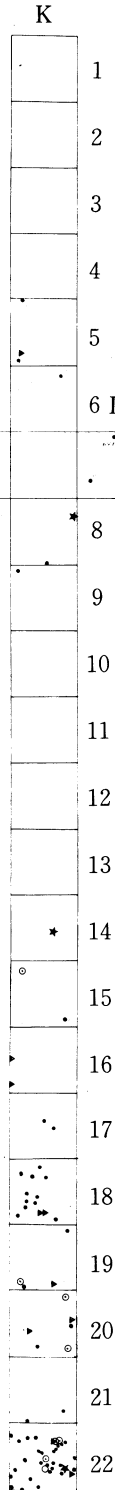
頁岩 (凝灰岩) { ○ 細石刃
 △ チップ
 土器 ★

	●	▲	○	△	⊗	●	★	合計	
	a	b	a	b	a	b	a	b	合計
K1	3			1					4
K2									
K3									
K4	3								3
K5	2	5	1						8
K6	1	6							7
K7	10		2	5	1				18
K8	1	2		3			1		7
K9	1			1					2
K10									0
K11	3			2					5
K12	1		1	3					5
K13	3								3
K14	4			2			1		7
K15	1	2	1	1	3				8
K16	10	1		1					12
K17	2	7		1	2		1		13
K18	11	14	1	2	18	1	8		55
K19	2	2		1	6	1	2		14
K20	2	4	1	1	2	2	1		14
K21	2	1	1	5	2				11
K22	27	29	1	4	3	1	5		71
合計	52	109	5	4	8	39	5	39	267

	●	▲	○	△	⊗	●	★	合計	
	a	b	a	b	a	b	a	b	合計
A	2								2
B	3	9		1		2			15
C	5	38							43
D	8	29		2	1				40
E	9	26			2	1			38
F	9	14		1					24
G	5	1					1		7
H	3			1					4
I	6	6	1	1					14
J	2	5							7
L	2	1							3
M					1				1
N					1		1		2
O	1								1
合計	50	134	1	1	4	1	4	0	201

52	109	5	4	8	39	5	39	0	1	0	2	3	0	207
50	134	1	1	4	1	4	0	3	1	0	1	0	0	201
計	102	243	6	5	9	43	6	43	0	4	1	2	4	468



第78図 各グリッド別出土遺物と水簸遺物 (6)

第三章 考 察

1 先土器時代

(1) 石器の組成

1 黒曜石

遺物の構成も、本遺跡の大きな特徴と言える。すなわち、各種の細石刃核と、その他の示準的石器の共存が認められている。それらの石器に、搔器・削器・先端部を使用したと思われるベック・彫器・さらに折断剥片などがあげられる。

とりわけ、器に著しく定形化した石器形態を見ることができ、石器番号の37～48に示した通りである。特に41は、亀甲状に剥離した第一次剥片の全周に刃部を設けたエンド・スクレイパーであり、42・48等は、規則性をもつ石核より剥離した剥片を用いたエンド・スクレイパーとなっている。その他、各種の剥片を素材として器が作られている。また、削器も多く検出され不定形で統一性はないが、発達していることがうかがえる。ベックの存在も特長的であり、入念な調整剥離を施している。

県内で、これまでに知られている細石刃器を主体とする遺跡は、出水市上場遺跡・始良郡溝辺町石峰遺跡・鹿児島市加栗山遺跡に代表され、豊富な出土品を保有している。しかし、これらの遺跡に見られる石器組成は、常に細石刃・細石刃核が圧倒的に多く、その他の示準的な石器の存在はむしろ皆無に等しく、細石刃器の単純な構成様相を示している。昨年、報告した石峰遺跡では、折断剥片がわずかではあるが確認できる程度であり、その他に、使用痕のある剥片（削器）が相伴していた。したがって、示準的な石器の共存は認め難く、完全に細石刃器の段階へ移行していると思われる状況であった。また、上場遺跡Ⅱ層・Ⅲ層においても、その他の示準的石器の存在は今日まで知られていない。したがって、今日までに知られている県内の細石刃器を出土する遺跡と、本遺跡とはかなり異なった内容を示すと言える。

次に、県内の遺跡と比較したい。上場遺跡と4.5kmの位置にある熊本県石飛分校遺跡では、第2層の第1文化層Bと第3層の第2文化層が細石刃器の文化層とされている。第1文化層Bは、かなり複雑な内容を示し、スクレイパーや斧形石器・小形尖頭器など興味ある遺物との相伴が報じられている。次の第2文化層では、ナイフ形石器・小形尖頭器・調整加工の施された折断剥片等と細石刃器の共存が見られ、細石刃核の形態考察とともに土器伴出以前の細石刃器文化であると考えられている。熊本県下城遺跡は、長崎県百花台遺跡Ⅳ層よりも先行するとされる遺跡であるが、それらの石器組成の中に、本遺跡の搔器（ラウンド・スクレイパー）・削器と一部類似したものを見い出せる。百花台遺跡では、Ⅱ文化層に細石刃器文化・Ⅲ文化層が台形石器を主体とする文化層である。それらの石器の中で、特に、Ⅲ文化層の石核より再加工された器（ラウンド・スクレイパー）様の石器・安山岩の横長剥片を用いたもので台形様石器、あるいは削器とされている石器は、本遺跡の不定形剥片を用いた器・削器に類似した共通性を見い出せる。長崎県福井洞穴の細石刃核を伴うⅡ・Ⅲ・Ⅳ層の文化層の中に、サヌカ

イト製の搔器・削器の共存を見ることができ、本遺跡との類似性を見ることができる。ここで、細石刃核の石材に一貫して黒曜石を用い、搔器、削器の石材に特別にサヌカイトを使用していることは、意識的に石材の選別を行なったことがうかがえ、搔器・削器が福井洞穴の細石刃器文化の石器組成において重要であったことが表えられる。泉福寺洞穴では、豆粒文土器・調整形細石刃核と、エンド・マクレイパー・削器の共存が報じられ興味深い資料となっている。最後に、宮崎県船野遺跡では、第Ⅱ文化層・第Ⅲ文化層の台形石器・小形で三角形のナイフ形石器・搔器・削器の共存が知られている。

このように、各地の遺跡との比較を行なっていくと、福井洞穴・泉福寺洞穴では、細石刃核と搔器・削器との共存が認められている。しかし、他の遺跡では、ナイフ形石器や台形石器との関係がより鮮明に捉えられ、一概に結びつけがたい状況と言わざるを得ない。また、搔器や削器との共存関係は、福井洞穴、泉福寺洞穴などに見られているが、ベック・折断剥片等との共存関係を示す遺跡は皆無であり、未だその情報を得ていない。したがって、本遺跡の石器組成の特異性が、浮かび上がってしまうこととなる。

2 細石刃核

細石刃核の項で、基本的にA～Eまでの5タイプに分類を行なって来た。さらに、この5タイプの細石刃核は、それに用いた素材（原石・剥片・作出方法等のより拡大した把握に基づいて）により、2つの型式に集約される。

(1) A類の細石刃核を中心とした舟底形細石刃核であり、ブランクも顕著に見られ、段階的に製作過程がつかめられるものである。側面観は、舟底形を呈し、甲板面が長く作り出され、長方形を呈しているものなどがある。これらの細石刃核では、打面の作出が早い時点で行なわれ、側面作出のための成形・調整・微調整の各剥離を、基本的に打面（甲板面）より行なうという特徴を備えている。したがって、船野型細石刃核に共通するものである。なお、C類の一部も、この中で捉えられるものも認められる。

(2) B類・D類・E類の細石刃核で、一般的に小形であり、打面が方形をなす共通した様相を呈している。したがって、失出川、野岳型細石刃核の範疇に含まれる。

以上のように、船野型舟底形細石刃核と失出川、野岳型細石刃核に集約でき、これらの異なった二つの細石刃核が共存している遺跡と捉えることができる。したがって、福井洞穴のⅡ層・Ⅲ層の隆帯文土器・爪形文土器と共存する調整形細石刃核（福井型細石刃核）、泉福寺洞穴の豆粒文土器と共存する調整形細石刃核とは、形態的に異なり製作技術での共通性も見い出せない。

基本的に、船野型細石刃核と野岳型細石刃核に、搔器・削器・ベック・折断剥片等の諸石器群の共存した遺跡であると捉えられ、福井洞穴・泉福寺洞穴よりも石器の形態・製作技術・組成等に先行した様相を示していると言える。これは、石器の比較、検討に限定した位置づけであり、その他の要因も加えて今後再度検討されるべきである。

[註]

- 1 池水寛治 「鹿児島県出水市市場遺跡」 『考古学集刊』 3—3 1967
- 2 長野真一 「石峰遺跡」 『鹿児島県埋蔵文化財調査報告書』 12 鹿児島県教育委員会
1980 「石峰遺跡—先土器時代—」
- 3 池水寛治 「熊本県石飛分校遺跡」 『考古学ジャーナル』 21 1968
- 4 緒方 勉・田中寿夫 「下城遺跡Ⅰ」 『熊本県文化財調査報告』 第37集 熊本県教育
委員会 1979
古森政治 「下城遺跡Ⅱ」 『熊本県文化財調査報告』 第50集 熊本県教育委員会
1980
- 5 麻生 優・白石浩之 「百花台遺跡」 『日本の旧石器文化』 第3巻 〈雄山閣〉
1976
- 6 鎌木義昌・芹沢長介 「長崎県福井岩陰—第一次調査の概要—」 『考古学集刊』 第3
巻上 1968
鎌木義昌・芹沢長介 「長崎県福井洞穴」 『日本の洞穴遺跡』 〈平凡社〉 1967
- 7 麻生 優 「泉福寺洞穴の第五次調査」 『考古学ジャーナル』 103 1975
麻生 優・白石浩之 「泉福寺洞穴の第八次調査」 『考古学ジャーナル』 145 1978
- 8 橘 昌信 「宮崎県船野遺跡における細石器文化」 『考古学論集』 3 別府大学考古
学研究会 1975

2) 凝灰岩質・頁岩の石器

① 接合

第79図は接合全図である。C・B-4、5区が接合する資料が多い。2～3m位の接合資料は多いが14mはなれたものが接合する資料もある。接合した資料は44点にもものぼった。これらを各資料ごとに平面図と面掘り投影ならびにレベル投影を行った。一面は2cm～25cmである。

なお石材は凝灰岩質・頁岩のみである。

第80図は接合番号20・24・41で接合番号20・24はC-4・5区に、接合番号41はA・B-34区に出土している。接合番号24は4・1・5・6面に出土レベルでは154、725～154、920mの間に出土している。

接合番号24は第81図の487～491である。487は接合図である。長楕円の扁平礫を横位に5分割している。488～491は分割した各部である。490と491は細石刃剥離に使用された細石刃核で489は下縁調整を行った細石刃核ブランクである。(1022)・(3702)・(3866)・(7037)が接合。

接合番号20は第80図に平面図ならびに垂直分布を示している。出土面は4面図でレベル高も154.80～154.90mの間に検出されている。492は3点を接合した図である。細石刃核が分割れたとおもわれる。(3726)・(8727)・(3728)とが接合。

接合番号41は7点が接合された。出土面も2・4・5と中央層にみられる。レベル高では地形にも関係があるが154.885～155.440mと最高位、最低位の開きが約50cmみられる。第82・84図の493～498が接合資料実測と分割実測の図面である。この資料には分割されただけで細石刃剥離を行った細石刃核はない。この母岩は扁平な角形をし、縁は若干まもうされている。(560)・(603)・(627)・(2627)・(2727)・(4425)・(4748)が接合。

接合番号43は第83図に平面ならびに垂直分布を記載した、C・D-4～6区に出土C、1・5・6面に検出された。5面目には3点検出し5面目が中心層と考えられる。レベル的には、154.655～154.910mの間にある。(1031)・(5603)・(5652)・(6955)・(6976)が接合。

遺物は501～506である。501は接合実測図で5点接合された。502～506は分割各部でありその中では502・503・504と3点細石刃核である。いずれも下縁調整細石刃核である。だいたい同じ大きさに分割している。下縁調整は分割後行なっている。

接合番号42はB・C-4・5区に出土している。出土面は1・2・4・5・6と名面にわたっている。レベル的にも高低差は大である(第83図)。(725)・(814)・(1034)・(3646)・(5179)・(7054)が接合。遺物は第85図の507である。接合してみると石器を分割していると考えられる。刃部には新しい調整面と古い調整面がある。古い調整痕は石器製作時の調整で新しいものは細石刃核の下縁調整とも考えられるが確証性は薄い。この石器はスクレーパーの類と考えられる。

第86図の接合番号30はC-5・6区に出土している。出土面は2・4・6面であり、レベルの差はかなりある。接合資料遺物番号は第85図の508である。母岩を半割し、そして片半部を分割している。分割しているだけで調整や細石刃剥離はない。(1821)・(3971)・(7711)が接合。

接合番号9はB・C-9区に出土している。第86図にはその平面図と垂直分布を示している

出土面は1・2・3面で上半部に出土しているし、レベル的にも高位置にある。第87図は接合資料の実測図である。接合番号9は3点接合されているが他にいくつかの分部各部が考えられる。細石刃核は1点のみで下縁調整細石刃核である。他は分割しただけで細石刃核ブランクと考えられるがそれは下縁調整前と考えられる。(1074)・(2169)・(8354)が接合。

接合番号3は第86図に平面・垂直分布図が記載している。出土面は1・4・5・6面とこれも下位に多く。レベル的には大差はない。(1072)・(3701)・(5634)・(7166)が接合。

資料の実測は第88図の513～517である。513は接合資料で514～517は細石刃核ブランクと考えられる。515と516は下縁調整があり、514にない。

接合番号14はB・C—4・5・6区に出土している。第89図はその平面図・垂直分布図を示したものである。接合にしては最長10m位の位置にあるものがみられるが、出土面は2・3・4面にありレベル差もあまりない。

遺物は第88図の518～522である。518は接合図であるが他は分割各部でありその内で細石刃核は519・~~517~~・~~518~~の1点である。519は下縁調整を行なっているが他は非下縁調整石核である。この接合資料はほぼ完全に近い。三角形の凝灰岩質・頁岩を4分割している。それも一辺の中心部に向かって分割する方法をとっている。(2216)・(2860)・(4005)・(10119)が接合。

接合番号18は第89図に平面図ならびに垂直分布図を記している。出土面は4・6面である。レベル高関係は約15cmの差がみられる。遺物は図版61でみるように下縁調整を行なった細石刃核が1点、下縁細石を行なっている細石刃核ブランクが2点である。これらは分割してその後下縁調整を行なっている。(6544)・(6547)・(9406)が接合。

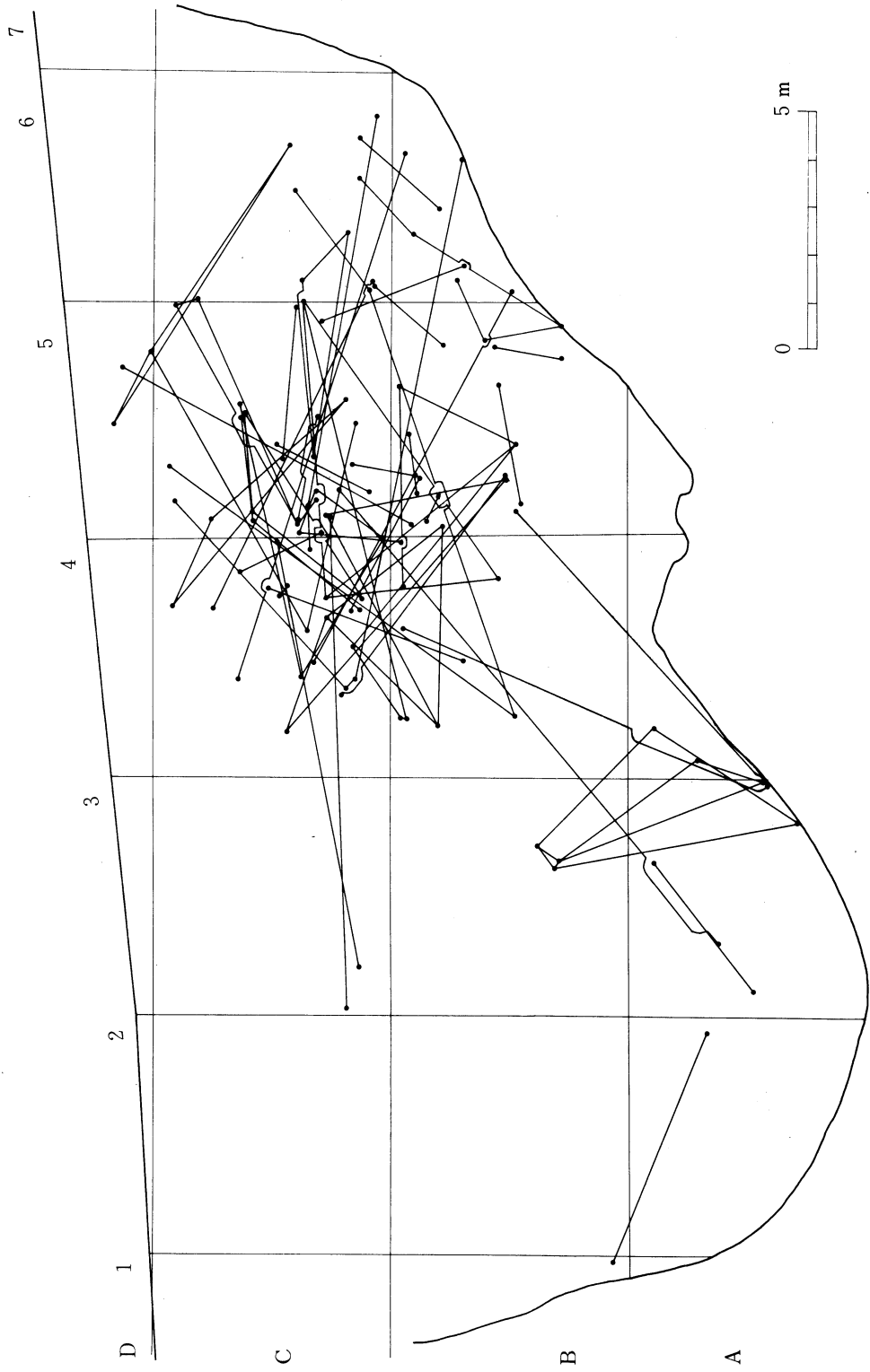
接合番号12は第91図に平面・垂直分布図が記している。C—4・5区に出土し出土面は1・4面であるがレベル的には差はない。

第90図が524・525・526は接合番号12の遺物である。石材は凝灰岩質・頁岩の扁平な円礫であり、4分割したと考えられ、そのうち3点が接合できた。これらは3点とも細石刃核であり、525と526が下縁調整があり、524は下縁調整がない。523は接合実測図である。(1091)・(2227)・(9150)が接合。

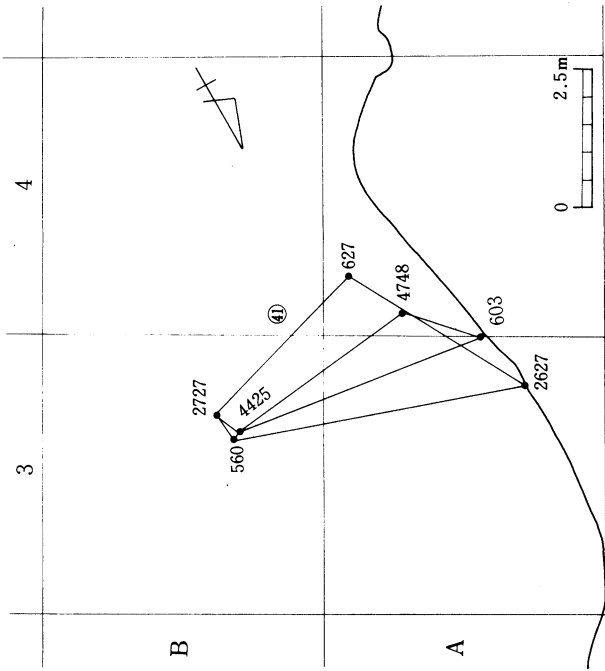
接合番号23はB—5・6区に出土している。出土面は、1・2・3・4面と各面にわたっているがレベル的には差はない。実測図は第92図の527～532である。527は接合実測図で他は各部の実測図である。細石刃核は~~526~~・530であり、~~前者は非下縁調整剝離刃石核で後者は下縁調整細石刃石核である。~~この母岩は長方形で扁平なものを考えられる。(390)・(960)・(971)・(3195)・(8895)が接合。

接合番号39は長楕円形の母岩を横位に分割している。第92図の533はそれを表わしている。出土区はA・B—3・4・5区で出土面は5面である。レベル差は若干ある。これは分割しただけで細石刃剝離面がある。(4757)・(4931)・(9836)が接合。

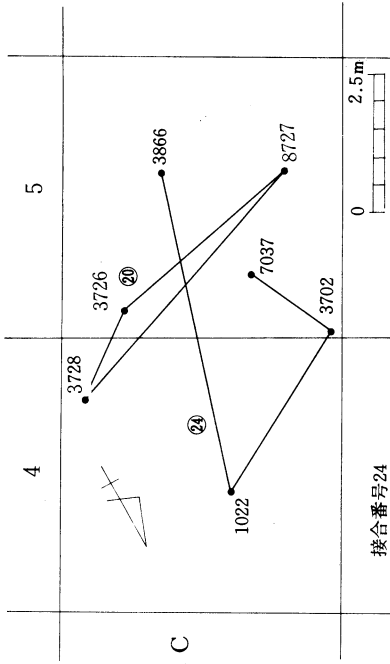
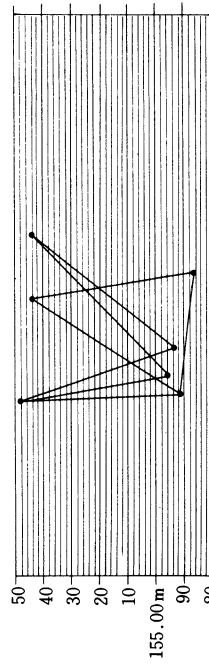
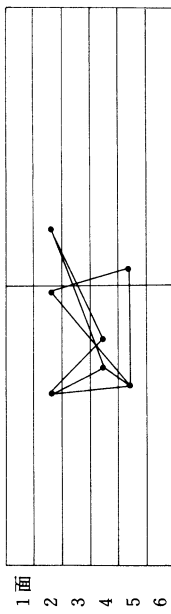
接合番号40は9点接合し平面・垂直分布図は第93図にある。B・C—4・5・6区に出土し出土面は1・5面である。1面に4点と多いのが特徴である。面的には開きがあるがレベル的



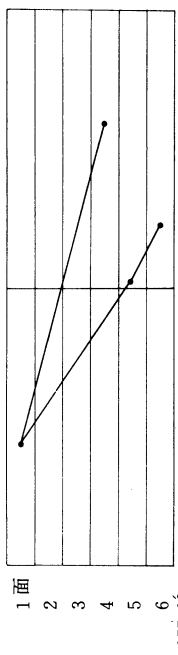
第79图 接合全图



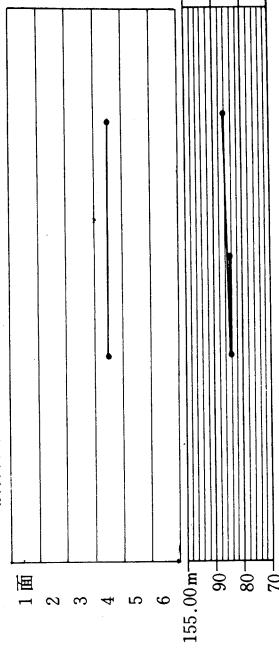
接合番号41



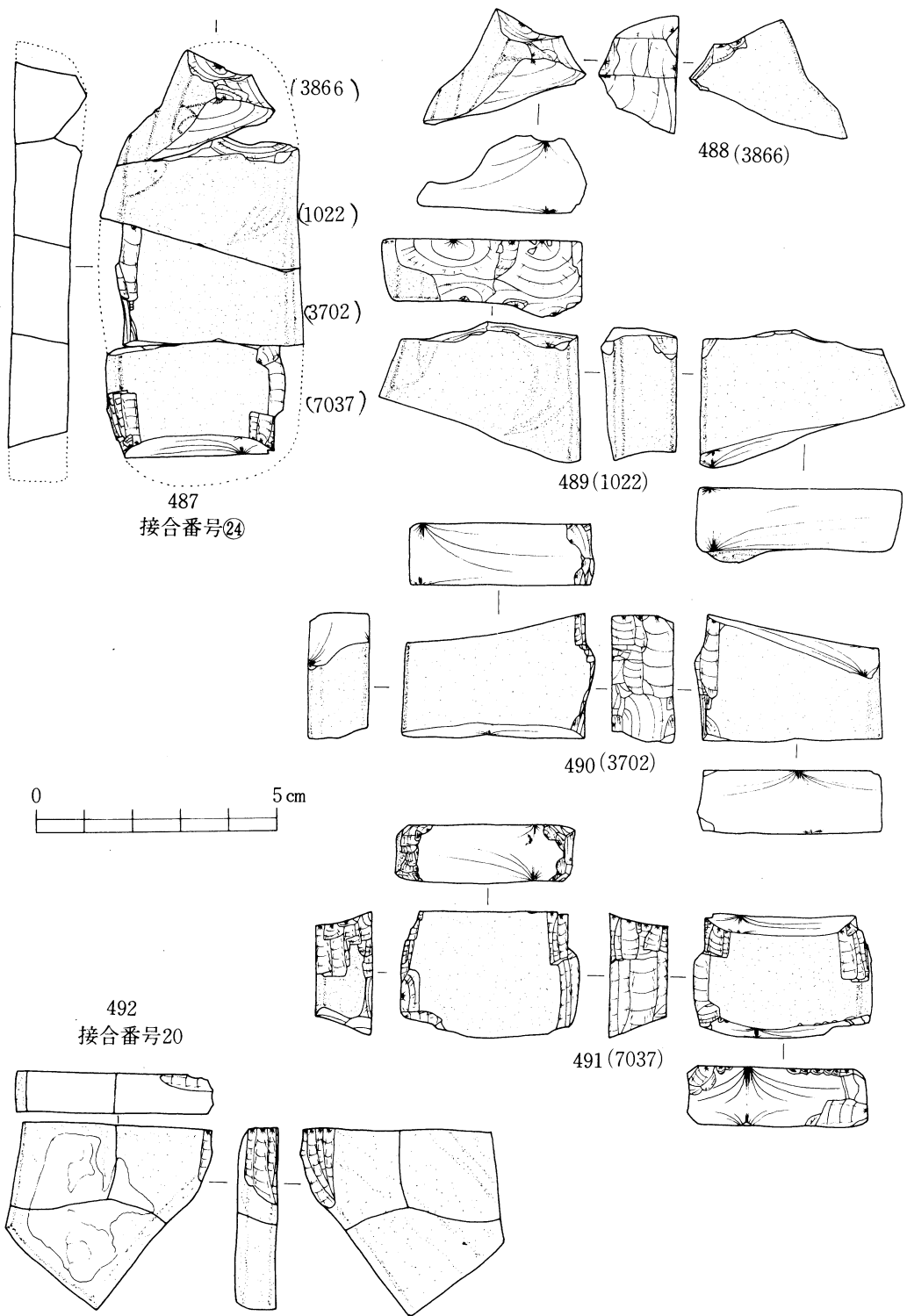
接合番号24



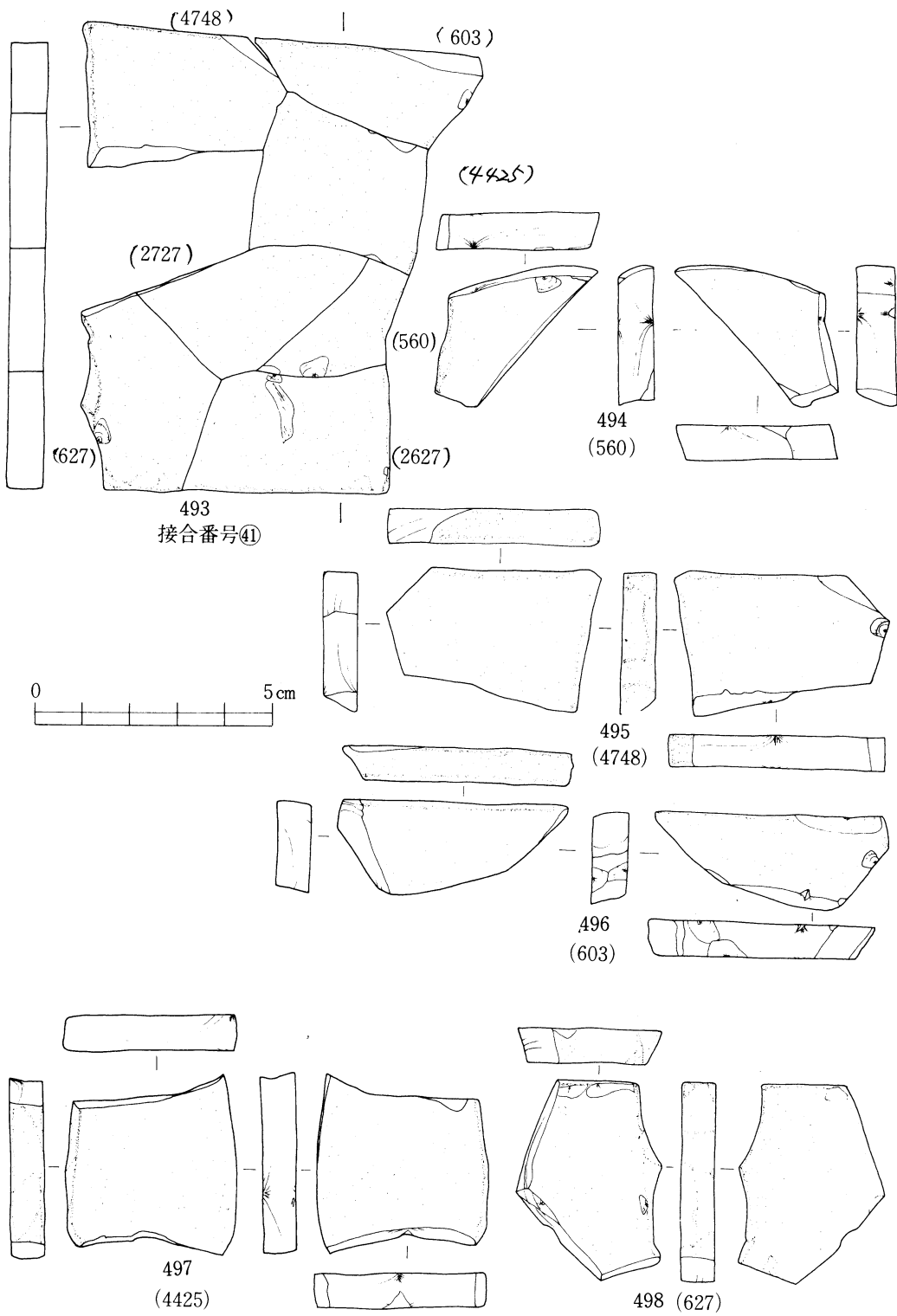
接合番号20



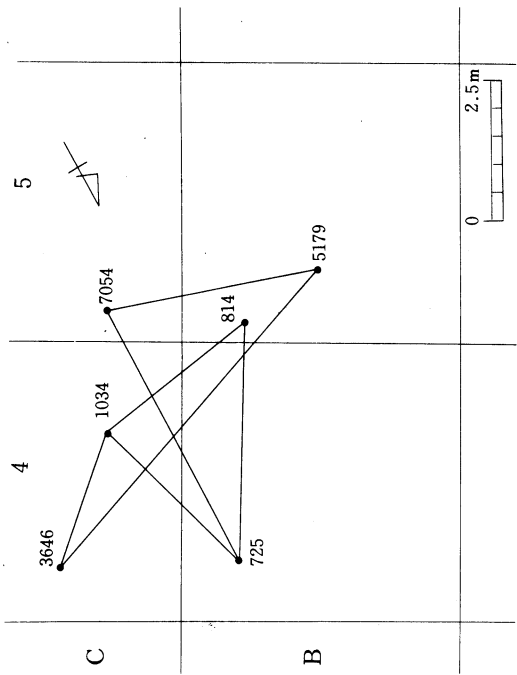
第80図 接合資料 (1)



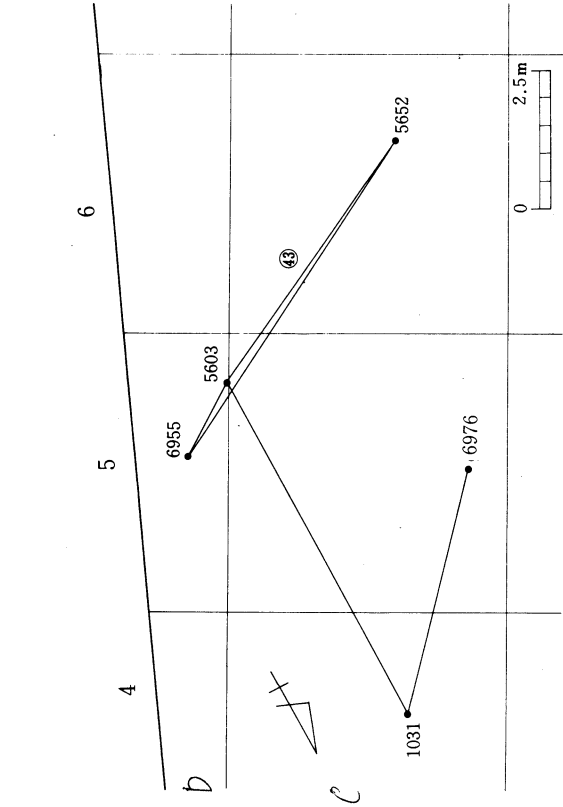
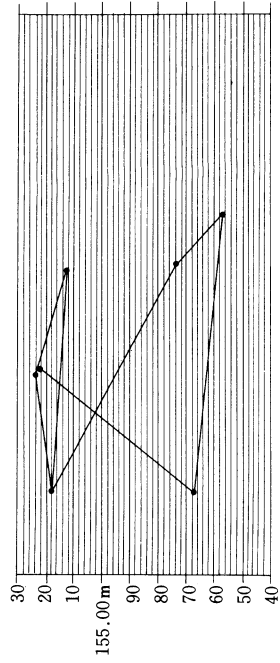
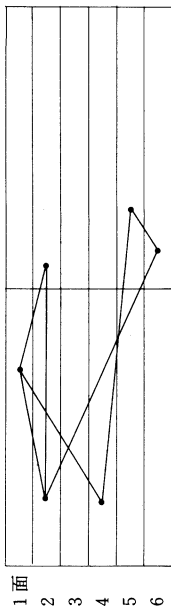
第81図 接合資料遺物実測図 (1)



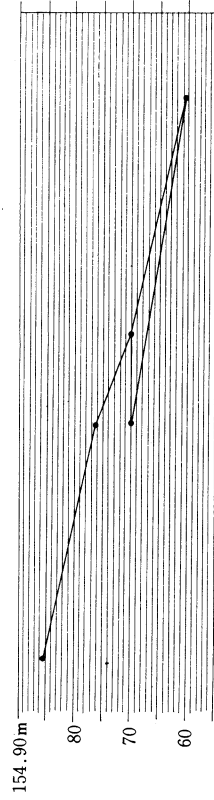
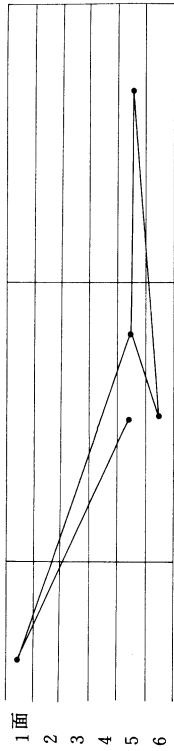
第82図 接合資料遺物実測図 (2)



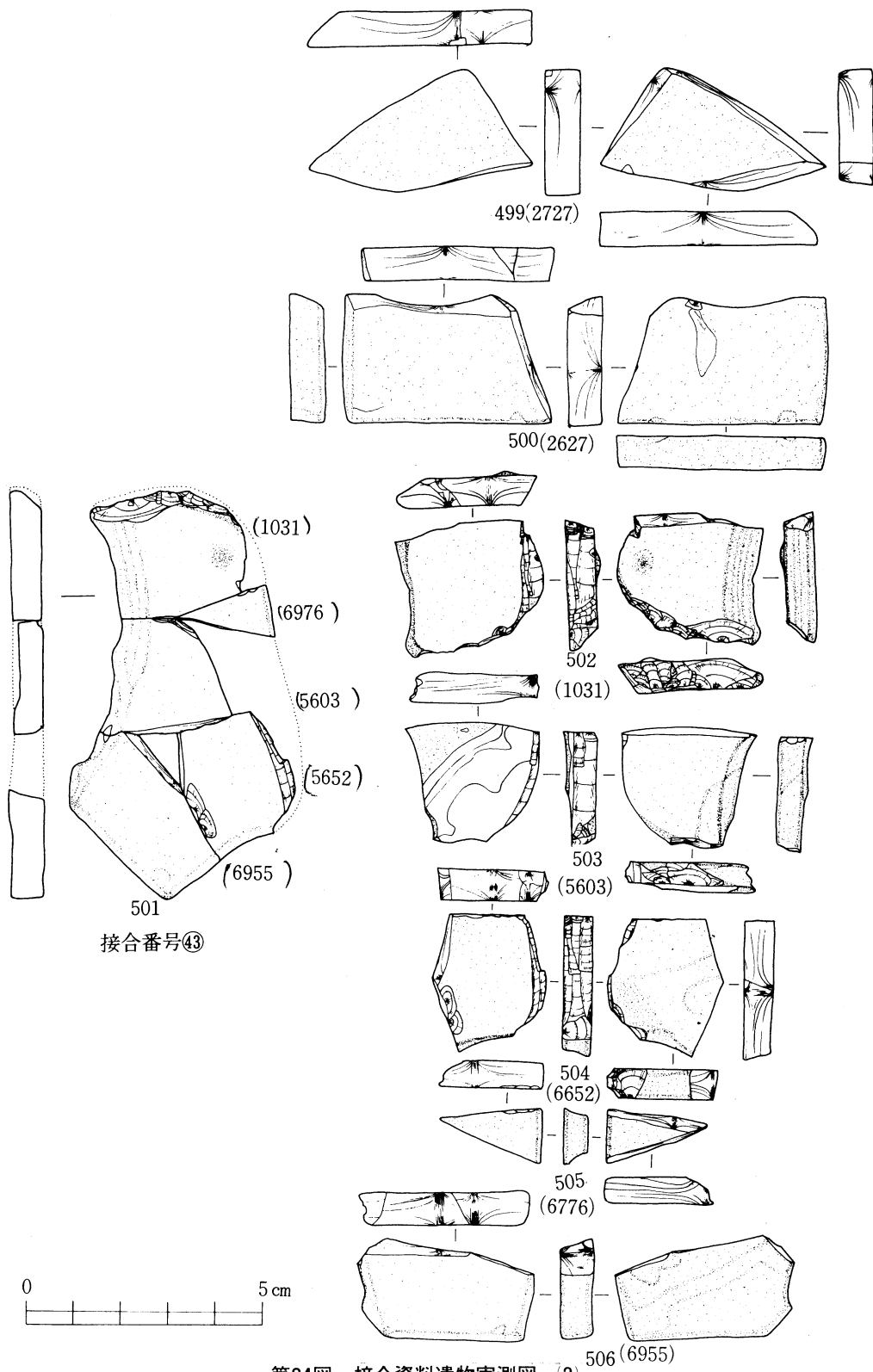
接合番号42



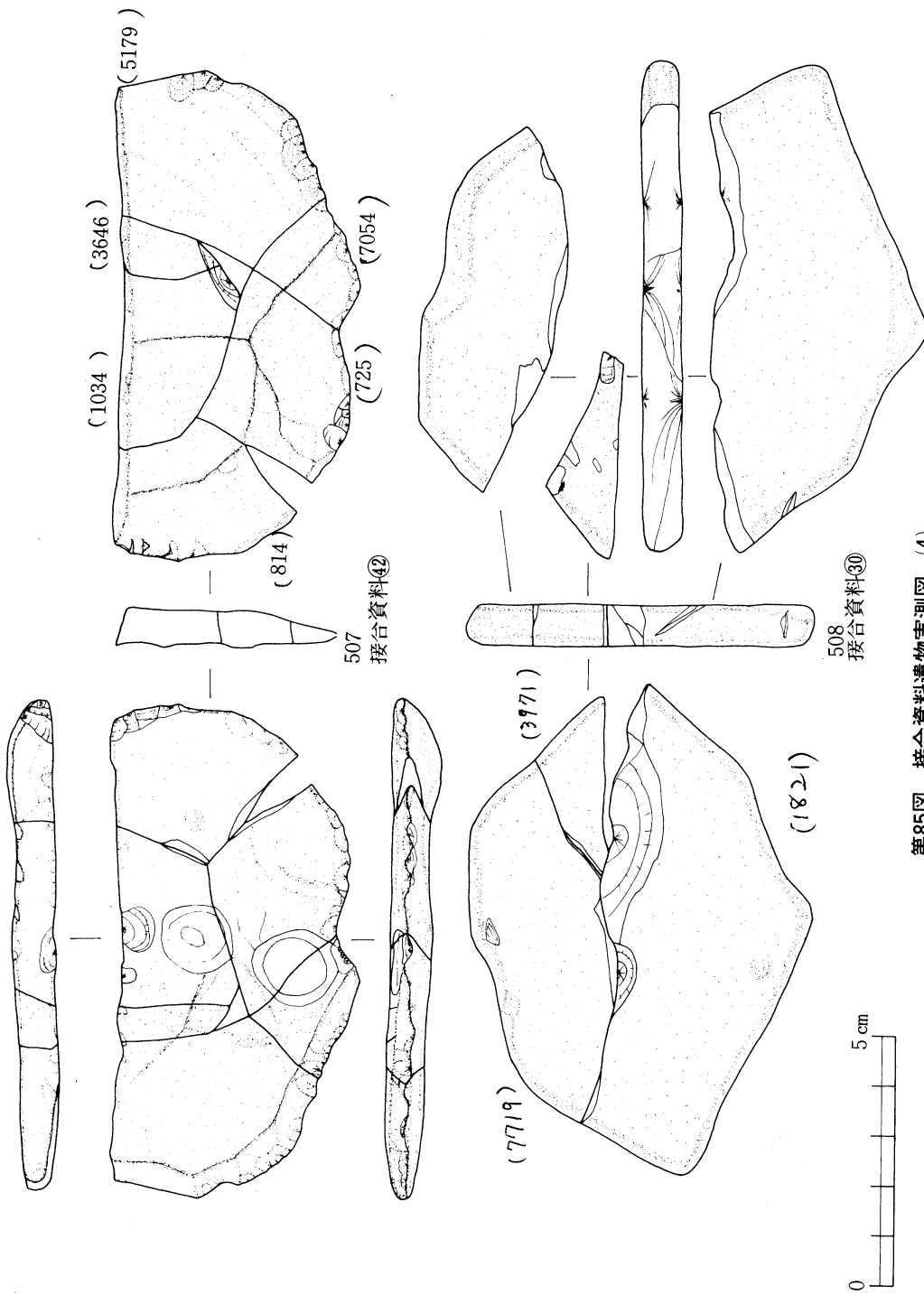
接合番号43



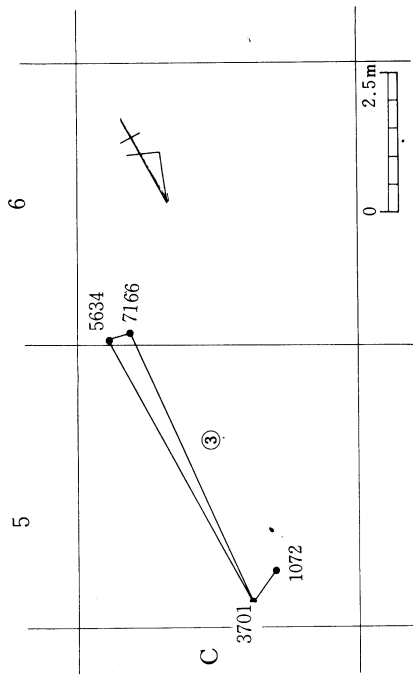
第83図 接合資料 (2)



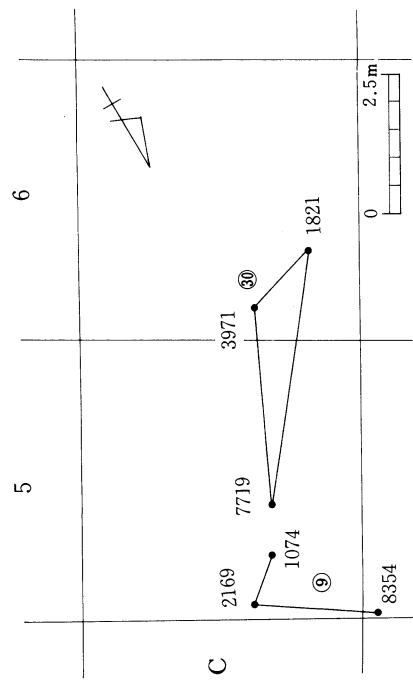
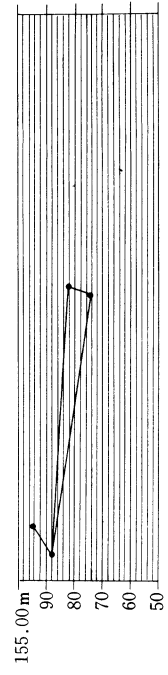
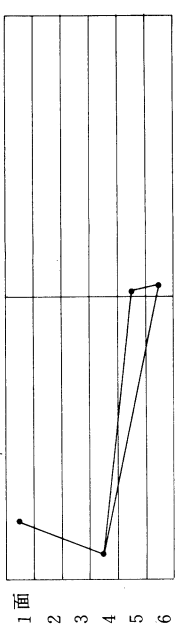
第84図 接合資料遺物実測図 (3) 506(6955)



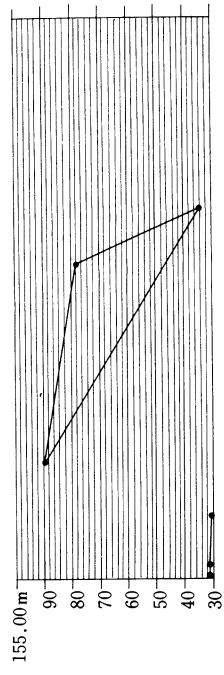
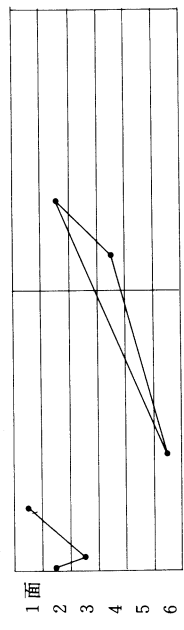
第85圖 接合資料遺物実測図 (4)



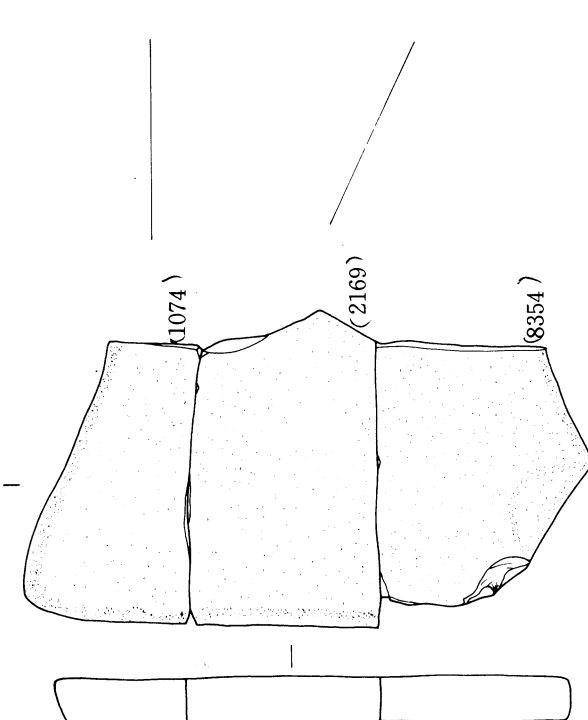
接合番号③



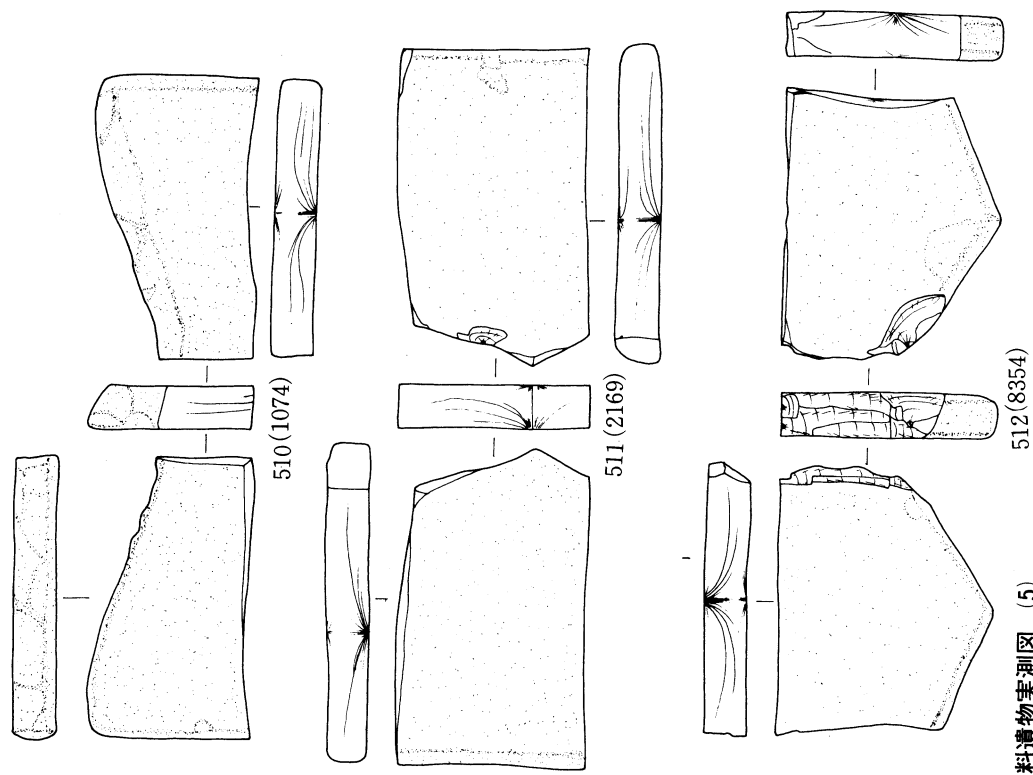
接合番号⑨



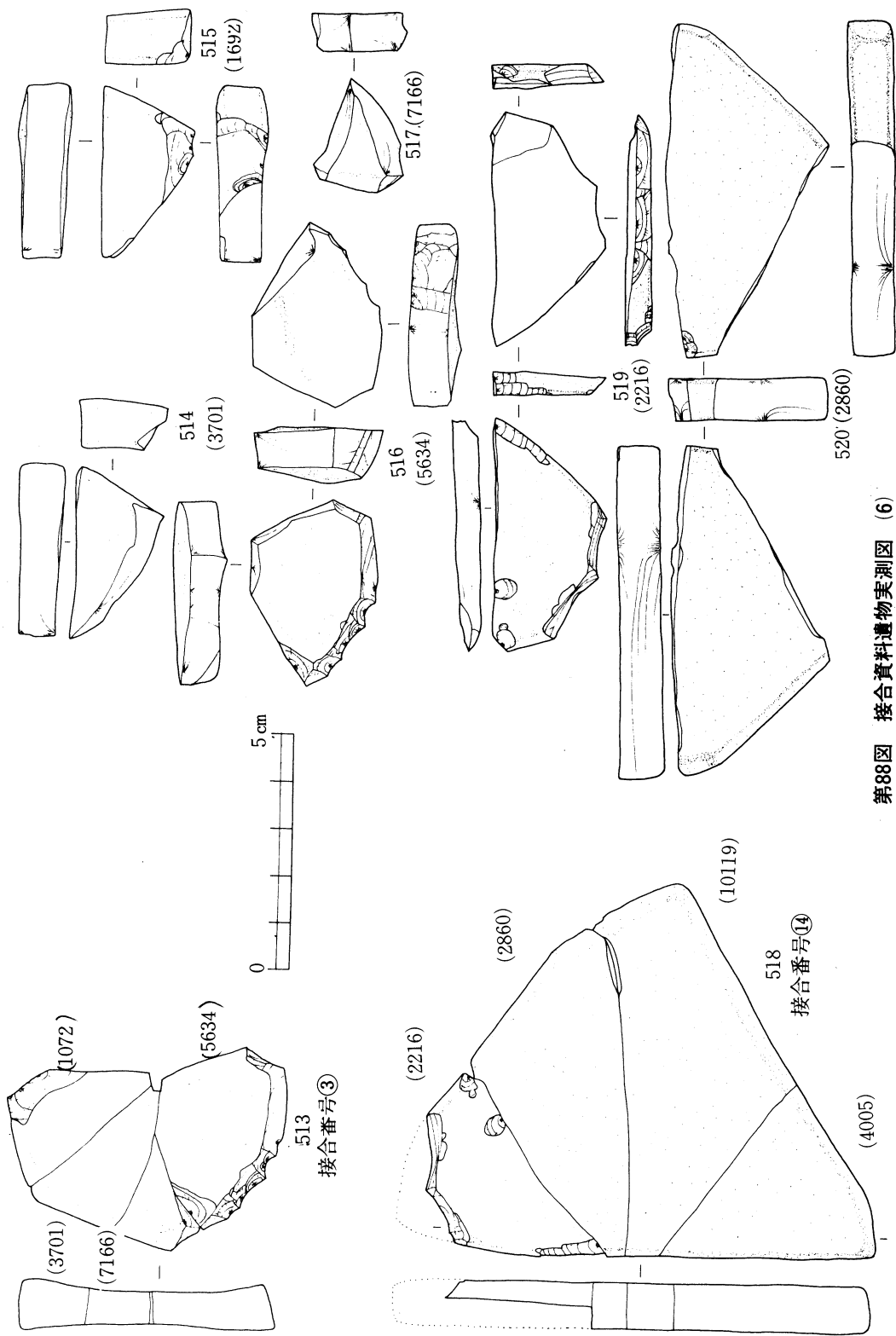
第86図 接合資料 (3)



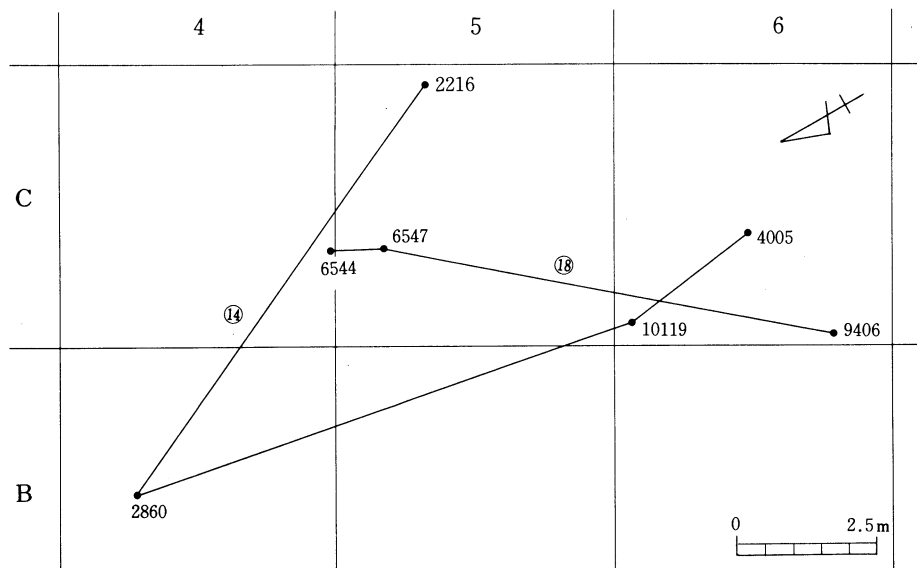
509
接合番号⑨



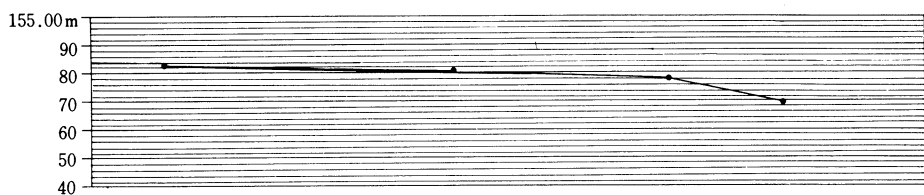
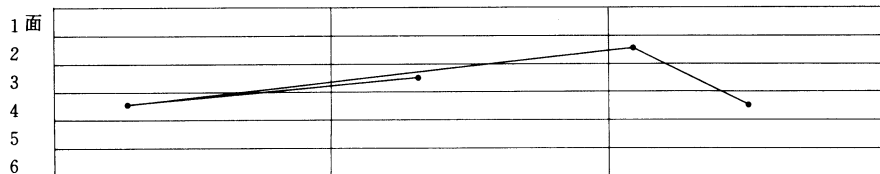
第87図 接合資料遺物実測図 (5)



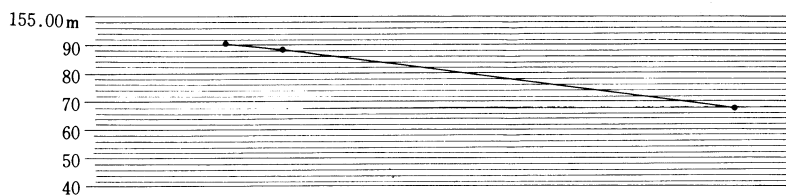
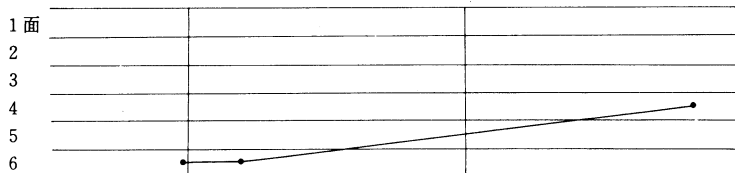
第88図 接合資料遺物実測図 (6)



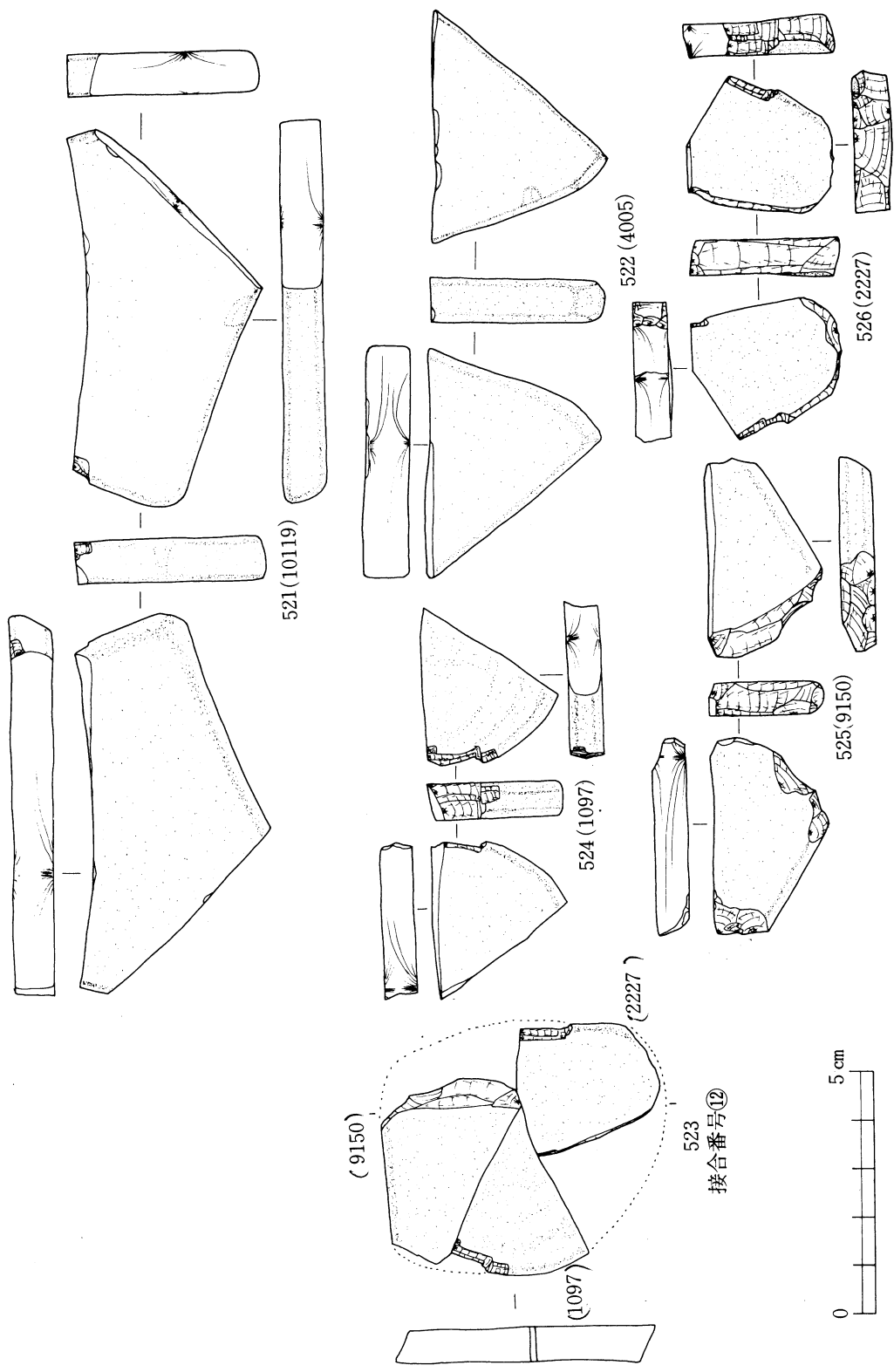
接合番号14



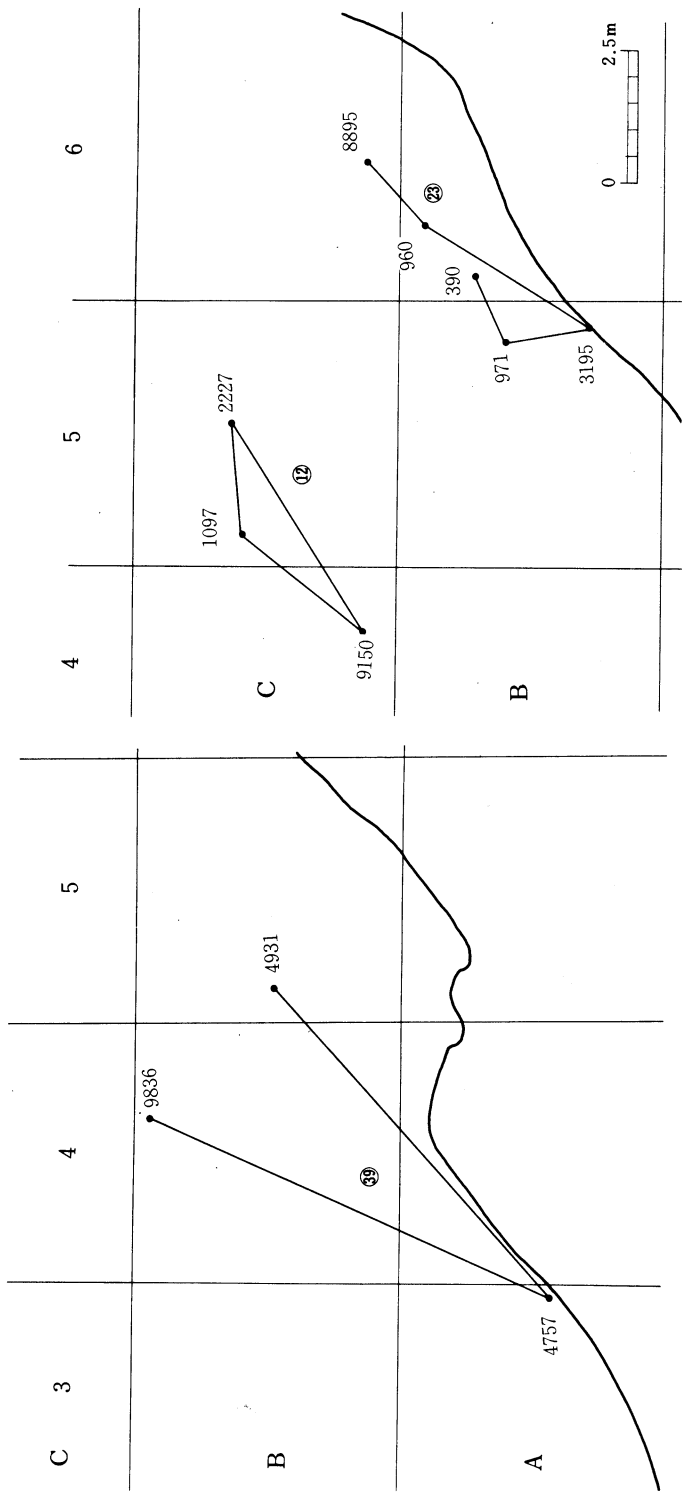
接合番号18



第89図 接合資料 (4)

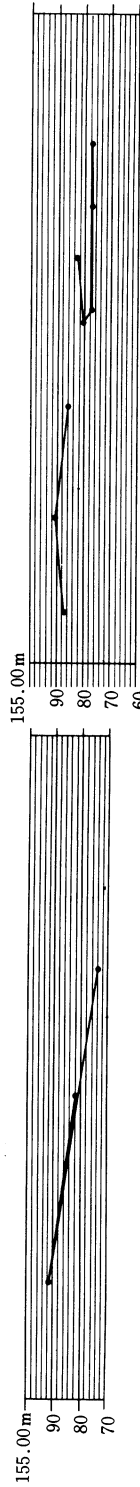
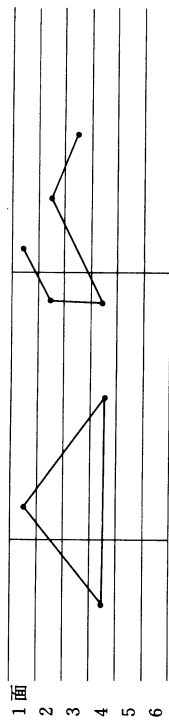


第90図 接合資料遺物実測図 (7)

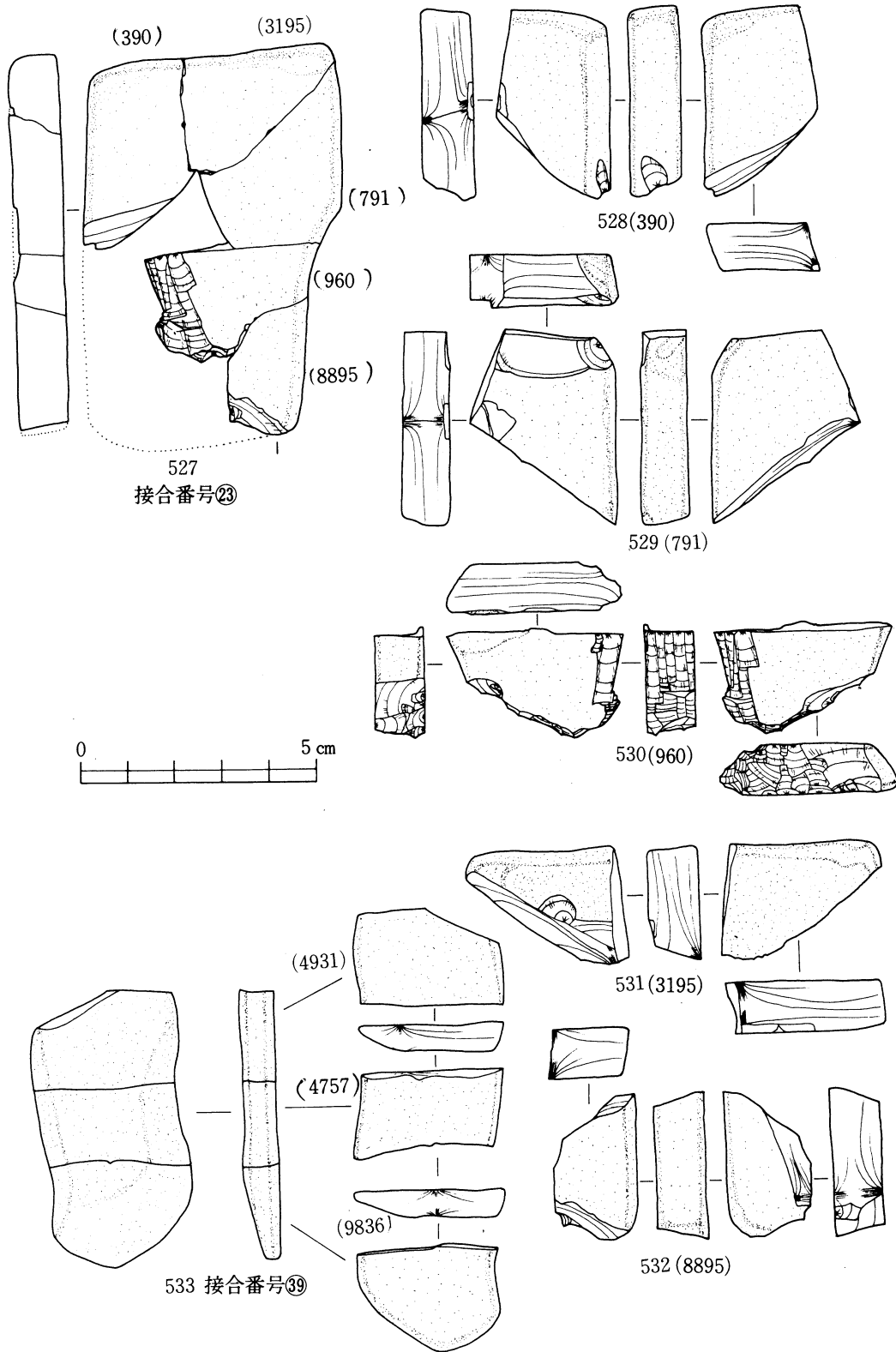


接合番号⑳

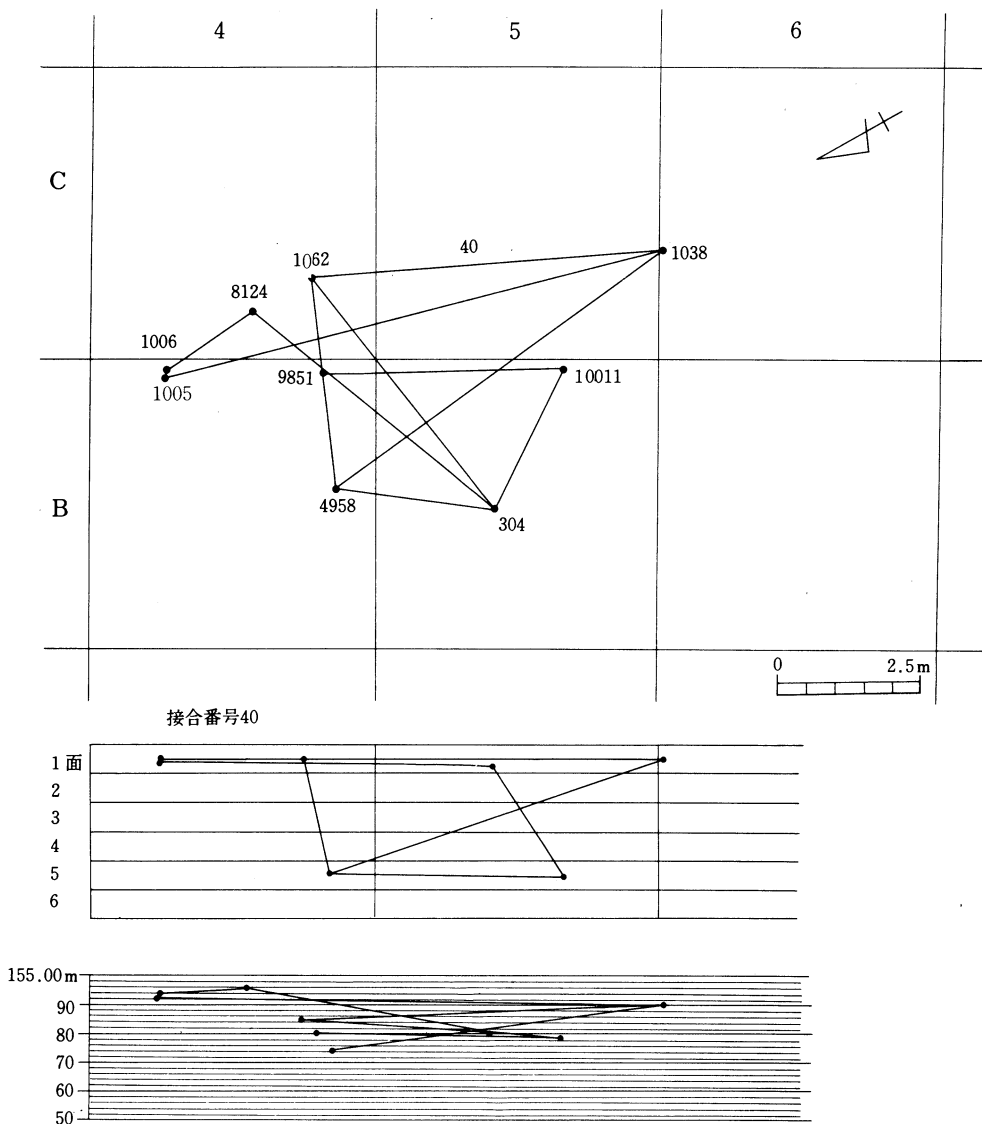
接合番号㉑



第91図 接合資料 (5)



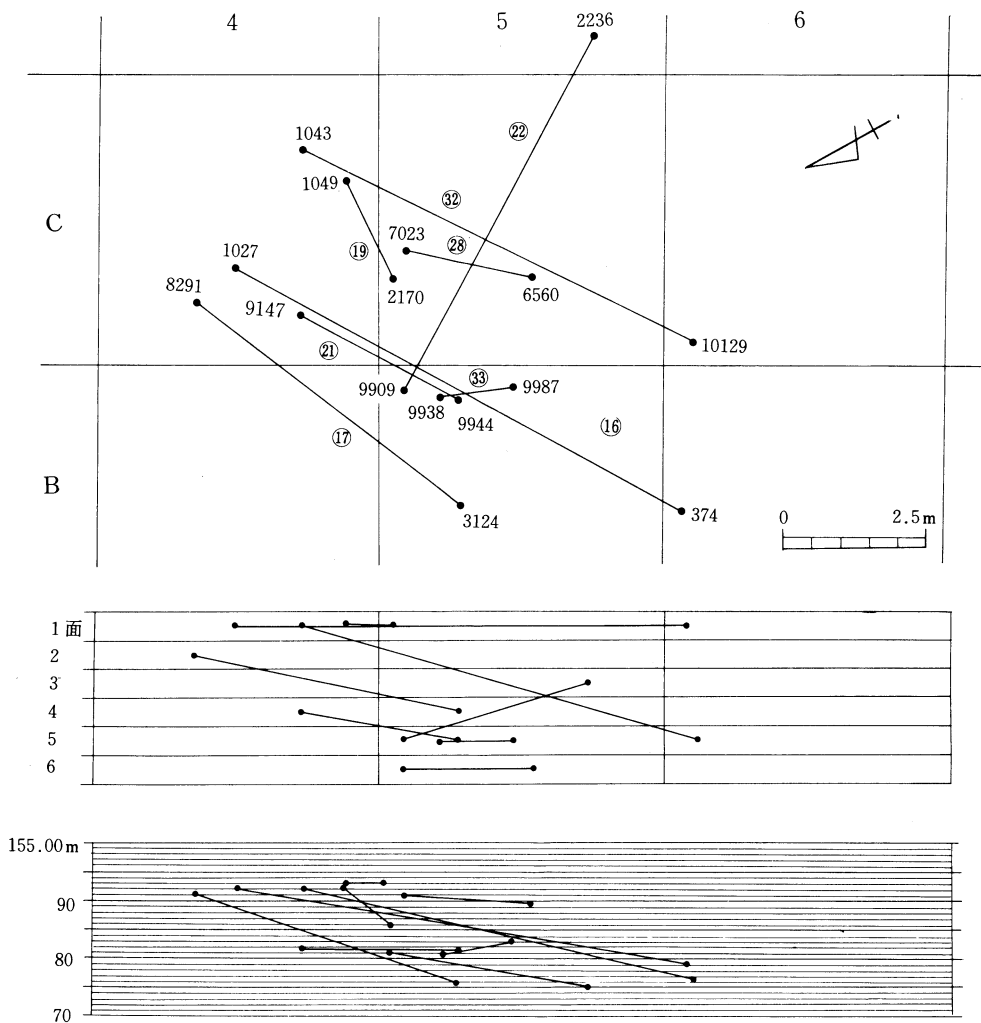
第92図 接合資料遺物実測図 (8)



第93図 接合資料(6)

には開きは少ない。遺物は図版 66 である。この遺物は大きいものから小さいものまで不均一であり、無差別に分割したと考えられる。石材も硬い感じがある。(304)・(1005)・(1006)・(1038)・(1102)・(4958)・(8124)・(9851)・(10011)が接合。

第97図の接合番号25はB・C-4に出土している(第96図)。これは出土番号3709と2950が接合したものである。これは約1cmの扁平な楕円の礫を2分割し下線部を調整し、分割面を打撃面として細石刃剥離を行なっている。535は背部まで調整が行われ、剥離順序は斜に進んでいる。536は下縁調整は途中までであり、両面を細石刃剥離に使用している。これは下縁調整

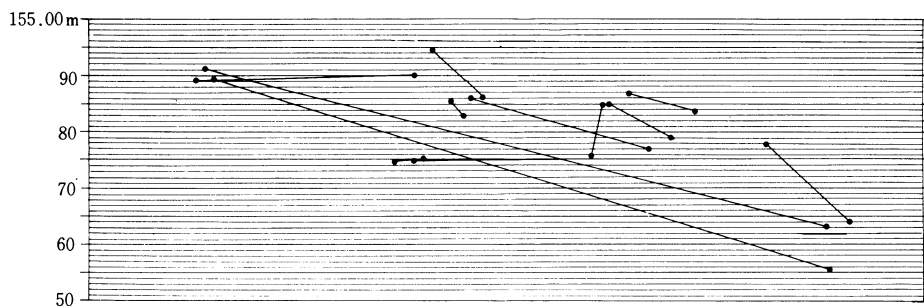
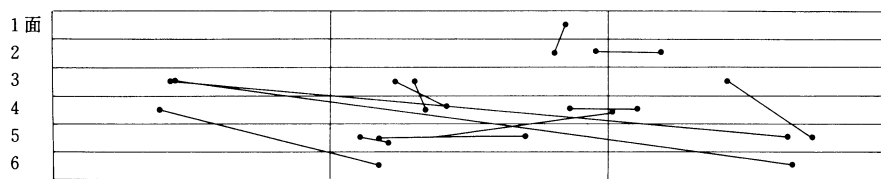
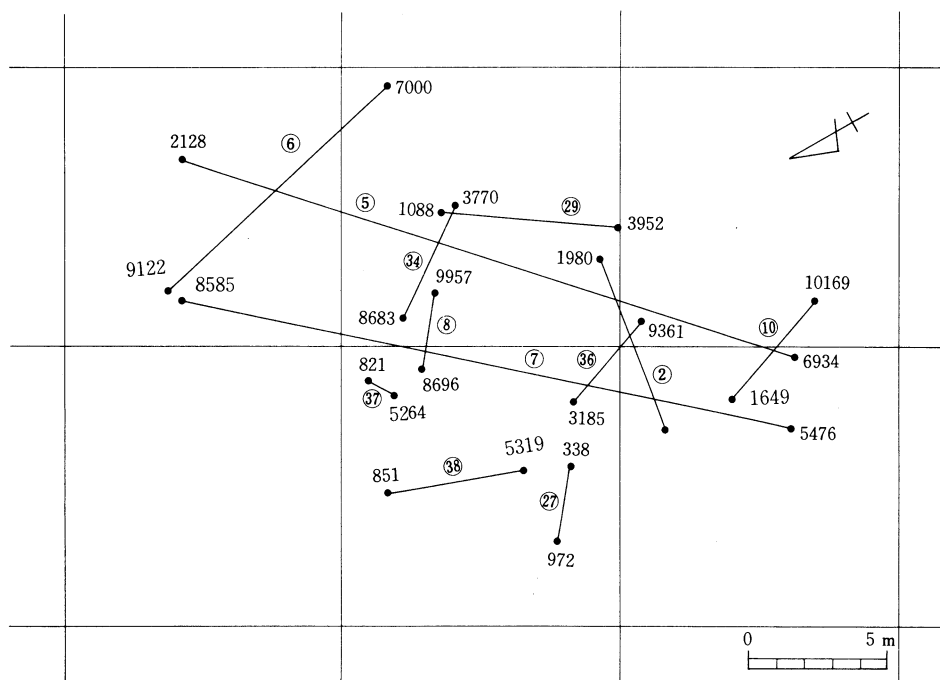


第94図 接合資料(7)

と非下縁調整のものが合さっている。出土面は共に5面目である。

537は接合番号22である。平面図・垂直分布図は第94図にある。B-5とD-5区に出土し5面と3面に取り上げられている。これも534と同様な円礫を使用している。538は下縁調整が全面されている。539は下縁部が非調整になっている。しかし下縁部が分割面であるので後から分割されている可能性もある。(2236と9909とが接合。

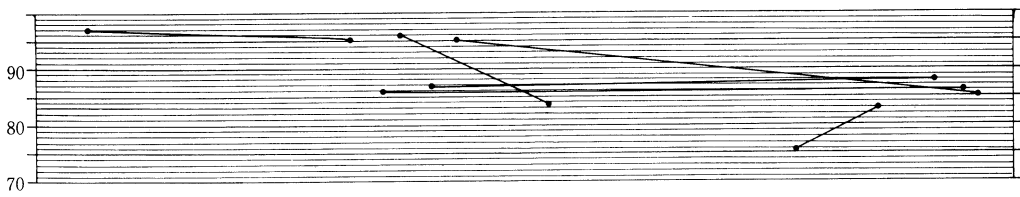
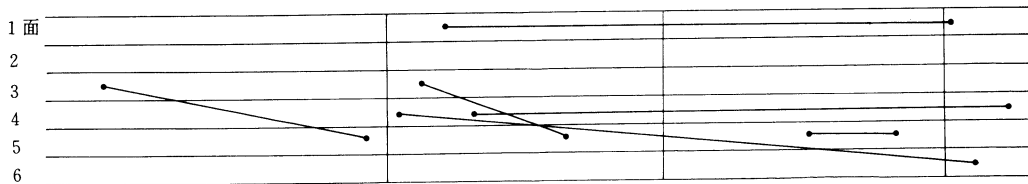
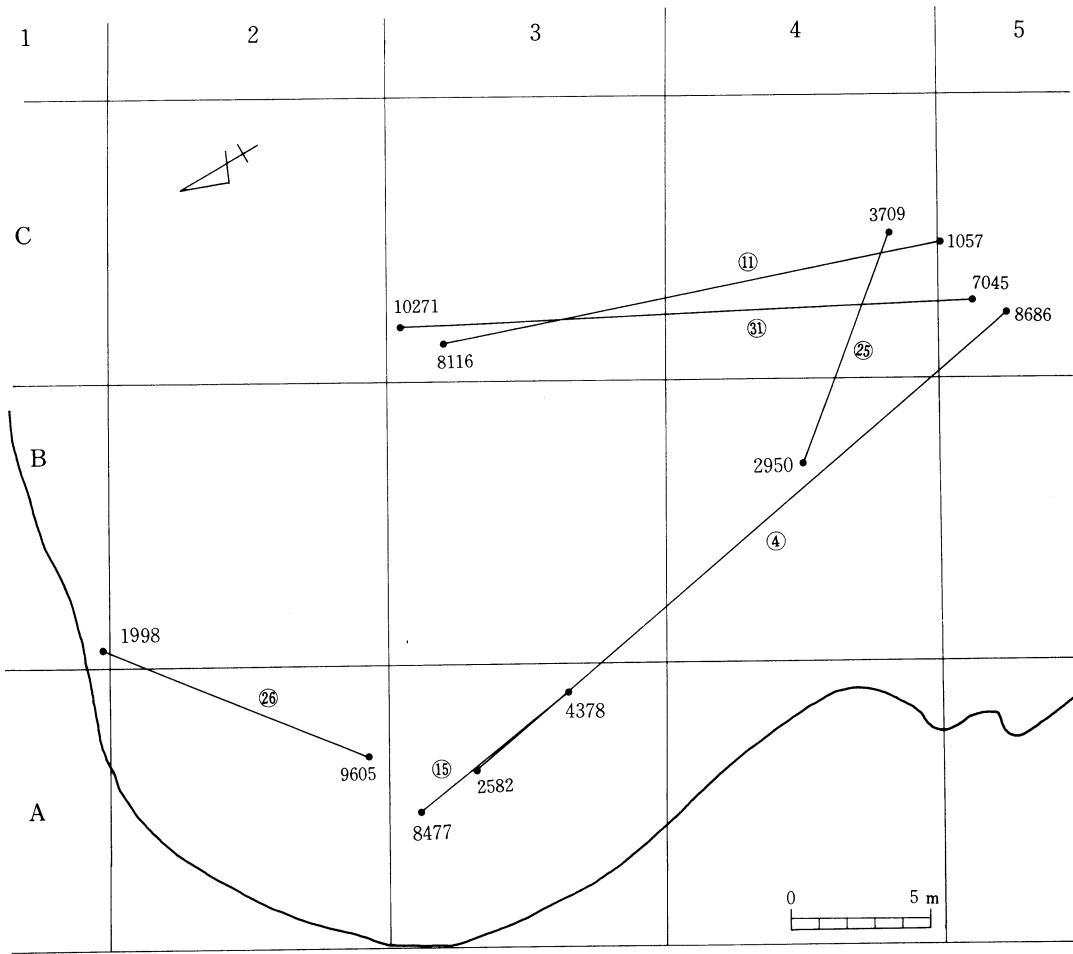
540は接合番号8である。平面図・垂直分布図は第95図に記載している。B・C-5区に出土し、検出面は3面と4面である。これも小円礫を使用したものである。541は下縁調整を行ない、542は非下縁調整細石核である。(8696と9957とが接合。



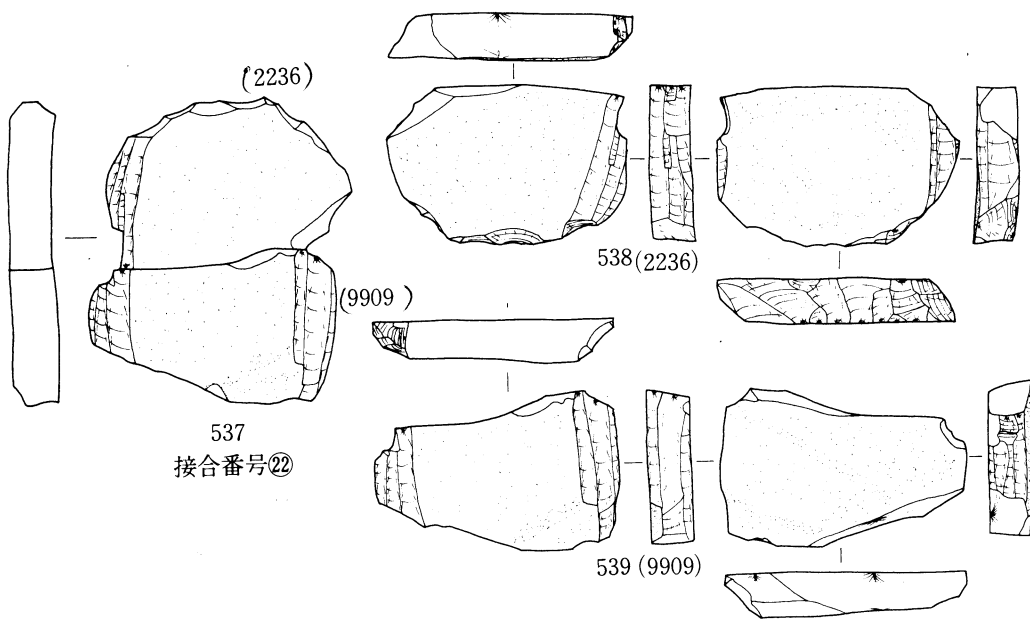
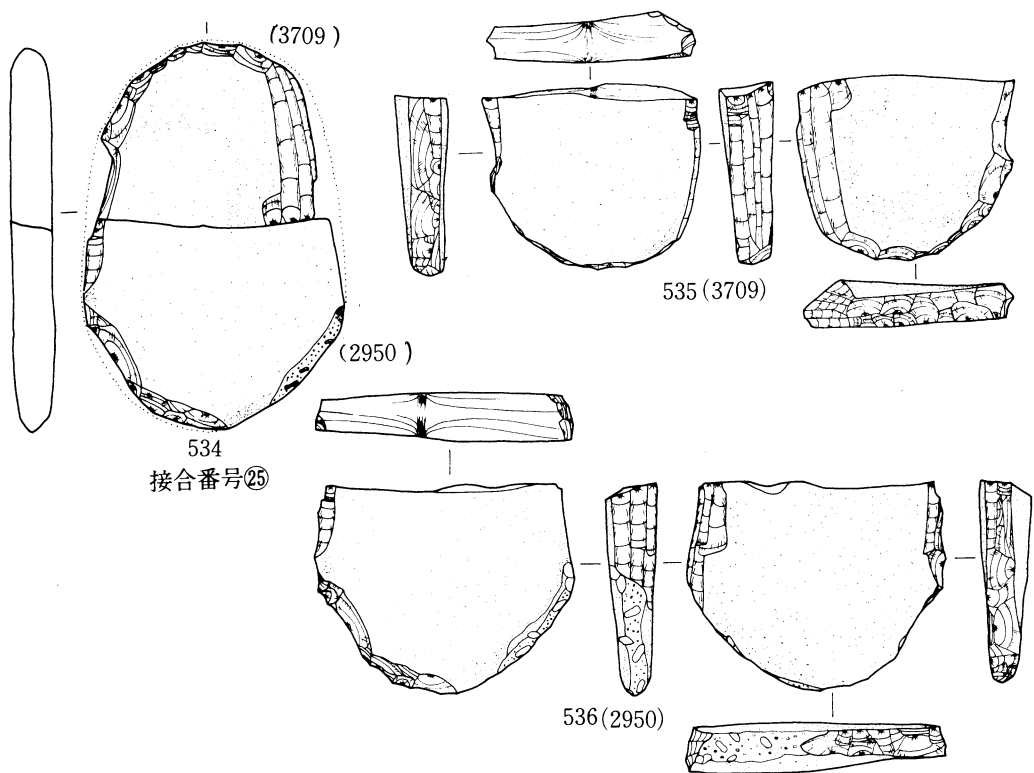
第95図 接合資料(8)

544は接合番号6である。第94図に平面・垂直分布図記載。出土区はC-4・5で4面^欄と6面^欄に出土している。これは扁平な長楕円礫を使用している。両方とも下縁調整細石刃核にはいるが545は大きく調整している。(7000)と(9122)が接合。

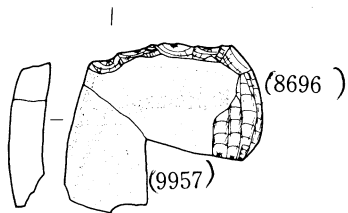
546は接合番号19である。出土地区はC-4・5区で1面と3面に出土している。出土面は



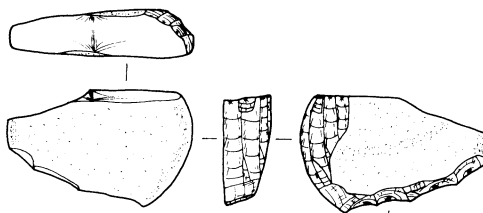
第96図 接合資料 (9)



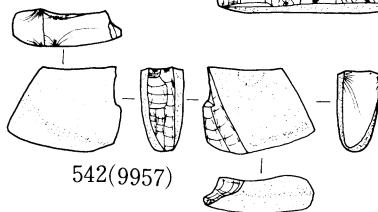
第97図 接合資料遺物実測図 (9)



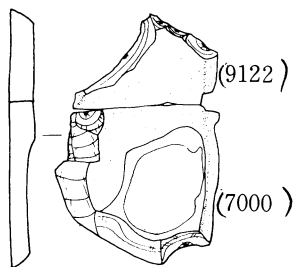
540
接合番号⑧



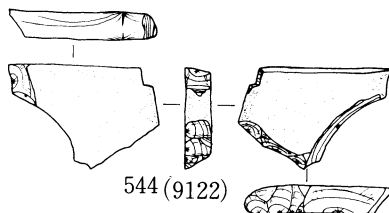
541(8696)



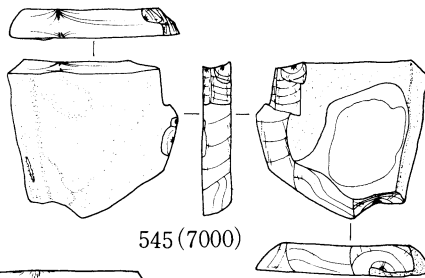
542(9957)



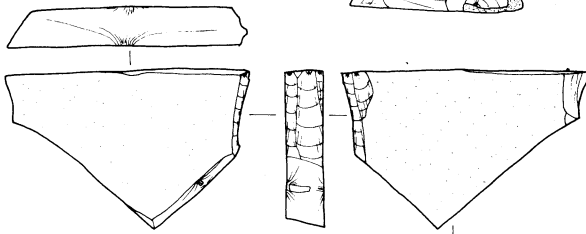
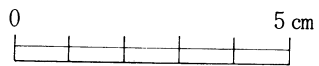
543
接合番号⑥



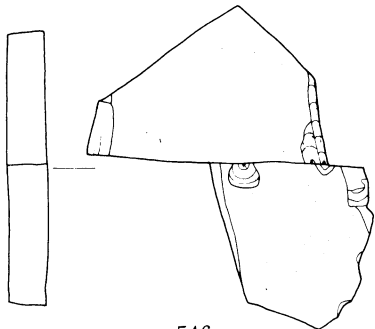
544(9122)



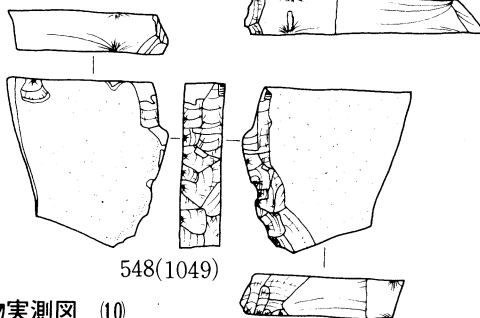
545(7000)



547(2170)

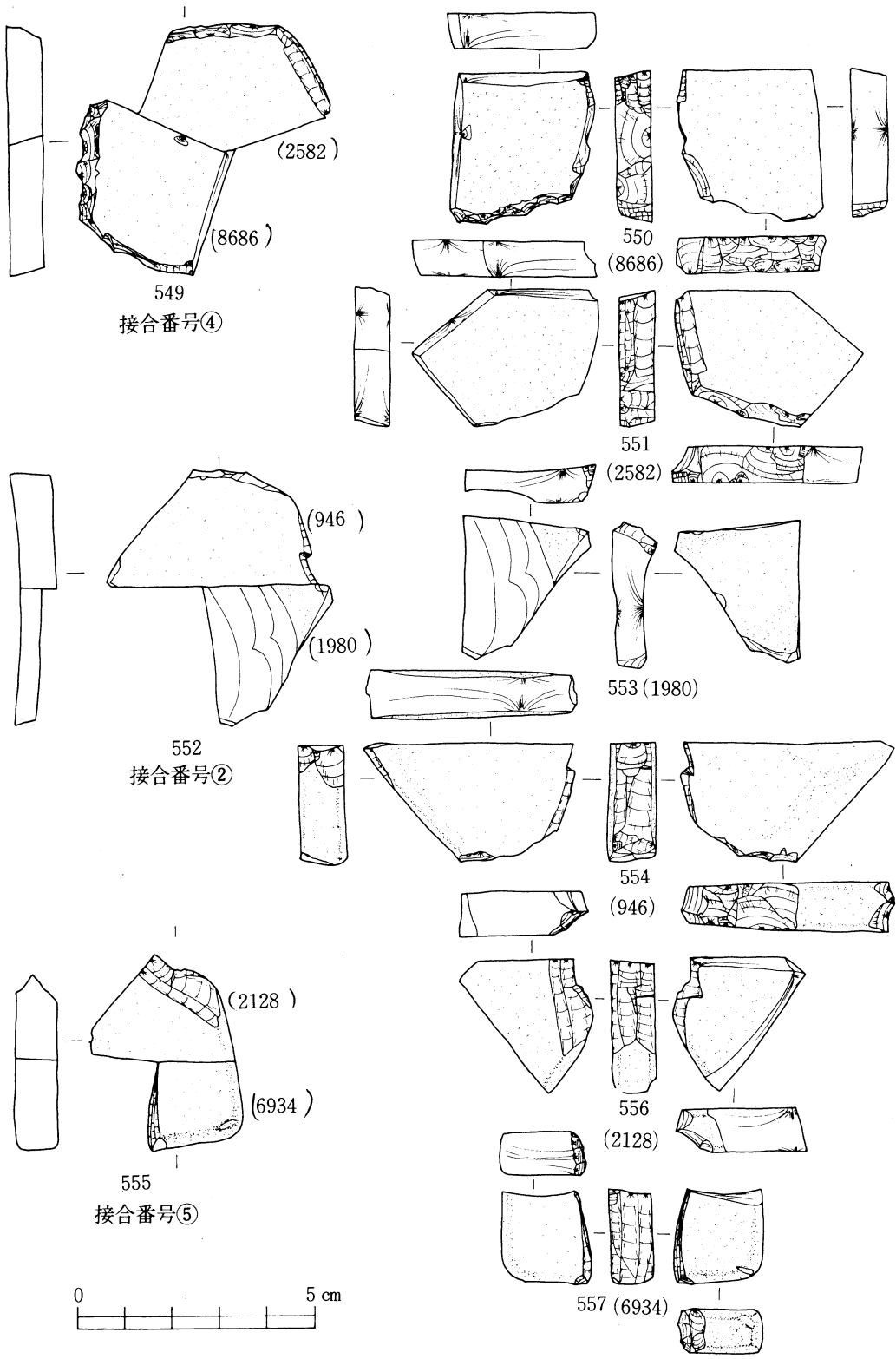


546
接合番号⑱

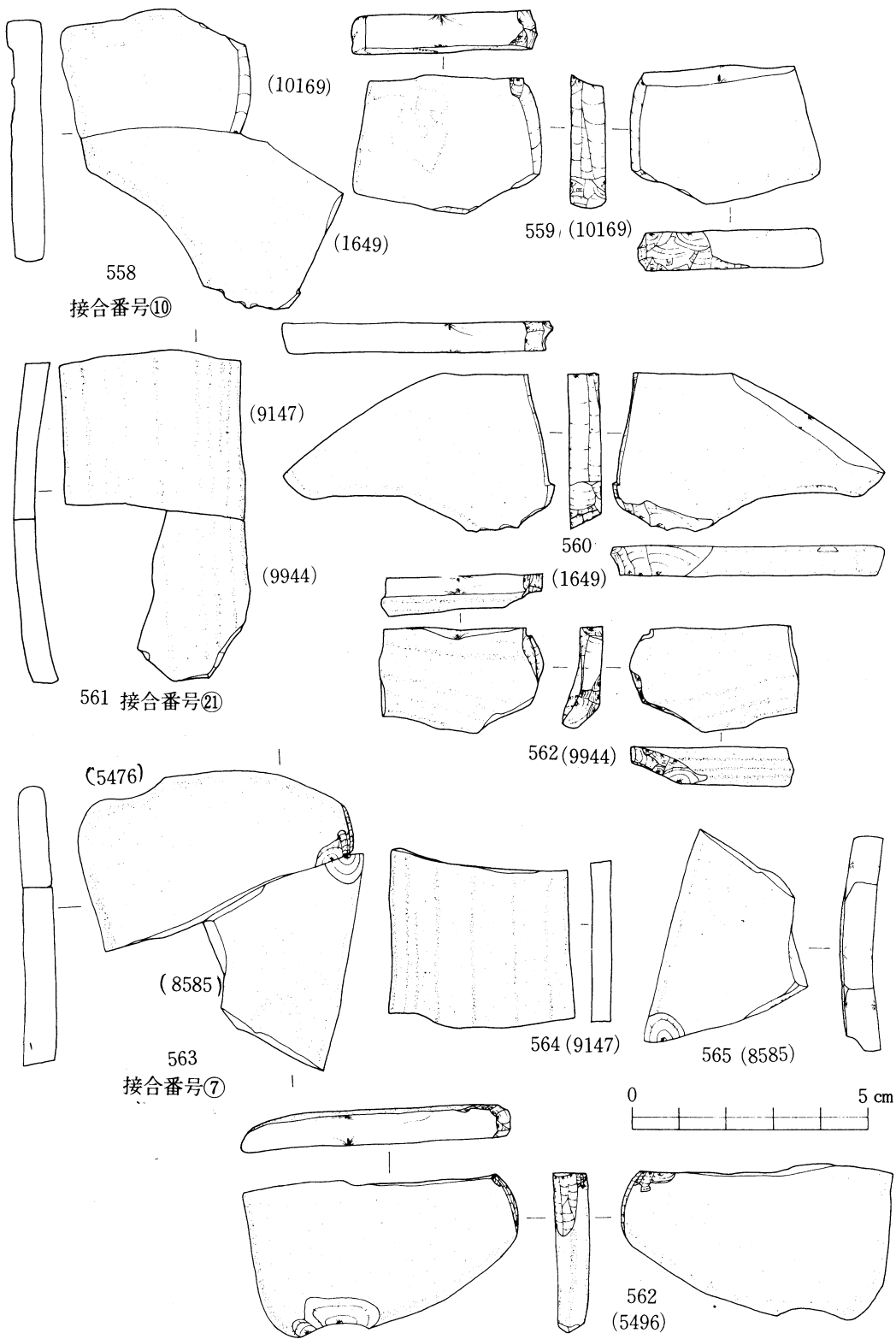


548(1049)

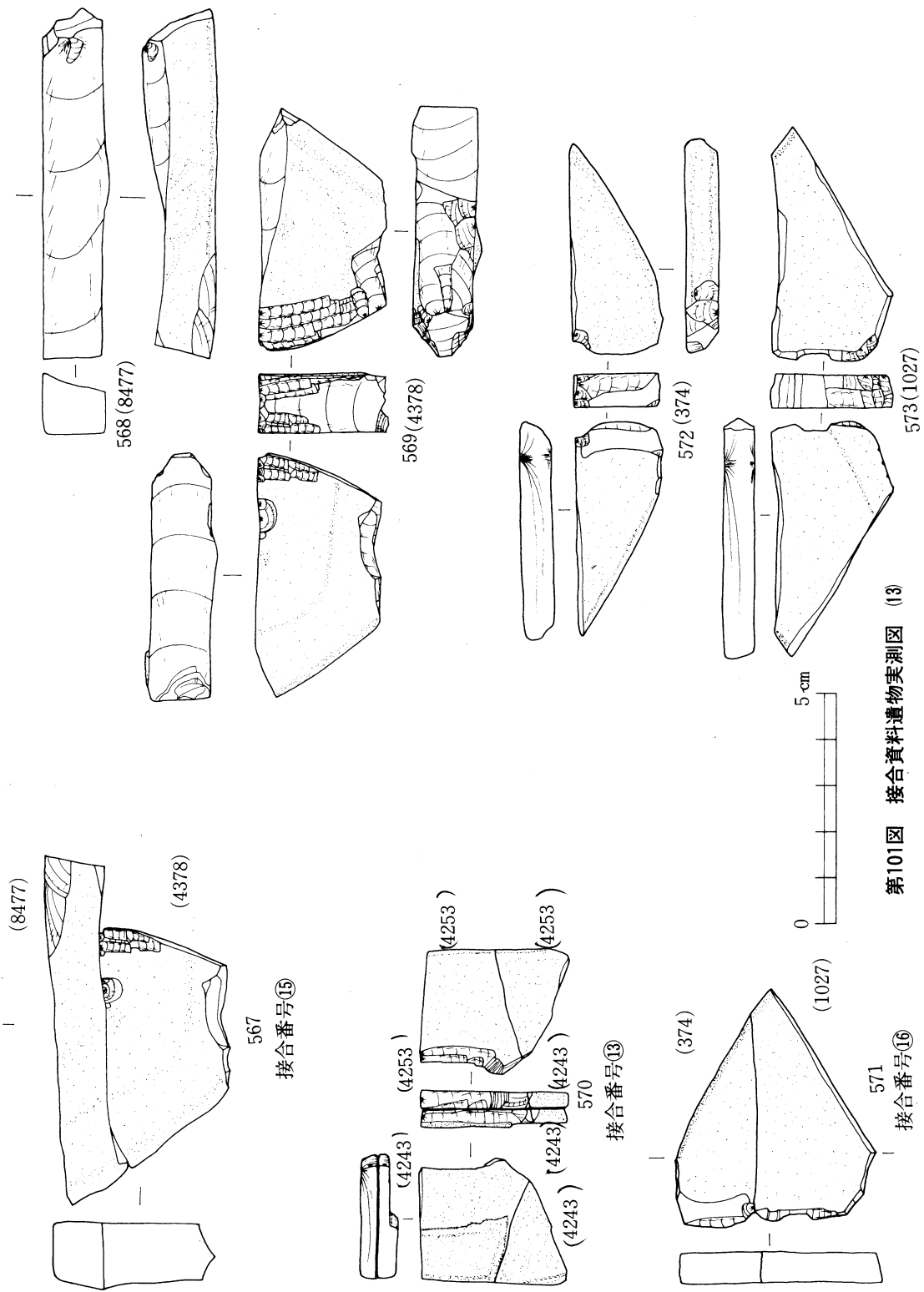
第98図 接合資料遺物実測図 (10)



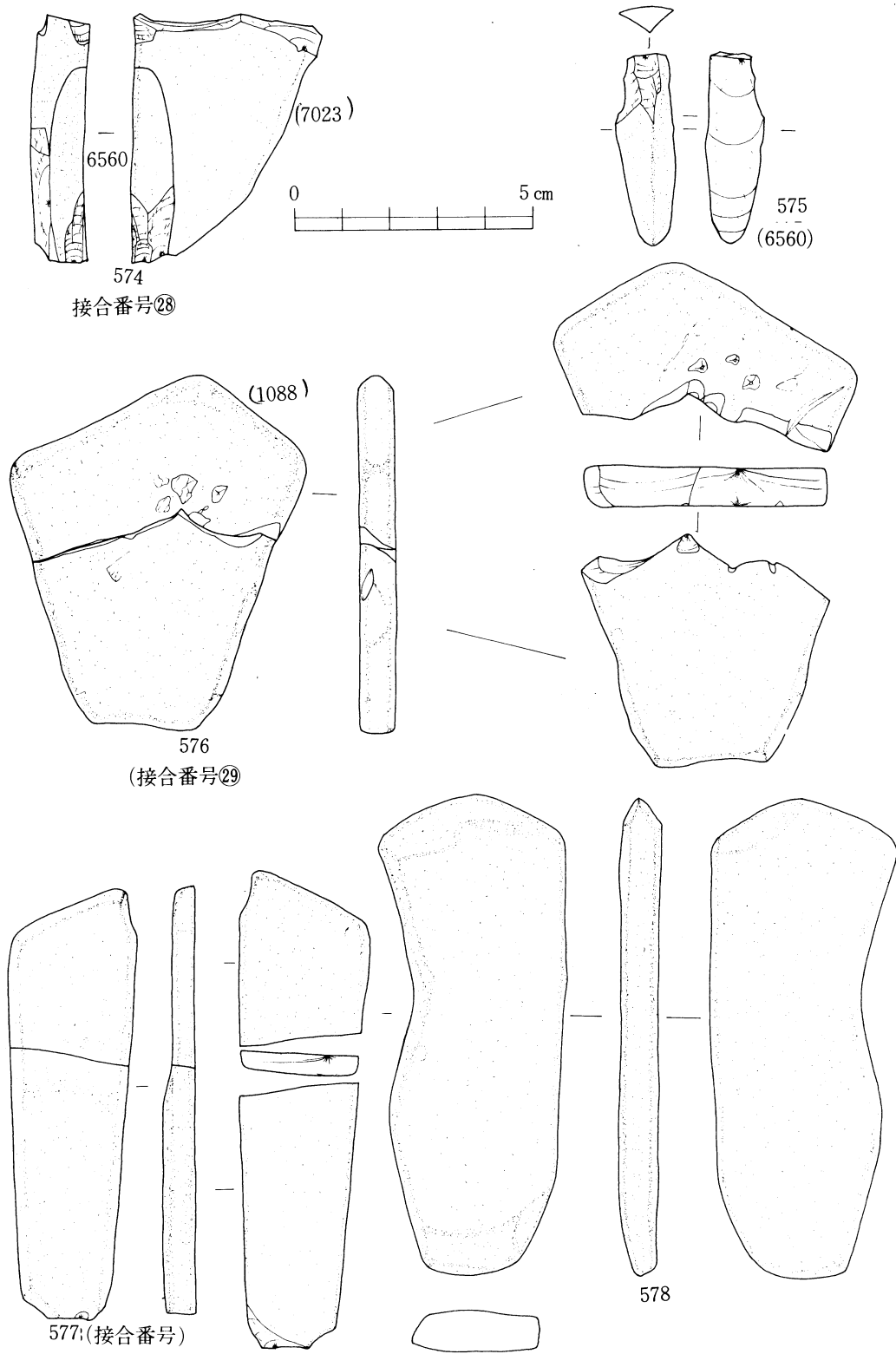
第99図 接合資料遺物実測図 (1)



第100図 接合資料遺物実測図 (12)



第101図 接合資料遺物表測図 (13)



第102図 接合資料遺物実測図 (14)

1と3であるがレベル的には同じ様な面である。547は非下縁調整細石刃石核で、548は下縁調整石核である。(1049)と(2170)が接合。

549は接合番号4で出土区はA-3とC-5で15mm位はなれている(第96図)。出土面は3面と4面に出土している。レベル差はあまりない。2つとも下縁調整が行なわれている。(8686)と(2582)が接合。

552はB-6、C-5区に出土した(1980)と(946)が接合、両方とも2面に出土している。レベル差はあまりない(第95図)。554は細石刃核で下縁調整がみられる。

555はC-4とB-6区に出土した2128と6934が接合、約12mm位はなれている。出土面は3面と6面である。レベル差は大である。これは地形との関係が強い。

558はB-6とC-6区に出土した(10169)と(1649)が接合した。出土面は3面と5面であり、レベル差は大である。遺物は559と560で共に下縁調整細石刃核である。

561はC-4区とB-5区に出土した(9147)と(9944)が接合した。(第94図)。562は下縁調整細石核である。564には細石刃剝離はみられない。(第100図)

563は接合番号7で(5476)と(8585)が接合した。出土面は3・5面目である。出土区はC-4とB-6とかなりはなれている。遺物は566が細石刃核で下縁調整はない。

567は接合番号15である。(8477)と(4378)が接合。A-3区の5面目と3面目に出土。レベル差は若干ある。石材は同じ凝灰岩質頁岩であるが厚味がある。いままでのものは広い面から分割していたが、これは狭い部分で背部から分割している。568はその分割されたものでスポール状になっている。569は下縁調整細石刃核である。

570は接合番号13でA-3とB-5の5面目に出土している。これは細石刃核が中央部より分離されたものと考えられる。

571はB-5・C-4区の6面目と4面目に出土。2つとも下縁調整細石刃核である。

574はC-5区で(6560)と(7023)が接合、出土面はともに6面である。第94図と第102図。

576はC-5・C-6区の1面と4面に出土、第95と第102図。これは扁平の円礫を2分割しただけである。577も同様である。

578は分割していない母岩である。

第14表 接合資料遺物表

番号	遺物番号	区	面	レベル	遺物名	番号	遺物番号	区	面	レベル	遺物名	
1	1888	C-5	2	154-415	細石刃核ブランク	14	2216	C-5	3	154-800	細石刃核	
	2017	C-5	2	154-855	細石刃核		2860	B-4	4	154-820	細石刃核ブランク	
	3793	C-5	4	154-855	細石刃核		4005	C-6	4	154-695	細石刃核ブランク	
	8707	B-5	3	154-905	細石刃核ブランク		10119	C-6	5	154-775	細石刃核ブランク	
2	1980	C-5	2	154-865	細石刃核ブランク	15	4378	A-3	5	154-885	細石刃核	
	946	B-6	2	154-830	細石刃核		8477	A-3	3	155-070	剥片	
3	1072	C-5	1	154-905	細石刃核ブランク	16	374	B-6	1	154-795	細石刃核	
	3701	C-5	4	154-880	細石刃核ブランク		1027	C-4	1	154-920	細石刃核	
	5634	C-6	5	154-740	細石刃核ブランク	17	3124	B-5	4	154-760	細石刃核	
	7166	C-6	6	154-825	細石刃核ブランク		8291	C-4	2	154-925	細石刃核	
4	2582	A-3	4	155-005	削器・細石刃核	18	6544	C-4	6	154-900	細石刃核ブランク	
	8686	B-4	3	154-900	細石刃核		6547	C-5	6	154-880	細石刃核	
5	2128	C-4	3	154-890	細石刃核	19	9406	C-6	4	154-670	細石刃核ブランク	
	6934	B-6	6	154-555	細石刃核		1049	C-4	1	154-920	細石刃核	
6	7000	C-5	6	154-900	細石刃核	20	2170	C-5	3	154-860	細石刃核	
	9122	C-4	4	154-890	細石刃核		3726	C-5	4	154-835	細石刃核ブランク	
7	5476	B-6	5	154-636	細石刃核	21	8727	C-5	4	154-855	細石刃核	
	8585	C-4	3	154-910	細石刃核ブランク		3728	C-4	4	154-840	細石刃核ブランク	
8	8696	B-5	3	154-855	細石刃核	22	9147	C-4	4	154-815	細石刃核ブランク	
	9957	C-5	4	154-830	細石刃核		9944	B-5	5	154-815	細石刃核	
9	1074	C-5	1	154-940	細石刃核ブランク	23	2236	D-5	3	154-750	細石刃核	
	2169	C-5	3	154-890	細石刃核ブランク		9909	B-5	5	154-815	細石刃核	
	8354	B-5	2	154-890	細石刃核		390	B ^C -6	1	154-835	細石刃核ブランク	
10	1649	B-6	3	154-780	細石刃核	24	960	B-6	2	154-775	細石刃核	
	10169	C-6	5	154-645	細石刃核		971	B-5	2	154-775	細石刃核ブランク	
11	1057	C-5	1	154-935	細石刃核	25	3195	B-5	4	154-805	細石刃核ブランク	
	8116	C-4	1	154-920	細石刃核ブランク		8895	B-3	3	154-775	細石刃核ブランク	
12	1097	C-5	1	154-910	細石刃核	24	1022	C-4	1	154-920	細石刃核ブランク	第79図
	2227	C-5	3	154-865	細石刃核		3702	C-5	4	154-875	細石刃核	
	9150	C-4	4	154-880	細石刃核		3866	C-5	4	154-725	細石刃核ブランク	
13	4243	A-3	5	154-955	細石刃核	25	7037	C-5	6	154-910	細石刃核	
	4258	A-3	5	154-960	細石刃核		2950	B-4	4	154-810	細石刃核	
	4843	B-4	5	154-740	砕片		3709	C-4	4	154-880	細石刃核	

番号	遺物番号	区	面	レベル	遺物名	番号	遺物番号	区	面	レベル	遺物名	
26	1698	B-1	I-3	155-200	細石刃核ブランク	40	304	B-5	1	154-800	細石刃核ブランク	第 79 図
	9605	A-2	5	155-040	細石刃核ブランク		1005	C-4	1	154-920	細石刃核ブランク	
27	338	B-5	1	154-830	細石刃核ブランク		1006	C-4	1	154-935	細石刃核ブランク	
	972	B-5	2	154-255	細石刃核ブランク		1038	C-4	1	154-900	細石刃核ブランク	
28	6560	C-5	6	154-895	碎 片		1102	C-5	1	154-850	細石刃核ブランク	
	7023	C-5	6	154-910	細石刃核ブランク		4958	B-4	5	154-745	細石刃核ブランク	
29	1088	C-5	1	154-905	細石刃核ブランク		8124	C-4	1	154-955	細石刃核ブランク	
	3952	C-6	4	154-770	細石刃核ブランク		9851	B-4	5	154-810	碎 片	
30	1821	C-6	2	154-335	細石刃核ブランク		10011	B-5	5	154-785	細石刃核ブランク	
	3971	C-6	4	154-780	細石刃核ブランク		560	B-3	2	155-490	細石刃核ブランク	
	7711	C-5	6	154-900	碎 片		603	A-3	2	155-440	細石刃核ブランク	
31	7045	C-5	6	154-910	細石刃核ブランク		627	A-4	2	155-360	細石刃核ブランク	
	10271	C-3	4	154-910	細石刃核ブランク		2627	A-3	4	154-930	細石刃核ブランク	
32	1043	C-4	1	154-935	細石刃核ブランク		2727	B-3	4	154-950	細石刃核ブランク	
	10129	C-6	5	154-755	細石刃核ブランク		4425	B-3	5	154-920	細石刃核ブランク	
33	9938	B-5	5	154-805	細石刃核ブランク		4748	A-4	5	154-855	細石刃核ブランク	
	9987	B-5	5	154-830	細石刃核ブランク	725	B-4	2	155-400	細石刃核ブランク		
34	3770	C-5	4	154-860	細石刃核ブランク	814	B-5	2	155-315	細石刃核ブランク		
	8683	B-5	3	154-895	細石刃核ブランク	1034	C-4	1	154-910	細石刃核ブランク		
35	3707	C-4	4	154-875	細石刃核ブランク	3646	C-4	4	154-870	碎 片		
	5533	C-5	5	154-900	細石刃核ブランク	5179	B-5	5	154-750	細石刃核ブランク		
36	3185	B-5	4	154-850	細石刃核ブランク	7054	C-5	6	154-920	細石刃核ブランク		
	9361	C-6	4	154-785	細石刃核ブランク	1031	C-4	1	154-910	細 石 刃 核		
37	821	B-5	2	155-315	細石刃核ブランク	5603	D-5	5	154-750	細 石 刃 核		
	5264	B-5	5	154-750	細石刃核ブランク	5652	C-6	5	154-655	細 石 刃 核		
38	851	B-5	2	155-295	細石刃核ブランク	6955	D-5	6	154-750	細石刃核ブランク		
	5319	B-5	5	154-725	細石刃核ブランク	6976	C-5	5	154-825	細石刃核ブランク		
39	4757	A-3	5	154-910	細石刃核ブランク							
	4931	B-5	5	154-735	細石刃核ブランク							
	9836	B-4	5	154-815	細石刃核ブランク							

(2) 技法の設定

接合資料が43例確認されたことは前のべたとおりである。この接合資料から技法を考えてみた。

まず、石材は自然面をもった扁平な礫を使用している。本遺跡での母岩の石材は凝灰岩質頁岩ないし同質シルトと砂岩と頁岩の3つのものを使用。この石材を分割してブランクをつくっている。分割方法は広い2面の両面に打撃痕がある両面打撃で分割している。フィシャーは打撃部の上・下より出て接触面より左右に走っている。

分割は母岩によって違いがあり、それは下記の4つに分けられる。

- ① 横に2分割するもの……………接合資料 ⑥②⑨等
- ② 横に3以上に分割するもの……………接合資料 ②④③等
- ③ 横だけではなく縦にも分割するもの……………接合資料 ②③④④③等
- ④ 一部分より放射状に分割するもの……………接合資料 ③⑭等

これらは母岩の形で上の4つに分けられ、①②は楕円形で幅が狭い。③は方形ないし楕円形で幅が広い。④は三角形ないし、円形に近いものになる。

次の段階は分割した各部を選び下縁調整を行なうものは下縁部を調整する。下縁調整は打撃部直下の部分だけを行なうもの。半分位い行なうもの、全面行なうものの3つに分けられる。この下縁調整は細石刃剥離段階で良い細石刃が剥離されるために行なうためや、細石刃の長さを調整するためであろう。この段階で細石刃核のブランクが二つの類に分けられる。

I類…下縁調整するもの……………下縁調整細石刃核ブランク

II類…下縁調整をしないもの……………非下縁調整細石刃核ブランク

そしてこれらから細石刃を細石刃核ブランクから剥離し、剥離する打面は分割面になる。細石刃を剥離する時には角部より剥離する。

第103図は以上のことを模式図にし、展開したものである。

細石刃核は下縁調整のものとは非下縁調整のものに分けられ、また片面だけではなく2面細石刃剥離を行なった細石刃核もある。

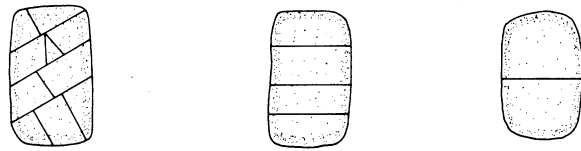
これを加治屋園技法と呼ぶことにする。

第103図は頁岩・砂岩質のもので宮崎県の児湯郡地方で採集される畦原型細石刃核に同類である。これは加治屋園技法で細石刃を剥離するもので、非下縁調整細石刃核（II類）にあたる。石材の違いだけで非下縁調整細石核にあたる。

また鹿児島市の加栗山遺跡でも凝灰岩質頁岩ないしシルトの細石刃核、細石刃、頁岩、砂岩の細石刃が多数出土している。

この技法の細石刃核は南九州から東九州の中・南部までおよんでいる。

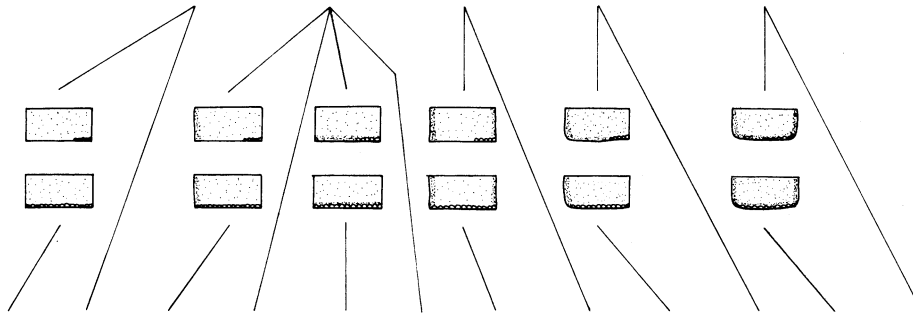
母岩分割



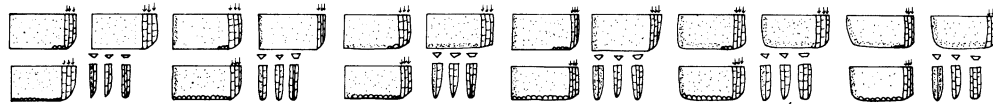
分割各部



下縁調整

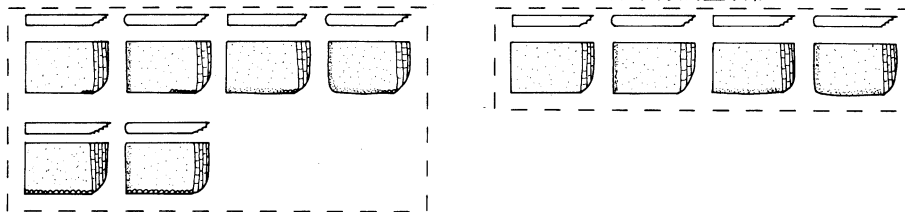


細石刃剝離

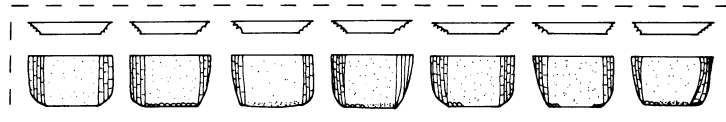


下縁調整石核

非下縁調整石核



片面剝離
細石刃核の形態
両面剝離



第103図 加治屋園技法の模式展開図

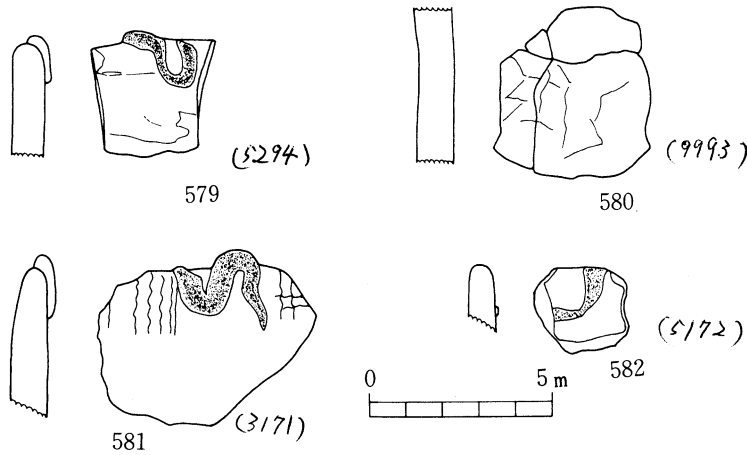
(3) 土器

土器は全部で 114点出土し、1面圖は2点、2面圖は2点、3面圖は3点、4面圖は16点、5面圖は40点、6面圖は51点と包含層の下半に集中している。

土器は器厚が薄く焼成の良いものと器厚が厚く焼成の悪いものがある。前者は明褐色で後者は黒褐色である。104図は土器の図面である。579は黒褐色で胎土、焼成ともに悪い。口縁部で粘土紐を口唇部から口縁へ貼り付けている。580は明褐色の土器で表面に植物繊維状のものがみられる。焼成は良い。581は口縁部である。口唇部から口縁にかけて「S」字状に粘土紐を貼り付けている。口縁には貝殻類似の施文具で刺突している。また刺突文をクロスさせている部分もみられる。黒褐色を呈し焼成はよくない。582は黒褐色の口縁部である。短い粘土紐を貼り付けたものである。胎土、焼成は良くない。

これらの土器には他に出土番号(5174)・(4316)や、(7603)・(5746)等土器中に繊維状のものがあつたり、器面に帯状の繊維圧痕がみられるものもある。

本遺跡の土器の特徴は短い粘土紐を口縁部に貼り付けたもので、粘土紐貼り付け文土器と仮称する。



第 104図 土器図

第15表 VIII層の土器出土表

番号	遺物番号	区	面	レベル	遺物名	番号	遺物番号	区	面	レベル	遺物名
1	293	B-5	1	154-775	土器	34	4751	A-4	5	154-855	土器
2	772	B-4	2	155-280	〃	35	4775	A-4	5	154-730	〃
3	1033	C-4	1	154-920	〃	36	4777	A-4	5	154-750	〃
4	1759	C-2	3	155-076	〃	37	5041	B-5	5	154-730	〃
5	2087	C-5	2	154-870	〃	38	5161	B-5	5	154-740	〃
6	3171	B-5	4	154-760	〃	39	5172	B-5	5	154-745	〃
7	3270	B-6	4	154-810	〃	40	5174	B-5	5	154-750	〃
8	3317	B-6	4	154-720	〃	41	5294	B-5	5	154-750	〃
9	3429	A-2	5	155-180	〃	42	5378	B-6	5	154-760	〃
10	3434	B-2	5	155-155	〃	43	5379	B-6	5	154-700	〃
11	3456	B-2	5	155-130	〃	44	5407	B-6	5	154-750	〃
12	3487	B-2	5	155-020	〃	45	5408	B-6	5	154-740	〃
13	3488	B-2	5	155-020	〃	46	5409	B-6	5	154-750	〃
14	3596	A-2	5	155-080	〃	47	5441	B-6	5	154-750	〃
15	3597	A-2	5	155-080	〃	48	5508	C-4	5	154-900	〃
16	3671	C-4	4	154-895	〃	49	5719	A-3	6	154-910	〃
17	3721	C-4	4	154-870	〃	50	5854	B-2	6	154-990	〃
18	3724	C-4	4	154-875	〃	51	5959	A-2	6	155-000	〃
19	3725	C-4	4	154-865	〃	52	5969	C-2	5	155-000	〃
20	3741	C-5	4	154-780	〃	53	5976	A-3	6	155-005	〃
21	3900	C-5	4	154-820	〃	54	5984	B-3	6	154-940	〃
22	3915	C-5	4	154-750	〃	55	6322	B-4	6	154-755	〃
23	3920	C-5	4	154-760	〃	56	6509	B-6	6	154-670	〃
24	3930	D-5	4	154-720	〃	57	6599	C-5	6	154-850	〃
25	3931	D-5	4	154-710	〃	58	6633	C-6	6	154-805	〃
26	4053	C-7	4	154-530	〃	59	6664	B-3	6	154-900	〃
27	4054	C-7	4	154-510	〃	60	6667	B-3	6	154-860	〃
28	4074	B-3	5	154-980	〃	61	6681	A-4	6	154-765	〃
29	4081	B-3	5	154-955	〃	62	6769	B-3	6	154-810	〃
30	4314	A-3	5	154-990	〃	63	6798	B-4	6	154-690	〃
31	4315	A-3	5	154-975	〃	64	6800	B-4	6	154-700	〃
32	4316	A-3	5	154-985	〃	65	6802	B-4	6	154-695	〃
33	4317	A-3	5	154-980	〃	66	6807	B-4	6	154-690	〃

番号	遺物番号	区	面	レベル	遺物名		番号	遺物番号	区	面	レベル	遺物名	
67	6813	A-4	6	154-685	土器		91	7647	D-5	6	154-780	土器	
68	6921	B-6	6	154-625	〃		92	7648	C-5	6	154-790	〃	
69	6959	D-5	6	154-700	〃		93	7658	C-5	6	154-890	〃	
70	6962	D-5	6	154-750	〃		94	7659	C-5	6	154-880	〃	
71	7003	C-4	6	154-890	〃		95	7678	C-5	6	154-890	〃	
72	7005	C-5	6	154-900	〃		96	7805	B-5	6	154-625	〃	
73	7007	C-5	6	154-900	〃		97	7978	C-5	6	154-830	〃	
74	7009	C-5	6	154-900	〃		98	8533	B-3	3	155-030	〃	
75	7010	C-5	6	154-905	〃		99	8573	B-6	3	155-895	〃	
76	7013	C-5	6	154-910	〃		100	9918	B-5	5	154-835	〃	
77	7014	C-5	6	154-910	〃		101	9993	B-5	5	154-790	〃	
78	7015	C-5	6	154-905	〃		102	9994	B-5	5	154-780	〃	
79	7148	C-5	6	154-880	〃		103	9995	B-5	5	154-790	〃	
80	7153	C-5	6	154-850	〃		104	10133	C-6	5	154-760	〃	
81	7167	C-5	6	154-820	〃		105	10151	C-6	5	154-730	〃	
82	7169	D-5	6	154-780	〃		106	10155	C-6	5	154-723	〃	
83	7217	B-2	6	155-010	〃		107	10156	C-6	5	154-685	〃	
84	7227	A-2	6	155-060	〃		108	10164	C-6	5	154-685	〃	
85	7255	B-3	6	154-860	〃		109	10165	C-6	5	154-660	〃	
86	7351	B-4	6	154-735	〃		110	10170	C-6	5	154-620	〃	
87	7365	B-3	6	154-775	〃		111	10452	C-6	4	154-725	〃	
88	7589	B-5	6	154-630	〃		112	10467	B-6	6	154-650	〃	
89	7603	B-5	6	154-630	〃		113	10482	B-2	6	154-900	〃	
90	7610	B-6	6	154-530	〃		114	10516	C-5	6	154-720	〃	

第16表 敲石・割石・礫出土表

番号	遺物番号	区	面	レベル	遺物名	番号	遺物番号	区	面	レベル	遺物名
1	209	B-4	1	154-835	礫	34	2707	B-3	5	154-940	礫
2	314	B-5	1	154-835	礫	35	2890	B-4	5	154-830	礫
3	320	B-5	1	154-855	礫(割石)	36	2914	A-4	5	154-680	礫
4	739	B-4	2	155-265	礫	37	2945	B-4	5	154-820	礫
5	803	B-4	2	155-295	敲石	38	2948	B-4	5	154-815	台石
6	976	B-5	2	154-720	敲石(ハンマーストーン)	39	3334	B-2	5	155-005	台石
7	1273	A-2	2	155-230	敲石(ハンマーストーン)	40	3418	B-1	5	155-070	原石
8	1304	A-2	2	155-190	割石	41	3440	B-2	5	155-105	礫
9	1328	A-2	2	155-155	礫	42	3466	B-2	5	155-005	台石
10	1398	B-3	3	154-860	礫	43	3470	B-2	5	155-000	台石
11	1530	B-5	3	154-775	礫(敲石)	44	3544	A-2	5	155-165	礫
12	1587	B-6	3	154-770	台石	45	3568	A-2	5	155-150	礫
13	1761	C-6	2	154-180	割石	46	3607	A-2	5	155-080	礫(台石様)
14	1860	C-6	2	154-340	割石	47	3630	C-3	4	154-860	礫
15	2003	D-6	2	154-765	割石	48	3670	C-4	4	154-885	礫扁平台石
16	2004	D-7	2	154-895	割石	49	3678	C-4	4	154-870	台石
17	2031	C-5	2	154-825	礫	50	3745	C-5	4	154-800	礫(割石)
18	2039	C-5	2	154-820	割石	51	3768	C-5	4	154-850	台石
19	2045	C-5	2	154-800	礫(敲石)	52	3824	C-5	4	154-855	アンピル
20	2102	C-5	2	154-795	礫(割石)	53	3851	C-5	4	154-795	礫
21	2274	C-5	3	154-840	礫	54	3913	C-5	4	154-760	礫(割石)
22	2346	C-6	3	155-310	割石	55	3948	C-6	4	154-075	台石
23	2402	C-5	3	155-340	礫(割石)	56	3983	C-6	4	154-775	礫
24	2433	A-2	4	155-110	礫	57	3996	C-6	4	154-695	台石
25	2447	A-2	4	155-150	礫(割石)	58	4011	C-6	4	154-675	礫
26	2484	A-2	4	155-105	礫(割石)	59	4013	C-6	4	154-690	礫(敲石の様)
27	2497	B-2	4	155-130	礫(割石)	60	4017	C-6	4	154-675	台石
28	2518	B-2	4	155-010	礫	61	4035	C-6	4	154-510	原石
29	2523	A-2	4	155-140	礫(割石)	62	4322	A-3	5	154-970	礫(敲石)
30	2533	B-3	5	155-060	礫(割石)	63	4408	B-3	5	154-860	礫
31	2535	B-3	5	155-030	礫(割石)	64	4507	B-3	5	154-860	礫(敲石)
32	2561	B-3	5	154-990	礫	65	4523	B-3	5	154-880	礫(割石)
33	2706	B-3	5	154-920	礫	66	4589	B-4	5	154-785	礫(割石)

番号	遺物番号	区	面	レベル	遺物名	番号	遺物番号	区	面	レベル	遺物名
67	4717	B-3	5	154-825	礫(割石)	99	7170	D-5	6	154-785	礫
68	4823	B-4	5	154-770	礫(割石)	100	7228	A-2	6	155-065	礫
69	4890	B-4	5	154-735	礫(敲石)	101	7358	B-4	6	154-730	割石
70	5033	A-5	5	154-695	礫	102	7701	C-5	6	154-890	礫
71	5040	B-5	5	154-730	礫	103	8236	B-3	2	155-050	礫
72	5366	B-5	5	154-730	礫	104	8281	B-4	2	154-855	割石
73	5320	B-5	5	154-730	礫(敲石)	105	8440	C-6	2	154-865	台石
74	5351	B-5	5	154-730	礫	106	8482	A-2	3	155-080	敲石
75	5366	B-5	5	154-715	礫台石	107	8741	C-5	3	154-838	台石
76	5459	B-6	5	154-640	礫	108	8837	B-6	3	154-775	扁平割石
77	5469	B-6	5	154-650	礫	109	8842	B-6	3	154-770	割石
78	5499	C-3	5	154-880	礫	110	8843	C-6	3	154-770	原石
79	5524	C-6	5	154-885	礫(割石)	111	8854	C-6	3	154-705	敲石
80	5596	D-5	5	154-730	礫(割石)	112	8896	C-6	3	154-730	台石
81	5601	D-5	5	154-710	礫(割石)	113	9082	C-2	4	155-030	割石
82	5669	C-6	5	154-690	礫	114	9083	C-2	4	155-020	礫(割石)
83	5827	B-2	6	154-930	礫(割石)	115	9090	C-3	4	155-100	割石
84	5850	B-2	6	154-930	礫(割石)	116	9100	C-3	4	154-935	割石
85	5859	B-2	6	155-010	礫(割石)	117	9104	B-3	4	154-925	割石
86	5896	B-2	6	155-060	礫(割石)	118	9127	C-4	4	154-885	礫
87	5897	B-2	6	155-050	礫	119	9173	C-4	4	154-890	礫
88	5942	A-2	6	155-075	剝片礫割石	120	9174	C-4	4	154-885	礫
89	6064	A-3	6	154-860	礫	121	9216	B-5	4	154-860	割石
90	6257	B-4	6	154-795	礫(割石)	122	9290	B-5	4	154-795	扁平割石
91	6259	B-4	6	154-800	礫(割石)	123	9330	C-6	4	154-785	原石
92	6284	A-4	6	154-740	礫(敲石)	124	9403	C-6	4	154-600	礫
93	6290	無遺物	6	154-770	礫(割石)	125	9635	A-3	5	155-040	礫
94	6694	B-4	6	154-745	礫(割石)	126	9839	B-4	5	154-825	礫
95	6824	B-4	6	154-680	礫	127	9886	C-4	5	154-850	礫
96	6890	B-5	6	154-625	礫(割石)	128	9978	C-5	5	154-820	礫
97	6917	B-5	6	154-640	礫	129	10019	B-5	5	154-775	礫
98	7002	C-5	6	154-830	礫						

第2節 縄文時代

1 集石

縄文時代の集石はⅢc層とⅤa層に検出した。Ⅲa層は掘り込みの上に集石している。直径1m位の中に集中させている。この集石には縄式土器片が含まれている。Ⅲc層には縄式が多く出土しているのでこの時期の集石とおもわれる。なお性格は不明である。

また、この集石の¹⁴C測定は5020±105Y B. P. (4880±100Y B. P.) である。

Ⅴa層検出の集石は7基出土した。1・2・7はしっかりしていたが他は散乱ぎみであった。時期は塞ノ神B式の時期と思われる。2号集石の¹⁴C測定は7550±130Y B. P. (4880±100Y B. P.) である。この時期の集石の下には掘り込みはみられなかった。

2 土器

縄文時代の土器はⅢa層とⅢc層とⅤa層に出土している。Ⅲa層には並木式・岩崎式・指宿式・西平式（形式がわかるものだけで他は不明）等が出土している。これらは中期～後期にかけての土器である。各土器とも1～2点だけであり全体的にも少量である。遺跡の性格としては散布地と考えられる。

Ⅲc層の土器は縄式土器である。器面に貝殻調整を行い連点を施文し、器形は尖底ぎみの丸底である。縄式土器の中でも後半に位置するものと考えられる。

Ⅴa層の土器は平椀式土器系と、塞ノ神B式が出土している。平椀式土器系は口縁部の特徴や燃糸土器片等があるが本来の平椀式土器のくずれたものであろう。塞ノ神B式は貝殻文施文の土器である。器形は頸部で「く」字形に外反するものと、直行する円筒土器型が出土している。塞ノ神B式の円筒土器型は鹿児島県始良郡加治木町三代寺遺跡や、同県曾於郡志布志町石踊遺跡にも多く出土している。この土器には貝殻条痕も施されている。

塞ノ神B式は本来口縁部が外反する型とされてきたが、円筒土器形のものが新たに加わり、口縁部が外反するものと共伴することが判明した。

時期的には¹⁴C測定7550±130、Y B. P. と早期にはいると思われる。

3 石器

縄文時代に属する石器は土器と同様、3つの層に分けることができた。すなわち、塞ノ神式土器に共伴する5層の石器、縄式土器に共伴する3c層の石器、中、後、晩期の土器に共伴する3a層の石器である。

5層の石器には石鏃、石匙、石錐、スクレイパー、石銛、磨製石斧、叩石、磨石とあって、縄文時代における石器の組みあわせのほとんどがみられる。出土した土器の数を考えると、その種類数は多く、しいてこれ以外のものを求めるとすれば打製石斧、石皿等だけであろうか。同時期のこうしたセット関係をあげるとしたら石峰遺跡4a層出土の資料をあげれるが、石峰遺跡では石鏃、石匙、たて形・横形のスクレイパー、剥片石器、磨製石斧、部分磨製石斧、叩石などがあり、剥片石器のなかにはスクレイパー様のもの、ナイフ様のもの、尖頭器状のものがある。本遺跡に比べると剥片石器の多いことが指摘される。

石鏃についていえば、本遺跡のものは三角鏃で浅いえぐりを有するという共通点をもつが、石峰遺跡は50本という多数の量を出していることもあって多種にわたる形態を呈している。ひとつには石峰遺跡4 a層には塞ノ神式土器だけでなく、他の様式を含むという理由にもよる。しかしながら、二等辺三角形を呈する石鏃は、4 b層にも出土しており、当遺跡に伴わないというのは偶然のことかもしれない。石錐の形態については、まだ出土数が少なくつまみをもつ形態とつまみのないものがどういう関係にあるのか決し難い。また磨石については桑ノ丸遺跡の前平式土器を伴う層から石ケン形をした磨石が多く出て注意されたが、本遺跡ではこうしたタイプは出土していない。石銛とした石器は、本県最初の出土であり、果して石銛の用途もっているのかどうか断定し難いが、形態的類似からいちおう石銛とした。橘昌信氏の研究によればこの種の石器は縄文時代前期から後期にかけて西北九州を中心として南九州・韓国南部の海岸にまでその分布を広げている。当遺跡のものは橘氏分類によればA類にあたるが、この類に限れば長崎県つぐめのはな遺跡以外には出土しておらず、しかもこの類の特長としてあげられる黒曜石製であること、両面ともに舟念な二次加工が施されるといった点は一致している。またつぐめのはな遺跡の共伴資料に当遺跡と同じく塞ノ神B式のあることは注目してよからう。また、石鏃のうち426は他の石鏃に比べて大きさ、重量ともに大型で、橘氏はこうした大型鏃を石銛E類として分けている。このような大型鏃は笠沙町西之園遺跡をはじめとして各地で時にみるが、石鏃と石銛との境をどこにもってくるか、きわめてむずかしい操作といえる。今後類例の増加を待って考えねばなるまい。石銛の出土状況は不明確のものが多かった中で、当遺跡の資料は限定された時期を与えてくれた、貴重な資料といえる。

3 c層の石器は土器の量が少ないこともあって、数は少ない。轟式土器に伴う石器としてよくみられる剥片石器もスクレイパー状を呈したものがあり、鋸歯状石鏃もこの時期にはよくみられる。

3 a層の石器には石鏃、石匙、スクレイパー、磨製石斧、磨石がある。石鏃のなかでは平基式の石鏃がうすい剥片に周辺のみ細部加工を施した粗いもので、これは後・晩期によくみられるものである。定角式磨製石斧も、あまりみられないものであるが、後・晩期の時期に共伴する資料といえる。

橘昌信「石銛—西北九州における縄文時代の石器研究(二)—」『史学論叢』第10号 1979年
鹿児島県教育委員会『西之園遺跡』(『鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書』8) 1978年
鹿児島県教育委員会『桑ノ丸遺跡』(『 』7) 1977年
鹿児島県教育委員会『石峰遺跡』(『 』12) 1980年

第3節 古墳時代の遺物・遺構について

B4区周辺に検出された2つの土壇は、主軸方向がほぼ同じで、^視基模・様相などから考えて同時期および同一目的をもった遺構と推測される。時期についてはアカホヤ層を掘り込んでいること、埋土が古墳時代の土器を包含している暗褐色土であること、古墳時代の土器が周囲から採集されていることなどから、古墳時代のものとするのが有力であるが、埋土中に縄文式土器（後期）の小破片1だけしか含んでいないため、決断はくだし難い。

この土壇の概略を記すと、次のように要約できよう。①長さ 2.4～2.7m、幅 0.5m 前後を測る。②人頭大・こぶし大の円礫が土壇全面に広がっている。③土壇1には枕石と思われるものがある。以上のことを考え、特に③の事実を重視すれば、この土壇は礫を上におおう、いわゆる覆石墓の可能性を考えることができる。しかし、この周辺に覆石墓の類例を探すことは困難で、しいてあげれば高尾野町堂前遺跡・西之表市田ノ脇遺跡・中種子町鳥ノ峯遺跡にみられるだけである。

したがって、ここではその時期・性格とも不明といわざるを得ない。今後の類例に待ちたい。

次に遺物について考えたい。出土量が少なく把握は難しいが、だいたいにおいて3つの時期に大別できよう。

I期は475～478の鉢形土器・壺形土器・^後甕形土器が核当する。これらは従来、成川式土器と呼ばれているものであるが、甕形土器にみられる口縁部の外反度、内面整形におけるなどの粗さ等から考えれば、この中では新しい時期、つまり古墳時代後期に相当するものであろう。

II期に核当するのは、土師器の皿がヘラ切離しの時期である。つまり、479・480がこれに相当し、その時期は奈良～平安時代と推定される。

III期に核当するのは、土師器の坏が糸切離しとなる時期で、青磁もほぼ並行する時期とされよう。とすれば、この時期を青磁の稜花皿が示す16世紀中頃とすることができよう。なお、軽石製品については用途等、不明な点が多いが、時期的にはIII期とみていいのではあるまいか。

古墳時代以降については出土量が少なく、本遺跡を本拠地として使用したことはほとんどなかったと考えられるが、狭い範囲の調査であり、III期における中国製磁器の出土など注目される遺物の出土もあることから遺跡の性格は周辺の調査に待たねばなるまい。

第Ⅳ章 ま と め に か え て

加治屋園遺跡は九州縦貫自動車道建設に伴って調査された遺跡である。本遺跡の南側対岸には同事業で調査された加栗山遺跡もある。

遺跡は先土器時代、縄文時代、古墳時代以降と3時代の文化層が確認された。

先土器時代は表面より約3m下で第8層中に包含されていた。第8層は第12層の入戸火砕流(約2万~2.2万Y.B.P.)と第7層の軽石層(1万Y.B.P.)の間の腐植土層である。第7層は桜島^噴出物の軽石層で4枚に分かれ、約40^{cm}の厚味をもつ層で無遺物層である。これは第5~6層の縄文時代の層と先土器時代の層を完全に分断した層といえよう。

先土器時代は細石器文化のみである。出土層は8層のa~cにかけてで主体は8b層にあたる。遺物は約10000点出土し黒曜石は8639点、凝灰岩質頁岩1078点、土器114点であとがハンマーストーンや礫ないし、その他である。

遺物の検出方法は第8層のaからc上面にかけて6回で遺物の検出を行なった。遺物の出土状況は第4面目が最も多く検出した。

遺物の特徴は黒曜石に於いては細石刃核、細石刃、削器、搔器、尖頭器状石器等が多数出土した。細石刃核においては宮崎県の舟野遺跡より出土した舟野型に類したものがみられた。また細石器期に於いて黒曜石の搔器・削器が多く出土したことはこの遺跡の一特徴である。

本遺跡では黒曜石の細石刃、細石刃核のほかに凝灰岩質頁岩ないし頁岩、砂岩による細石刃核が出土した。これは接合資料が多く技法の設定が可能であった。この加治屋園技法の細石刃核は鹿児島市加栗山遺跡にも出土し、宮崎県児湯郡地方にも発掘資料ではないが採集資料で11例(新富町西蛙原・東蛙原・西都市松本・東郷町寺迫・国富町亀の甲・高岡町二反野)みられる。この技法は石材の選別に特徴があり、合理的な細石刃作製方法と考えられる。

土器も出土した。土器は114点出土し、その内口縁部にS字ないし逆S字状の粘土紐を貼り付けた土器が3点出土した。(内1つは刻目あり)その他は無文土器であった。土器の保存状態が悪く、復元ないし拓影もできなかった。土器には薄手と厚手があり、繊維質圧痕も見られた。

本遺跡の先土器時代の遺物は土器を伴う細石器期であり、遺物の出土状況や接合資料からみて一時期を考えられる。

縄文時代は第3abc層、第5ab層より出土している。遺物は早期、前期、中期、後期と各時期にわたっている。早期は塞ノ神B式が主体で他に平椀式土器系、塞ノ神A式土器系が少量出土している。前期は轟式土器である。中期は並木式土器、岩崎式土器で後期は指宿式土器、西平式土器等が少量出土している。塞ノ神B式の層の集石は7550±130Y.B.Pと早期末に位置し轟式土器の層の集石は5020±105Y.B.Pと前期に位置する。

古墳時代以降は1層と2層、3a層に出土している。縦長の集石土壇を2基検出した。この土壇の性格は不明である。

以上が加治屋園遺跡の簡単な内容である。

なお遺跡は九州縦貫自動車道に約300mかかり、全面調査を行った。南側の台地には先土器時代の層に遺物が採集され、遺跡の範囲は南側の舌状台地を含め後背地に広がると考えられる。

参考文献

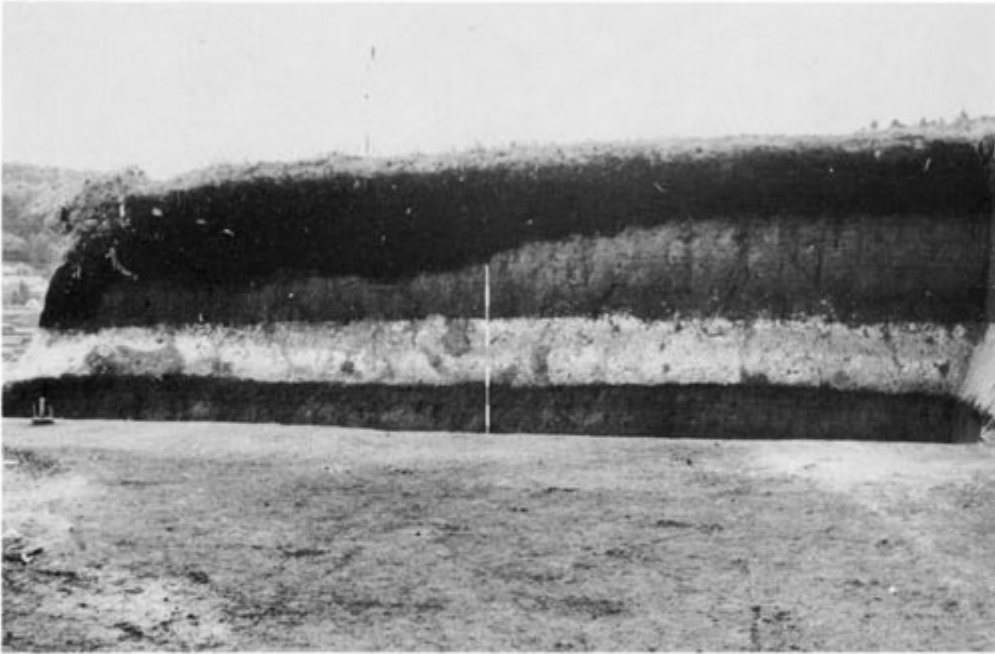
- | | | | |
|-----------------|----------|------|-------|
| 日本の考古学 先土器時代 | 河出書房 | 鎌木義昌 | 昭和40年 |
| 新版考古学講座 先史文化 | 雄山閣 | 芹沢長介 | 昭和44年 |
| 舟野遺跡 考古学論叢 1 | 橘 | 昌信 | |
| 児湯郡下の旧石器 宮崎考古 3 | 茂山護、大野寅夫 | | 昭和52年 |
| 日本先土器時代の研究 | 杉原荘介 | 講談社 | 昭和49年 |



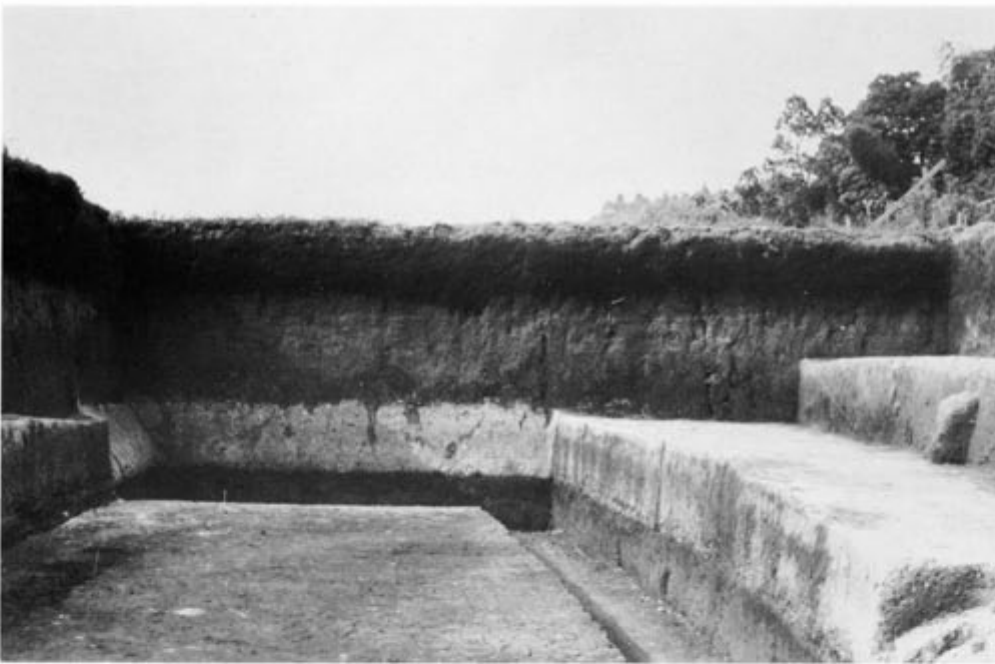
遺跡遠景



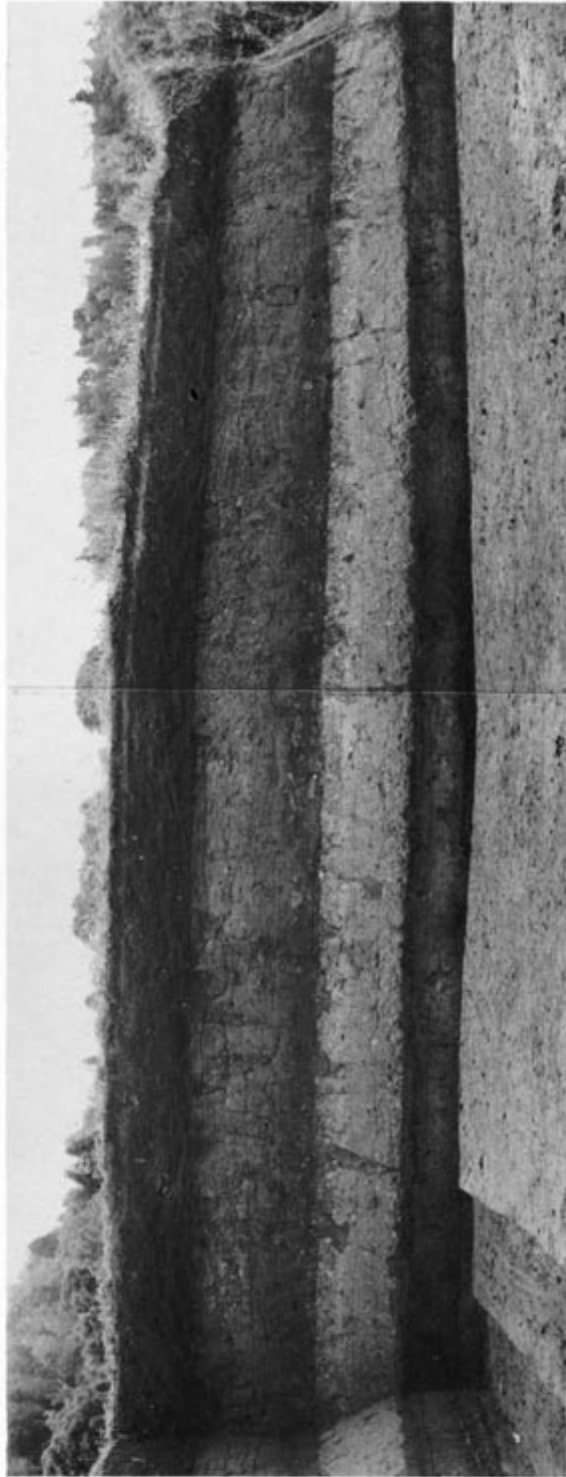
遺跡遠景



遺跡の土層断面A・B面



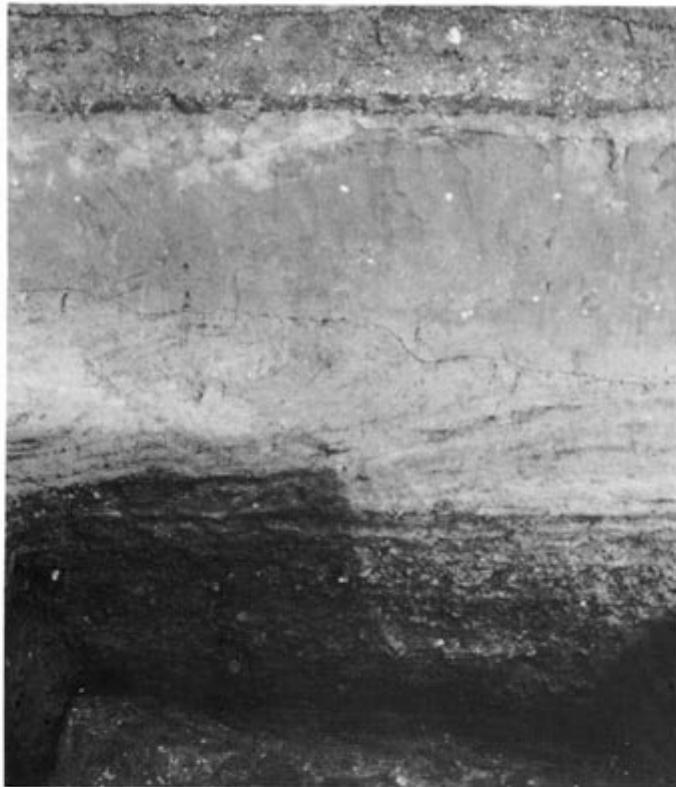
遺跡土層断面C・D面



遺跡の土層断面 3～7 面



遺跡の土層断面



遺跡の砂礫層



先土器時代出土遺物状況

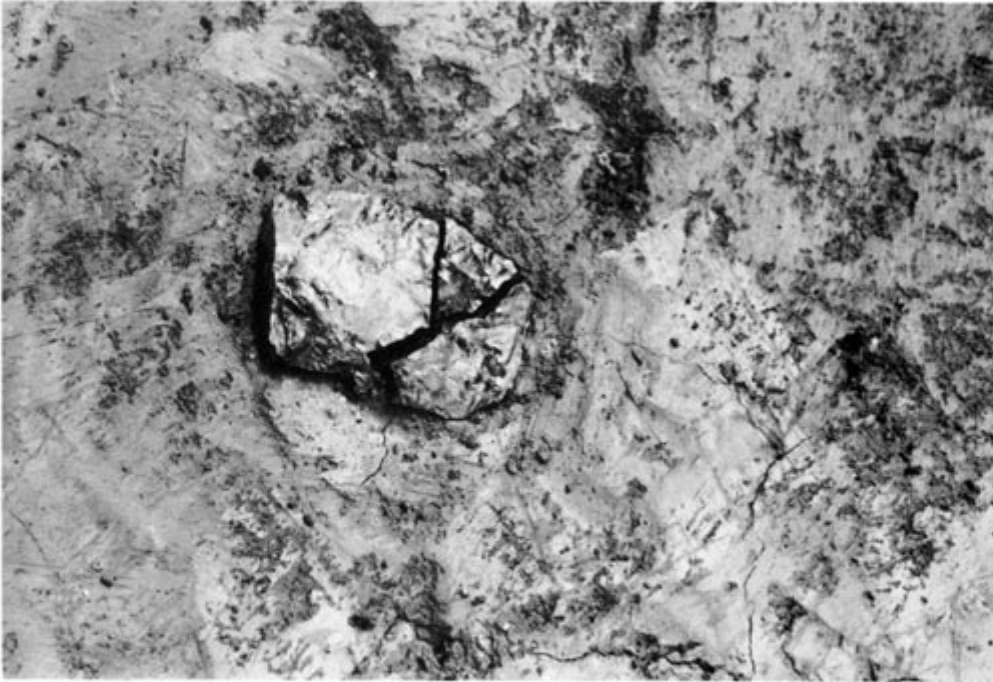


先土器時代出土遺物状況

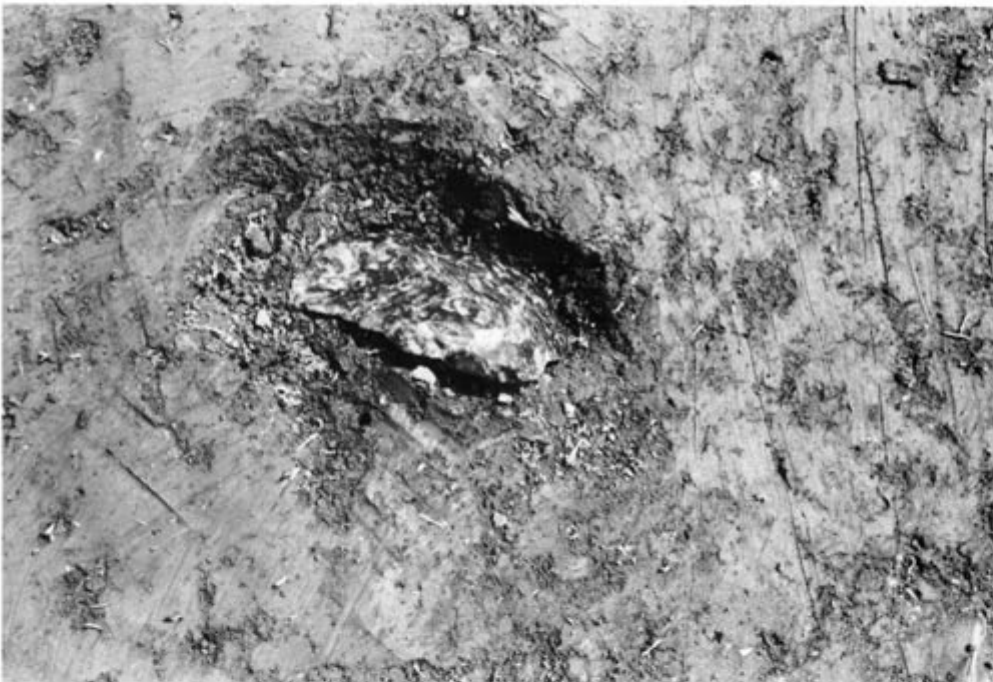
先土器時代遺物出土狀況



先土器時代出土遺物狀況



先土器時代の削器出土状況



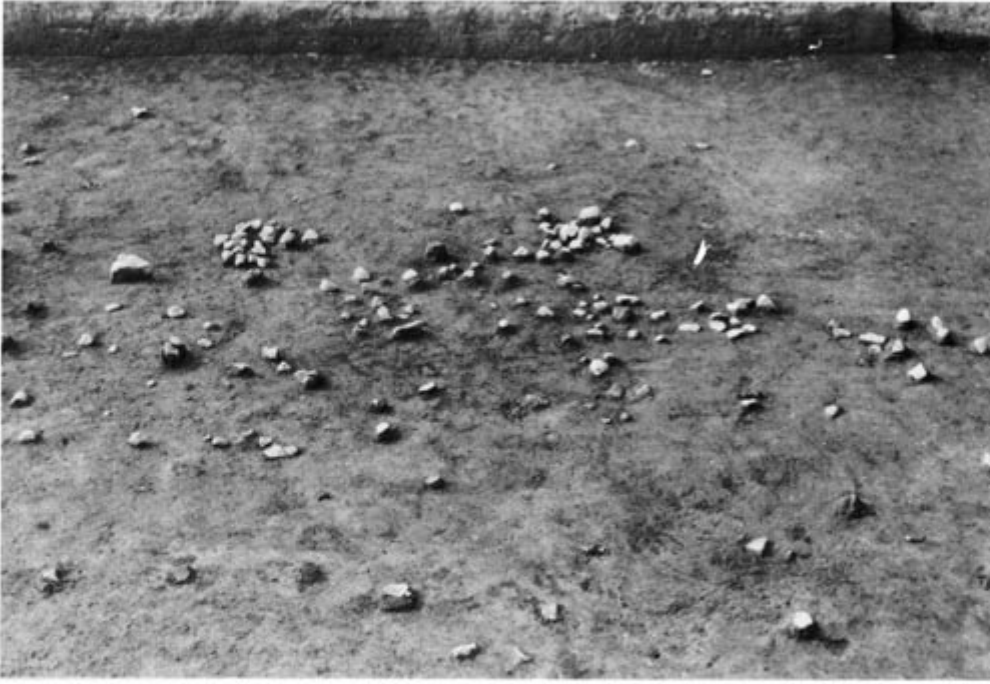
先土器時代の遺物出土状況



先土器時代土器出土状況



先土器時代土器出土状況



V a 層の集石遺構



V a 層の集石遺構 2



V a 層の集石遺構 1



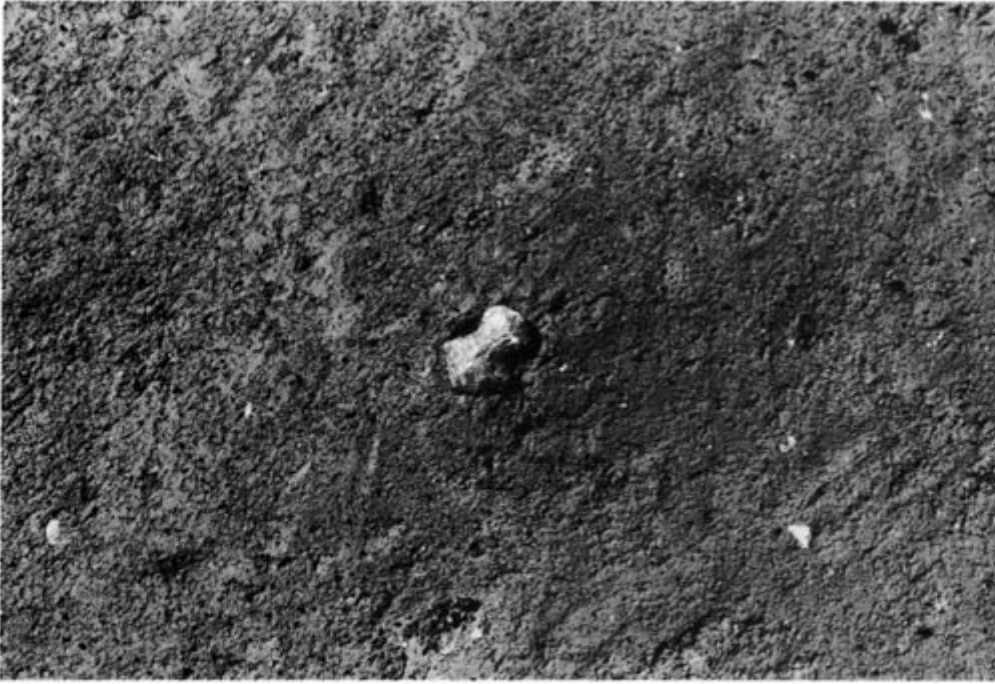
III c 層の集石遺構



V a 層の出土遺物



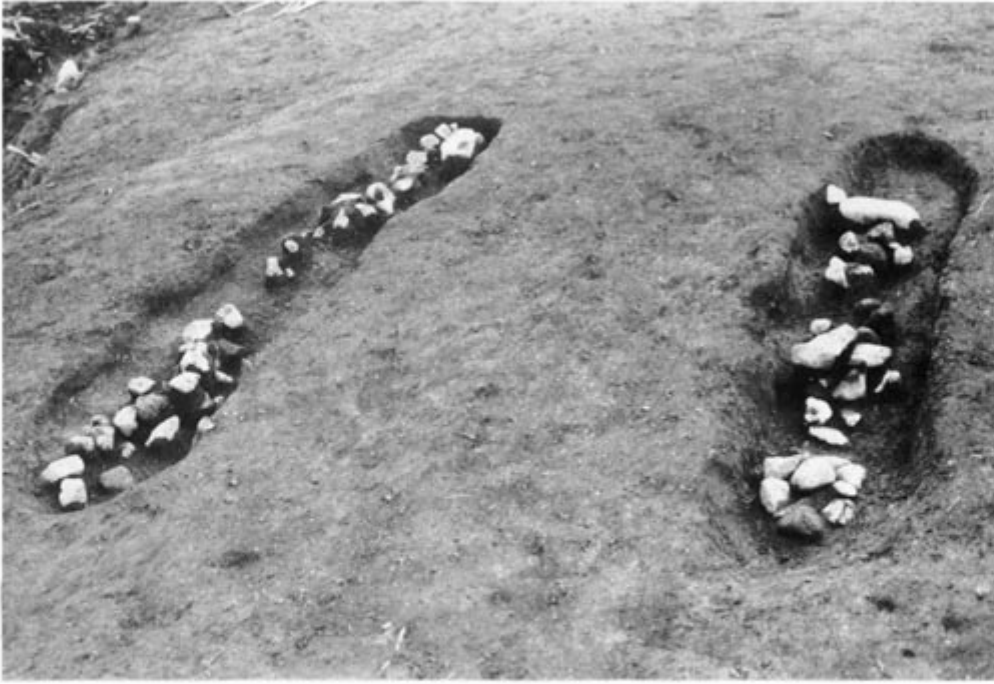
Ⅲ層の出土遺物



V a 層の出土遺物



III a 層の出土遺物



土坑検出状況



溝検出状況



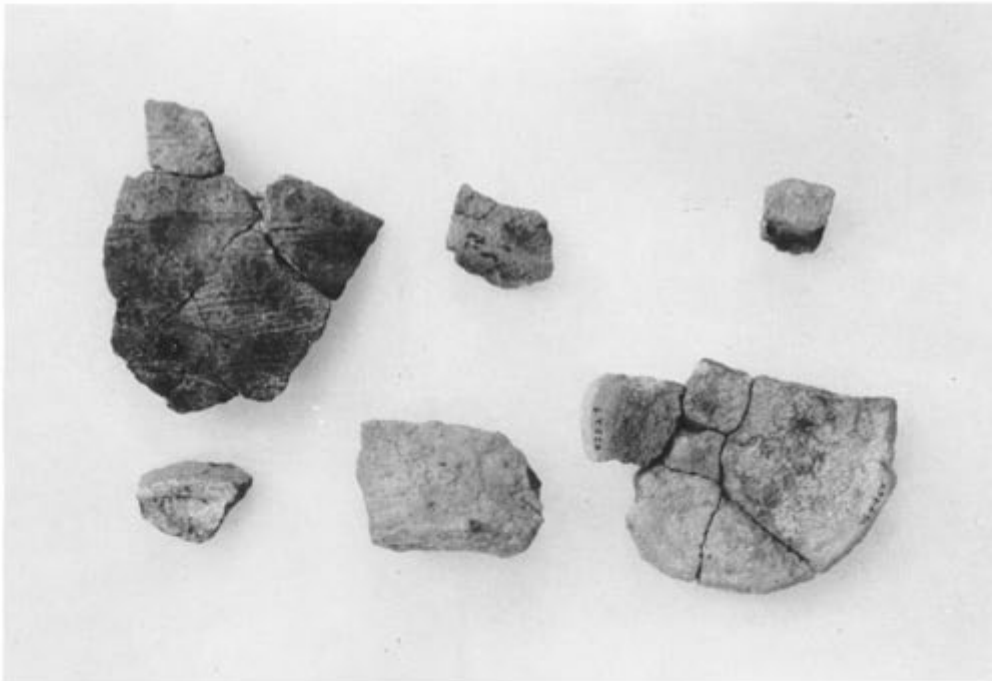
V a 層出土遺物



V a 層出土遺物



V a 層出土遺物



V a 層出土遺物



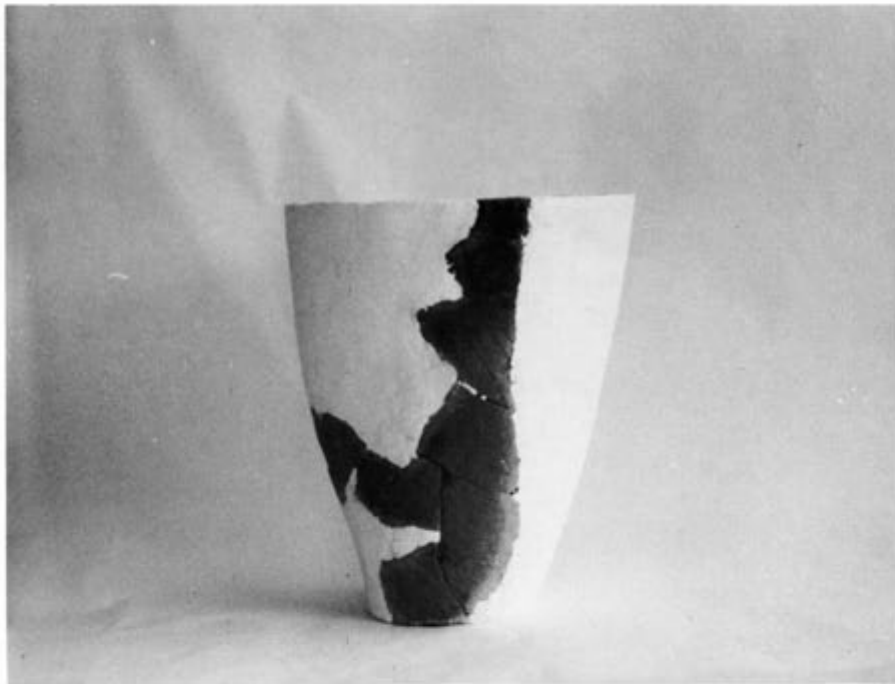
V a 層出土遺物



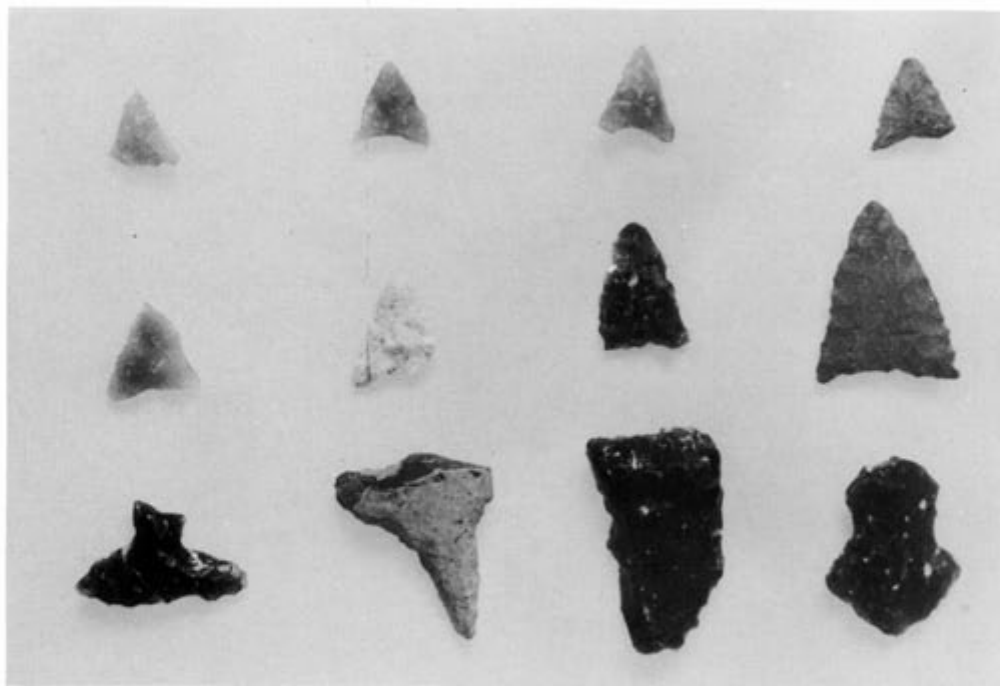
V a 層出土遺物



V a 層出土遺物



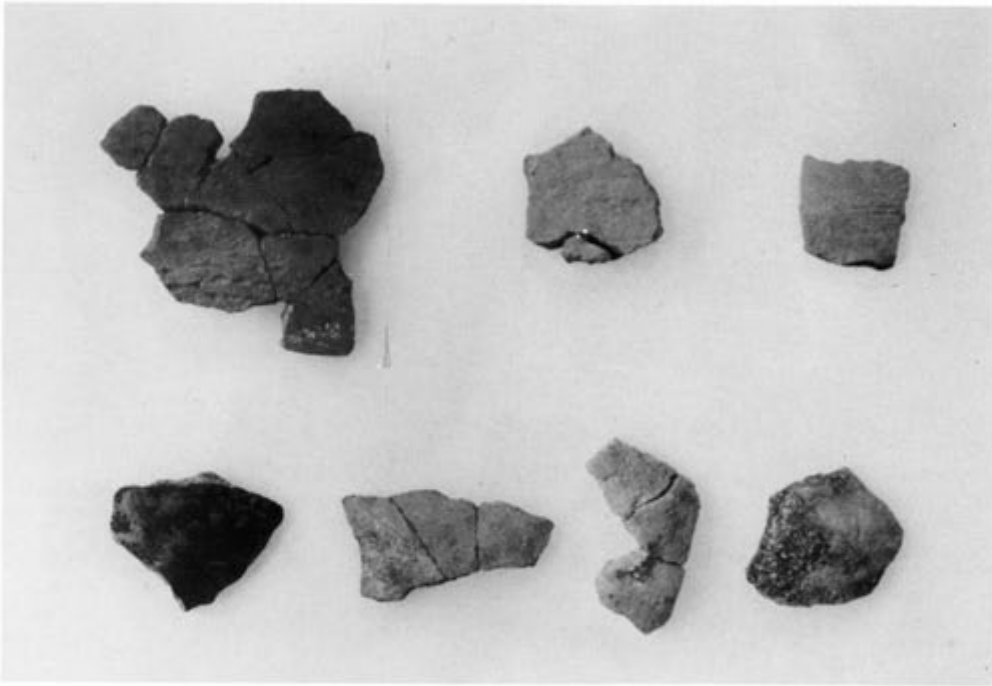
V a 層出土遺物



V a 層出土遺物



V a 層出土遺物



Ⅲ c 層出土遺物



Ⅲ a 層出土遺物



Ⅲ a 層出土遺物



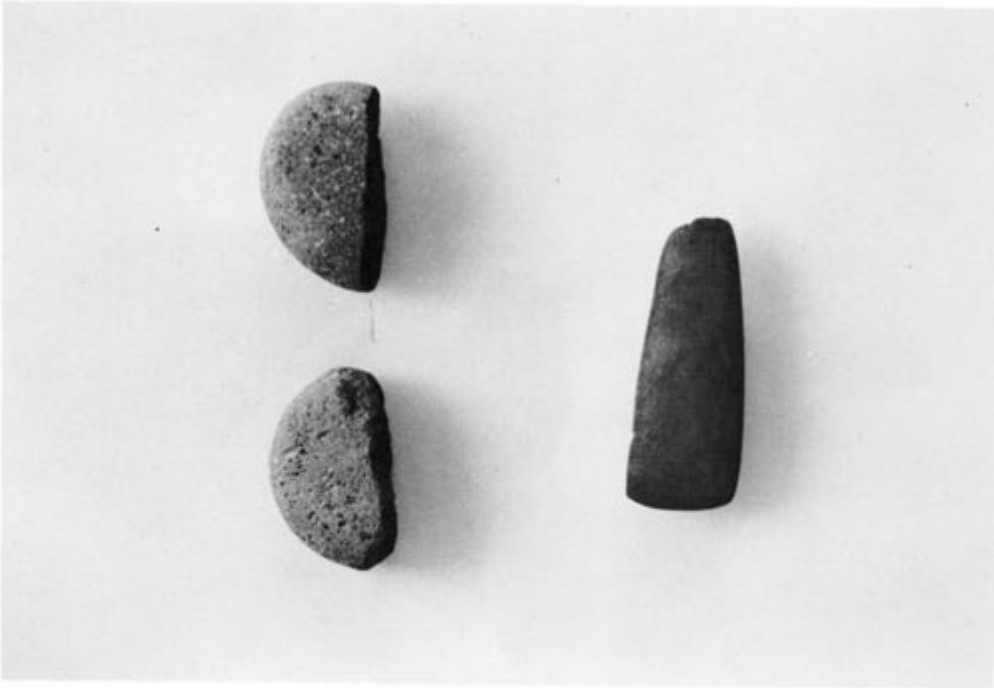
Ⅲ a 層出土遺物



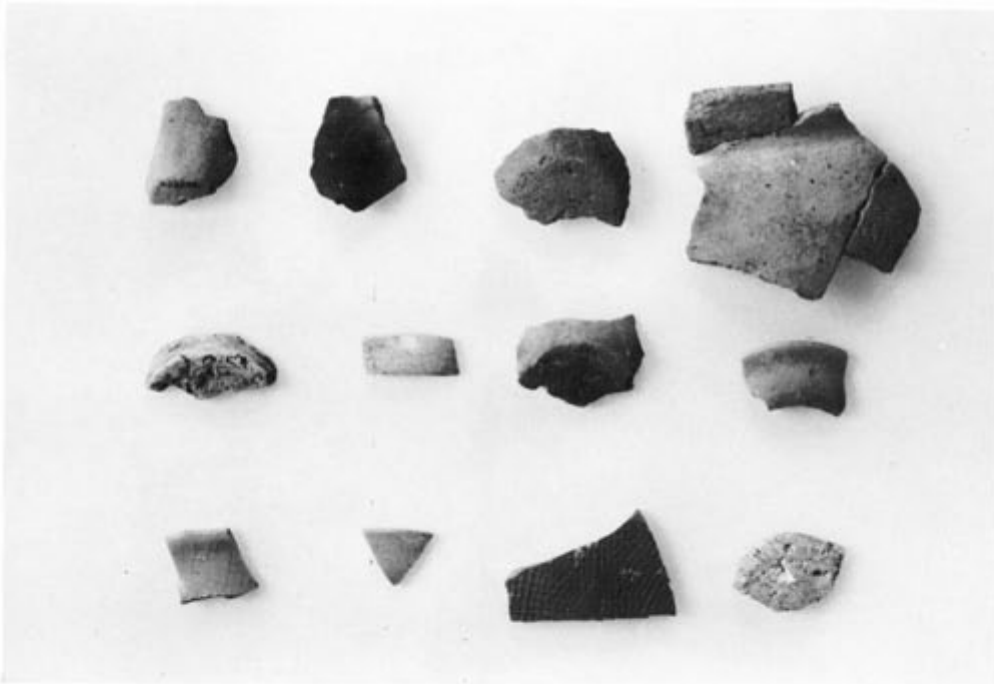
Ⅲ a 層出土遺物



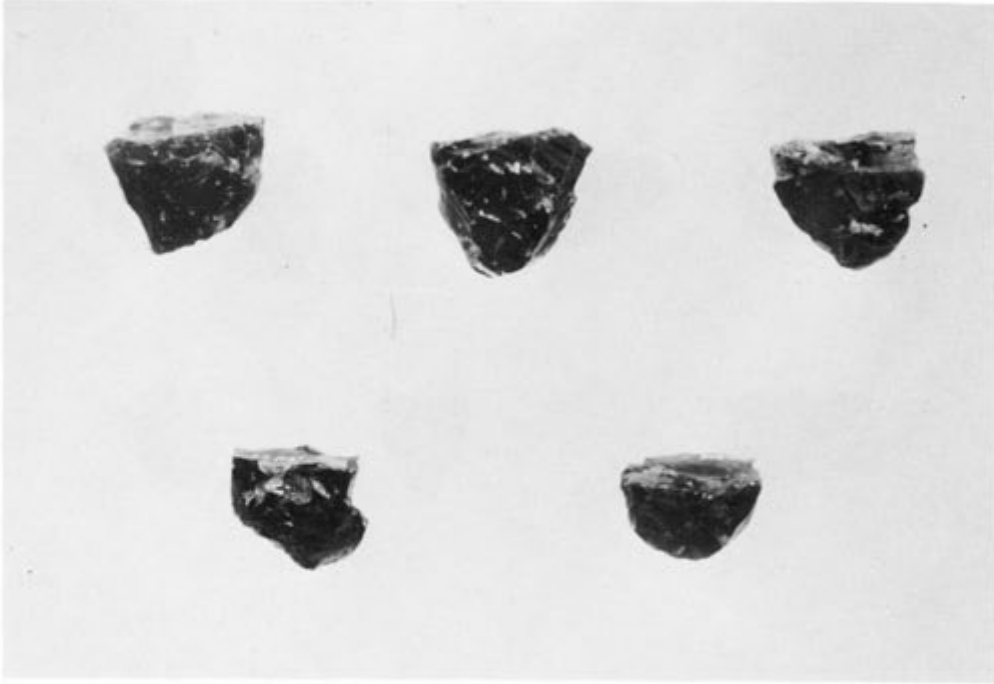
Ⅲ a 層出土遺物



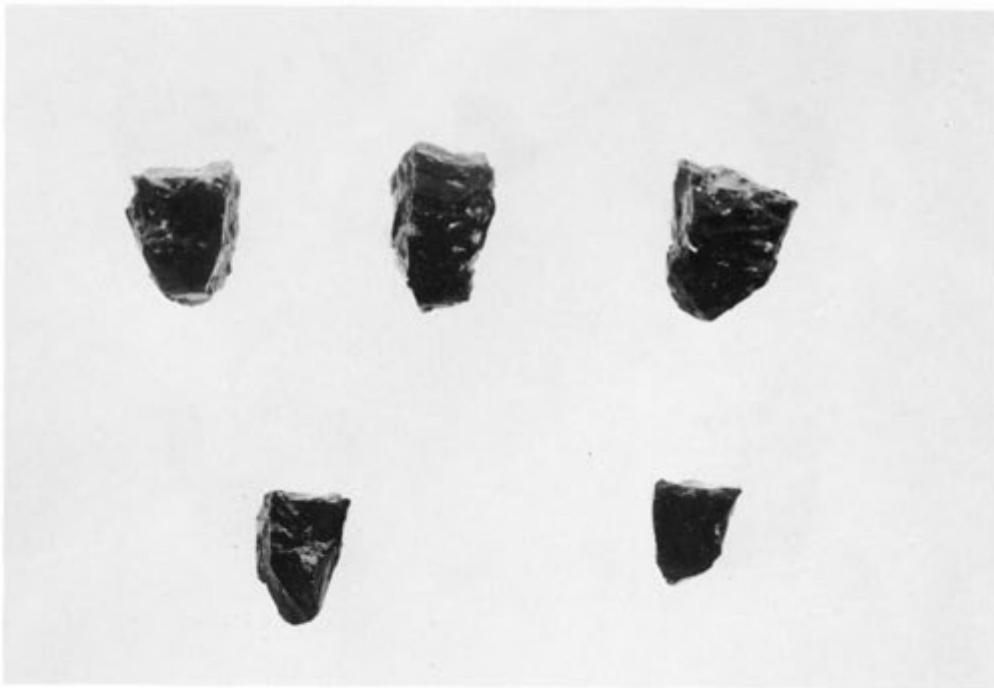
Ⅲ層出土遺物



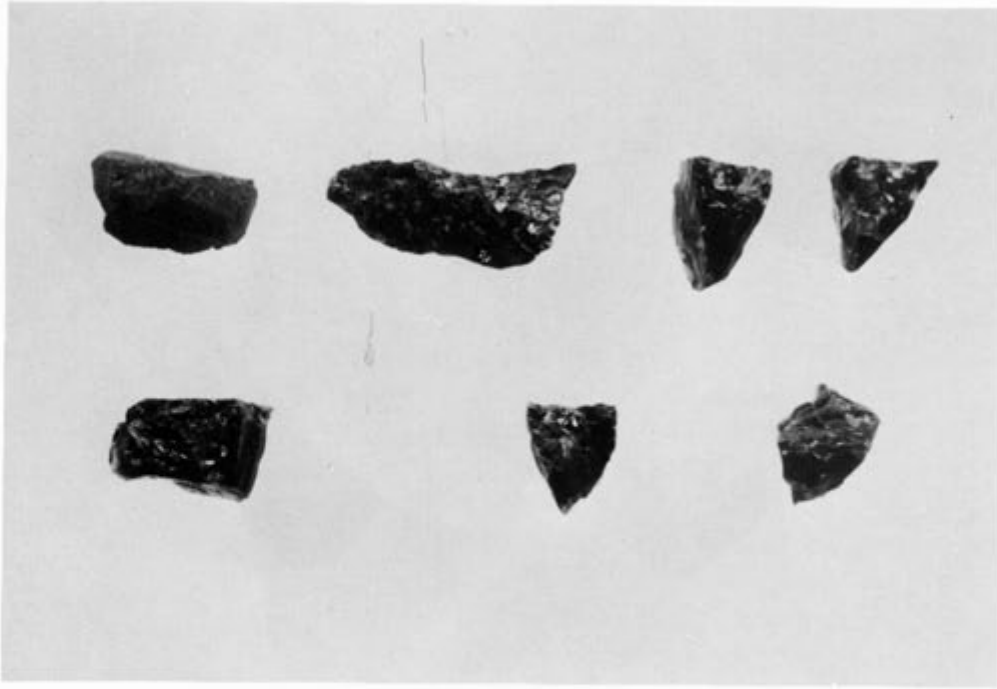
古墳時代以降の出土遺物



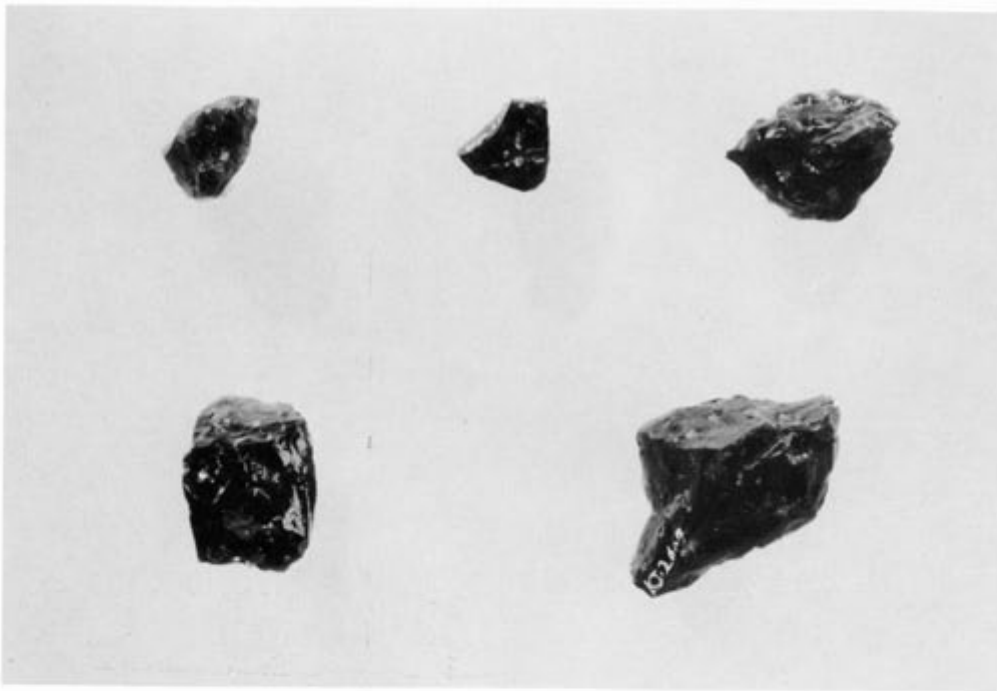
黒曜石細石刃核



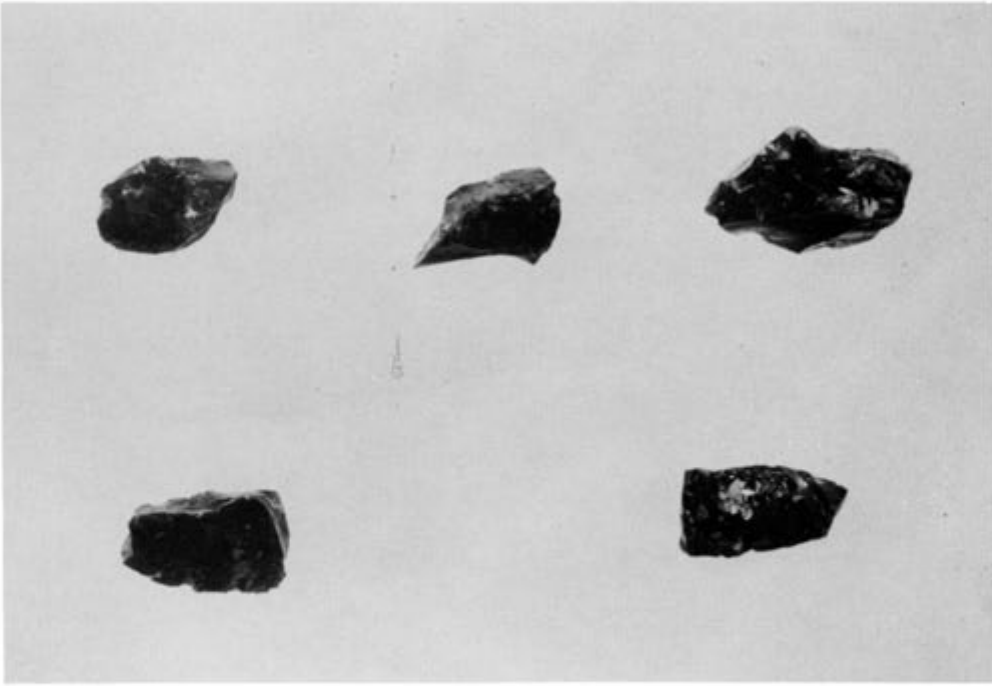
黒曜石細石刃核



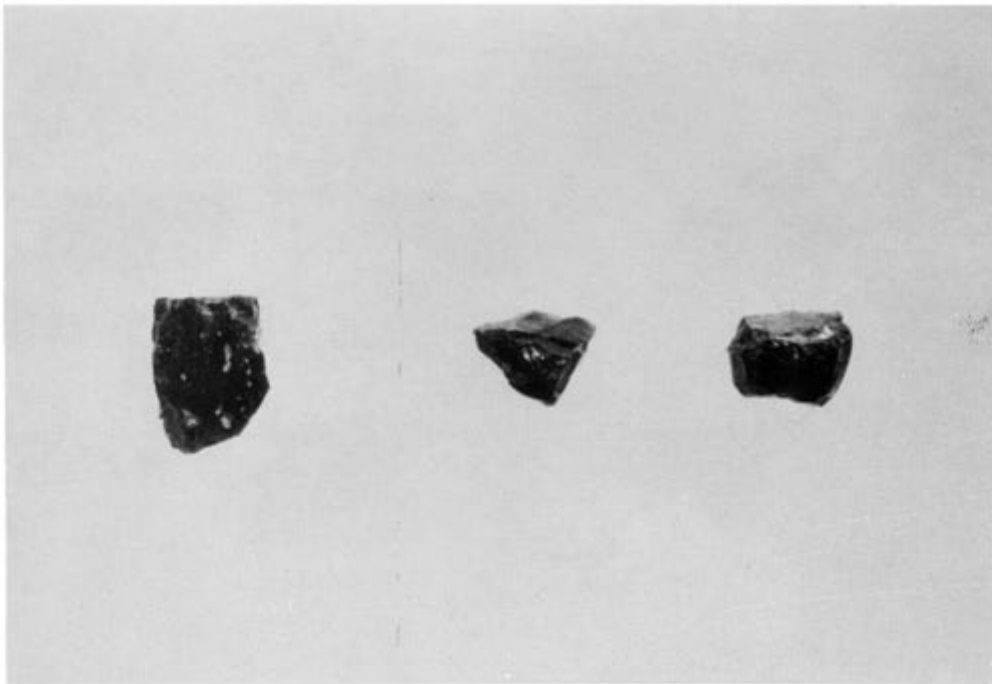
黑曜石細石刃核



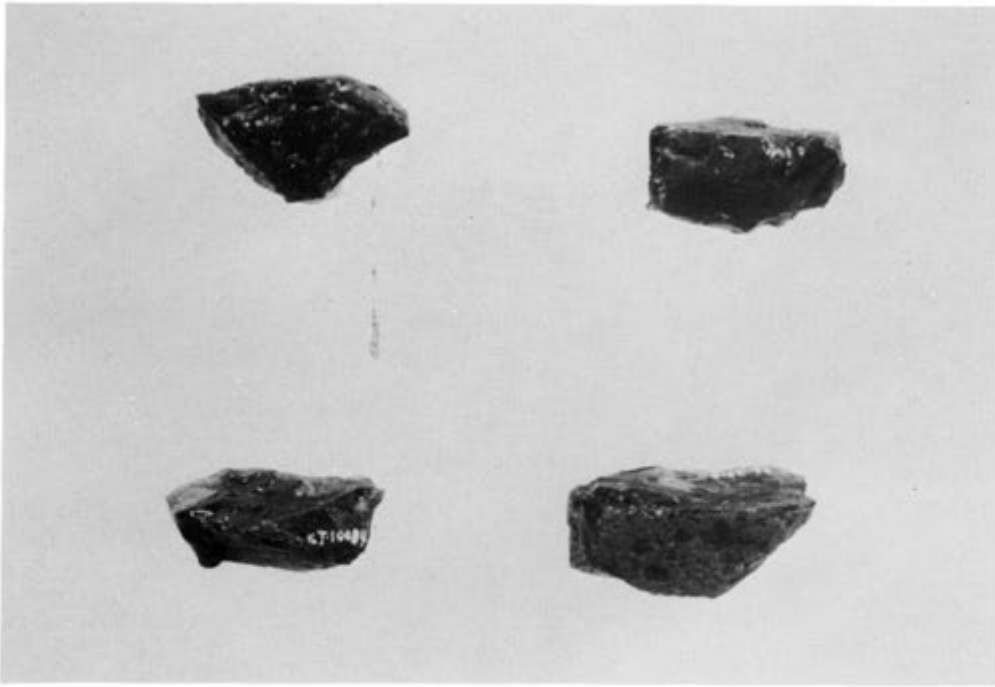
黑曜石細石刃核



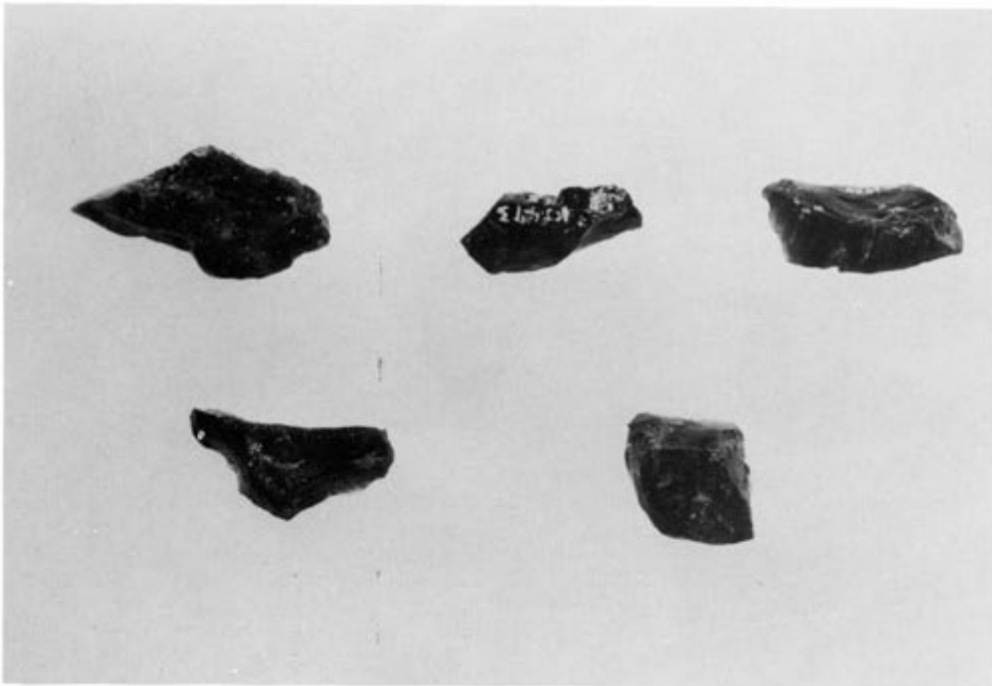
黑曜石細石刃核



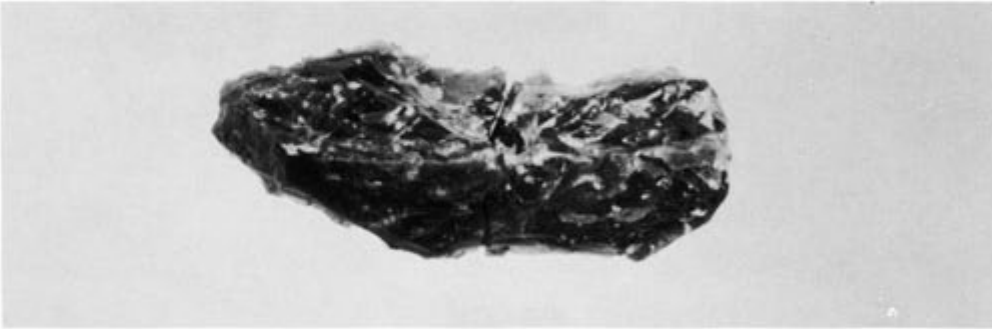
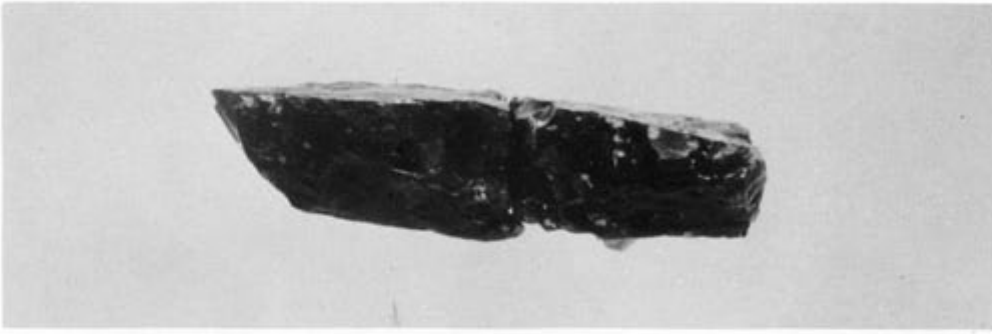
黑曜石細石刃核



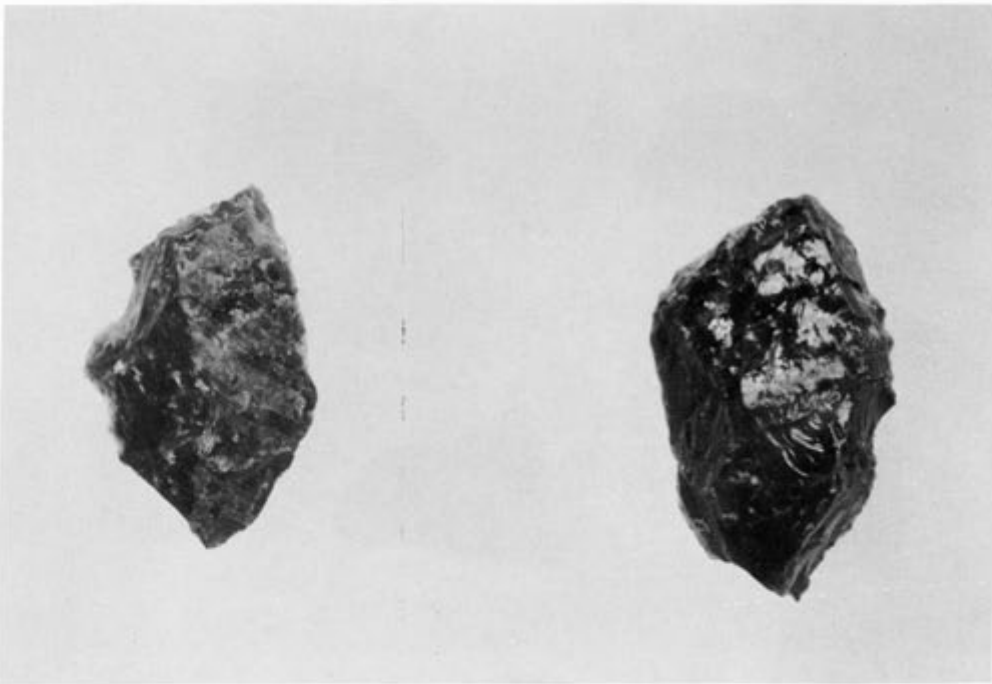
黒曜石ブランク



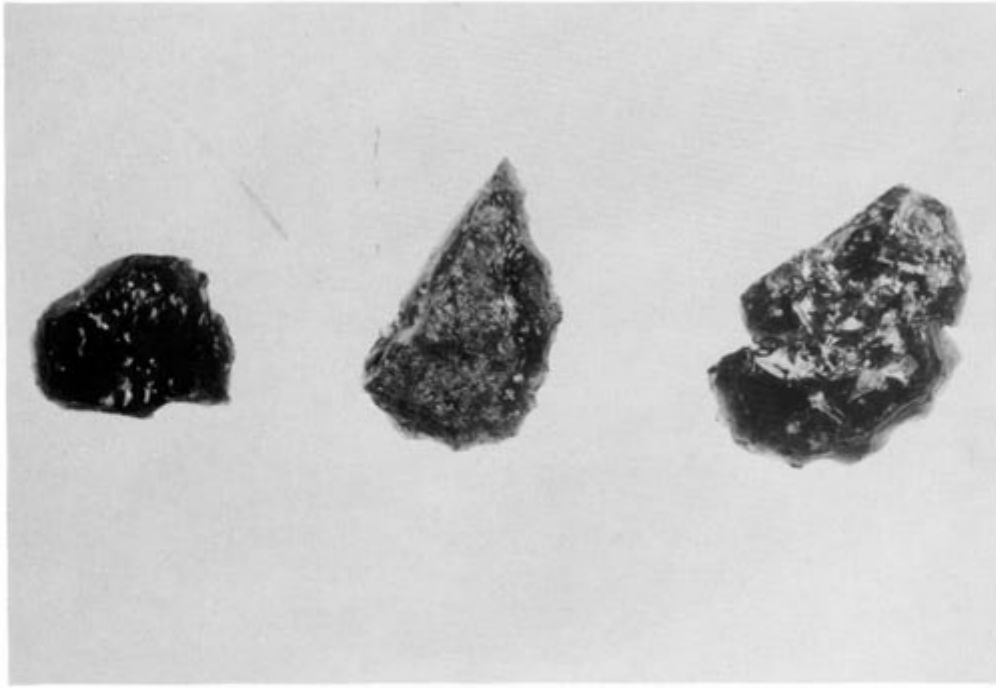
黒曜石ブランク



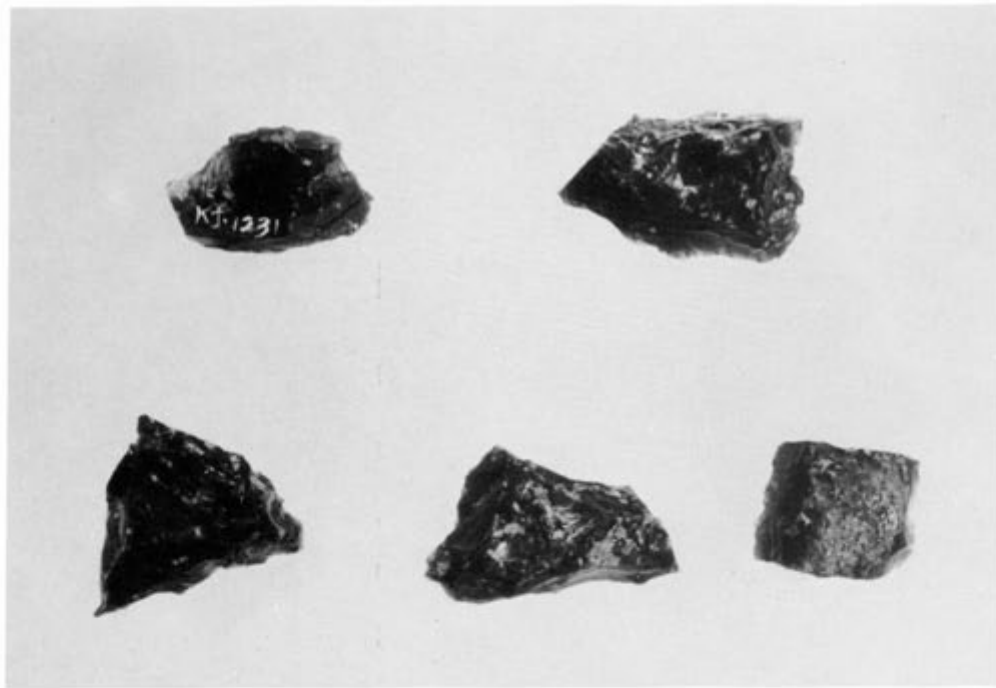
黒曜石ブランク



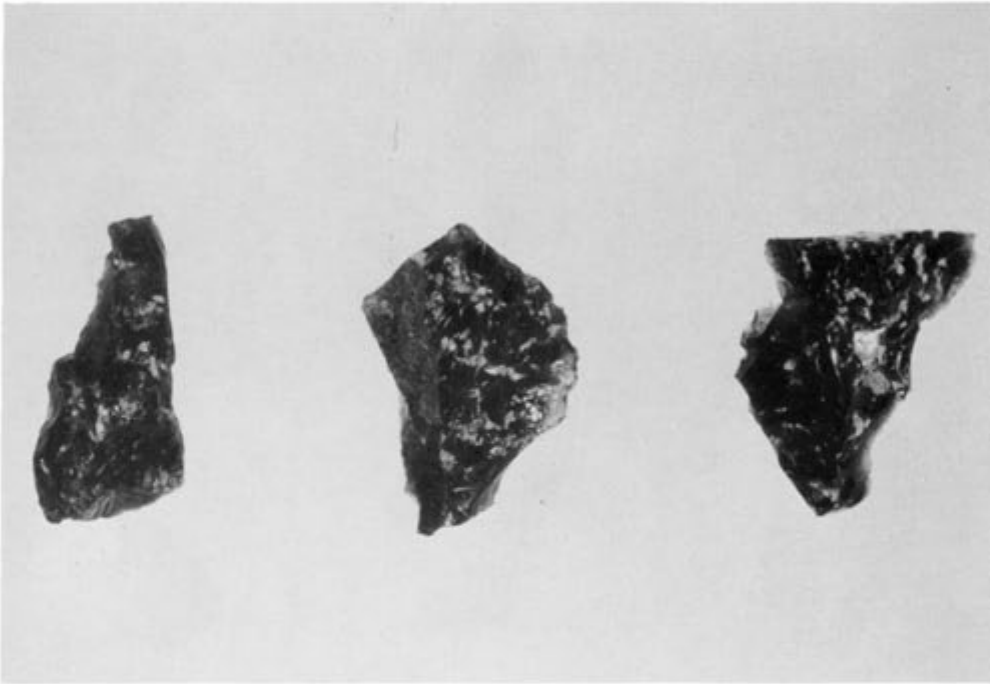
黒曜石掻器



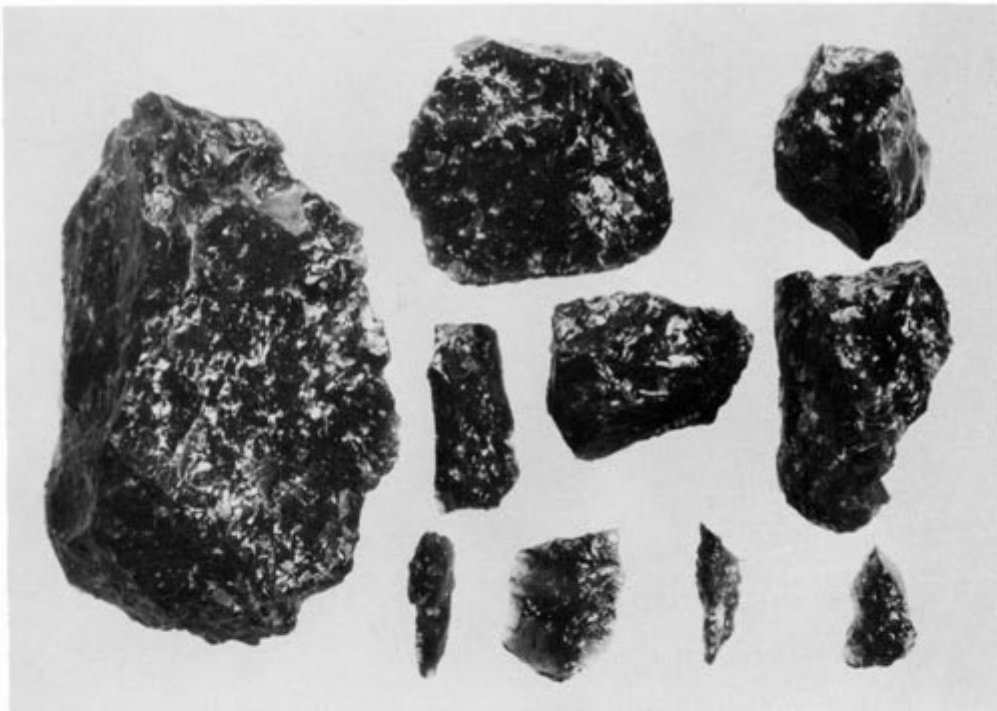
黑曜石工具



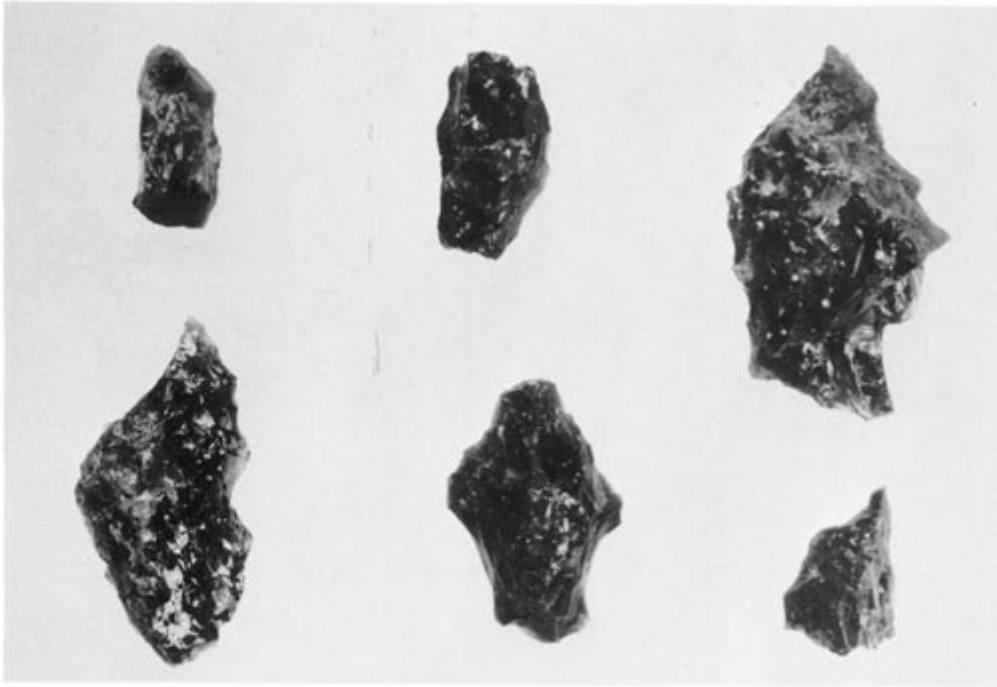
黑曜石工具



黒曜石、使用痕のある剥片（削器）



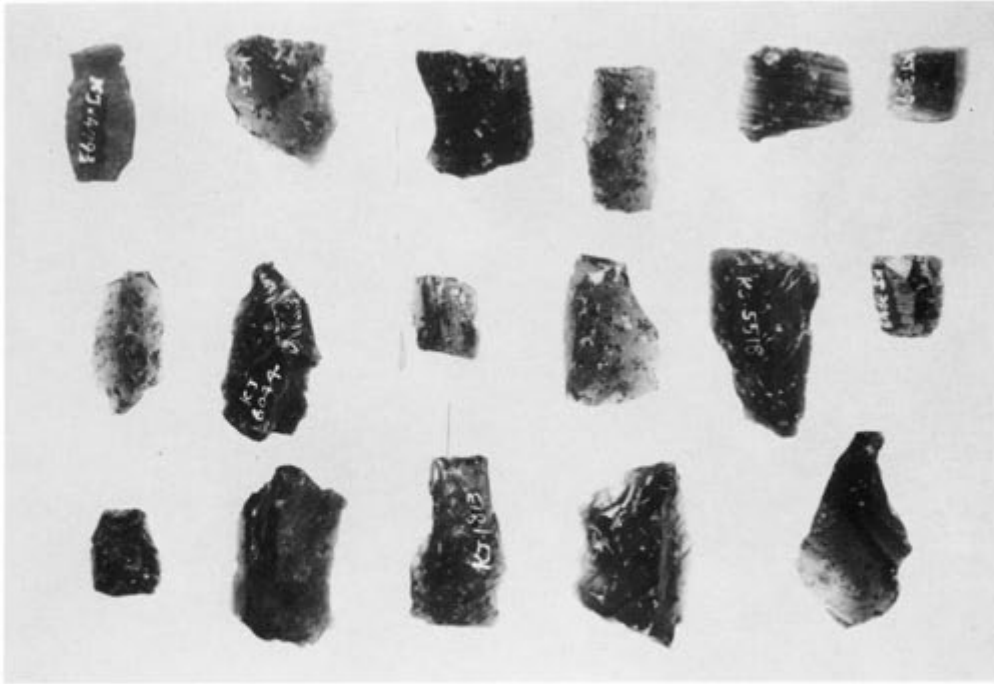
黒曜石、使用痕のある剥片（削器）



黒曜石・その他の石器



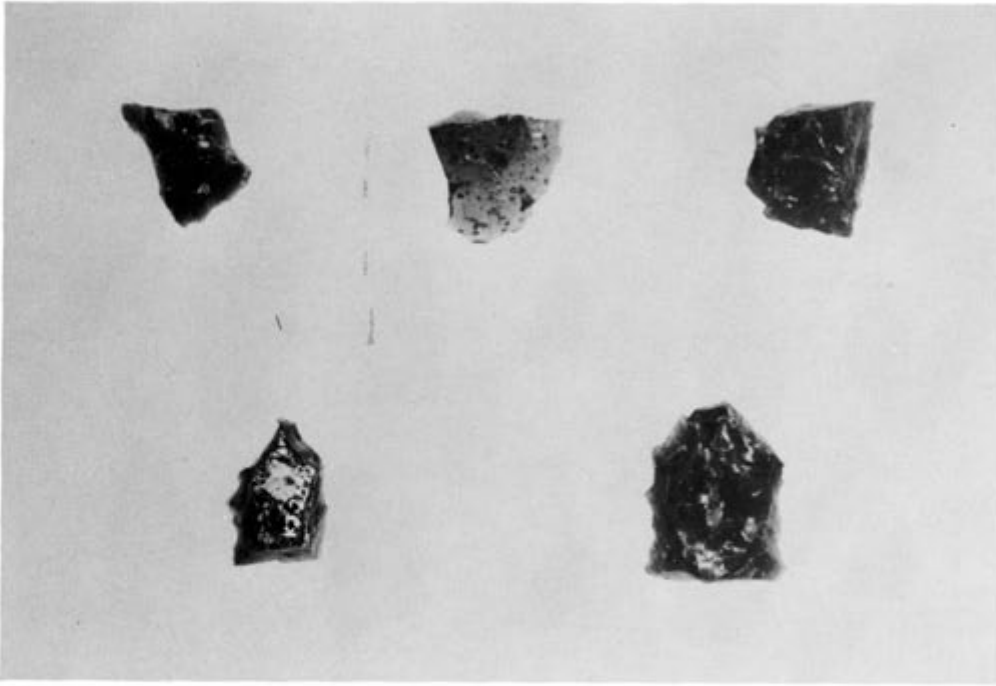
黒曜石フレイク



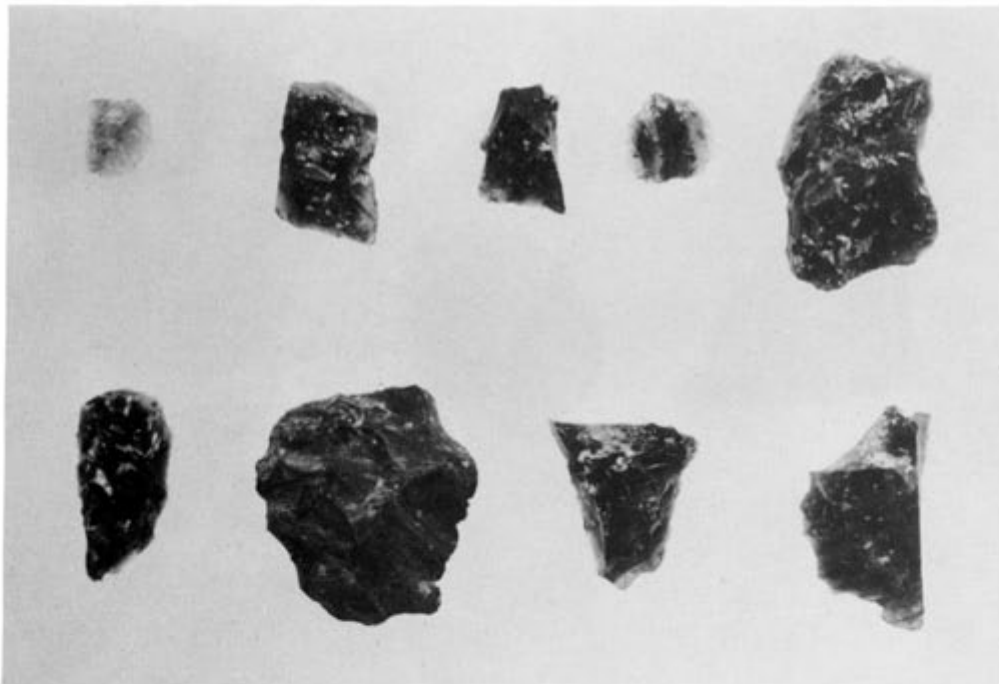
黒曜石フレイク



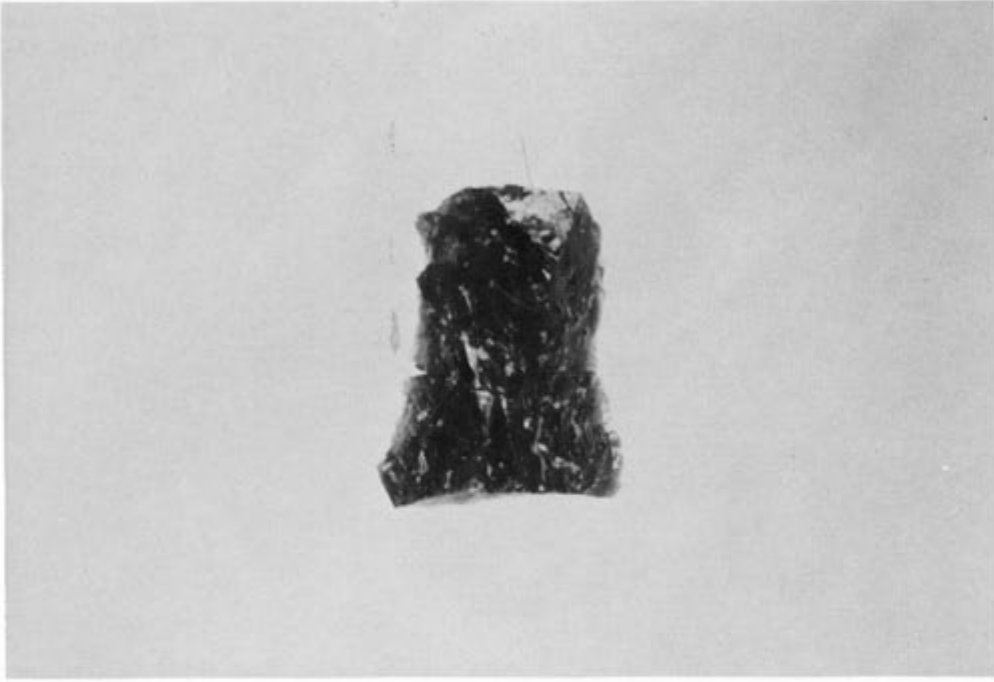
黒曜石フレイク



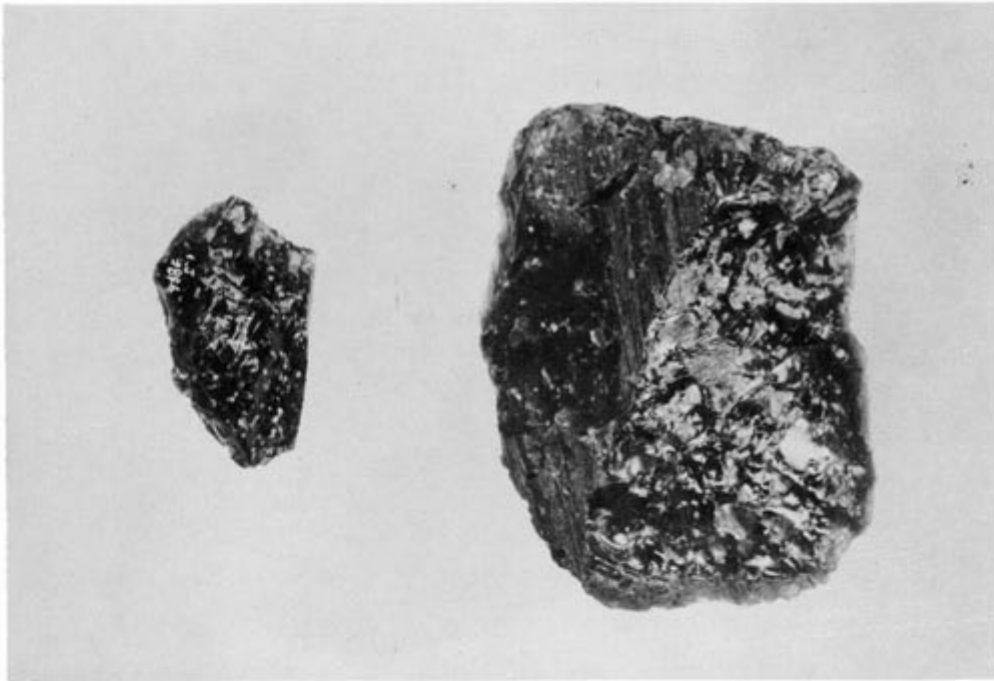
黒曜石・使用痕のある剥片（削器）



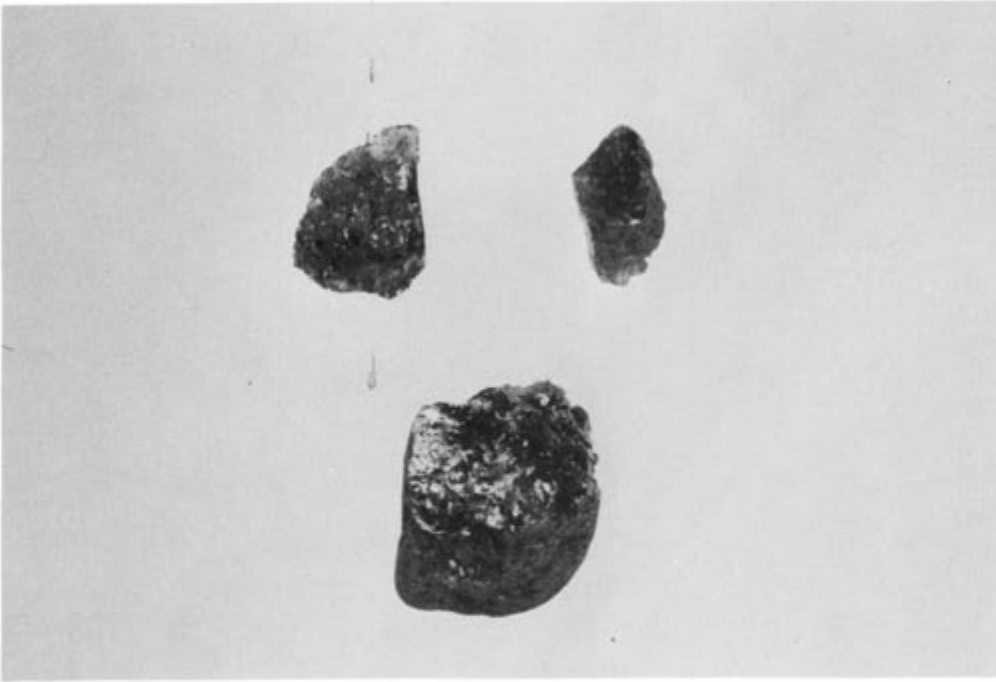
黒曜石・使用痕のある剥片（削器）



黑曜石·折断剥片（接合）



黑曜石·石核，削器



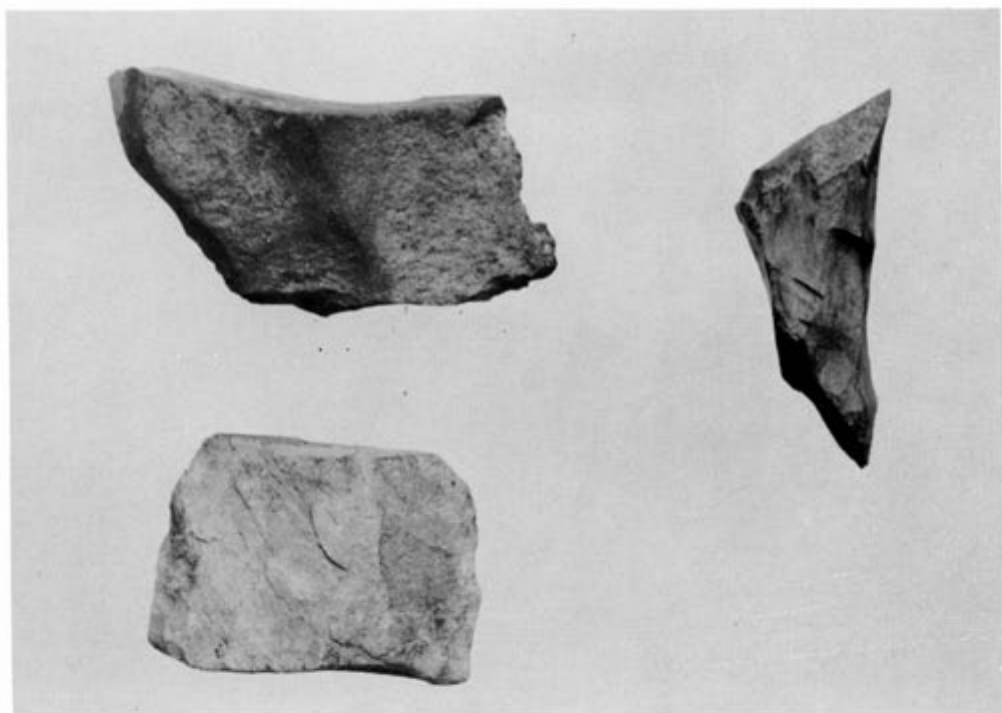
黑曜石・石核と剥片（接合）



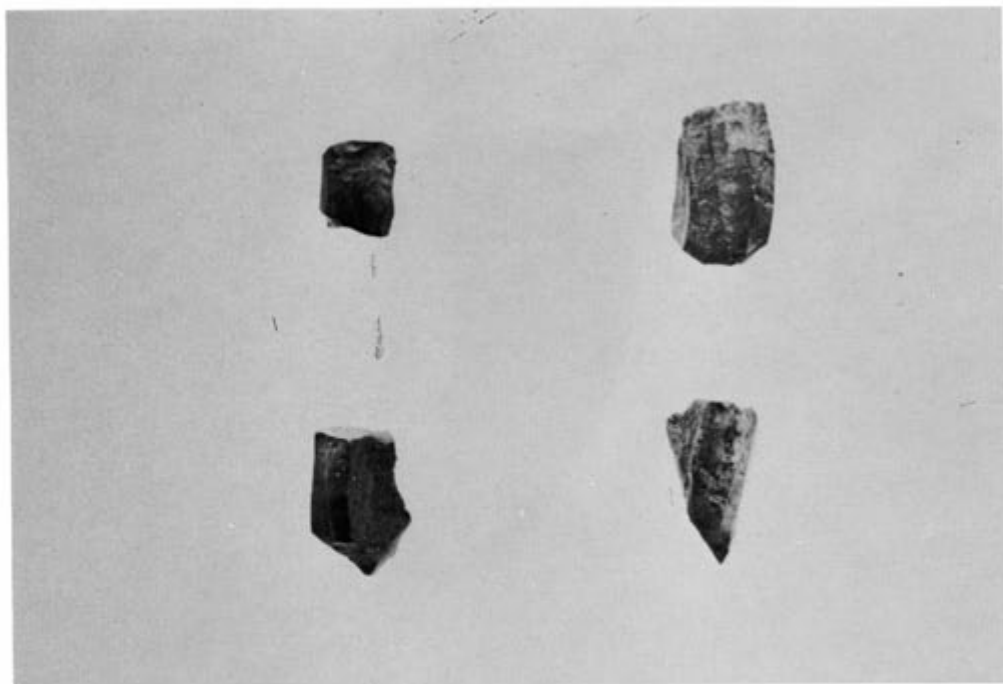
石核



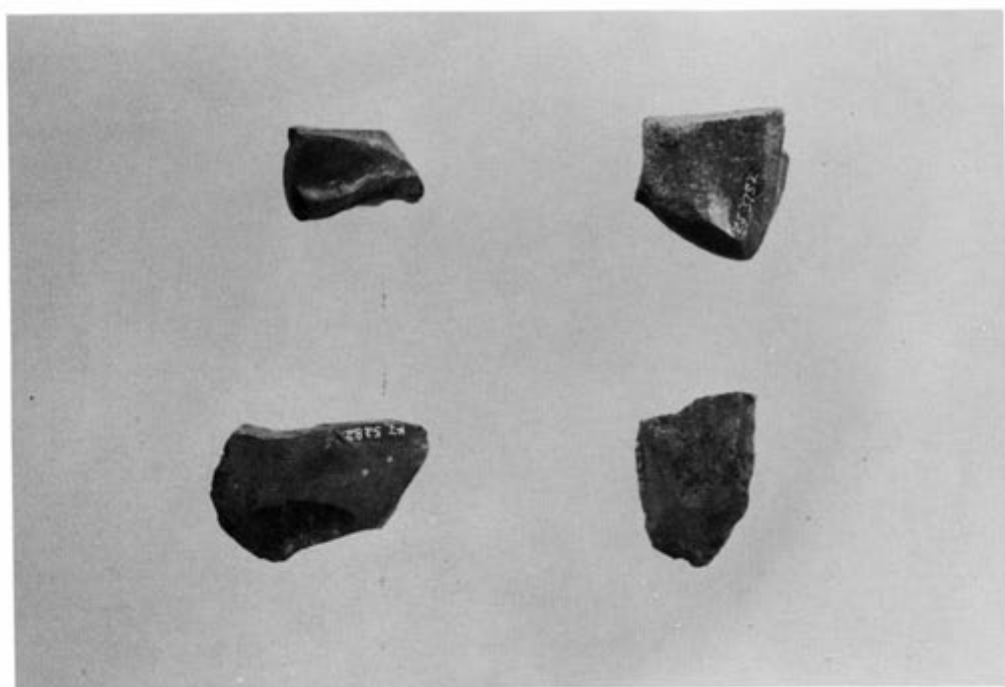
頁岩，削器



形器，剝片



ホルンフェルス細石刃核（正面）



ホルンフェルス細石刃核（側面）

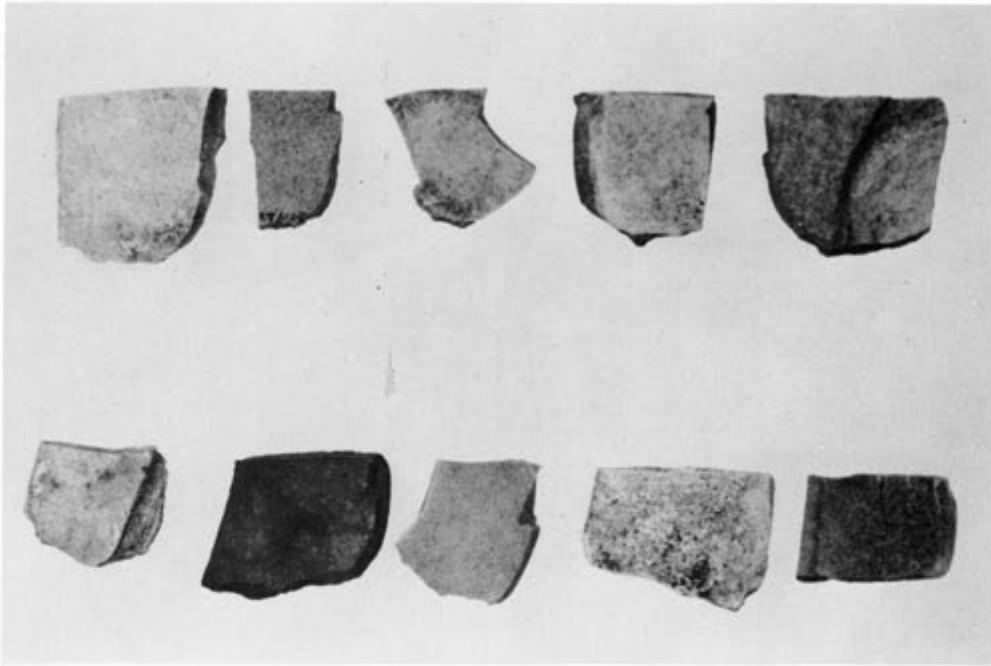


ハンマー・ストーン

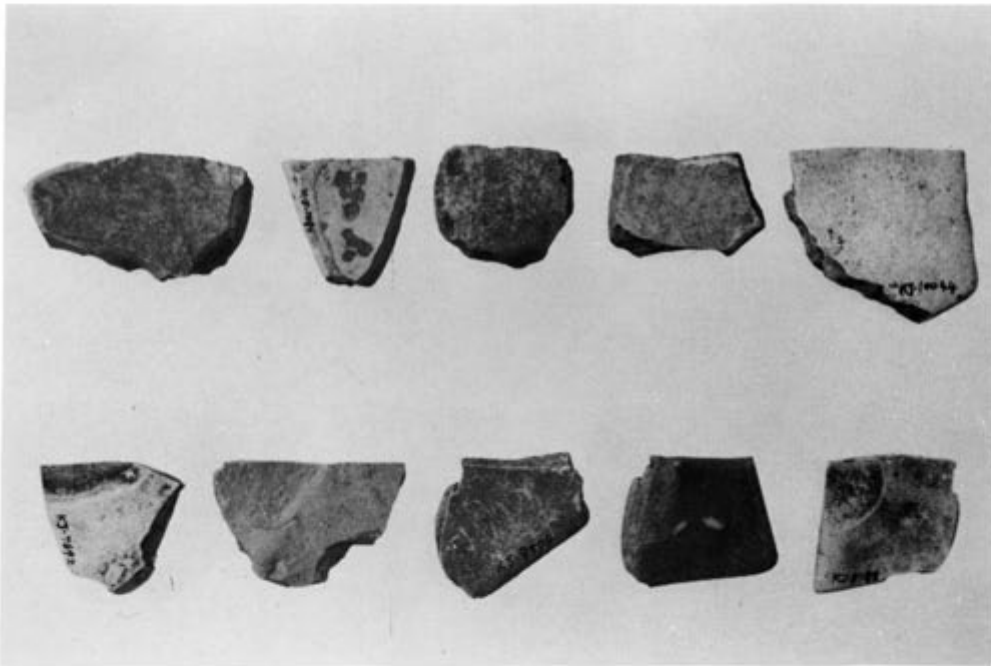


黒曜石 細石刃

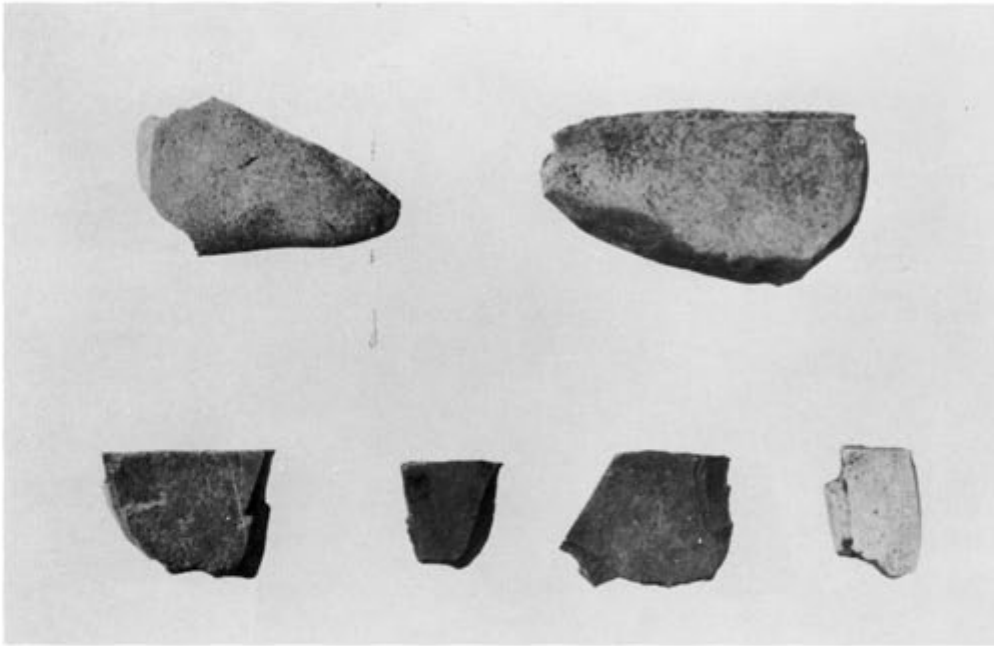




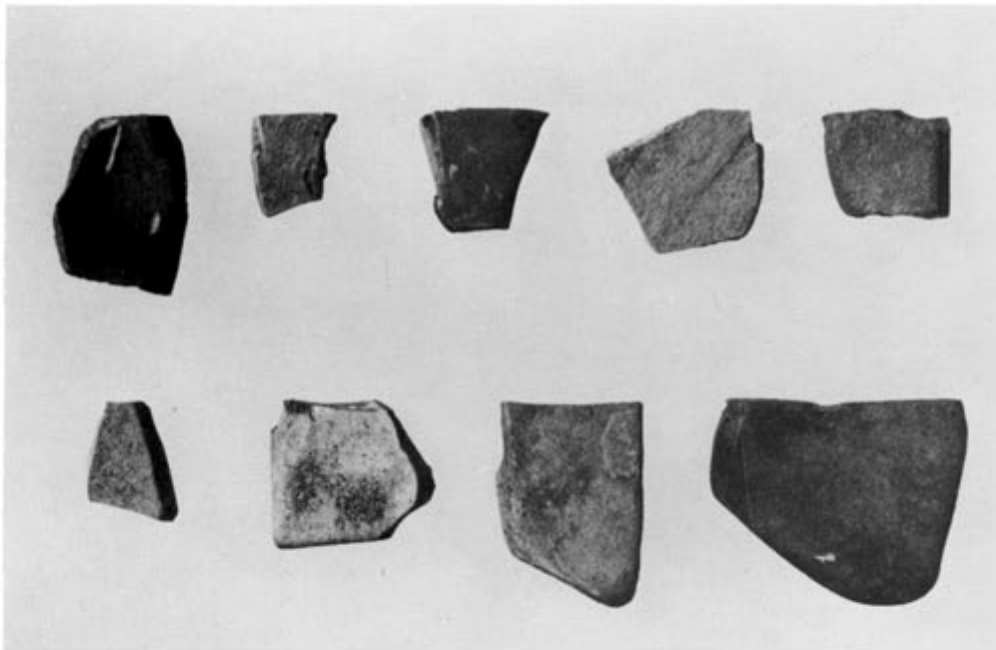
凝灰岩質頁岩の下縁調整石核



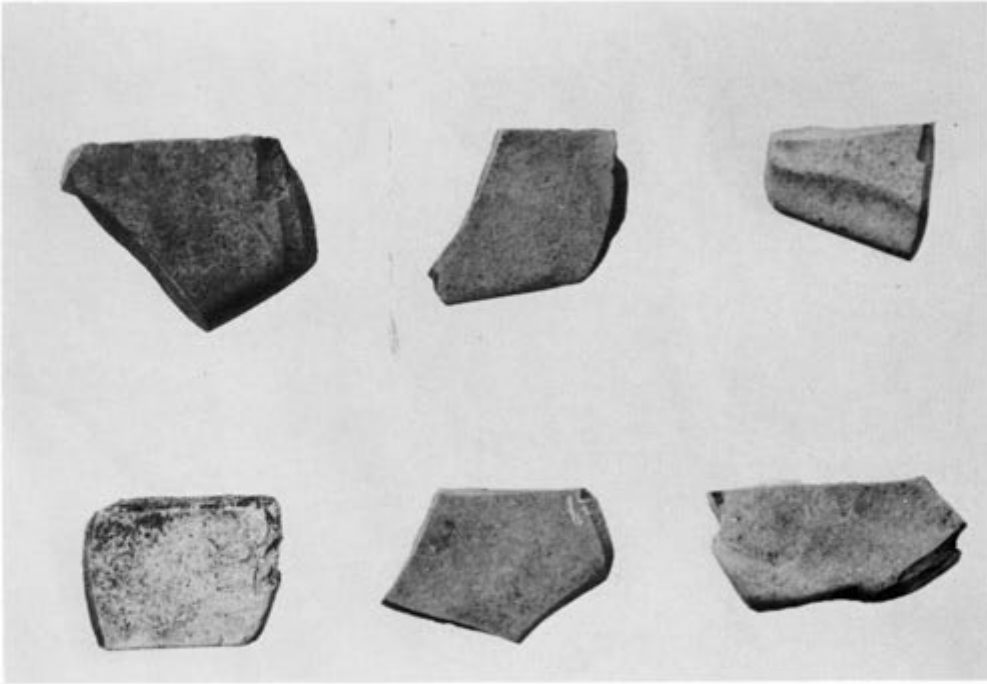
凝灰岩質頁岩の下縁調整石核



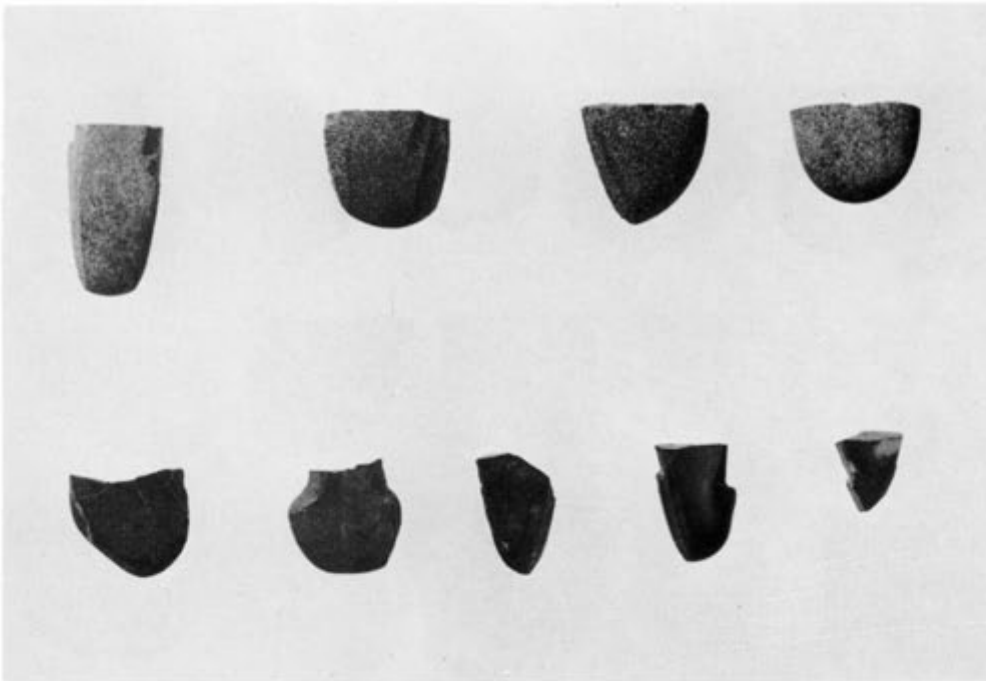
凝灰岩質頁岩の下縁調整細石刃石核



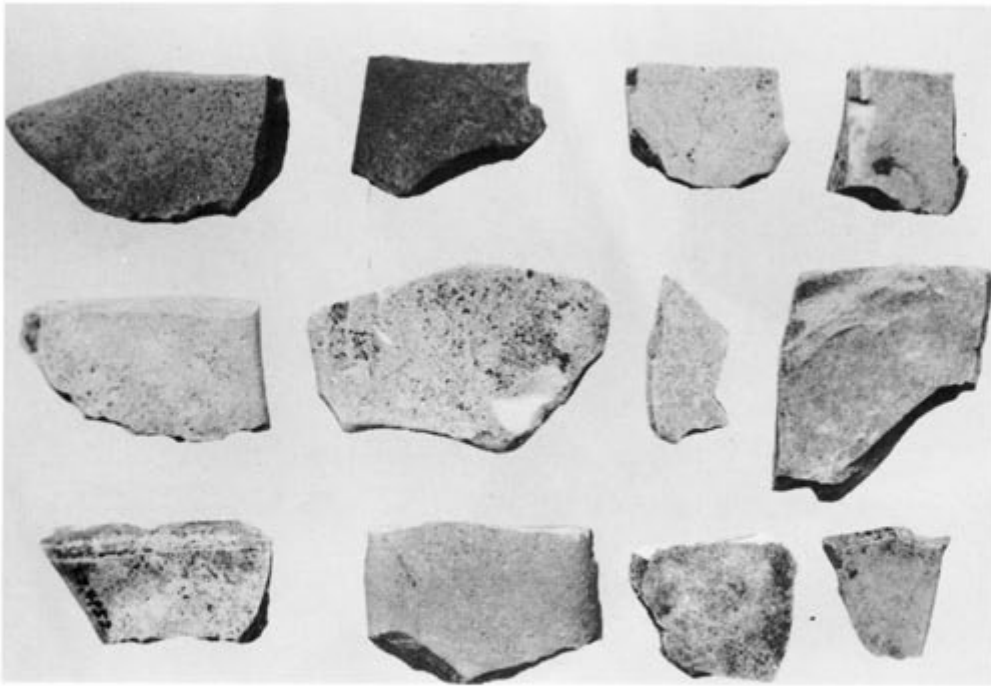
凝灰岩質頁岩の下縁調整細石刃石核



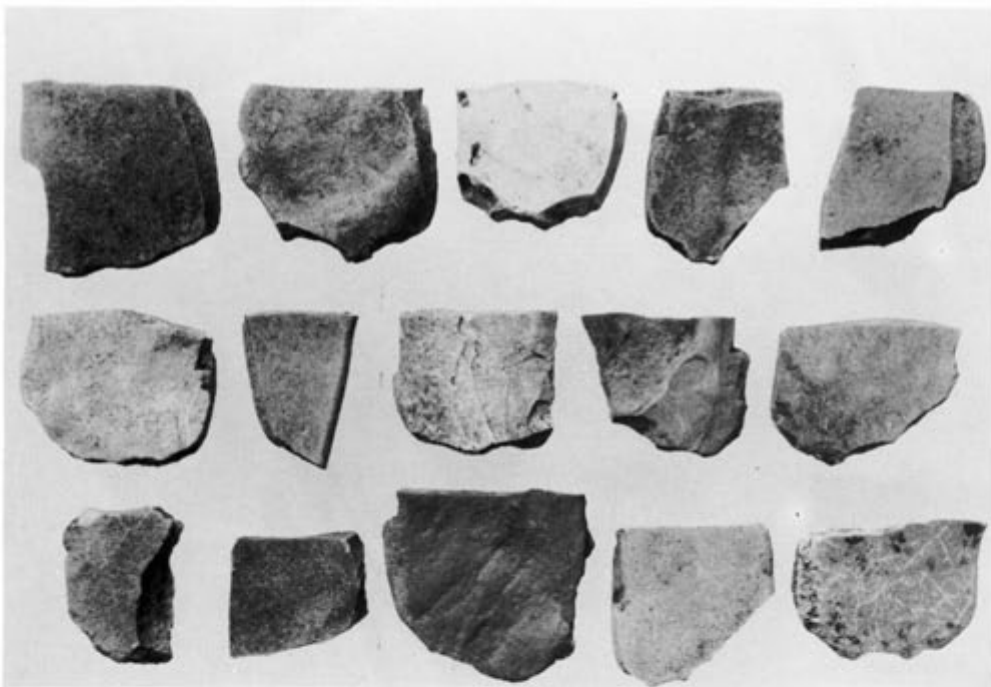
凝灰岩質頁岩の非下縁調整細石刃石核



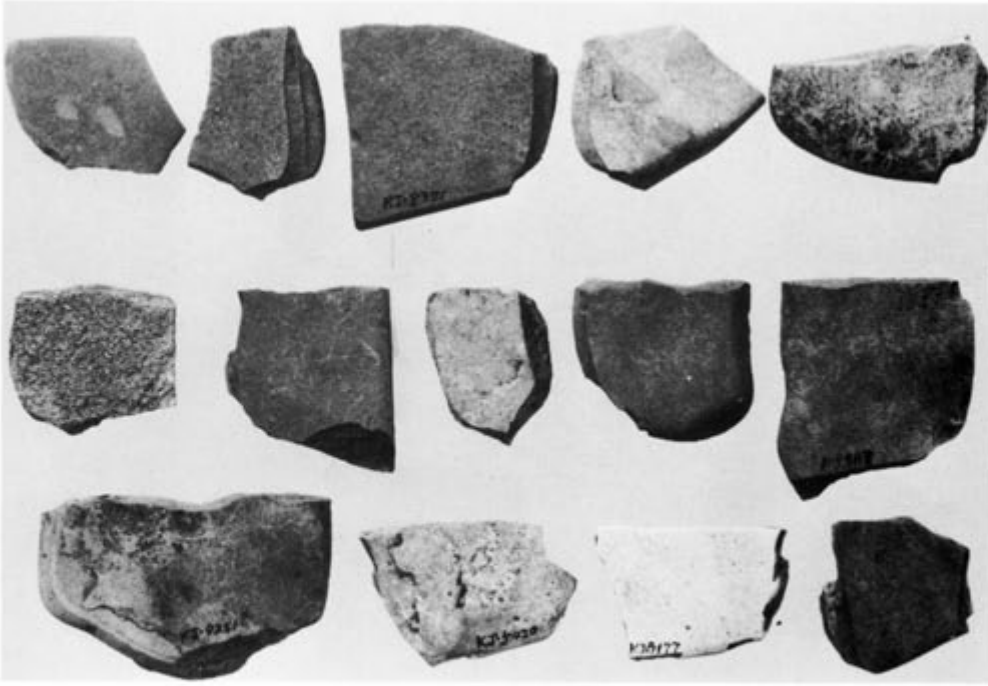
頁岩・砂岩の非下縁調整細石刃石核



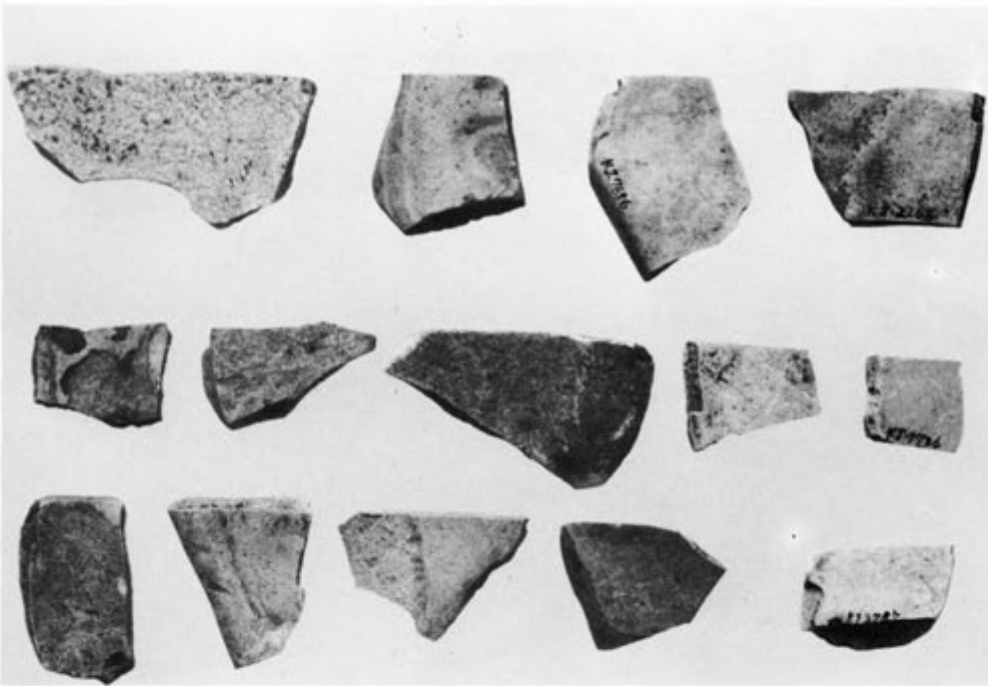
凝灰岩質頁岩の非下縁調整細石刃核



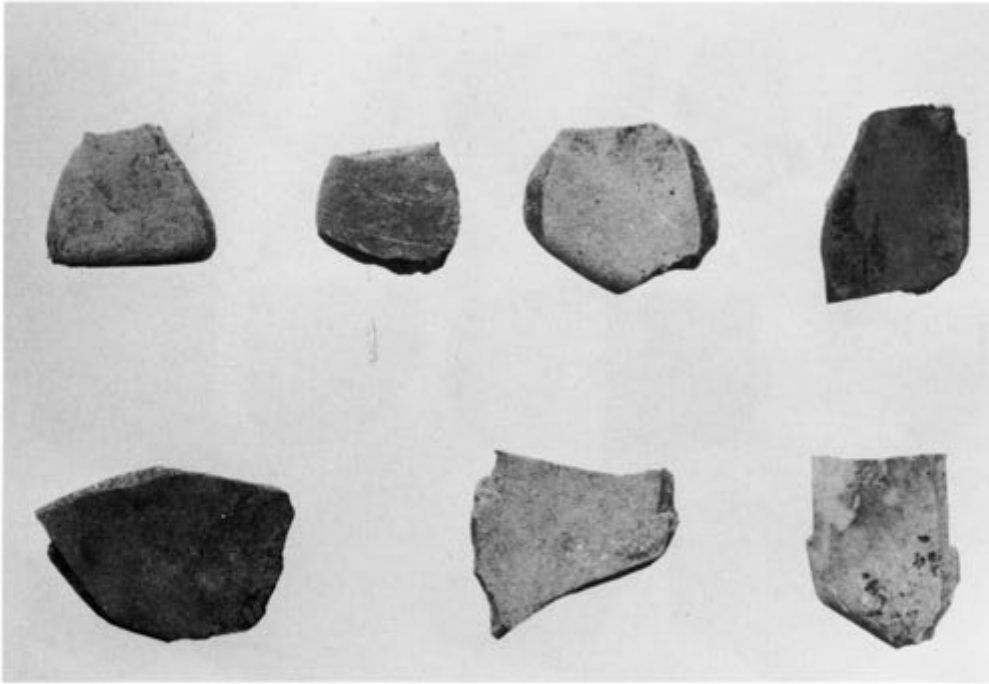
凝灰岩質頁岩の非下縁調整細石刃石核



凝灰岩質頁岩の下縁調整細石刃核



凝灰岩質頁岩の下縁調整細石刃核



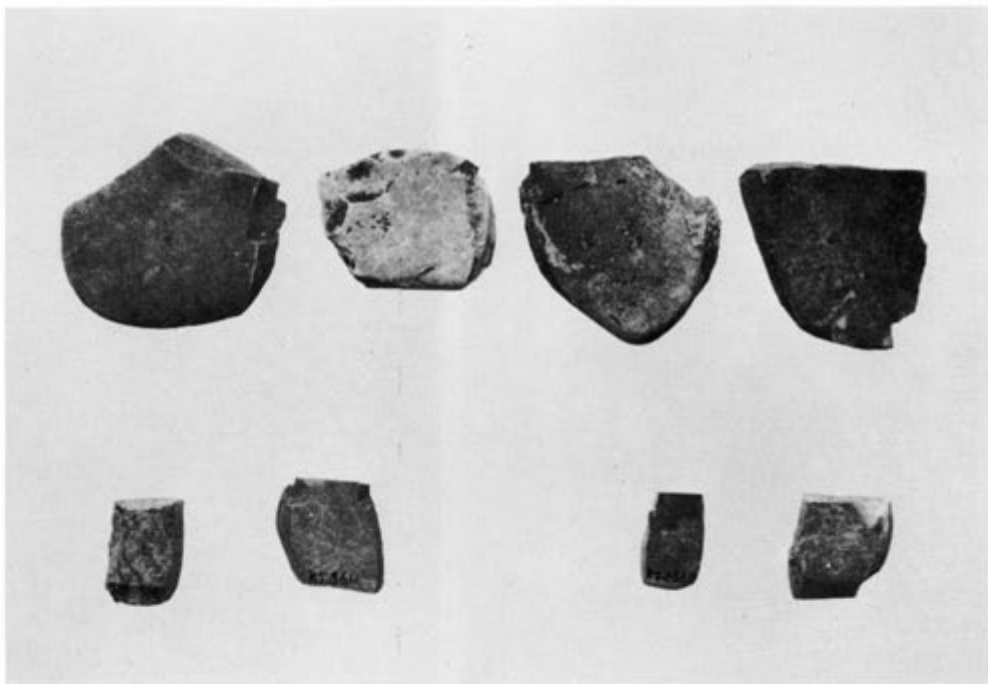
凝灰岩質頁岩の下縁調整細石刃核 (2面)



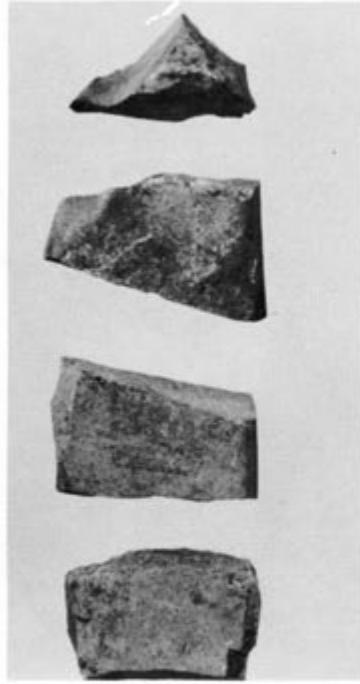
凝灰岩質頁岩の非下縁調整細石刃核



凝灰岩質非下緣調整細石刃石核



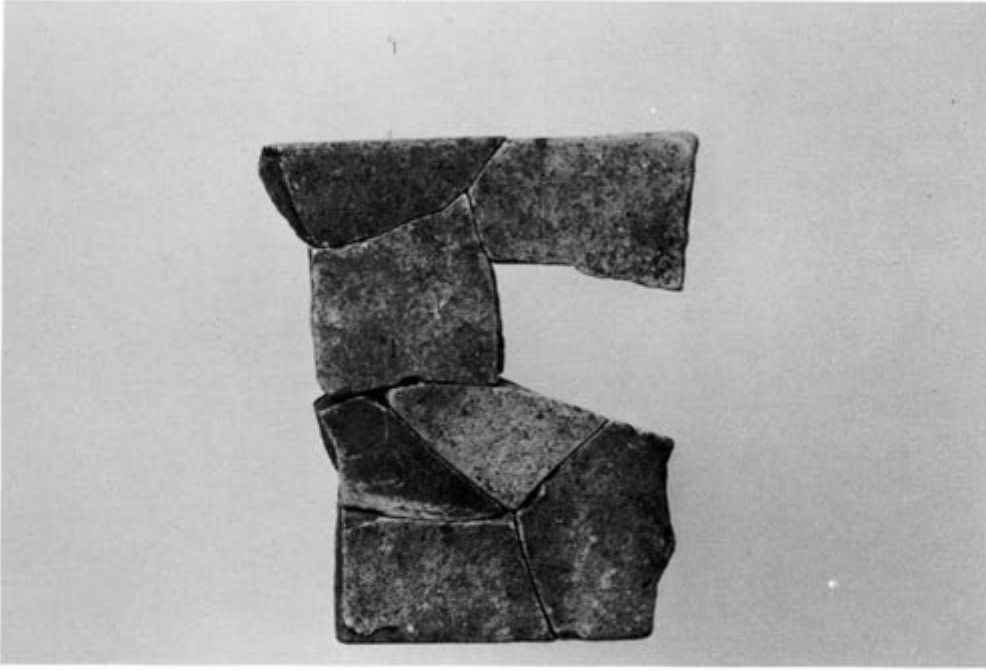
凝灰岩質非下緣調整細石刃石核 (2面)



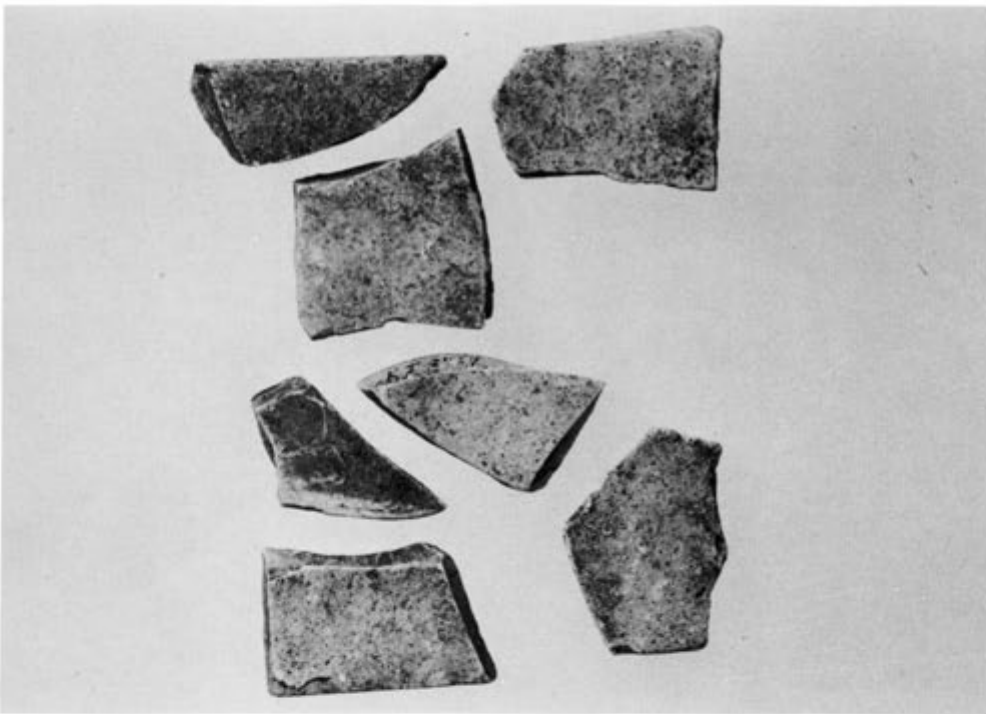
接合資料



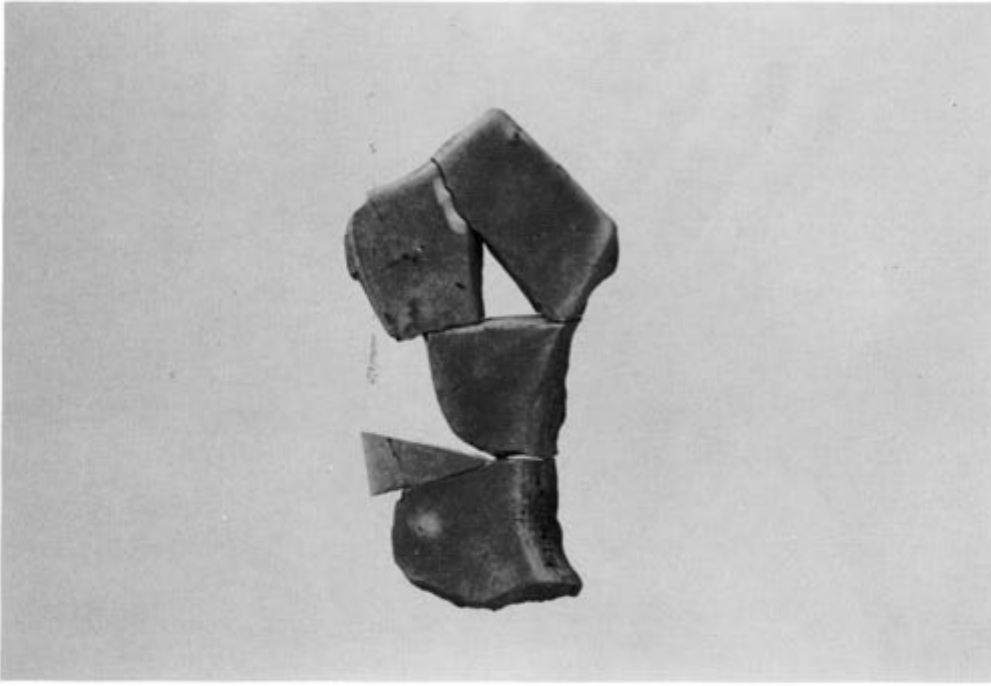
接合資料



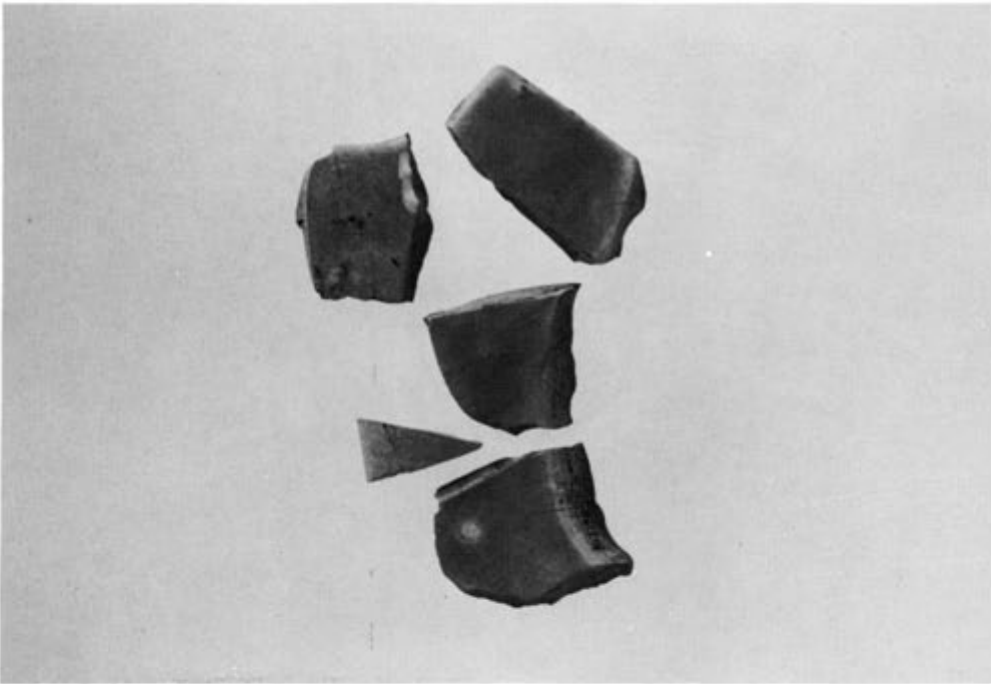
接合資料



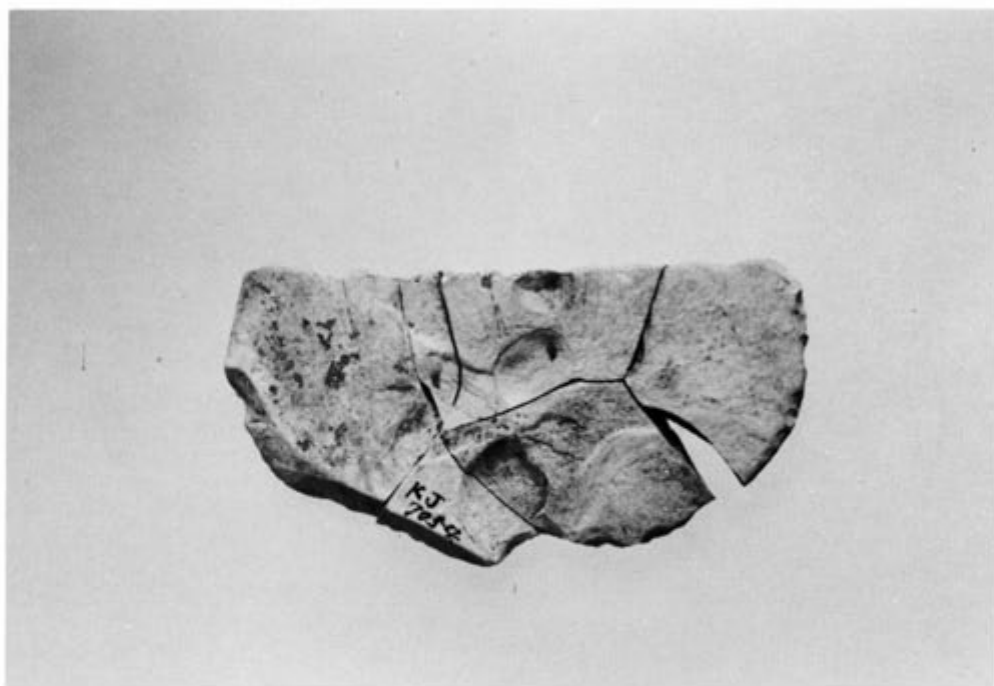
接合資料



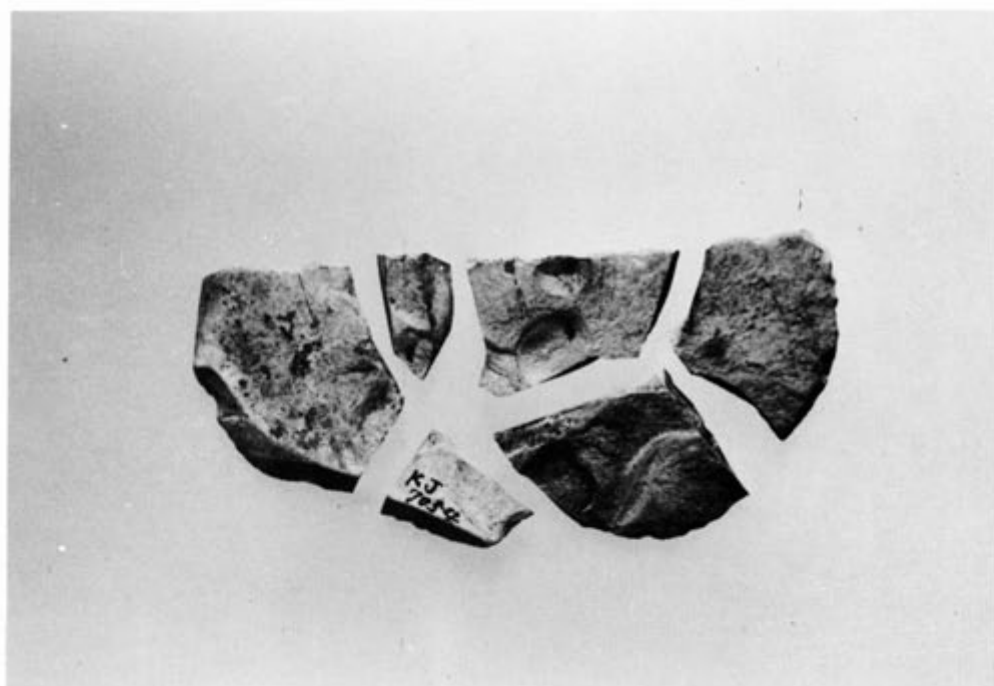
接合資料



接合資料



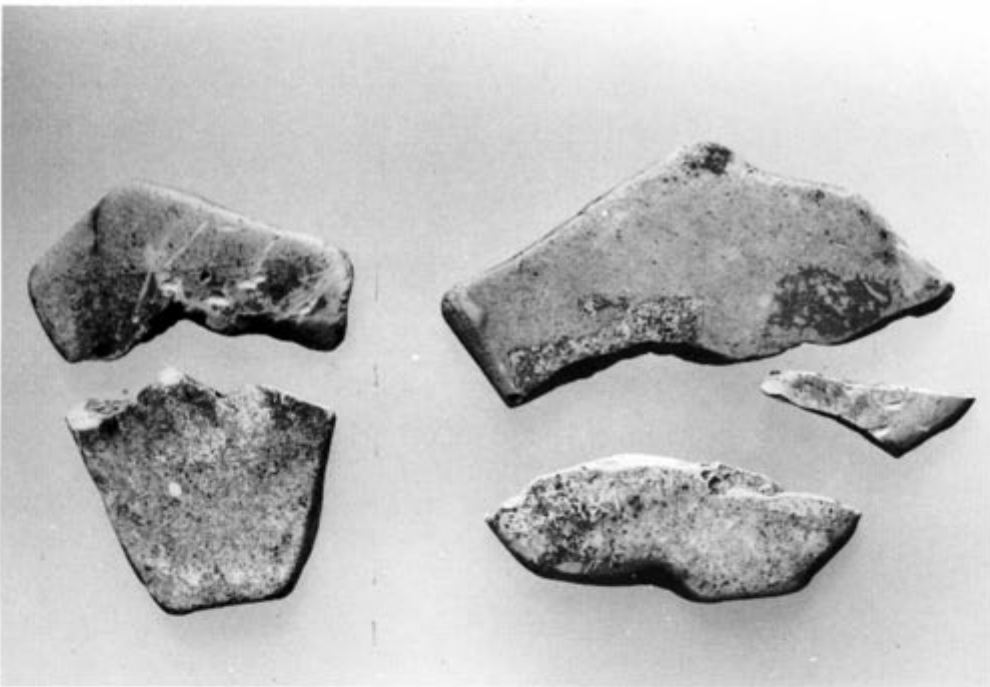
接合資料



接合資料



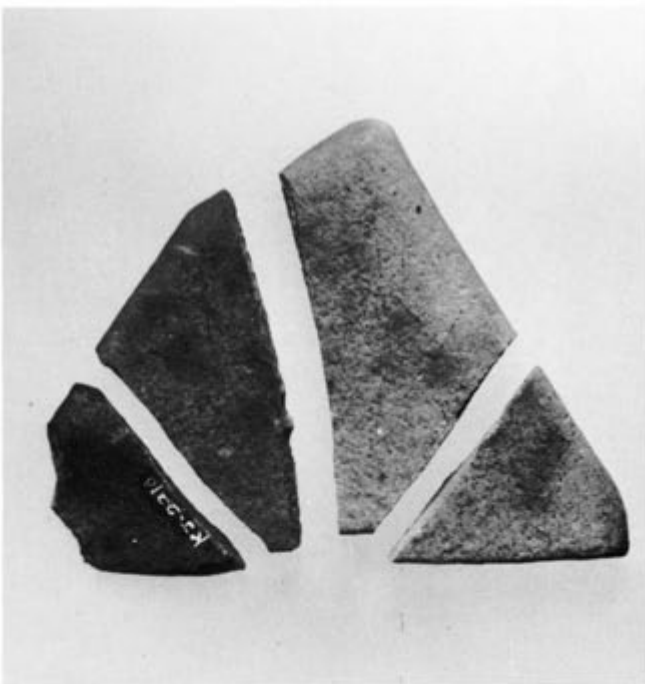
接合資料



接合資料



接合資料



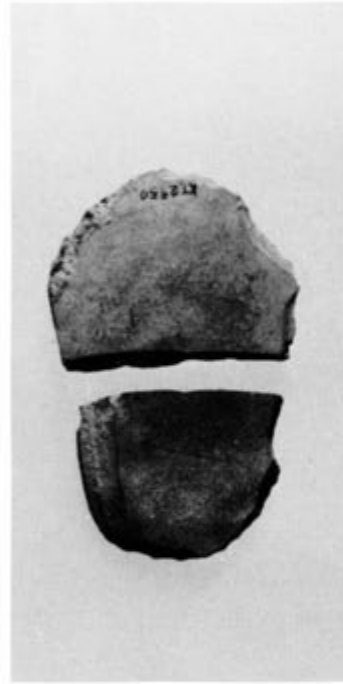
接合資料



接合資料



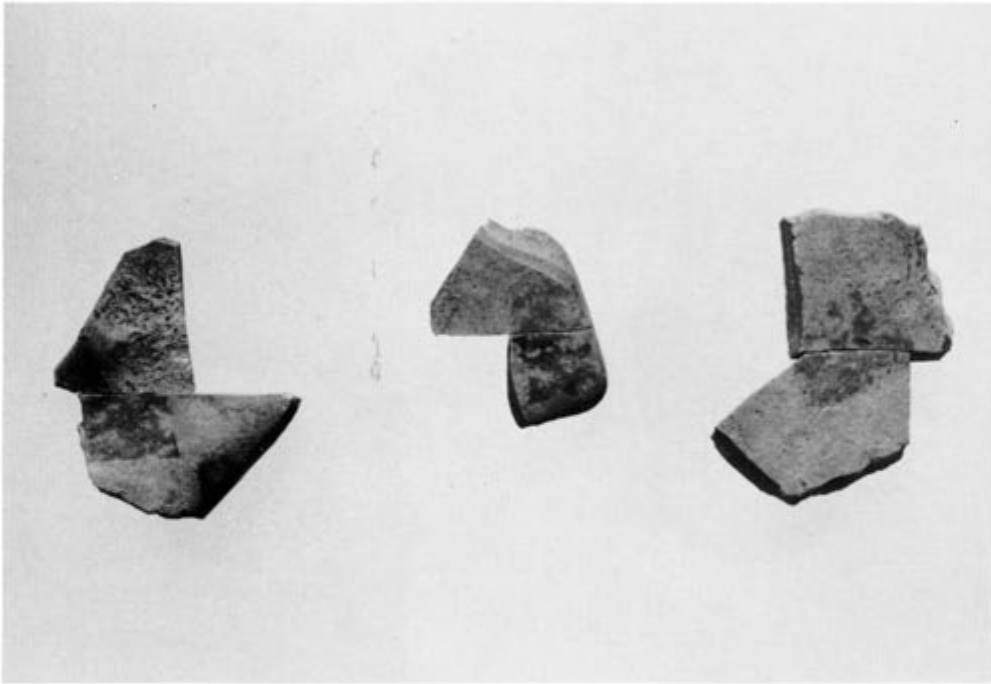
接合資料



接合資料



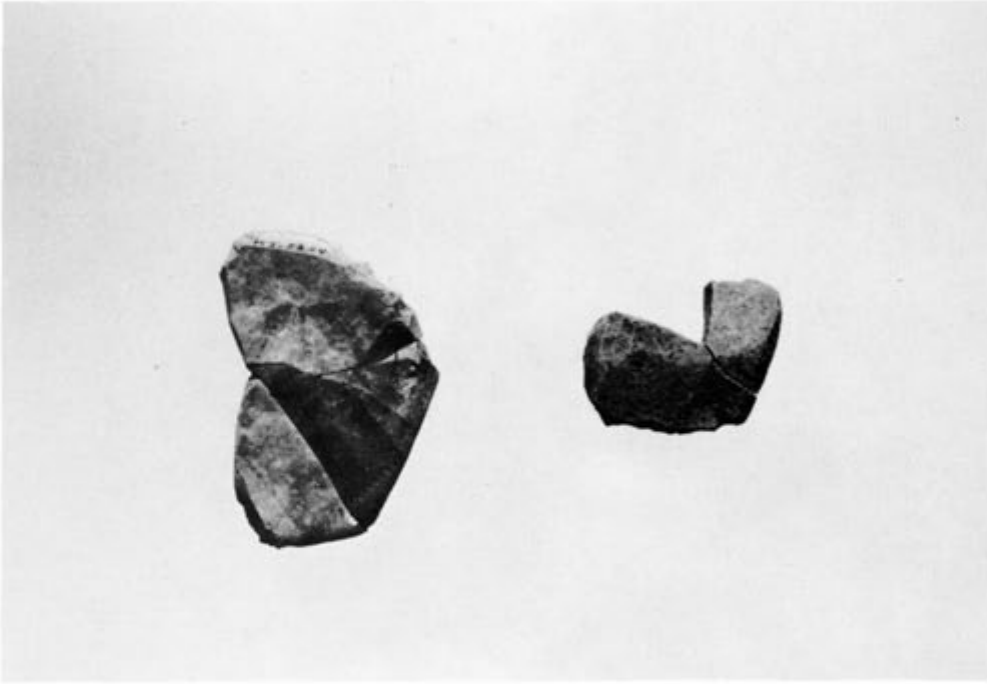
接合資料



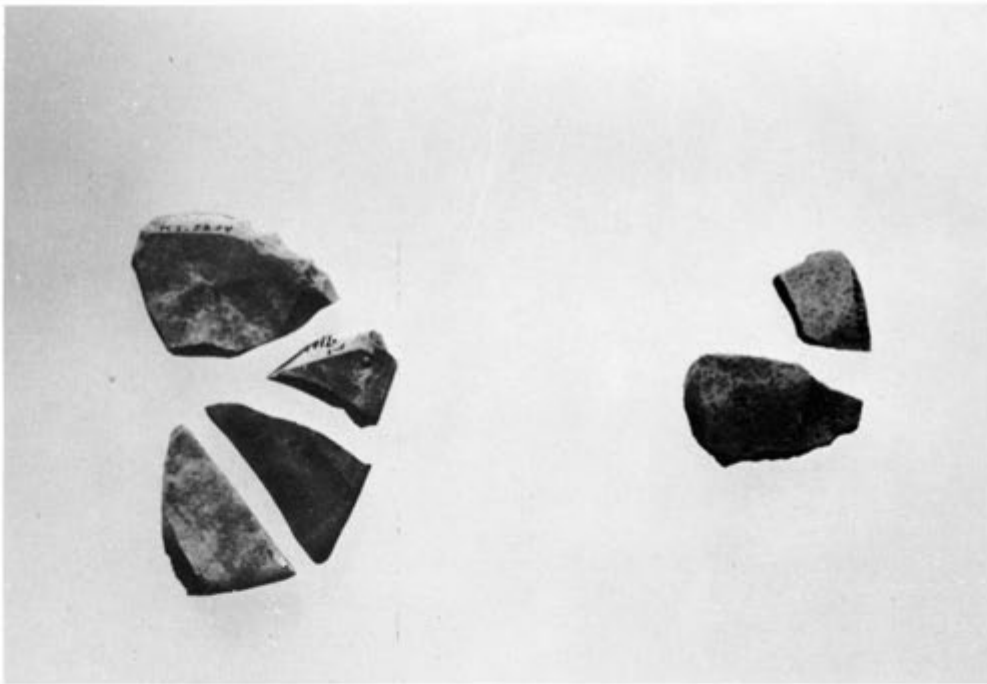
接合資料



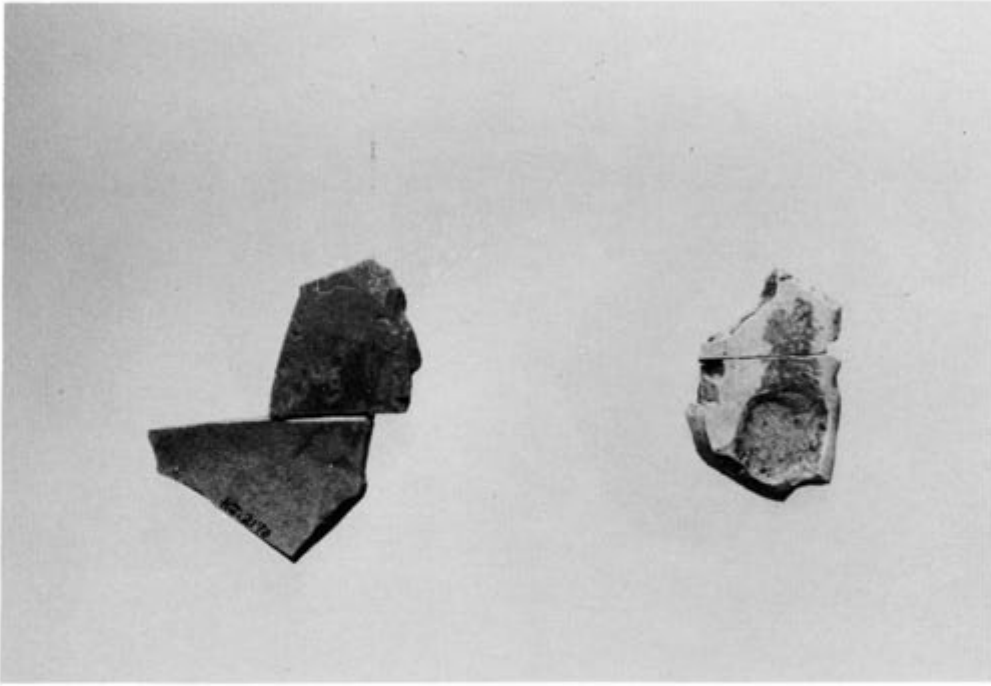
接合資料



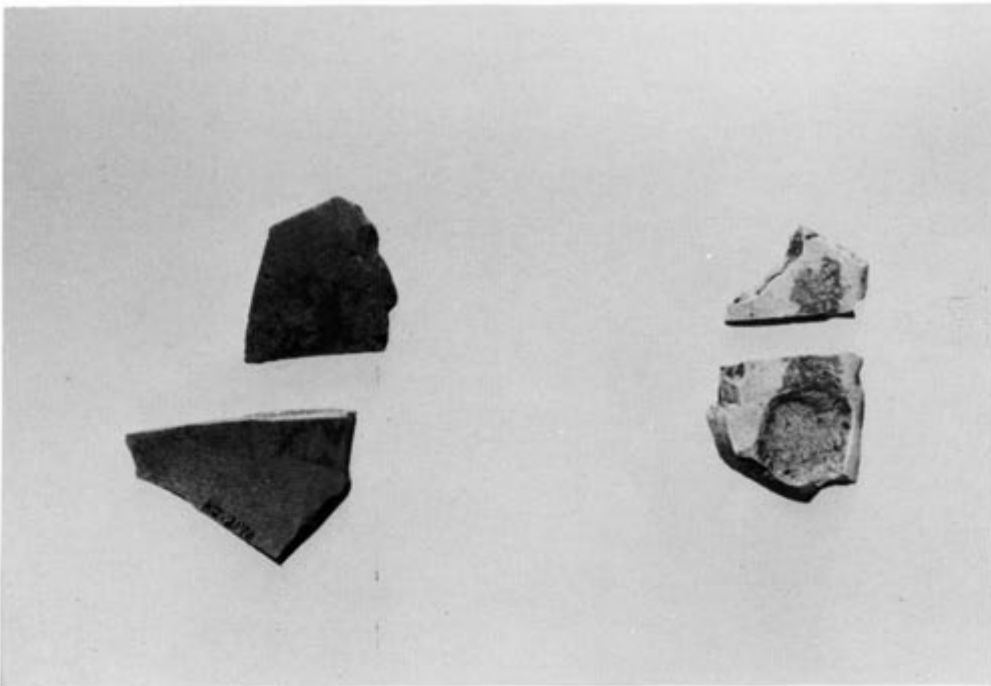
接合資料



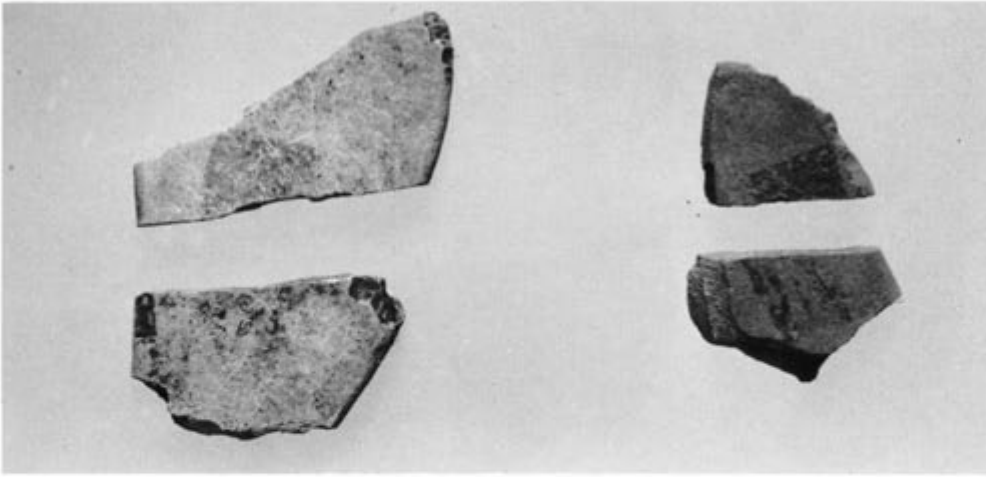
接合資料



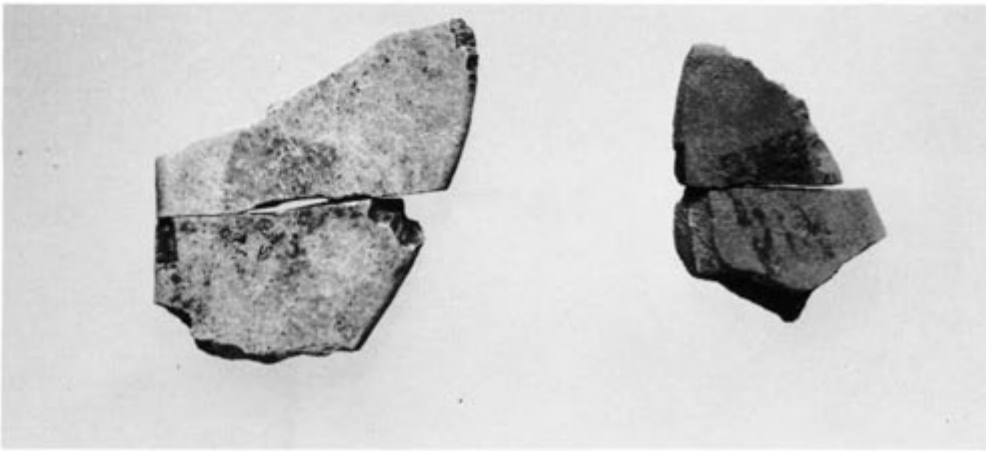
接合資料



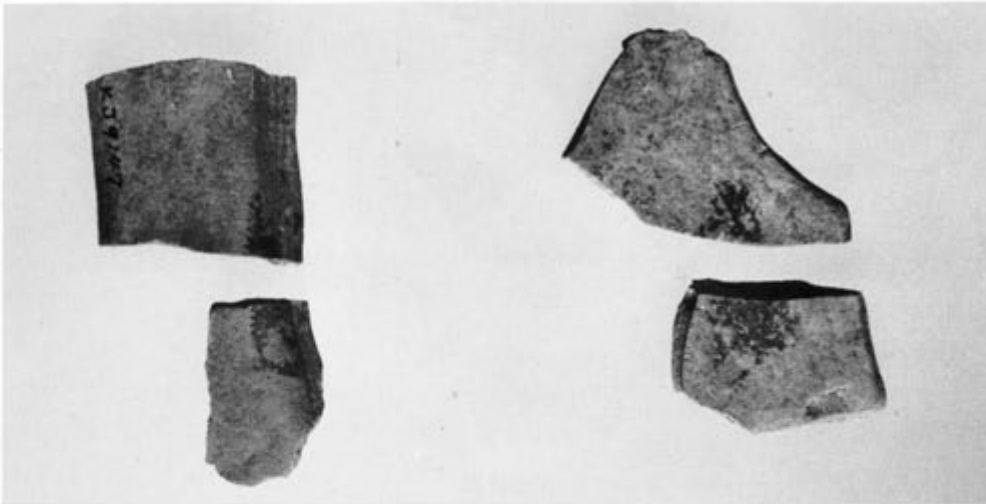
接合資料



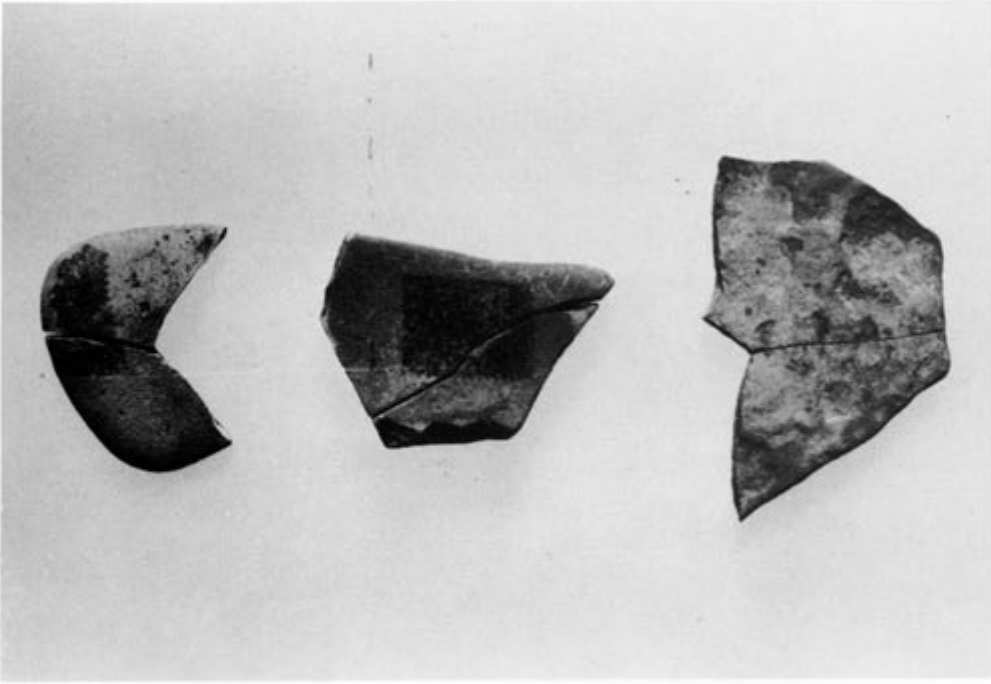
接合資料



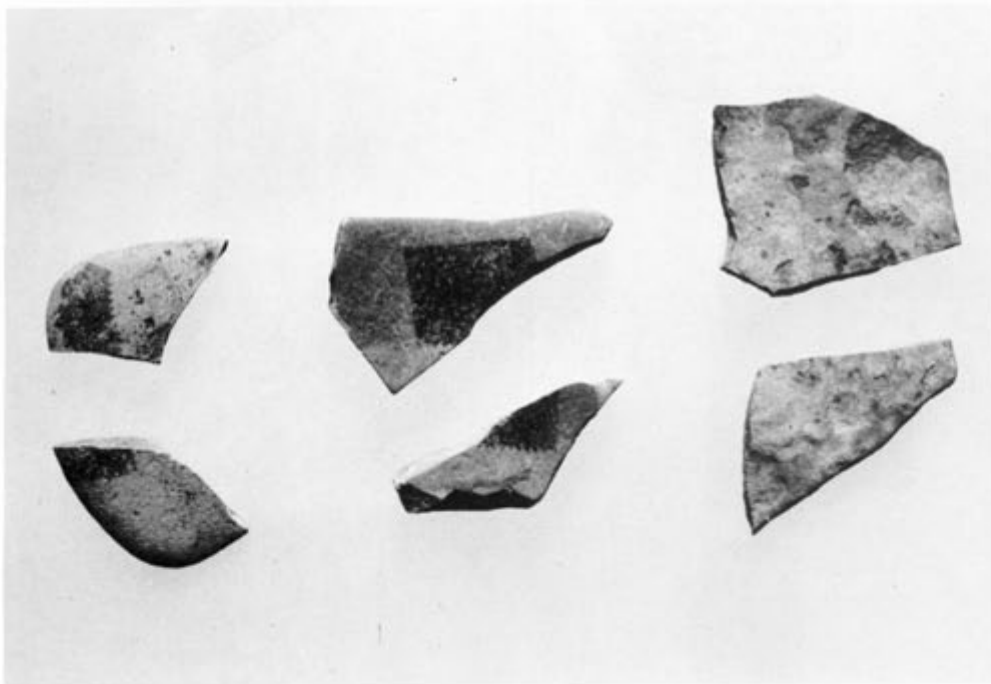
接合資料



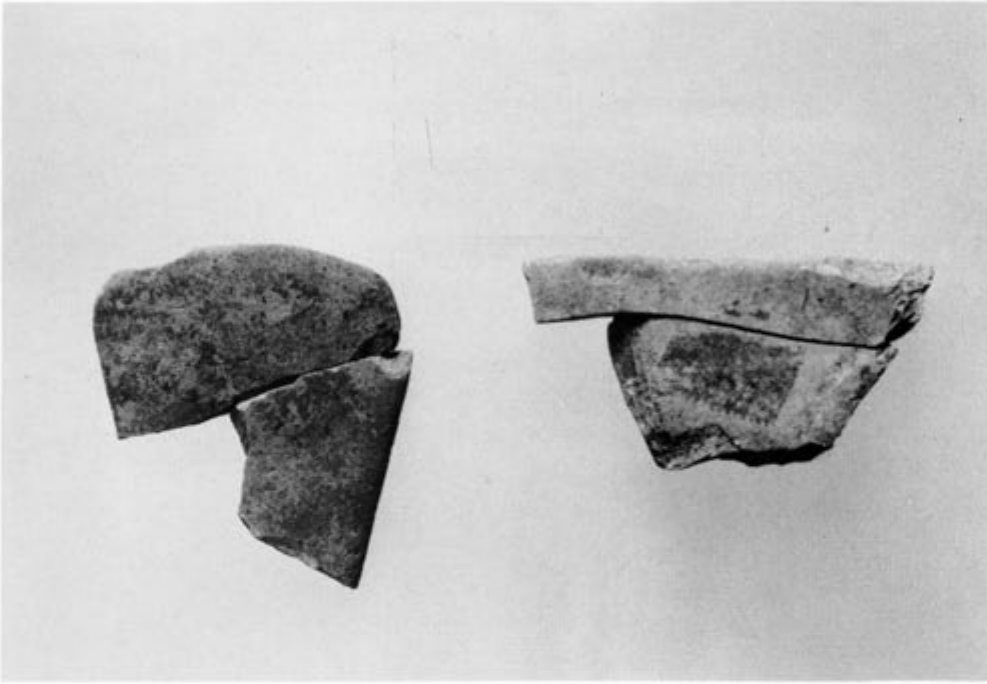
接合資料



接合資料



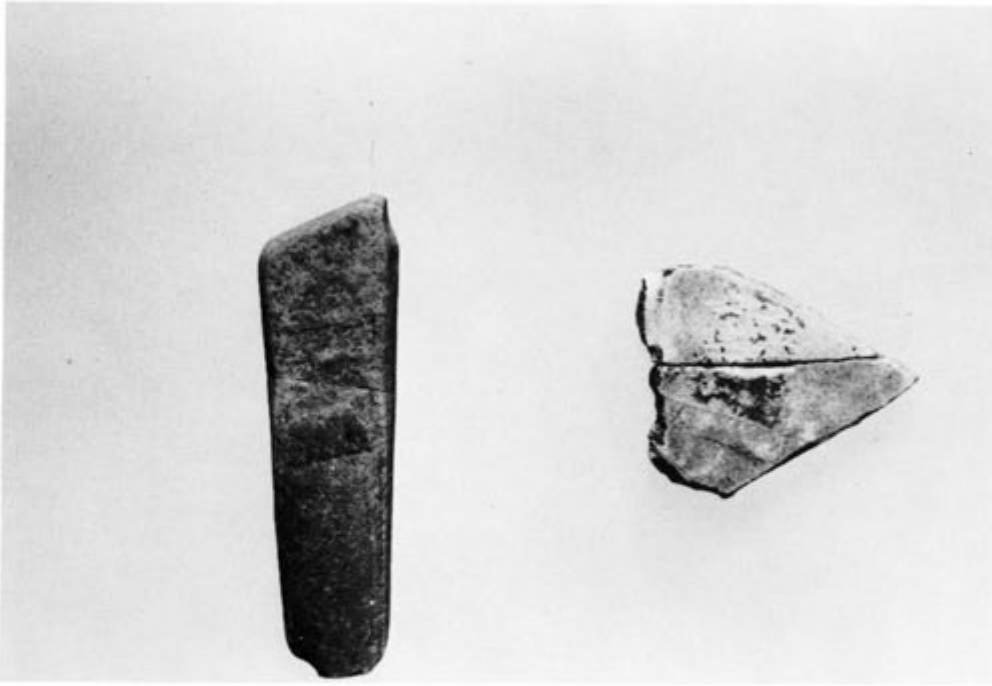
接合資料



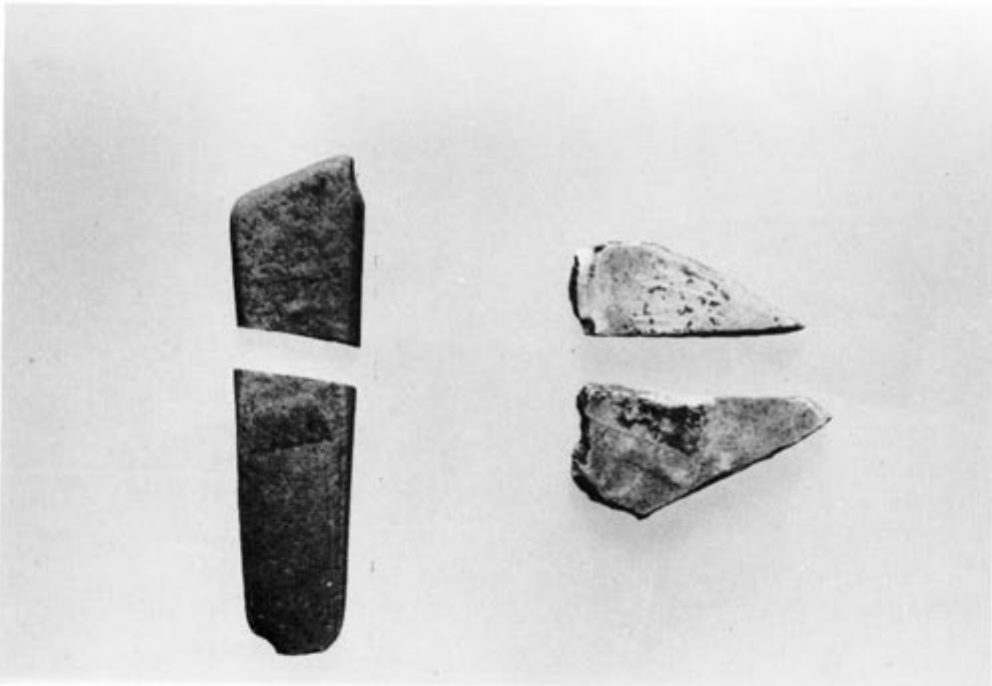
接合資料



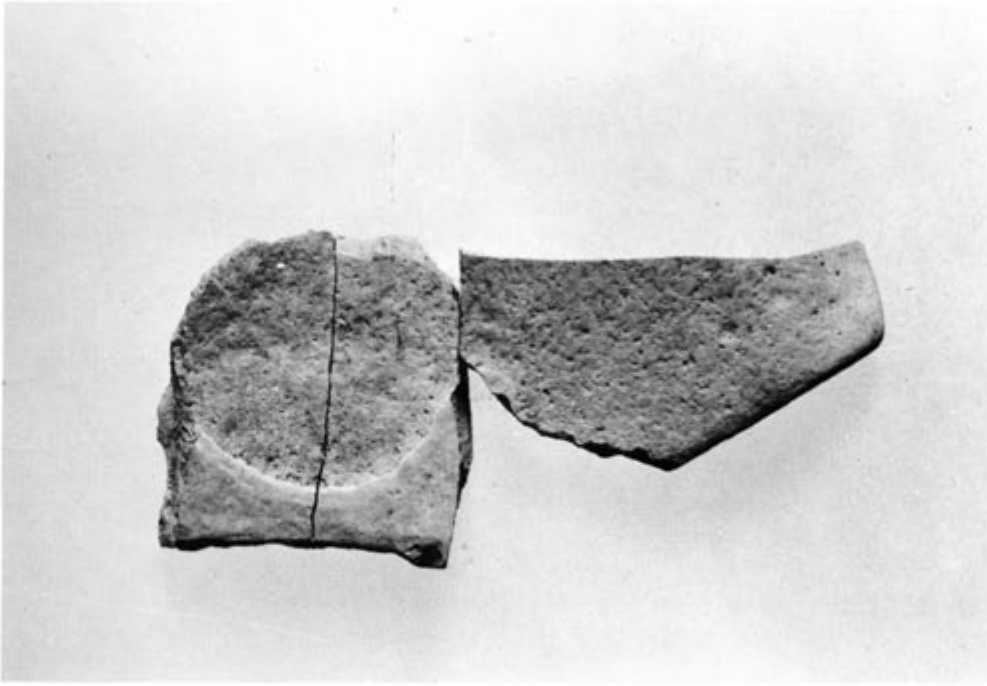
接合資料



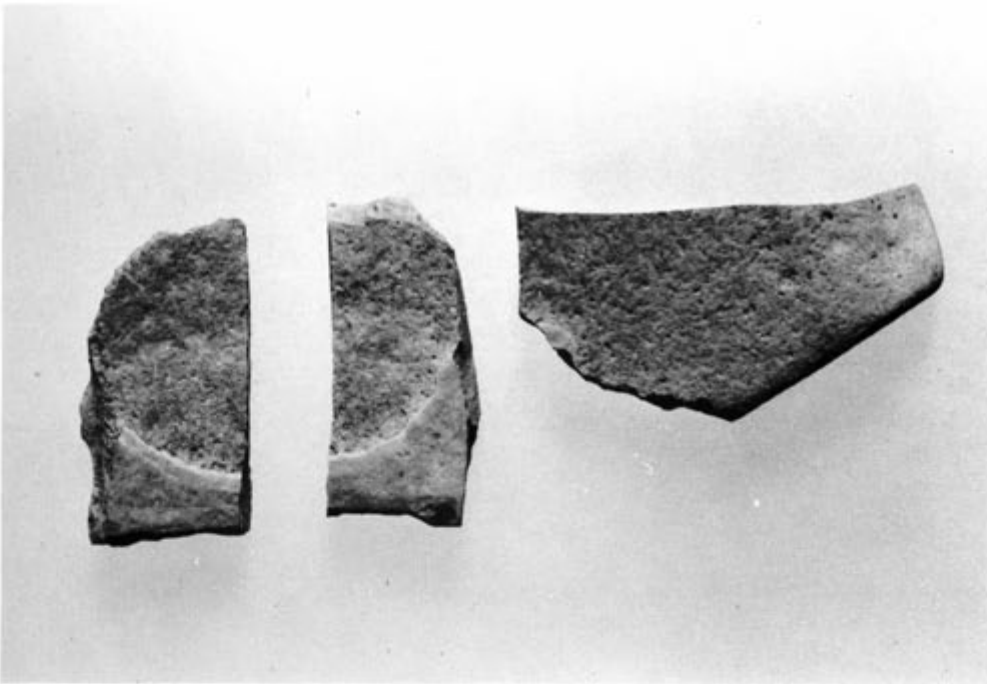
接合資料



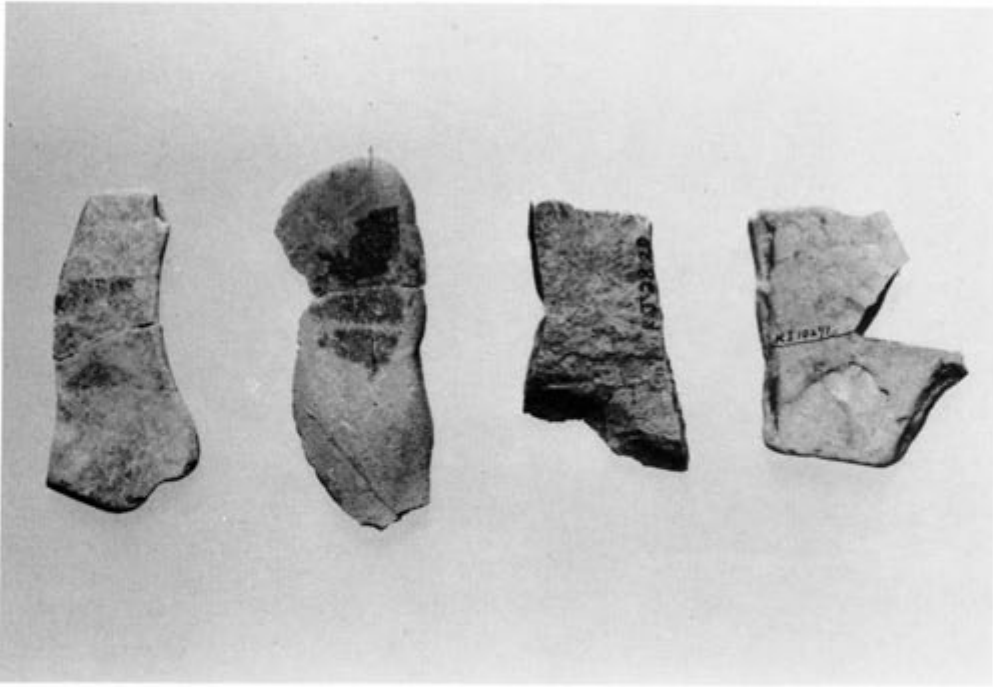
接合資料



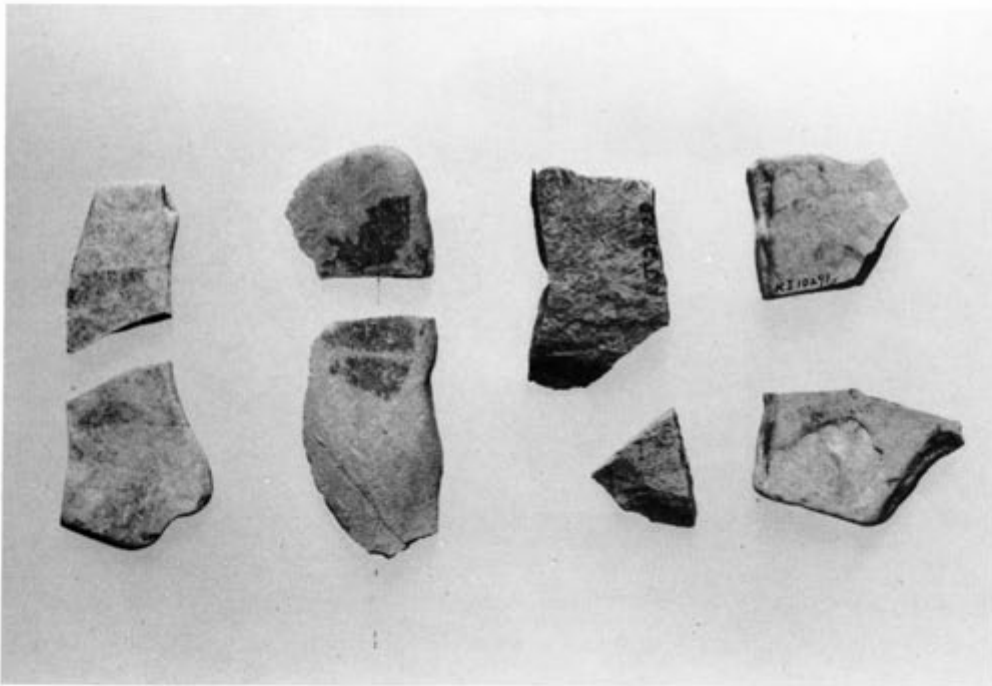
接合資料



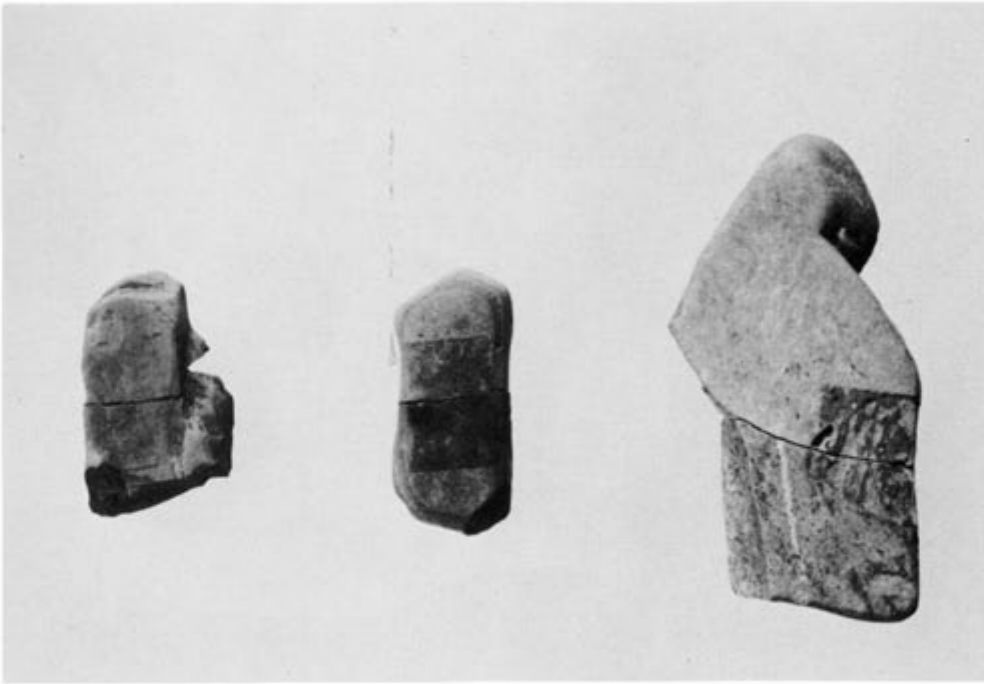
接合資料



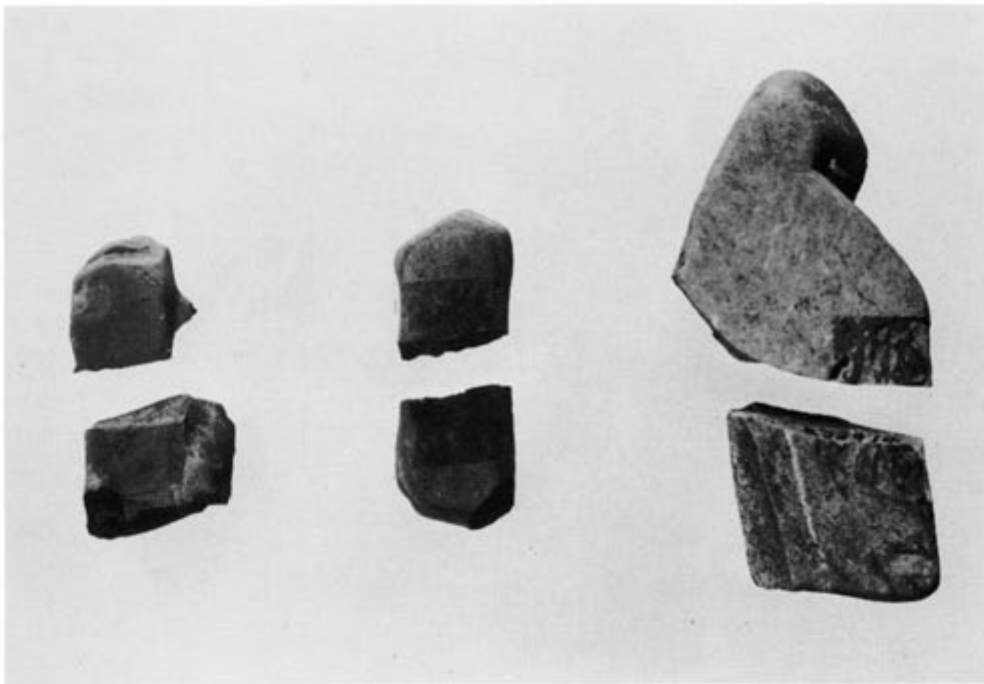
接合資料



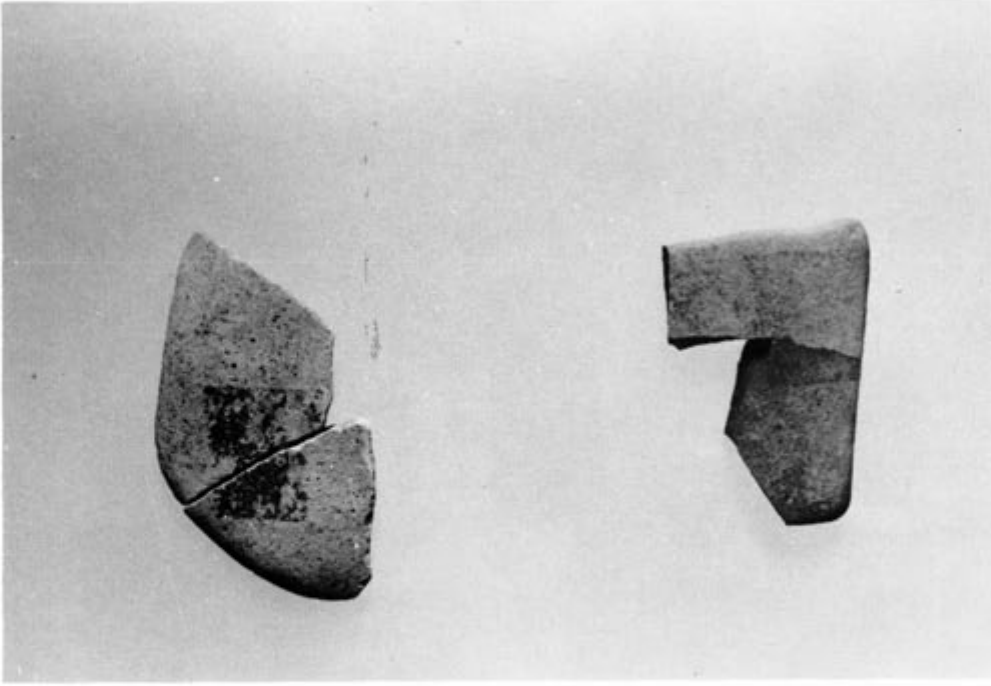
接合資料



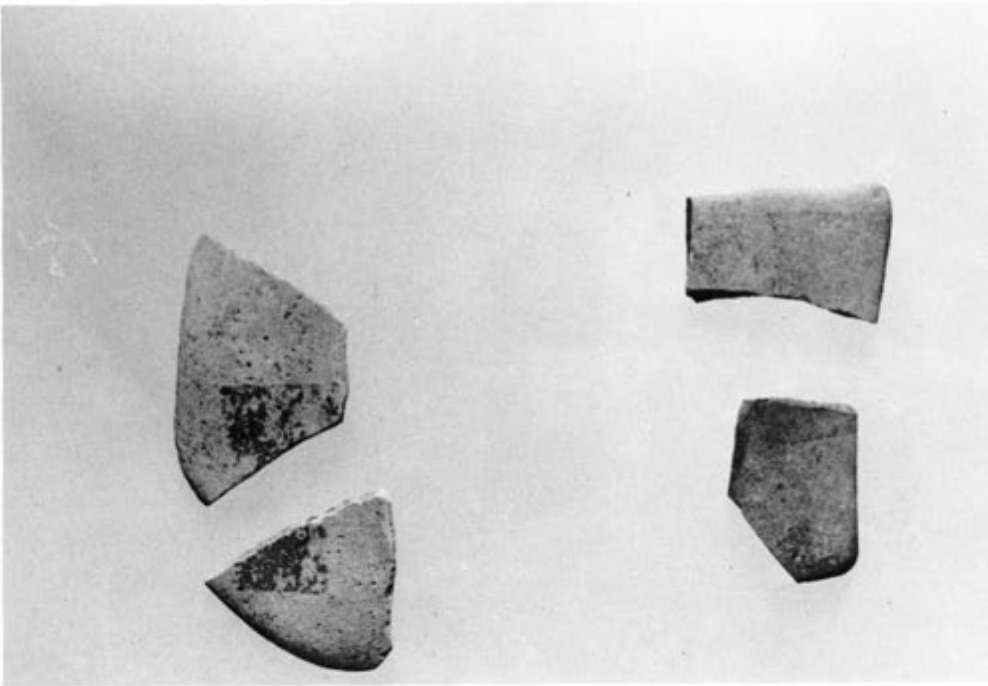
接合資料



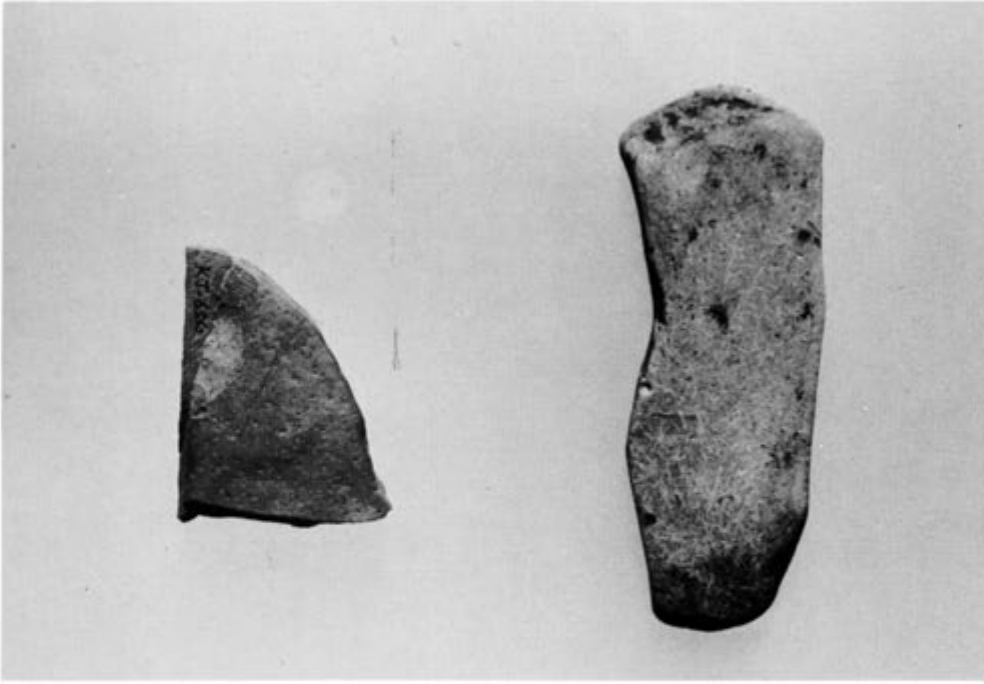
接合資料



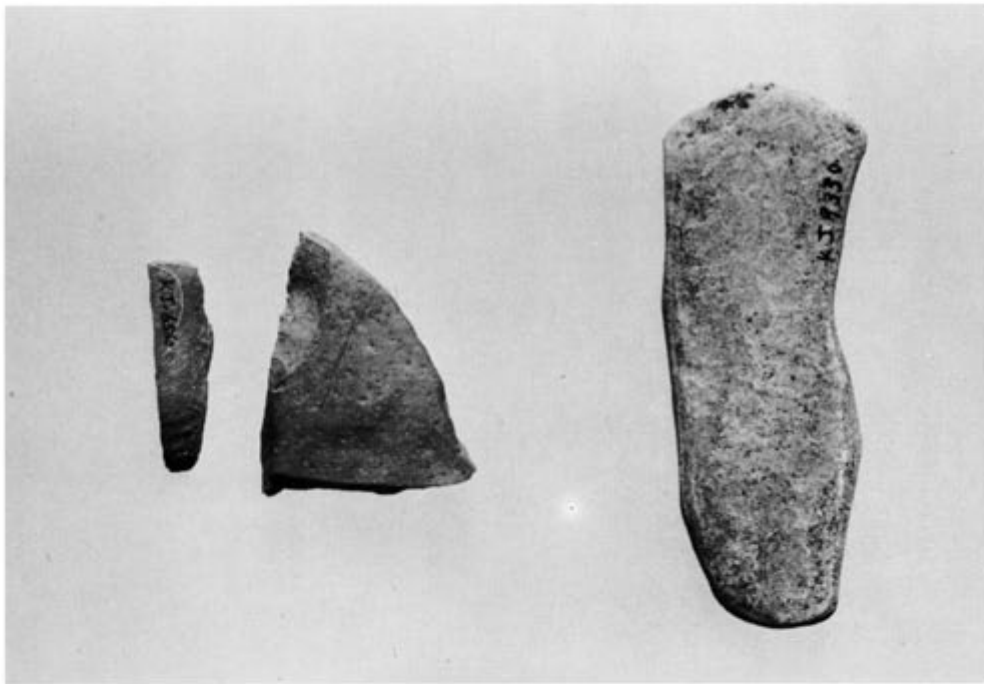
接合資料



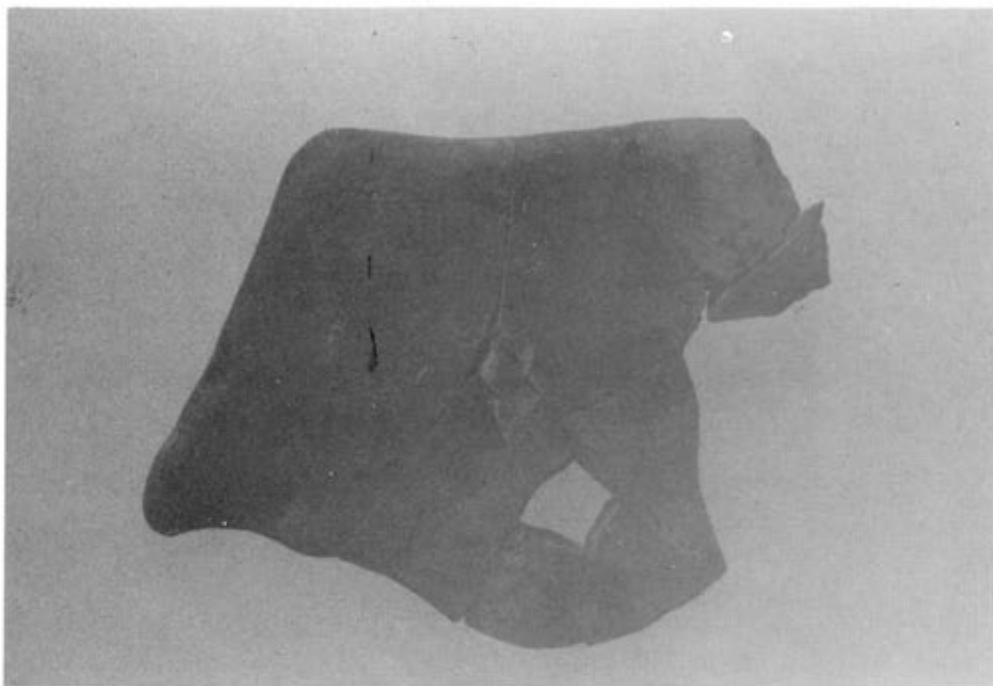
接合資料



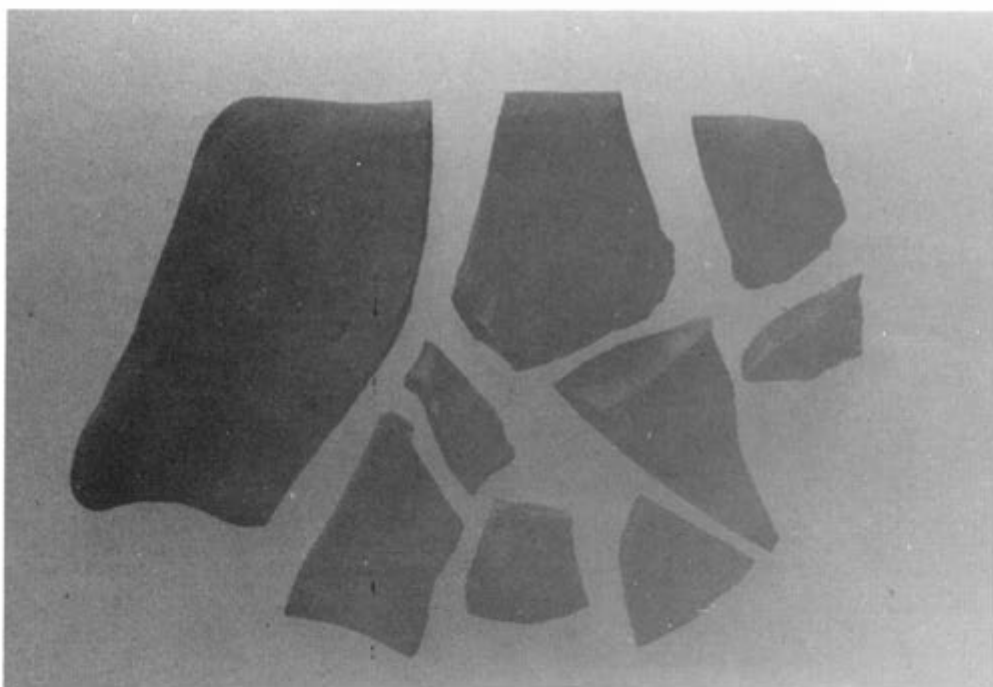
接合資料



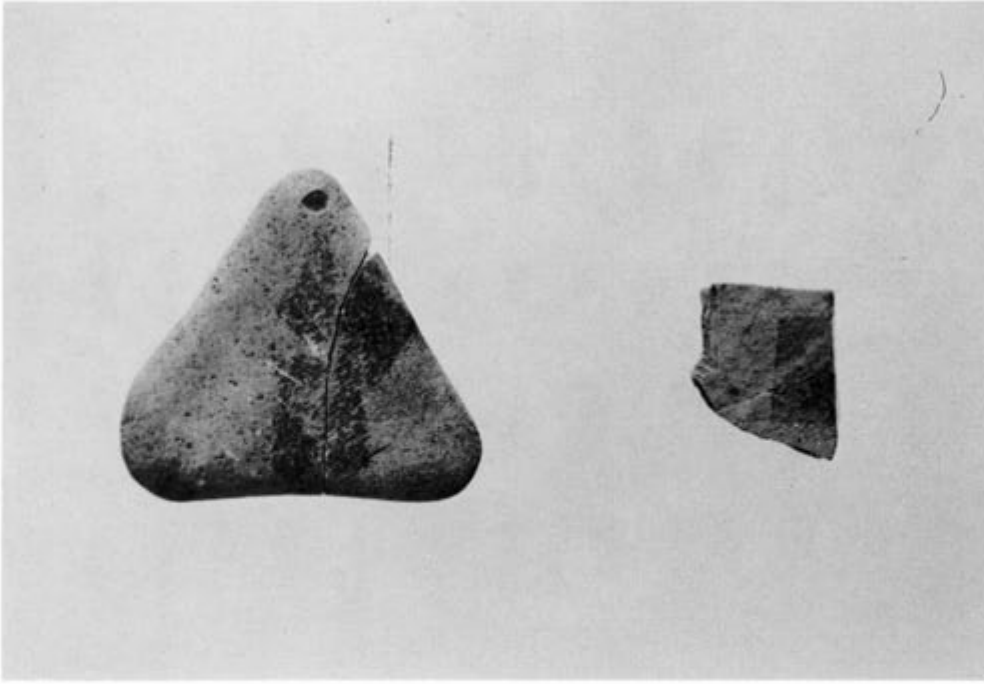
接合資料と母岩



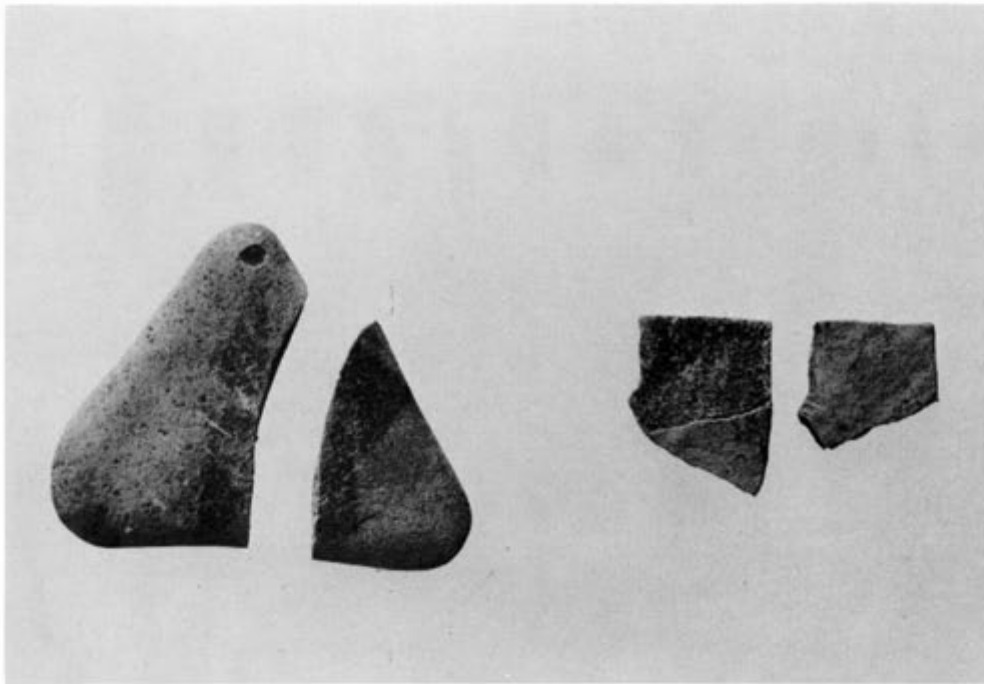
接合資料



接合資料



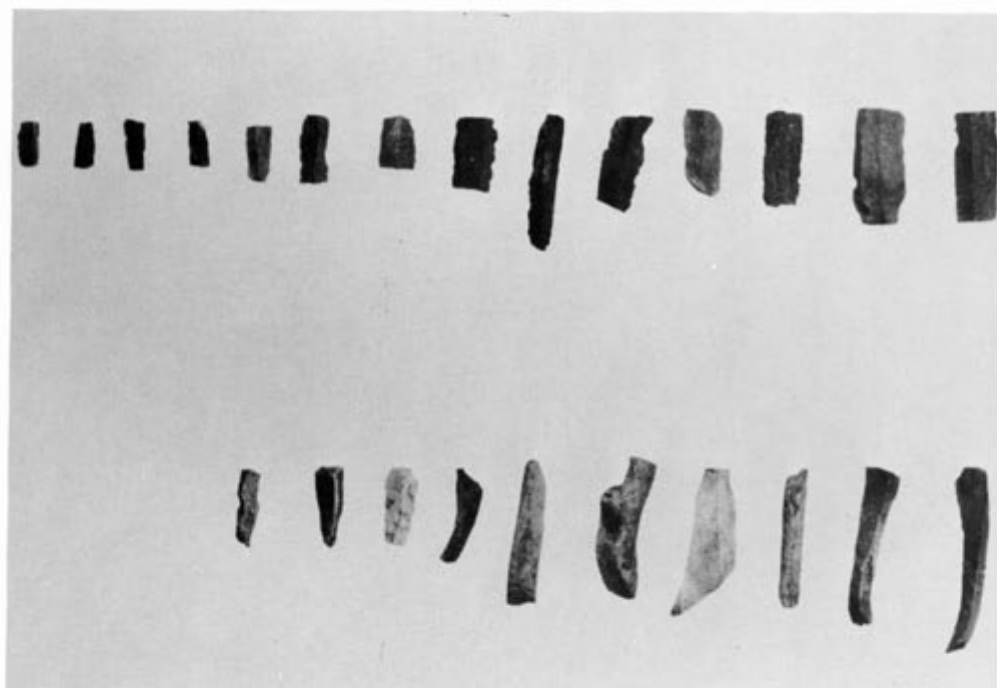
接合資料



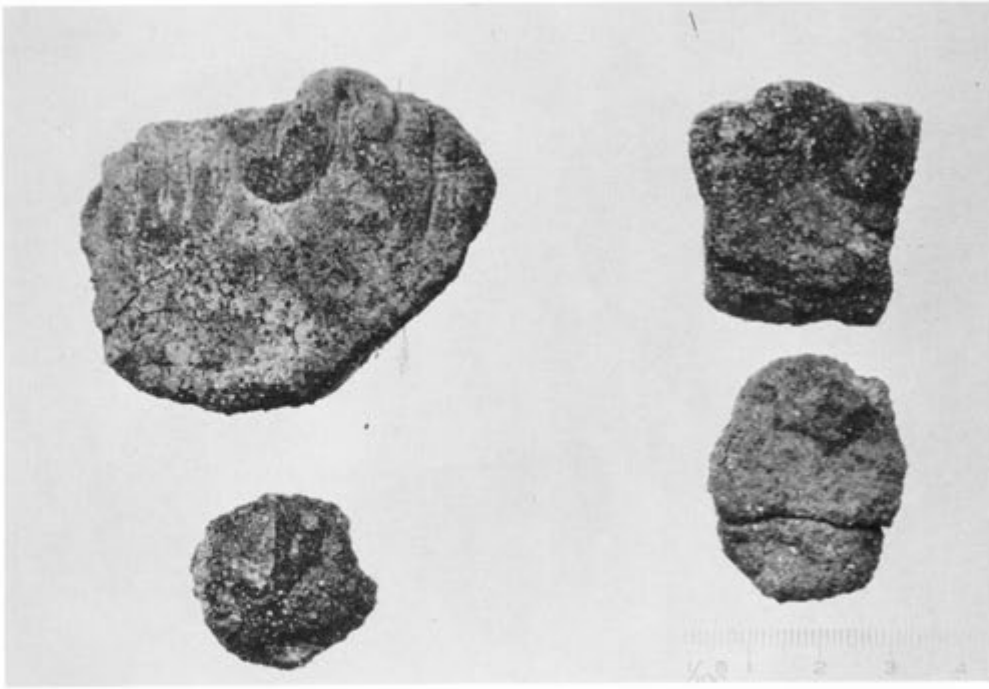
接合資料



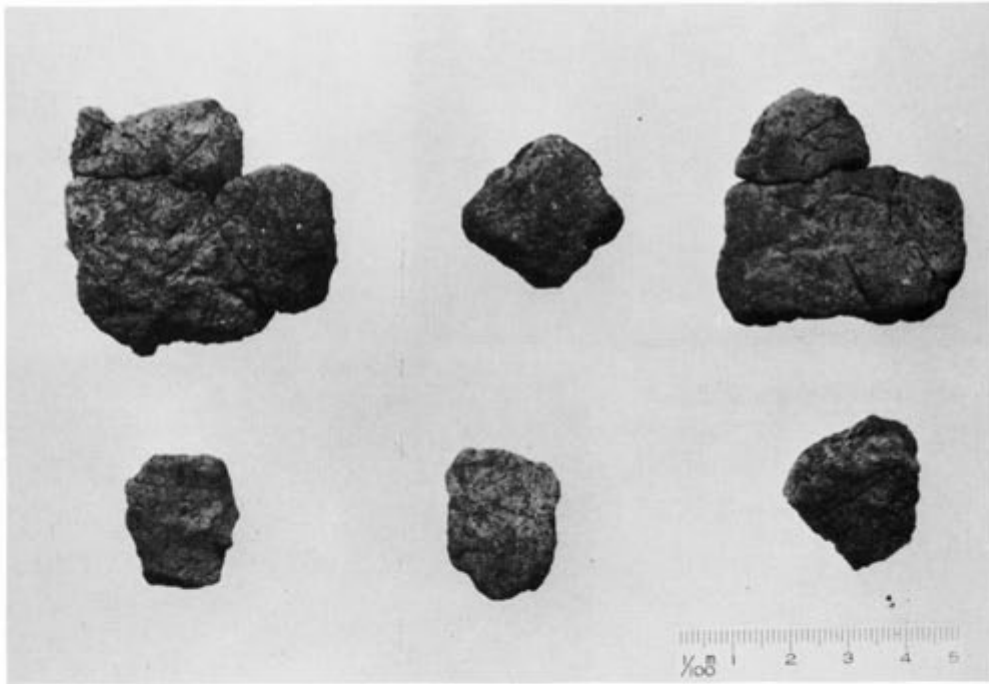
凝岩岩質頁岩の細石刃核



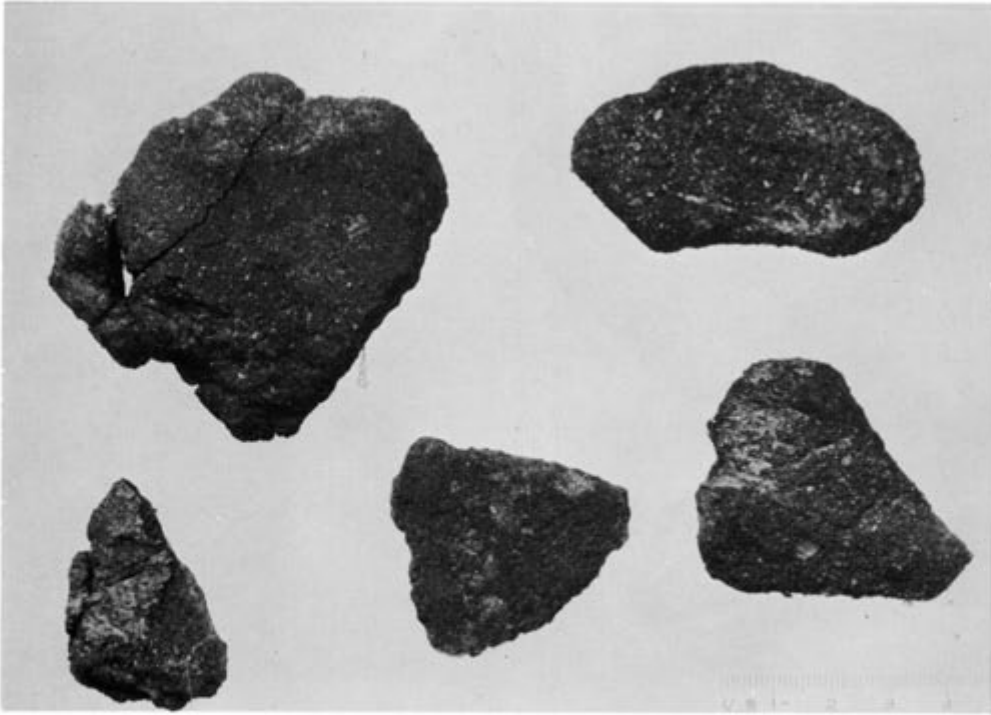
頁岩・砂岩の細石刃核および調整切片



粘土紐貼り付け文土器（先土器時代）



土器片（先土器時代）



土器片 (先土器時代)



先土器時代発掘調査風景





先土器時代水簸作業用調査風景



採集土



容器に入れる



水を入れ土をくだく



土をくだく



水をぬく (炭等の検出)



のこった遺物を再び洗う



かわかす



水簸作業風景

木 の 迫 遺 跡

例 言

1. この報告書は、九州縦貫自動車道（鹿児島線）建設によって消滅する遺跡について行った事前調査のうち、昭和50年度に発掘した木の迫遺跡の調査報告書である。
2. 発掘調査は、日本道路公団の受託事業として、鹿児島県教育委員会が実施した。
3. 調査の組織は、調査の組織及び調査の経過の中で記した。
4. 本書に用いたレベル数値は、海拔絶対高である。
5. 本書の遺物の実測、写真及び執筆、編集は、立神・吉永・牛ノ浜が分担して行った。
6. 出土品は、文化課収蔵庫に保管してある。

目 次

例 言	
第Ⅰ章 調査に致るまでの経過	250
第Ⅱ章 調査の組織および調査の経過	250
第Ⅲ章 遺跡の位置および環境	251
第Ⅳ章 遺跡の概要	254
第1節 層 位	255
第2節 遺 物	257
a 土 器	257
b 石 器	260
第Ⅴ章 む す び	260

挿 図 目 次

第 1 図	木の迫遺跡の位置図	252
第 2 図	木の迫遺跡の地形図	253
第 3 図	木の迫遺跡のグリッド図	255
第 4 図	木の迫遺跡の地層図	256
第 5 図	土器実測図	258
第 6 図	土器・石器実測図	259

図 版 目 次

図版 1	—①木の迫遺跡出土の縄文式土器	261
	—②木の迫遺跡出土の土師器	
図版 2	—①木の迫遺跡出土の土師器	262
	—②木の迫遺跡出土の須恵器	
図版 3	—①木の迫遺跡出土の須恵器	263
	—②木の迫遺跡出土の青磁・染付	
図版 4	—①木の迫遺跡出土の石器	264

第Ⅰ章 調査に致るまでの経過

九州縦貫自動車道の建設事業の計画は、昭和43年に建設計画が決定され、昭和43年4月に日本道路公団に対し、本県の鹿児島線については、加治木―鹿児島間についての工事施行命令がだされた。鹿児島県教育委員会は、これに対処するために文化庁の指導をうけ、日本道路公団福岡支社、鹿児島工事事務所と連絡のうえ、県内在住の考古学・文化財関係者の協力を得て、昭和43年12月17日より昭和44年1月20日まで九州縦貫自動車道建設予定地（加治木―鹿児島間）の埋蔵文化財包蔵地の分布調査を実施した。

その後、鹿児島線（加治木―鹿児島間）の工事着工が具体化するに及んだため、鹿児島県教育委員会文化室（当時）は、昭和47年8月22日に再度、埋蔵文化財包蔵地の分布調査を実施した。これら二回の分布調査の結果、鹿児島市の区間内には、木の迫遺跡、加治屋園遺跡・加栗山遺跡・神の木山遺跡の4遺跡が確認された。

その後、九州縦貫自動車道建設事業の推進と文化財の保護について協議を進めた結果、これらの遺跡については、発掘調査を実施し、記録保存を計ることとなった。発掘調査は、昭和49年2月、加栗山遺跡から順次実施し、本遺跡は、昭和50年12月、調査を実施した。

第Ⅱ章 調査の組織及び調査の経過

第1節 調査の組織

発掘調査責任者	文化課 課長 宇都 哲 (昭和50年度)
	文化課 課長 山下 典夫 (昭和55年度)
発掘調査企画	文化課 専門員 河野 治雄 (昭和50年度)
	文化課 専門員 本蔵 久三 (昭和55年度)
	文化課課長補佐 有村 八郎 (昭和50年度)
	文化課課長補佐 新 時弘 (昭和55年度)
発掘調査担当者	文化課 主事 立神 次郎 (昭和50年度 昭和55年度)
	文化課 主事 吉永 正史 (昭和50年度 昭和55年度)
	文化課 主事 牛ノ浜 修 (昭和50年度 昭和55年度)
事務担当	文化課管理係長 中島 敏光 (昭和50年度)
	文化課管理係長 川畑 栄造 (昭和55年度)
	文化課 主事 野村 和徳 (昭和50年度)
	文化課 主事 長山 恭子 (昭和50年度)
	文化課 主査 安藤 幸次 (昭和55年度)
	文化課 主事 天辰 京子 (昭和55年度)

第2節 調査の経過

発掘調査は、昭和50年12月9日から昭和50年12月11日までの3日間である。調査面積は300㎡である。調査は本遺跡地で草木が繁茂していたので、畑地で下払い作業後、グリッド設定を行いトレンチによる掘り下げ作業を実施した。以下、調査の過程は日誌抄をもってかえることにする。

日誌抄

- 12月9日 発掘器材、器材搬入作業。ベース設定作業。作業員に対して調査の主旨、作業内容及び注意すべき事項等について説明を行う。下払い作業。グリッド設定作業後トレンチによる掘り下げ作業。A-3区・B-3区・C-3区より掘り下げ作業実施。耕作土の直下はシラス層の露呈が認められ、表土層より磨製石斧・土師器が見られる。
- 12月10日 B-3区・B-4区・C-5区・B-2区・D-2区・D-4区・D-5区の掘り下げ作業。A-3区・B-3区・C-3区と同様に表土層直下に、シラス層の露呈が見られる。B-5区の攪乱層より土師器・須恵器・青磁・染付・削器などの遺物が礫と混入して認められる。
- 12月11日 B-6区・C-6区のトレンチを拡張して掘り下げ作業。攪乱層中より、須恵器土師器、縄文式土器など破片が礫混じりあいながら認められる。地形図及び土層実測作業。遺物のみられる攪乱層部分のみ遺物取り上げる。調査終了。器材運搬作業。

第Ⅲ章 遺跡の位置及び環境

木の迫遺跡は、鹿児島市川上町花棚字木の迫にあり、鹿児島市街地の北方約7.7キロメートルの所に位置している。

鹿児島市は、鹿児島県の県庁所在地で、薩摩・大隅両半島の分岐する鹿児島湾の西岸の中央より北部に位置し、鹿児島県のほぼ中央部である。両半島の間には、約20キロメートルの幅で南から北へ約60キロメートル鹿児島湾が深く湾入している。鹿児島湾はカルデラで、湾の入口付近に阿多（指宿）火山、北部に始良火山が知られている。

鹿児島市は、ほとんど火山灰台地によって占められ、甲突川、精木川（下流稻荷川）などの中小河川により出来た沖積平野（市街地）とで構成されている。北東部には、吉野台地があり地形は、北東部が最も高く標高約500～400mで、逐次西南方向に標高が低くなり、地表面は平坦でなく波浪状を呈し市街地へと続いている。西部は精木川により区切られ、さらに、いくつかの火山灰台地が続き、吉野台地と同様な地形を呈している。東部及び南部は、比高400～200



1. 木の迫遺跡 2. 加栗山遺跡 3. 加治屋園遺跡 4. 黒曜石原産地 5. 石郷遺跡 6. 七社遺跡
 7. 前平遺跡 8. 春日町遺跡 9. 若宮遺跡 10. 大竜遺跡 11. 南州神社遺跡 12. 堅野(冷水)窯跡
 13. 鶴丸城(鹿児島城) 14. 釘田遺跡第1地点 15. 釘田遺跡第8地点 16. 県立医大遺跡
 17. 一の宮遺跡 18. 笹貫遺跡 19. 武具塚

第1図 木の迫遺跡の位置図

mの急崖をもって鹿児島湾に望むが、これが始良カルデラ壁の一部であり、東部対岸には、活火山である桜島が雄然とそびえ、鹿児島のシンボルである。

遺跡の周辺を概観すれば、本遺跡は、鹿児島市の北部端で、吉野台地と緑ヶ丘台地とにとり囲まれた精木川の東側河岸段丘上に位置している。遺跡の北部・西部は、精木川により出来た河岸段丘上に狭長な水田が立地し、精木川が鹿児島郡吉田町との行政区画区域となっている。南部は、精木川沿線に立地する狭長な水田地帯が加治屋園遺跡や加栗山遺跡周辺部へと続いている。東部は、吉野台地から伸びて来ている火山灰台地の一部である。

周辺の遺跡についてみれば、第1図に示したとおりであるが、吉野台地には、七社遺跡、石郷遺跡、雀ヶ宮遺跡、前平遺跡、吉田町には、宮ノ浦遺跡、大原遺跡、川上町には、加治屋園遺跡、加栗山遺跡などが知られる。



第2図 木の迫遺跡の地形図

第Ⅳ章 調査の概要

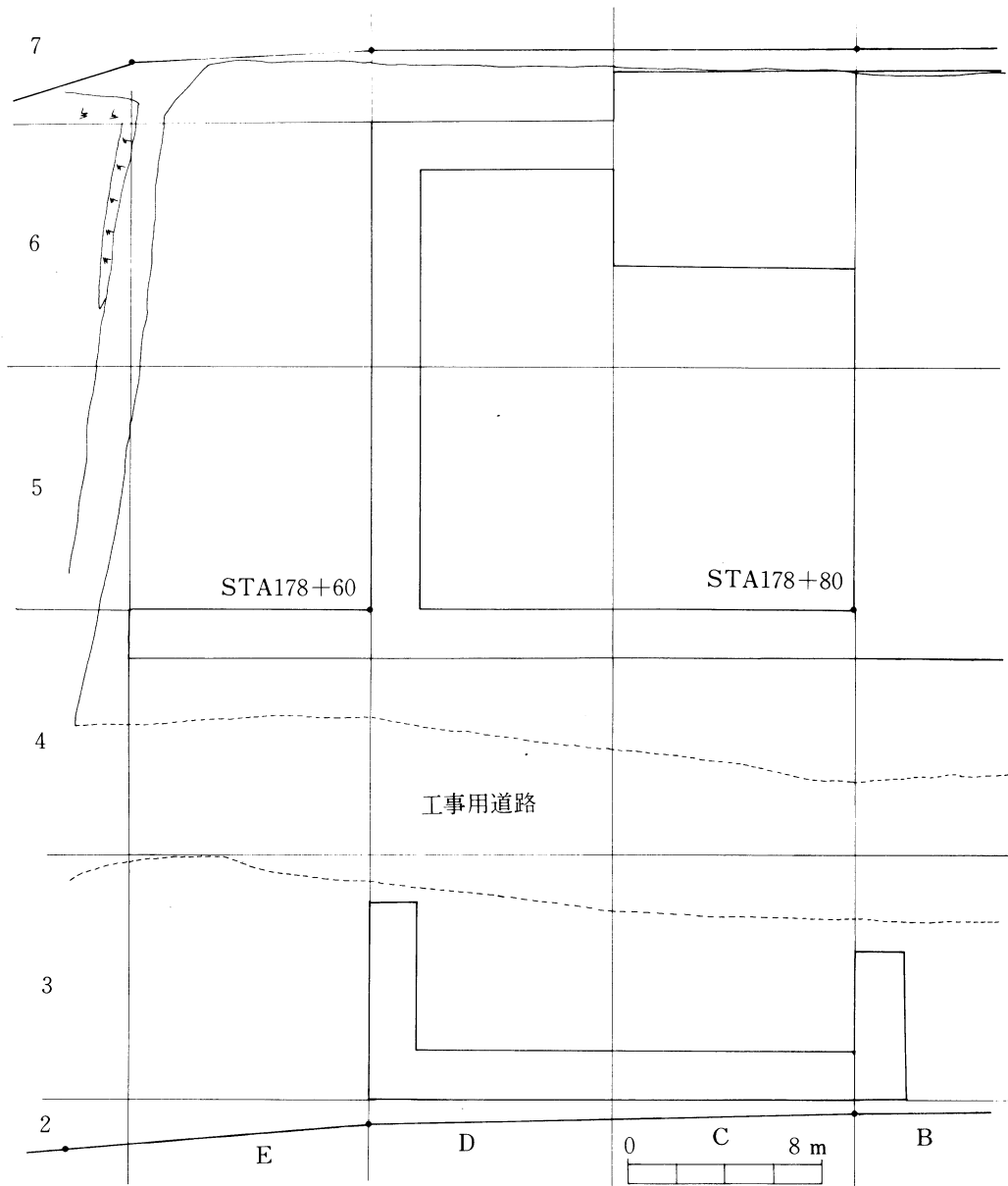
木の迫遺跡を含む九州縦貫自動車道（鹿児島線）の埋蔵文化財包蔵地の分布調査は、昭和48年8月22日に実施した。その結果、本遺跡は弥生時代（後期）の土器破片の採集が確認されている。

遺跡地は、鹿児島市の北部、川上町を南北に流れている精木川（下流稲荷川）の東岸にあり標高約162mの河岸段丘上の畑地に位置している。

本遺跡の発掘調査は、昭和50年12月9日より開始された。最初に、昭和48年8月におこなった分布調査の結果にもとづいて、本遺跡の調査方法を検討した結果、九州縦貫自動車道の路線敷地内の遺跡地内において、グリッド設定作業を実施した。路線予定地の中心杭であるSTA 178+20とSTA 178+80とを結ぶ直線を基軸にして、10m×10mを基本とするグリッドを設定する。グリッドは、ほぼ北西から東側にかけてを縦軸に1～6区、北西から南西側にかけてを横軸とし、A～Dとに区分した。このように10m×10mの基本グリッドは、A-1区、B-1区というように呼称した。

調査は、遺跡の範囲を確認するため、B-4区・C-4区・E-4区・C-6区・D-6区は東側、D-3区・D-5区・D-6区・B-3区・B-5区・B-6区は南側に2m×10mのトレンチを設定し、確認調査を実施することから開始した。まず、予定路線内の中心杭つまり遺跡地の中心部と想定されるトレンチより確認調査を実施した結果、表土層直下はシラス層の露呈が確認される。表土層より磨製石斧が土師器の小破片が認められる。さらに予定路線の中心杭東側の確認のため2m×20mのトレンチを2本設定し、掘り下げた結果、同様の結果が得られ、礫混じりのシラス層も認められた。B-6区においては、二次堆積が認められ、黒色土層（旧耕作土と考えられる）で礫混入土層より、土師器・須恵器・青磁・染付・削器などの破片が礫と混じりあいながら確認される。さらにC-6区・D-6区に南北に2m×20mのトレンチを設定し、掘り下げた結果、C-6区においてはB-6区寄りに二次堆積が認められ同様の遺物破片が認められた。遺跡地の東側部分については、二次堆積土層中より、遺物の破片が混入した状態で確認されたため、予定路線の中心杭の西側の遺物包含量の有無について確認のため、B・C・D・E-4区とB・C・D・E-3区の一部を工事用道路と使用されているため、B-3区に2m×5m、D-3区に2m×8mのトレンチを設定し、掘り下げた結果表土層直下にシラス層が認められ遺物包含層は削平されていた。このように確認調査の結果により二次堆積土層より遺物の確認のなされたB-6区、C-6区について、さらに拡張し、掘り下げ作業を実施した。二次堆積土層より礫と混じりあいながら遺物の小破片が認められる。

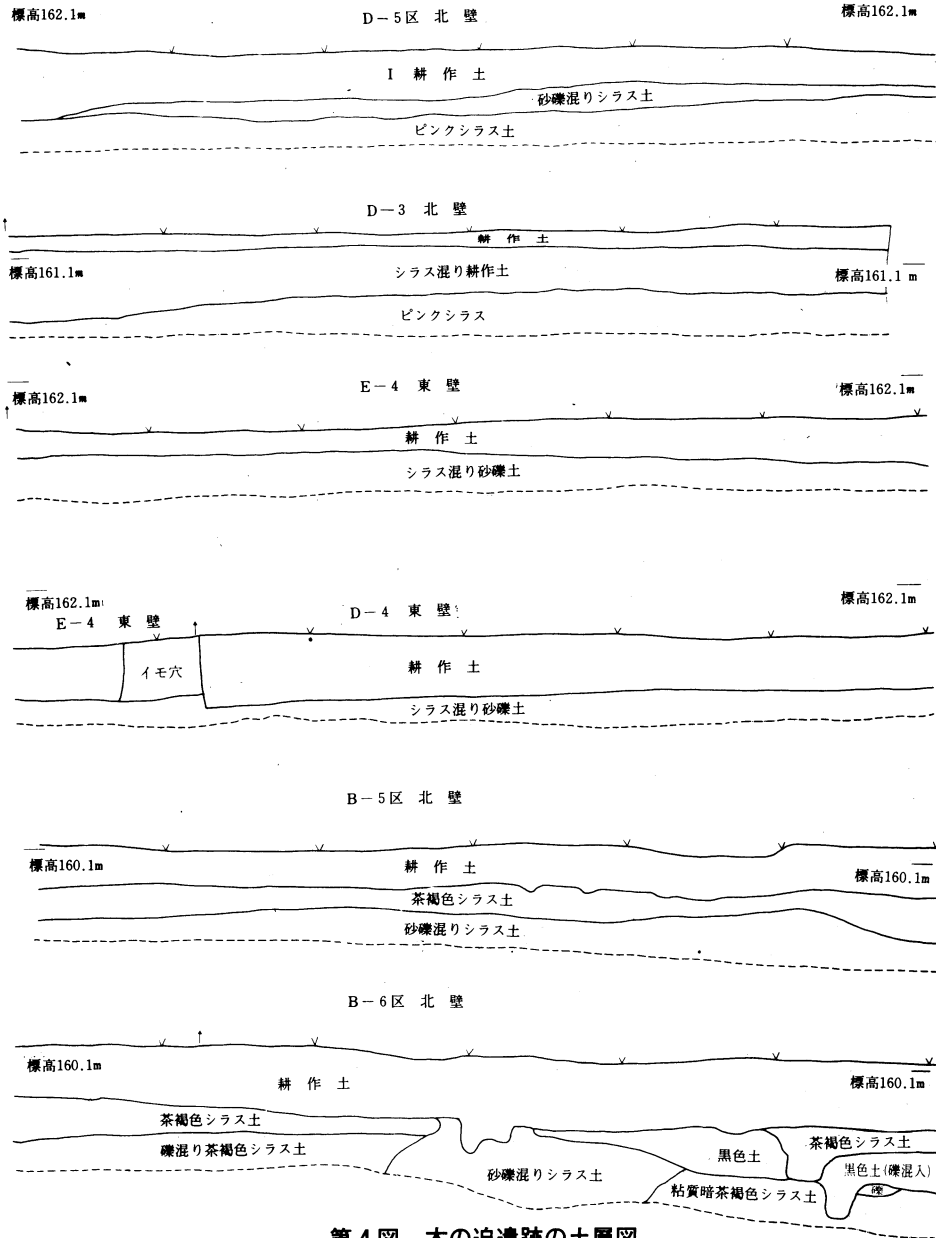
以上、確認調査の結果、表土層の直下にシラス土層が確認されたため、すでに遺物包含層は削平されており、B-6区・C-6区・C-7区の一部において、二次堆積土層よりB-6区を主体に、幅1.5m、長さ約4mの範囲で、レンズ状に、各期の遺物が礫と共に認められ、取り上げ作業を実施し、3日間の調査を終了した。



第3図 木の迫遺跡のグリッド配置図

第1節 層位 (第4図)

層位は、地表面から約20~30センチで耕作土（表土層）層が確認されるものの、遺物はなくなっており、基盤層であるシラス層が耕作土直下に認められる。当遺跡地周辺には、いくつかの石切り場があり、現在でも採石場が知られ、以前この地は、古老の話しによれば、宅地造成が行なわれたとか、また一部においては石切場の集石場として使用したということであった。その後、畑地と利用し、現在に至っている。その為かB-6区及びC-6区の一部地区には、攪乱層が認められ、礫混じりの黒色土層や礫混じりのシラス層も観察される。他区については、



第4図 木の迫遺跡の土層図

耕作土直下にシルス層の露呈が見られ、耕作土層より磨製石斧・土師器の破片が見られたものの、遺物包含層の削平が認められる。B-6区・C-6区の攪乱層の一部より縄文式土器・土師器・須恵器・青磁・染付・削器などの遺物が礫とともに混在し出土した。

第2節 遺物

遺物は、耕作土層より磨製石斧・土師器が見られ、B-6区、C-6区の攪乱層の一部より縄文式土器・土師器・須恵器・青磁・染付・削器などの遺物破片が砂礫ともに混在し出土した。

a 土器 (第5図・第6図)

1 縄文式土器 (第5図、1、図版1—①)

1は、胴部破片で、外面に貝殻腹縁による貝殻条痕文を施している。色調は暗茶褐色を呈し胎土に砂粒を多く含む。焼成はやや悪く、もろい。

2 土師器 (第5図、2～11、図版1—②、図版2—①)

2は、胴部破片で、外面に楕目の条痕文を施している。色調は暗茶褐色を呈し、胎土に砂粒を多く含み、焼成は良い。3～6は、甕の口縁部破片である。頸部の内面に稜線をもつ大のものである。口縁部は外反するが、5はやや立ち、6は水平近くになる。5の胎土は精製土を用いているが、他は砂粒を多く含んでいる。5は淡茶褐色を呈し、他は内外面ともに暗茶褐色を呈する。焼成は3～6まで良い。7～11は、土師器碗の破片である。7は口径13.8cmのものである。内外面ともに水引き痕が明瞭に残る。色調は茶褐色を呈し、焼成は良い。8は、口径12.8cmのものである。口縁部から高台近くまでの破片であり、胴部は「く」字状となり、稜線状になっている。色調は淡茶褐色を呈し、焼成は良い。9は、底部径7.8cmで、ヘラ起しの底部破片である。色調は、外面で赤褐色、内面で茶褐色を呈し、焼成は良好である。10は、高台部の破片で、内外面及び高台内にまで丹が塗られているが、内面は風化のためか、一部剥落している。11は、底部径6.4cmの糸切底の破片である。色調は赤褐色を呈し、焼成は良好である。

3 須恵器 (第5図、12・13、第6図、14～17、図版2—②、図版3—①)

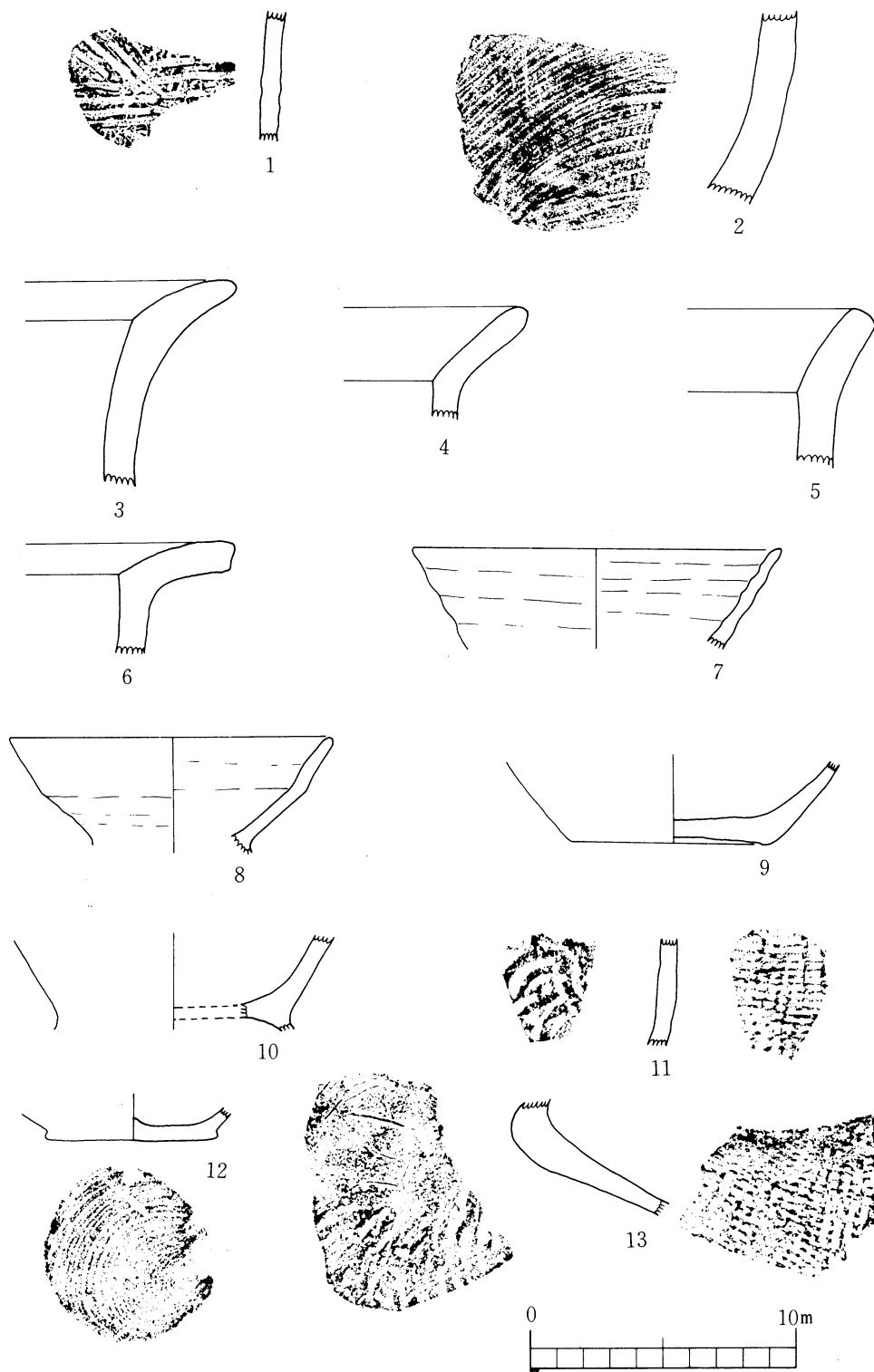
12～17は、須恵器甕の破片である。12・13は、赤褐色を呈する破片であり、13は頸部片である。外面は格子の叩き目で、内面は同心円文である。赤褐色の色調を呈するのは、2次的な火を受けたためか、焼成が悪いためか不明である。14～16は、灰褐色を呈する破片である。外面は格子の叩き目で、内面は同心円文である。外面の一部には釉の付着が観察される。焼成は良い。14～16は、色調・叩き目などから同一個体の破片であると考えられる。17は、須恵質の摺鉢の破片である。12条の掻き目は下から上へ施す。色調は淡茶褐色を呈し、焼成はやや悪い。

4 青磁 (第6図、18、図版3—②)

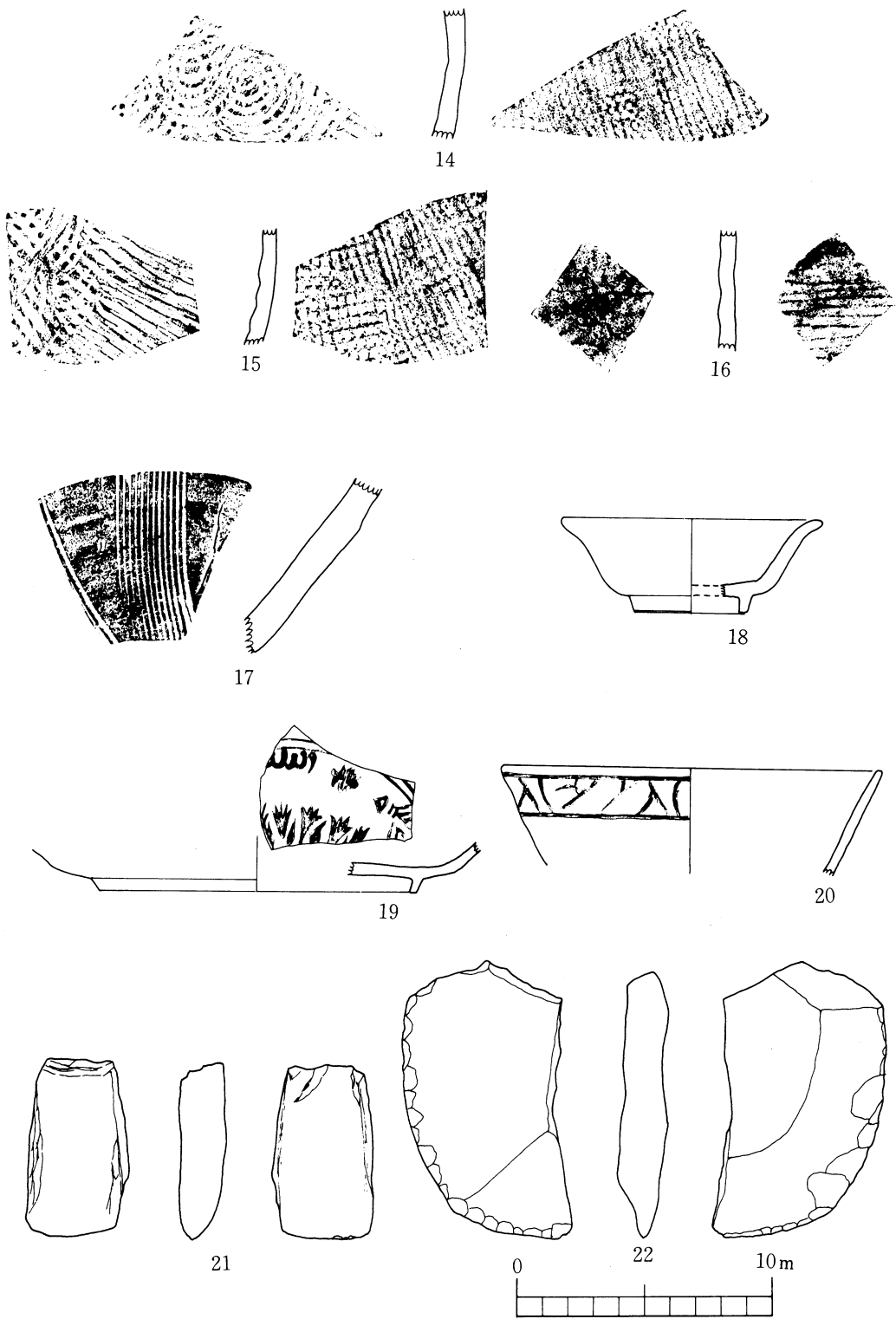
18は、暗青緑色を呈する青磁の破片である。口径10.3cm、高さ3.7cm、高台径4.6cmである。高台内及び畳付には施釉されていない。窯は竜泉窯であろうと考えられる。

5 染付 (第6図、19・20、図版3—②)

19は、染付皿、20は、染付碗である。19は、高台径12.6cmを測り、見込みには呉須により草花文を施す。釉色は淡青色を呈する。20は、口径15.0cmを測り、口縁外面に呉須により2条の横線を施し、その線間に幾可学文ないしは草文が施される。釉色は灰青色を呈する。



第5图 土器实测图



第6图 土器・石器实测图

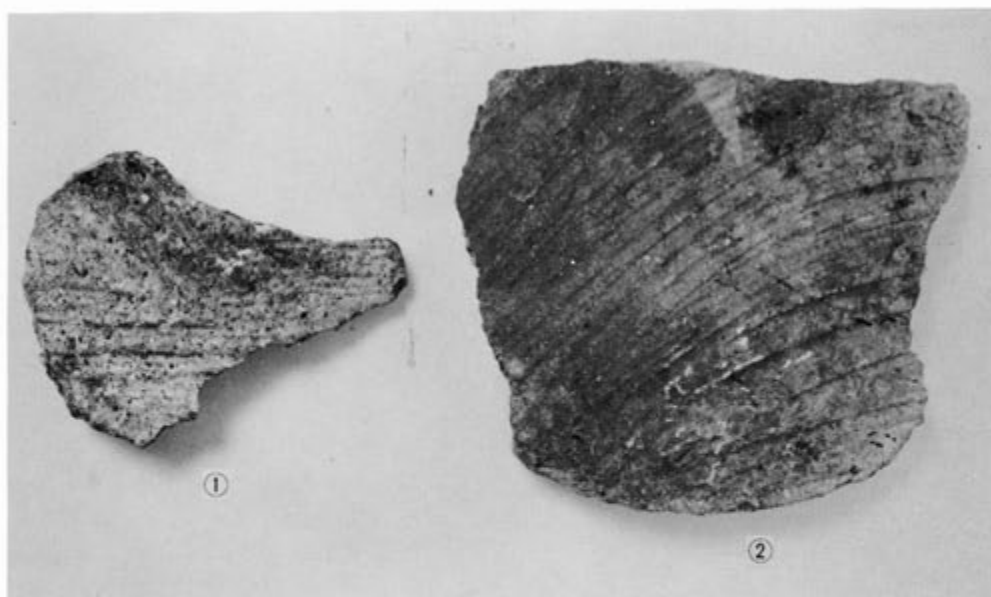
b、石器 (第6図、21・22、図版4—①)

石器には、磨製石斧と削器とが認められ、磨製石斧は耕作土層より、削器は攪乱層より縄文式土器・土師器・須恵器・染付などの土器破片と混入し認められた。

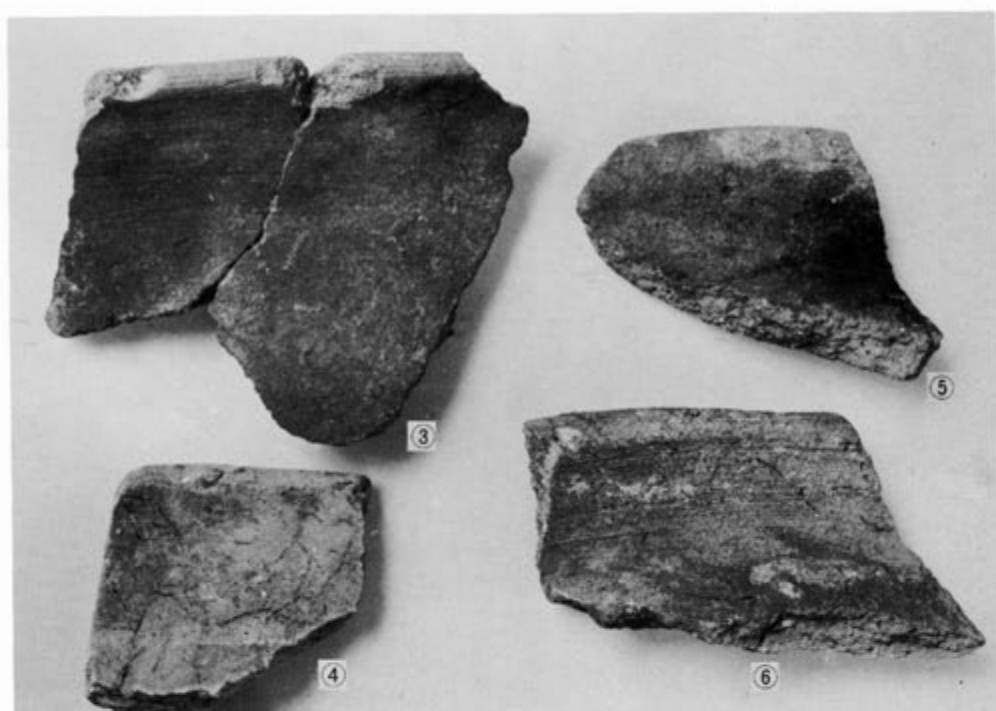
21は、磨製石斧である。全長 6.9cm、最大幅 4.0cm、最大厚さ 7.0cmを測り、刃部は刃こぼれ程度の使用痕が観察され、扁平で小型の石斧である。22は、削器と考えられるものである。全長10.8cm、最大幅 6.7cm、最大厚さ 2.1cmを測り、石材は玄武岩質のものである。風化のためか刃部は鋭利さに欠けている。

第V章 む す び

調査の結果、遺跡地は、かつて耕作などのため大幅な土地の削平がみられる。各トレンチともに耕作土直下にシラス層の露呈が認められ、遺物包含層は、すでに消滅していた。B—6・C—6区より遺物が認められた。一部トレンチを拡張し調査を実施した。しかし、攪乱層のために縄文式土器・土師器・須恵器・青磁・染付・削器などの遺物破片が礫と混在して認められた。



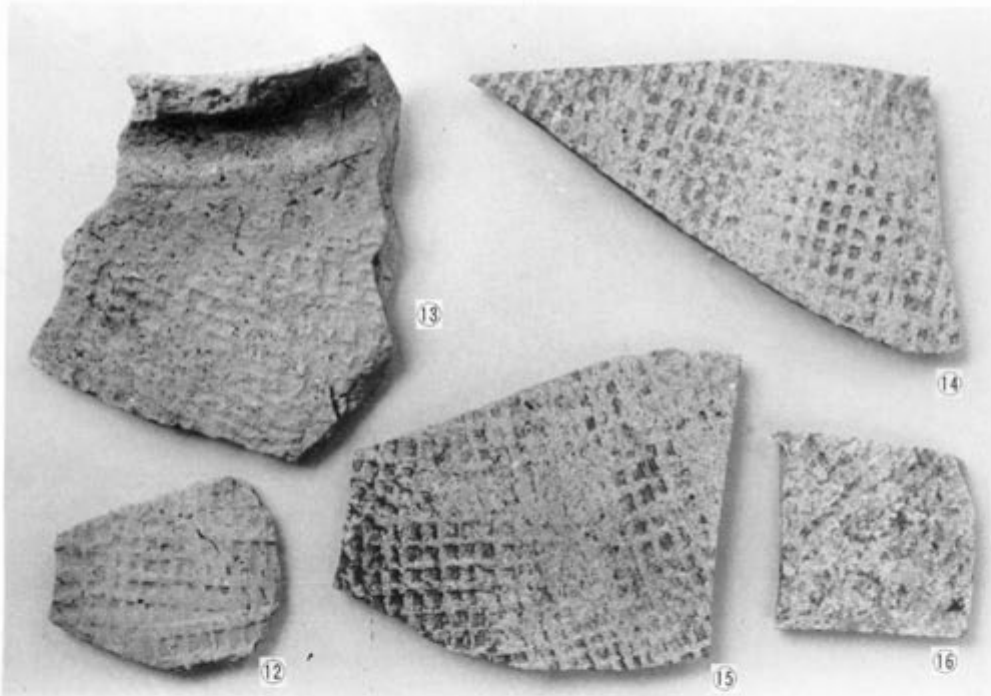
① 木の迫遺跡出土の縄文式土器



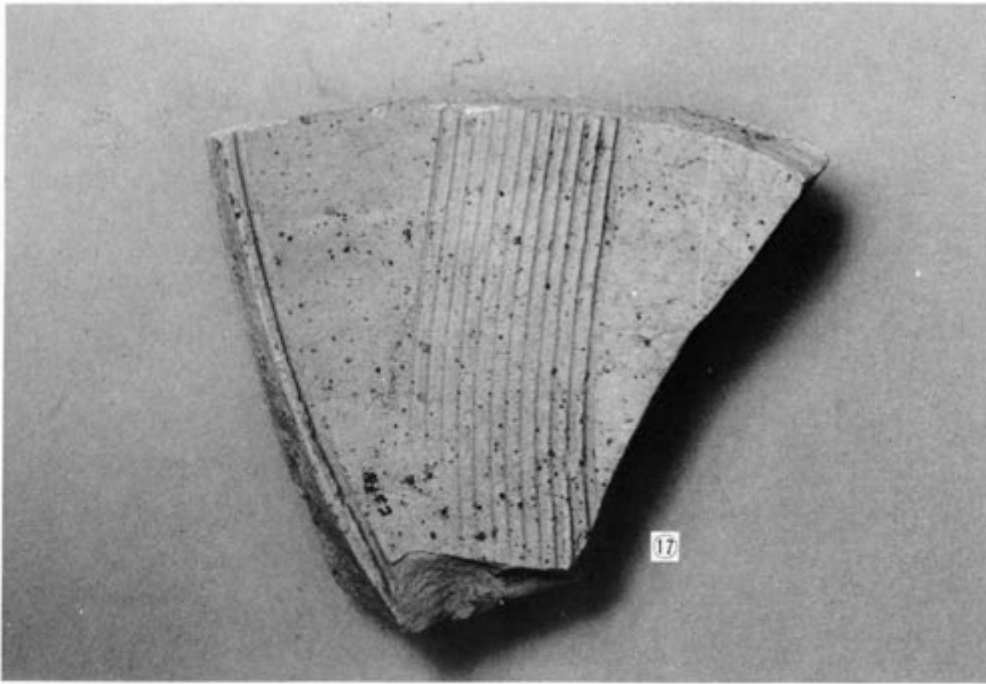
② 木の迫遺跡出土の土師器



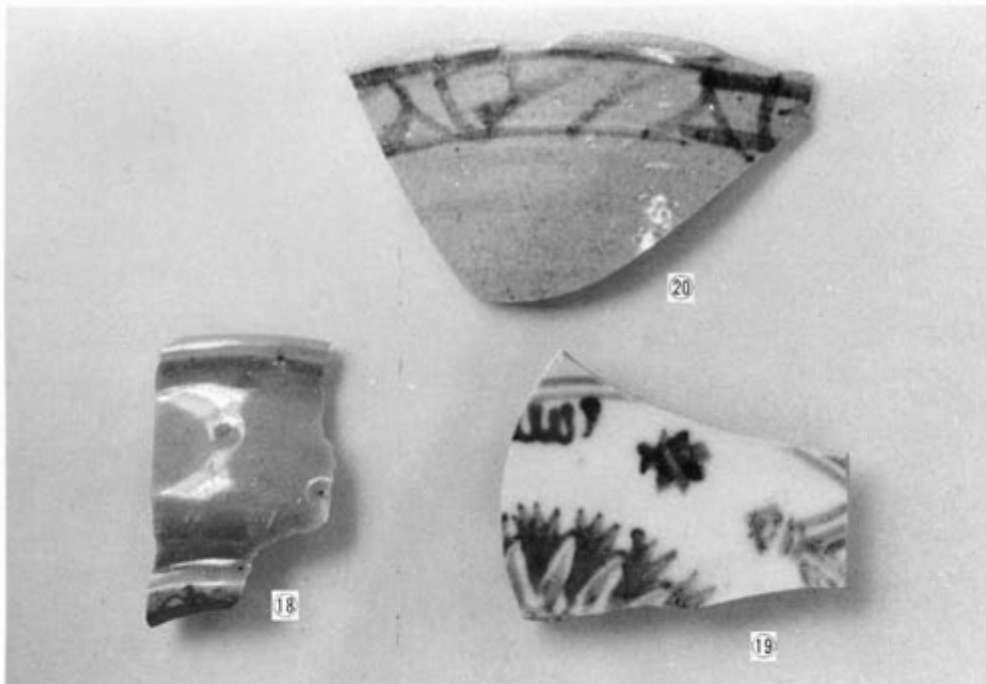
① 木の迫遺跡出土の土師器



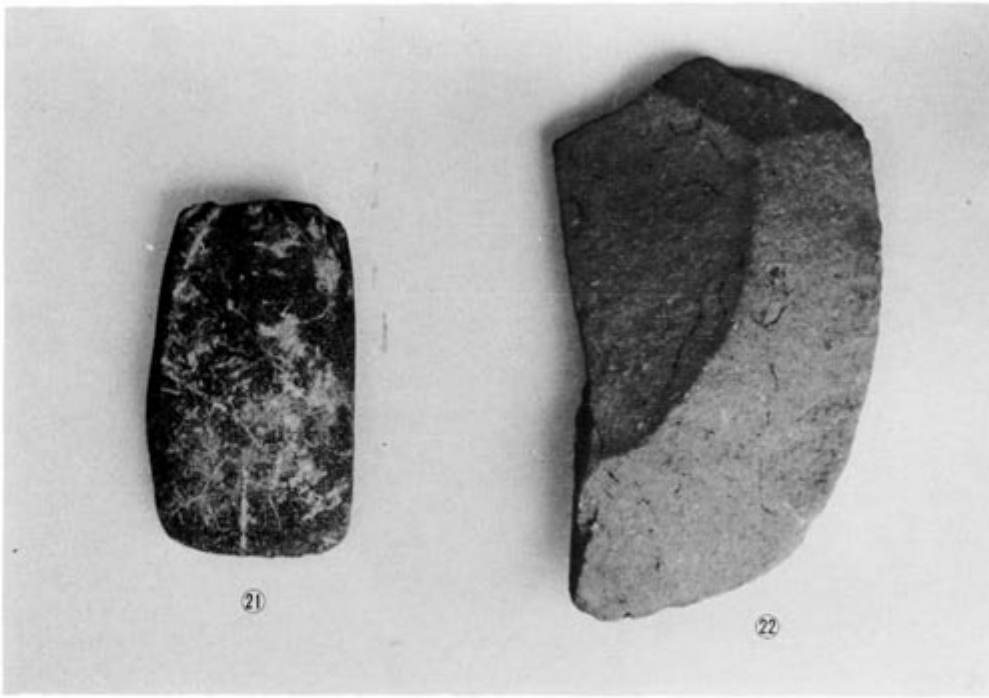
② 木の迫遺跡出土の須恵器



① 木の迫遺跡出土の須恵器



② 木の迫遺跡出土の青磁・染付



① 木の迫遺跡出土の石器

鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書 (14)

九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告 VI

加 治 屋 園 遺 跡

木 の 迫 遺 跡

発行日 昭和56年3月

発行 鹿児島県教育委員会 〒892 鹿児島市山下町14番50号

印刷 中央印刷株式会社 〒892 鹿児島市春日町12番16号